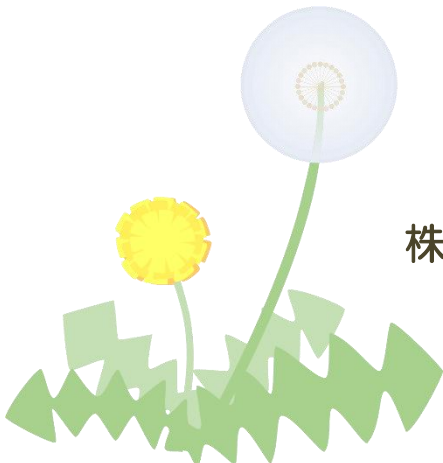




ミドルシニア未婚者のキャリア（結婚や働き方等）  
に関するアンケート調査結果



株式会社日本総合研究所



## ■ はじめに

「ミドルシニア未婚者のキャリア(結婚や働き方等)に関するアンケート調査」(以下、本調査)は、国内の45歳から64歳、正規雇用(定年を迎えた人においては、契約社員・嘱託社員含む)として就業している未婚者(今までに婚姻したことがない人)を対象に、キャリア(結婚や働き方等)に関する意識についてウェブアンケート調査を実施したものである。

本調査を通じて、ミドルシニア未婚者のキャリアに対する意識を明らかにすることで、今後、少子高齢化が進む日本社会において、行政や企業等の施策の検討の基礎資料として活用されることを期待している。

## ■ 調査の実施方法

- 調査期間及び実施方法:2024年3月21日から3月26日にかけてウェブ調査により実施。
- 調査対象:GMOリサーチ株式会社の調査パネルを使用し、国内の45歳から64歳の未婚者(今までに婚姻したことがない人)で、正規雇用(定年を迎えた人においては、契約社員・嘱託社員含む)として就業している未婚者を対象とした。
- 有効回収数:998人(性・年齢(5歳刻み)別の均等割付で各125人計1,000人の回収を実施。しかしながら、女性では50~54歳、55~59歳のセルで有効回答数が未達となった。

	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	計
男性	125	125	125	125	500
女性	125	124	124	125	498
計	250	249	249	250	998

※ 男性60~64歳には31人、女性60~64歳には45人、契約社員・嘱託社員が含まれる。

2024年8月1日

<本調査の作成者メンバー>

スペシャリスト 小島 明子(専門分野:生涯キャリア)

シニアスペシャリスト 沢村 香苗(専門分野:高齢者心理)

リサーチアナリスト 青山 温子(専門分野:産業調査・消費者調査)

コンサルティングスタッフ 新倉 美紀(表紙デザイン担当)

<本調査に関する問い合わせ先>

小島 明子 kojima.akiko[at]jri.co.jp

## 目次

1. 回答者の属性とクロス集計の分類.....	4
1.1.1. 性別と年齢.....	4
1.1.2. 居住地.....	4
1.1.3. 年収.....	4
1.1.4. 貯蓄額.....	5
1.1.5. 定年を問わず長く働く意向.....	5
1.1.6. 研修と相談機会への参加.....	6
1.1.7. 頼れる相手.....	6
1.1.8. 交際相手の有無.....	7
1.1.9. 婚活経験の有無.....	7
1.1.10. 若い頃の結婚と子どもの希望.....	8
1.1.11. 自治体による中高年対象の結婚等支援事業への賛否.....	8
2. 調査結果の詳細.....	9
2.1. 勤務先での今後に向けた研修や相談機会.....	9
2.1.1. 勤務先における今後のキャリアに関する研修機会.....	10
2.1.2. 勤務先における今後のキャリアに関する相談機会.....	11
2.1.3. 研修受講や相談機会を得られたことによる意見.....	12
2.2. 定年後の仕事.....	15
2.2.1. 定年を問わず長く働く意向.....	15
2.2.2. 定年を問わず長く働きたい理由.....	17
2.2.3. 定年後の働き方の希望.....	19
2.2.4. 再就職しても良いと考える仕事.....	23
2.3. 私生活での人間関係.....	25
2.3.1. 友人の数.....	25
2.3.2. 頼れる相手.....	34
2.3.3. 共食相手.....	35
2.4. 結婚・恋愛.....	46
2.4.1. 多様な結婚に対する意識.....	46
2.4.2. 交際相手の有無.....	59
2.4.3. 恋愛・結婚の願望.....	61
2.4.4. 婚活経験.....	77
2.4.5. 若い頃の結婚と子どもの希望.....	88
2.4.6. 結婚しなかった理由.....	89
2.4.7. 自治体による中高年対象の結婚等支援事業への賛否.....	96
2.4.8. 婚活に対する意見やエピソード.....	100
2.5. 将来の不安理由.....	101
2.6. 少子化対策に関する社会や政府、企業への意見.....	105

3. キャリア意識と勤め先や生活の捉え方 .....	107
3.1. 就職活動時と現在のキャリア意識 .....	107
3.2. 就職活動時のキャリア意識 .....	108
3.2.1. 就職活動時のキャリア意識 性別 .....	108
3.2.2. 就職活動時のキャリア意識 年齢別 .....	109
3.2.3. 就職活動時のキャリア意識 居住地別 .....	111
3.2.4. 就職活動時のキャリア意識 若い頃の結婚の希望別 .....	112
3.2.5. 就職活動時のキャリア意識 若い頃の子どもの希望別 .....	113
3.2.6. 就職活動時のキャリア意識 年収別 .....	114
3.2.7. 就職活動時のキャリア意識 貯蓄額別 .....	115
3.3. 現在のキャリア意識 .....	116
3.3.1. 現在のキャリア意識 性別 .....	116
3.3.2. 現在のキャリア意識 年齢別 .....	117
3.3.3. 現在のキャリア意識 居住地別 .....	119
3.3.4. 現在のキャリア意識 定年後の就業要望別 .....	120
3.3.5. 現在のキャリア意識 交際相手の有無別 .....	121
3.3.6. 現在のキャリア意識 年収別 .....	122
3.3.7. 現在のキャリア意識 貯蓄額別 .....	123
3.4. 勤め先や生活の捉え方 .....	124
3.4.1. 勤め先や生活の捉え方 全体 .....	124
3.4.2. 勤め先や生活の捉え方 性別 .....	125
3.4.3. 勤め先や生活の捉え方 年齢別 .....	126
3.4.4. 勤め先や生活の捉え方 居住地別 .....	128
3.4.5. 勤め先や生活の捉え方 定年後の就業要望別 .....	129
3.4.6. 勤め先や生活の捉え方 交際相手の有無別 .....	130
3.4.7. 勤め先や生活の捉え方 年収別 .....	131
3.4.8. 勤め先や生活の捉え方 貯蓄額別 .....	132

## 1. 回答者の属性とクロス集計の分類

### 1.1.1. 性別と年齢

45～49歳(男性125人、女性125人)、50～54歳(男性125人、女性124人)、55～59歳(男性125人、女性124人)、60～64歳(男性125人、女性125人)から有効な回答を得た。ウェイトバック集計は実施していない。

図表1.1.1. 性別と年齢(単数選択)

	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	計
男性	125	125	125	125	500
女性	125	124	124	125	498
計	250	249	249	250	998

※ 男性60～64歳には31人、女性60～64歳には45人、契約社員・嘱託社員が含まれる。

### 1.1.2. 居住地

回答者の居住地は、東京圏(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県)で42.8%を占める。

図表1.1.2. 居住地(単数選択)

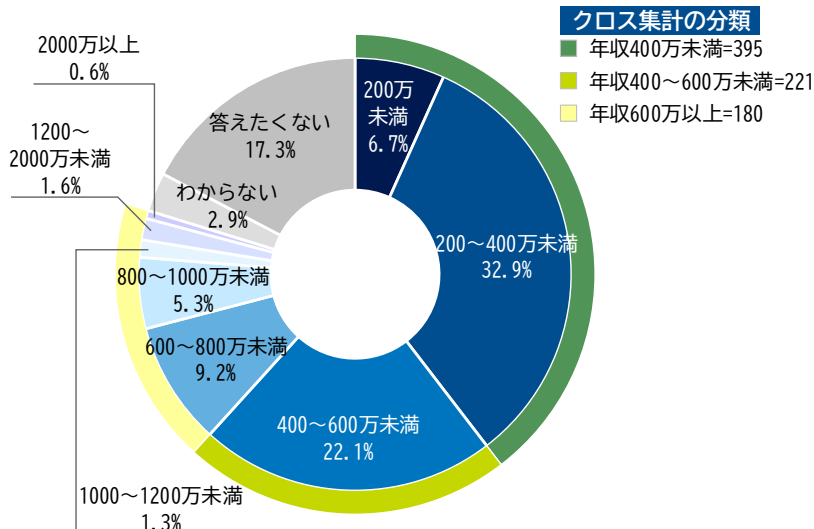
クロス集計の分類	東京圏在住 427 42.8%	他地域在住 571 57.2%								
在住都道府県	埼玉県	72	北海道	46	富山県	8	大阪府	99	愛媛県	11
	千葉県	63	青森県	5	石川県	5	兵庫県	39	高知県	0
	東京都	201	岩手県	5	福井県	4	奈良県	9	福岡県	28
	神奈川県	91	宮城県	14	山梨県	5	和歌山県	4	佐賀県	2
			秋田県	5	長野県	11	鳥取県	4	長崎県	4
			山形県	6	岐阜県	7	島根県	1	熊本県	4
			福島県	6	静岡県	29	岡山県	8	大分県	4
			茨城県	13	愛知県	51	広島県	30	宮崎県	5
			栃木県	14	三重県	6	山口県	9	鹿児島県	6
			群馬県	8	滋賀県	6	徳島県	4	沖縄県	6
			新潟県	13	京都府	21	香川県	6		

### 1.1.3. 年収

回答者の年収は、200～400万円未満が32.9%、400～600万円未満が22.1%を占める。

次章以降のクロス集計のための年収は、「400万円未満」「400～600万円未満」「600万円以上」の3分割としている。

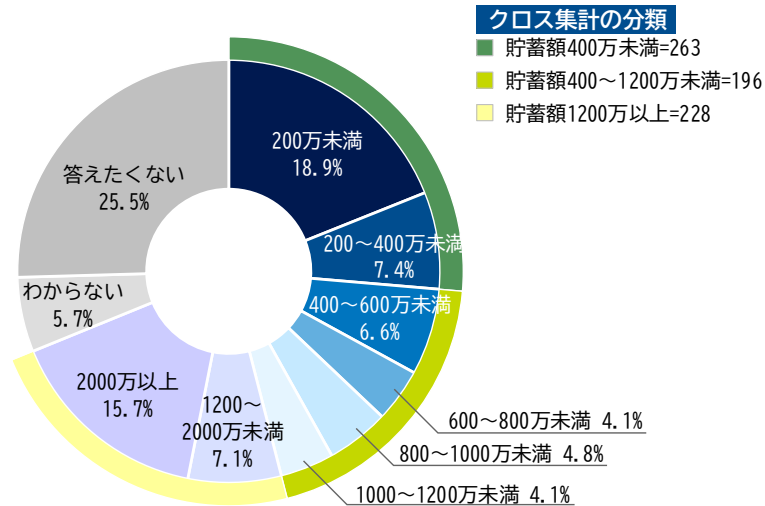
図表1.1.3. 年収(単数選択)



### 1.1.4. 貯蓄額

回答者の貯蓄額は、200万円未満が18.9%、2000万円以上が15.7%を占める。  
 次章以降のクロス集計のための貯蓄額は、「400万円未満」「400～1,200万円未満」「1,200万円以上」の3分割としている。

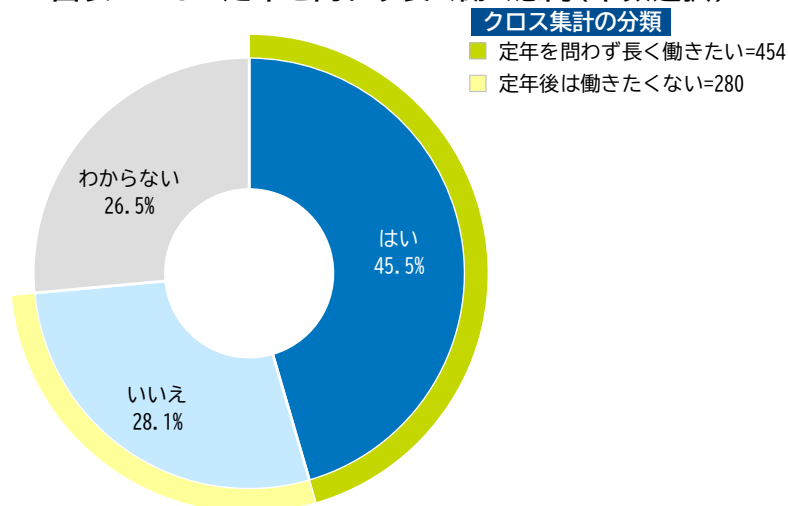
図表1.1.4. 貯蓄額(単数選択)



### 1.1.5. 定年を問わず長く働く意向

回答者の45.5%が、定年を問わずできるだけ長く働き続けたいとしている。  
 この設問への回答については、[2.2.1定年を問わず長く働く意向](#)で詳述する。

図表1.1.5. 定年を問わず長く働く意向(単数選択)



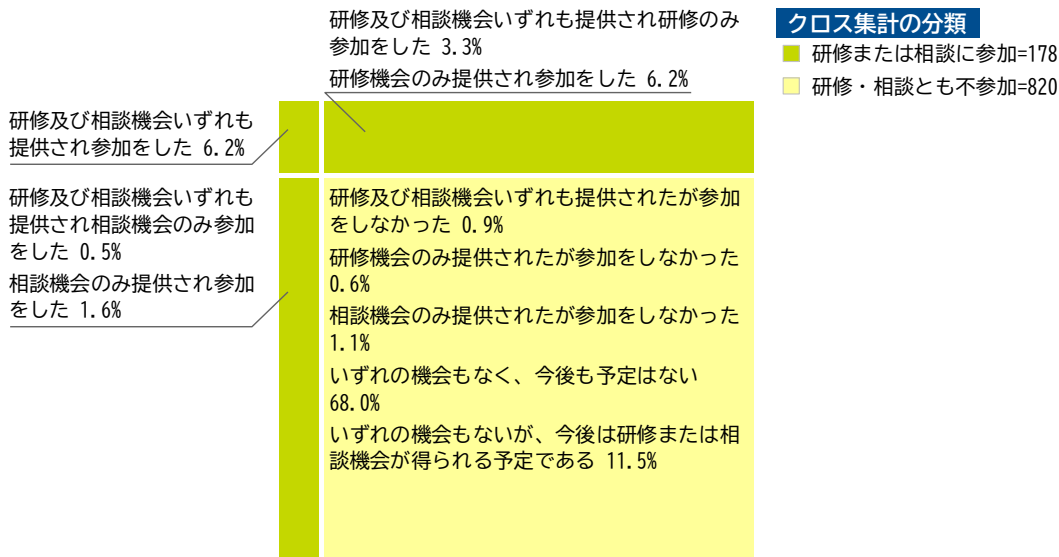
### 1.1.6. 研修と相談機会への参加

回答者の68.0%が研修と相談機会いずれの参加機会もなく、今後も予定はない。

次章以降のクロス集計のための研修と相談機会への参加は、「研修または相談に参加」「研修・相談とも不参加」の2分割としている。

この設問への回答については、[2.1勤務先での今後に向けた研修や相談機会](#)で詳述する。

**図表1.1.6. 研修と相談機会への参加(単数選択)**



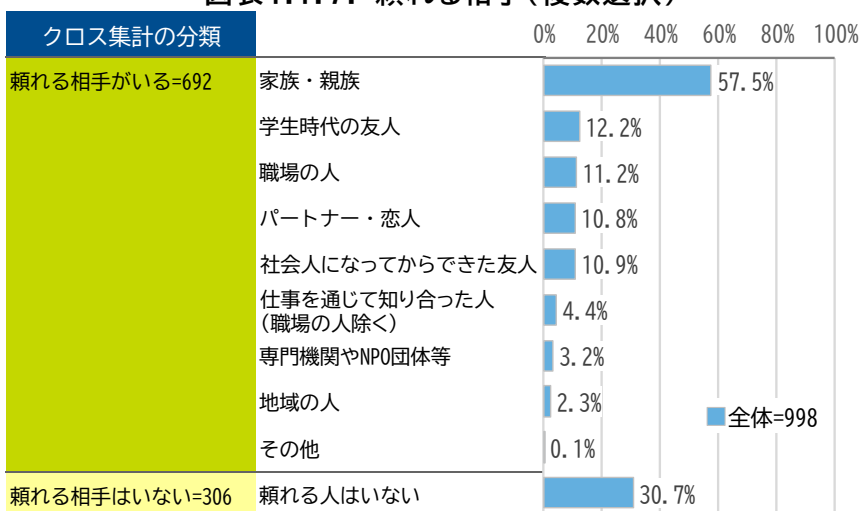
### 1.1.7. 頼れる相手

回答者の57.5%が「家族・親族」を、突然の病気など一人では対処できない状況が発生したときに頼れる相手として選択、30.7%が「頼れる人はいない」としている。

次章以降のクロス集計のための頼れる相手の有無は、「頼れる相手がいる」「頼れる相手はいない」の2分割としている。

この設問への回答については、[2.3.2頼れる相手](#)で詳述する。

**図表1.1.7. 頼れる相手(複数選択)**

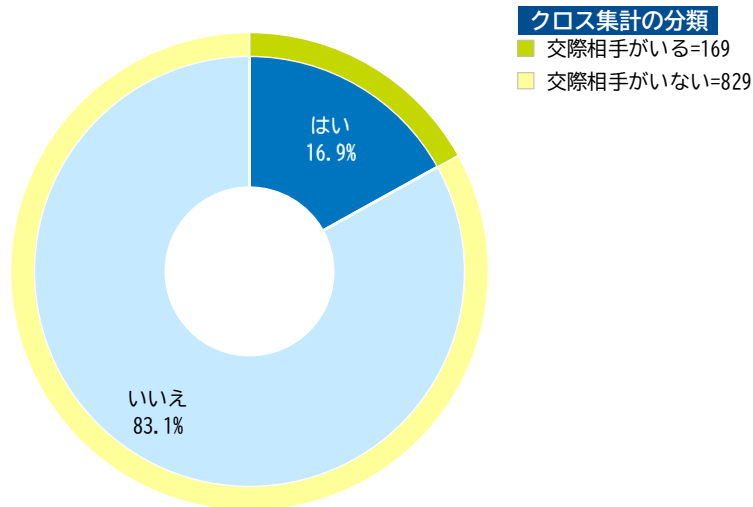


### 1.1.8. 交際相手の有無

回答者の83.1%は、交際相手がいない。

この設問への回答については、[2.4.2交際相手の有無](#)で詳述する。

図表1.1.8. 交際相手の有無(単数選択)



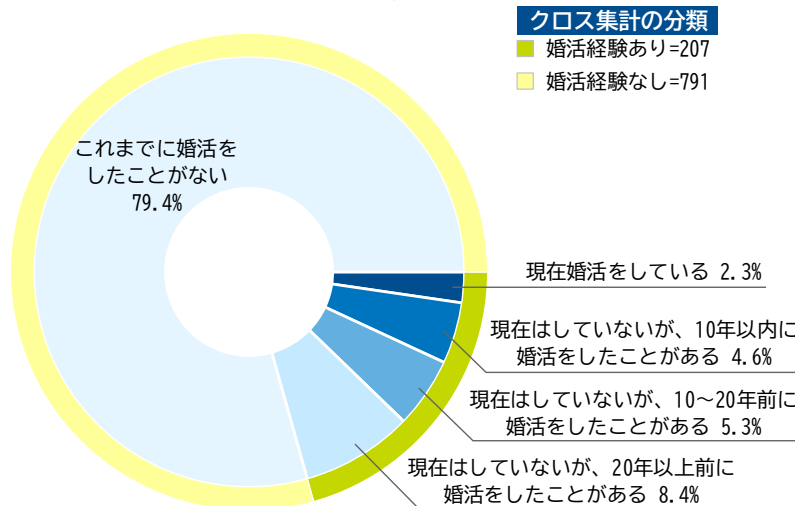
### 1.1.9. 婚活経験の有無

回答者の79.4%は、これまでに婚活をしたことがない。

次章以降のクロス集計のための婚活経験の有無は、「婚活経験あり」「婚活経験なし」の2分割としている。

この設問への回答については、[2.4.4婚活経験](#)で詳述する。

図表1.1.9. 婚活経験の有無(単数選択)





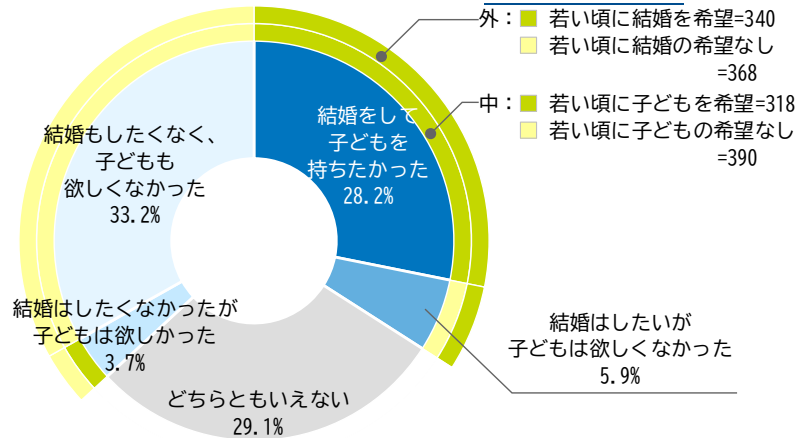
### 1.1.10. 若い頃の結婚と子どもの希望

回答者の33.2%は「結婚もしたくなく、子どもも欲しくなかった」、28.2%は「結婚をして子どもを持ちたかった」を選択した。

次章以降のクロス集計のため、若い頃の結婚の希望有無と、若い頃の子どもの希望有無の、2つの2分割を設定した。

この設問への回答については、[2.4.5若い頃の結婚と子どもの希望](#)で詳述する。

図表1.1.10. 若い頃の結婚と子どもの希望(単数選択)



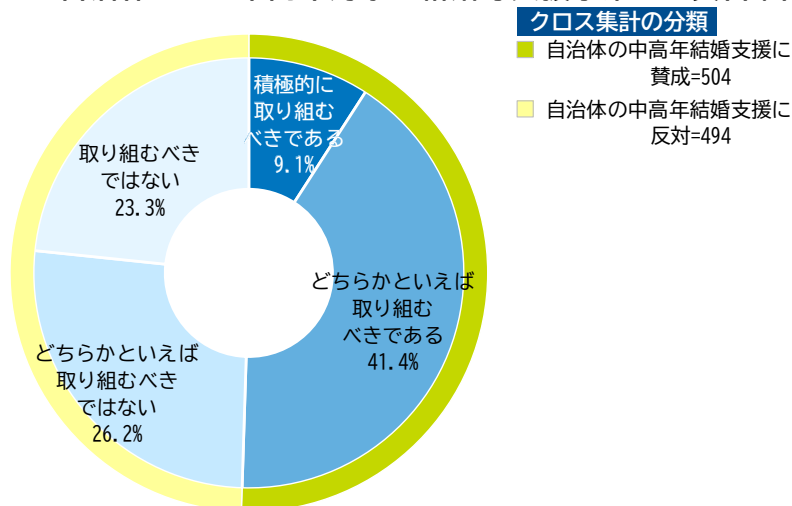
### 1.1.11. 自治体による中高年対象の結婚等支援事業への賛否

回答者の41.4%が「どちらかといえば取り組むべきである」、26.2%が「どちらかといえば取り組むべきではない」を選択している。

次章以降のクロス集計のための自治体の中高年結婚支援賛否別は、賛成と反対の2分割としている。

この設問への回答については、[2.4.7自治体による中高年対象の結婚等支援事業への賛否](#)で詳述する。

図表1.1.11. 自治体による中高年対象の結婚等支援事業への賛否(単数選択)



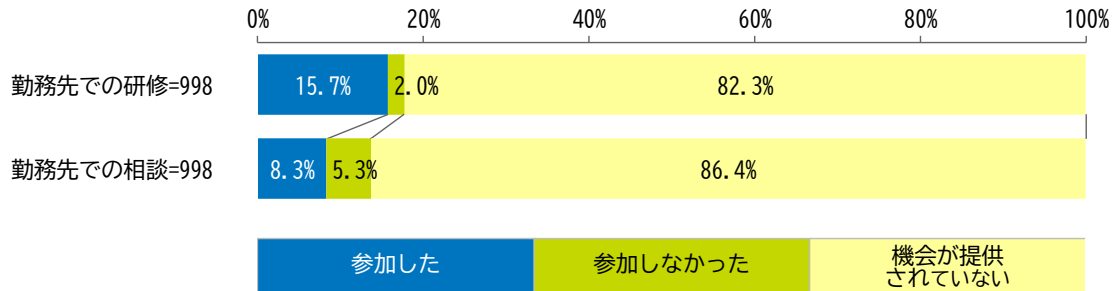
## 2. 調査結果の詳細

### 2.1. 勤務先での今後に向けた研修や相談機会

勤務先における、今後のキャリアや退職の準備を考えるため研修の機会とその参加状況を尋ねたところ、「機会が提供されていない」人は82.3%に上り、「参加をした」人は2割弱であった。

勤務先における、今後のキャリアや退職の準備を考えるため相談の機会とその参加状況を尋ねたところ、「機会が提供されていない」人は86.4%に上り、「参加をした」人は1割に満たなかった。

図表2.1. 勤務先での今後に向けた研修や相談機会(単一選択)

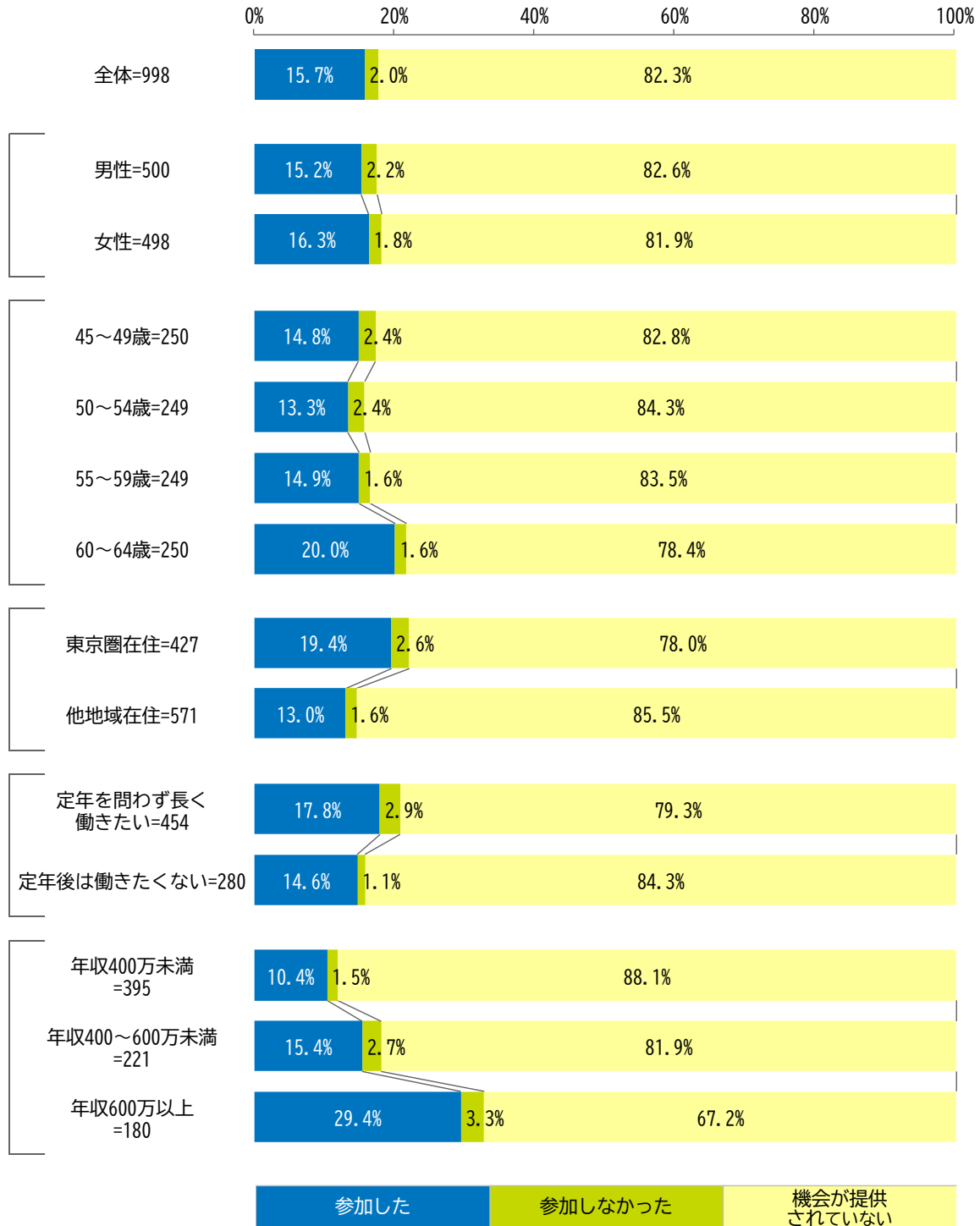


### 2.1.1. 勤務先における今後のキャリアに関する研修機会

勤務先における、今後のキャリアや退職の準備を考えるため研修の機会とその参加状況について属性別に見ると、年齢別では、45～59歳までは大きな差がないものの、60～64歳は約2割が「参加した」と回答している。

住まいでは、他地域在住(13.0%)より東京圏在住(19.4%)の方が、年収別では、年収が高くなるに従って(年収600万円以上では29.4%、年収400～600万円未満では15.4%、年収400万円未満では10.4%)「参加した」という回答が増えている。

図表2.1.1. 勤務先における今後のキャリアに関する研修機会(単一選択)

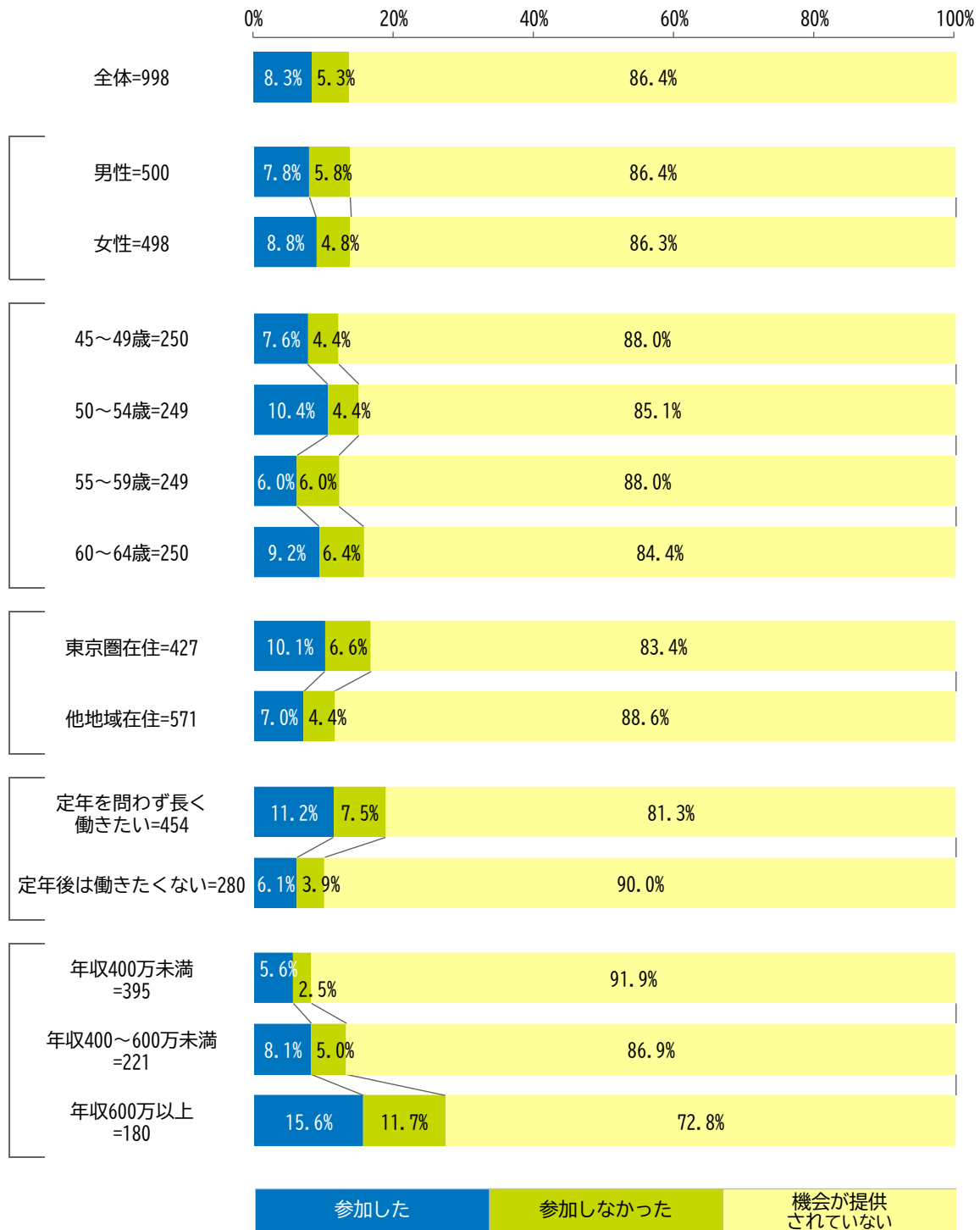


### 2.1.2. 勤務先における今後のキャリアに関する相談機会

勤務先における、今後のキャリアや退職の準備を考えるため相談の機会とその参加状況について属性別に見ると、定年を問わず長く働きたい人(11.2%)の方が、定年後は働きたくない人(6.1%)よりも「参加した」という回答がやや多い。

住まいでは、他地域在住(7.0%)より東京圏在住(10.1%)の方が、年収別では、年収が高くなるに従って(年収600万円以上では15.6%、年収400～600万円未満では8.1%、年収400万円未満では5.6%)「参加した」という回答が増えている。

図表2.1.2. 勤務先における今後のキャリアに関する相談機会(単一選択)



### 2.1.3. 研修受講や相談機会を得られたことによる意見

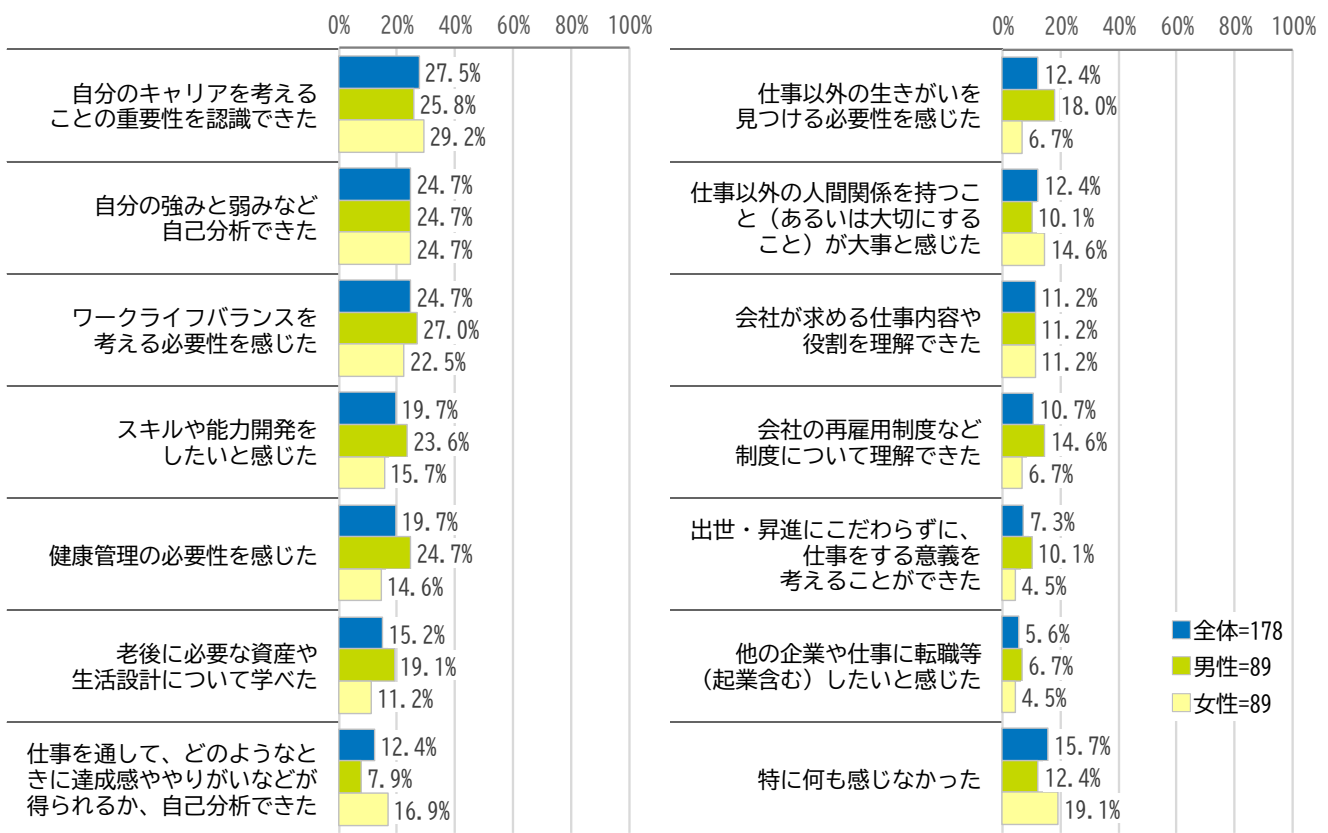
2.1.2の研修や相談機会のいずれかに参加した回答者に、研修や相談によって感じたことを尋ねたところ、「自分のキャリアを考えることの重要性を認識できた」(27.5%)が最も多く、「自分の強みと弱みなど自己分析できた」(24.7%)、「ワークライフバランスを考える必要性を感じた」(24.7%)と続いている。

男性は女性に比べて、「仕事以外の生きがいを見つける必要性を感じた」(男性18.0%、女性6.7%)と回答している人が多い。

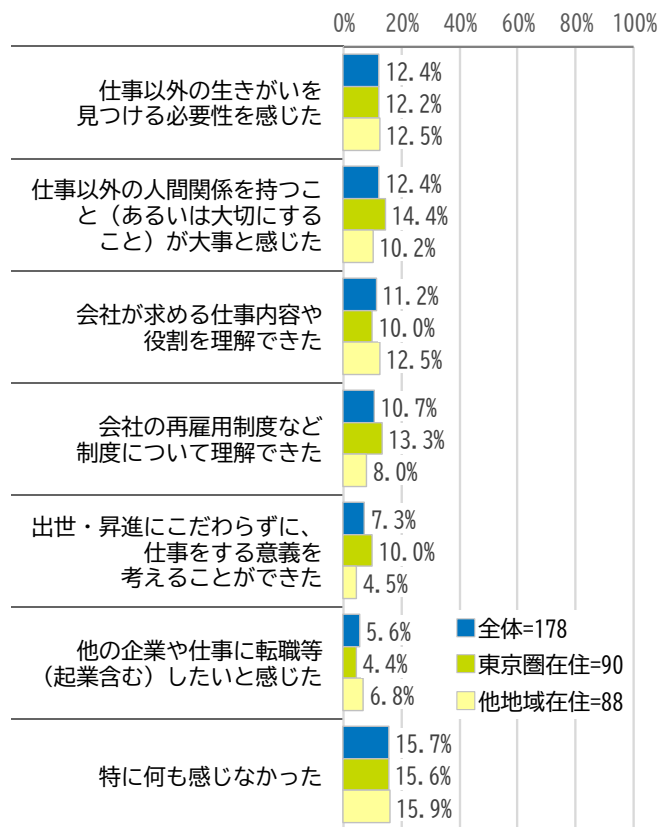
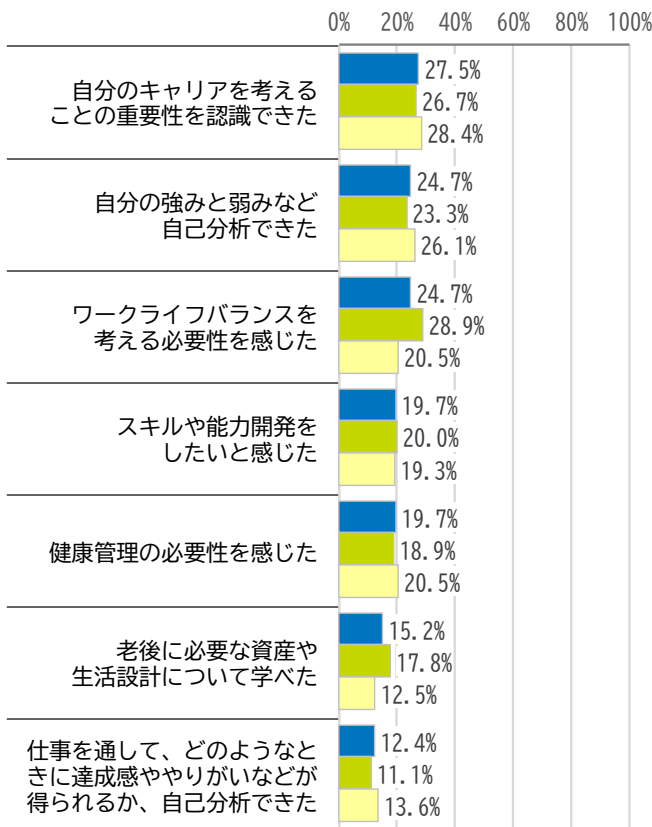
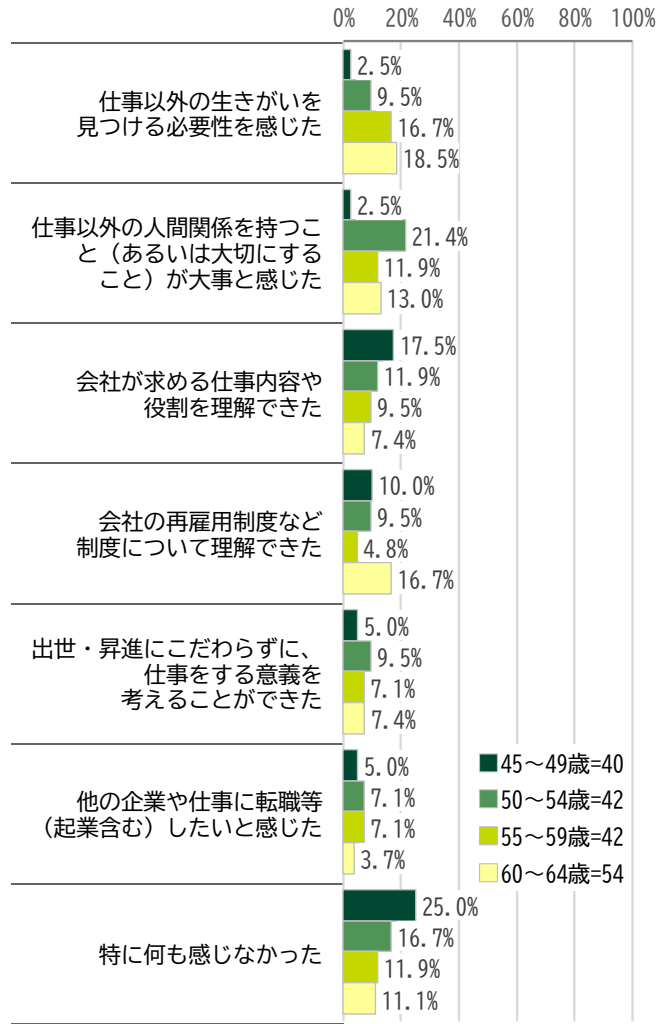
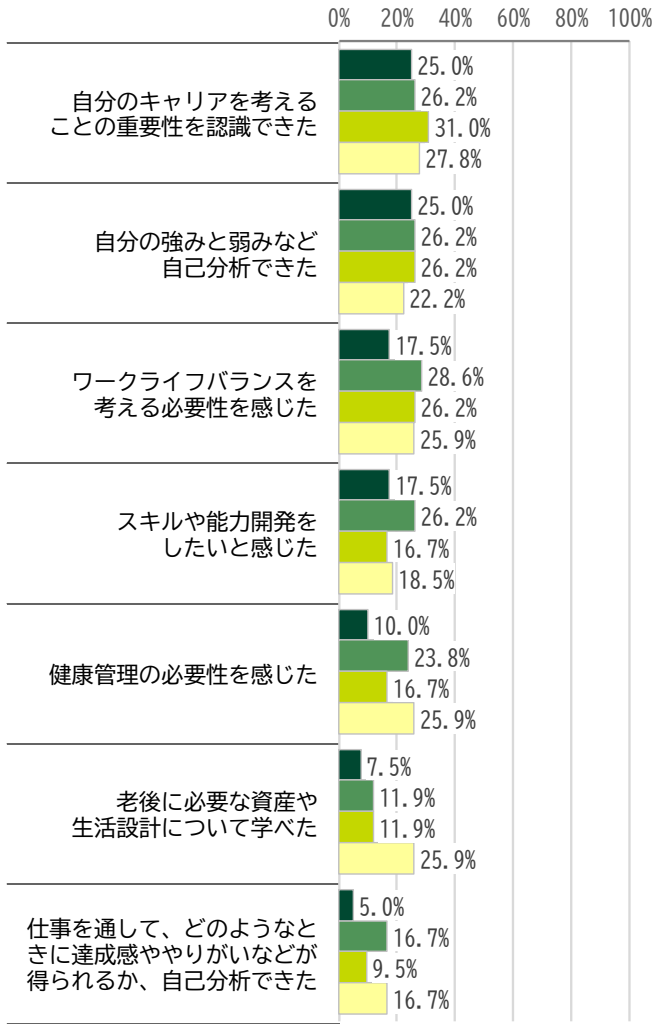
年齢別に見てみると、年齢が高くなるに従って、「老後に必要な資産や生活設計について学べた」、「仕事以外の生きがいを見つける必要性を感じた」という回答が増え、逆に年齢が下がるにつれて、「会社が求める仕事内容や役割を理解できた」という回答が増えている。

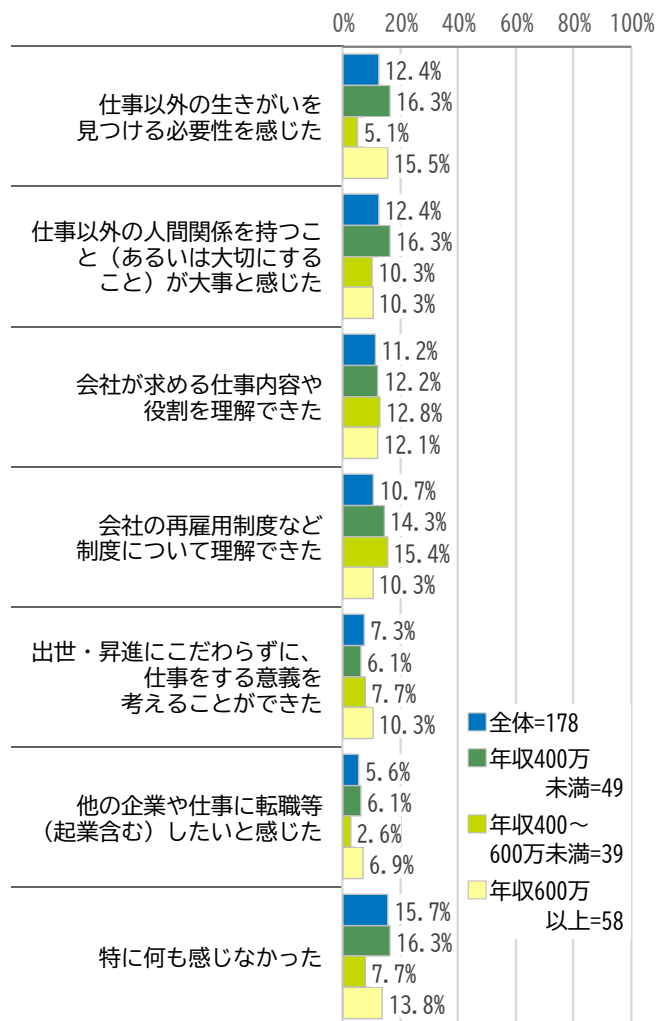
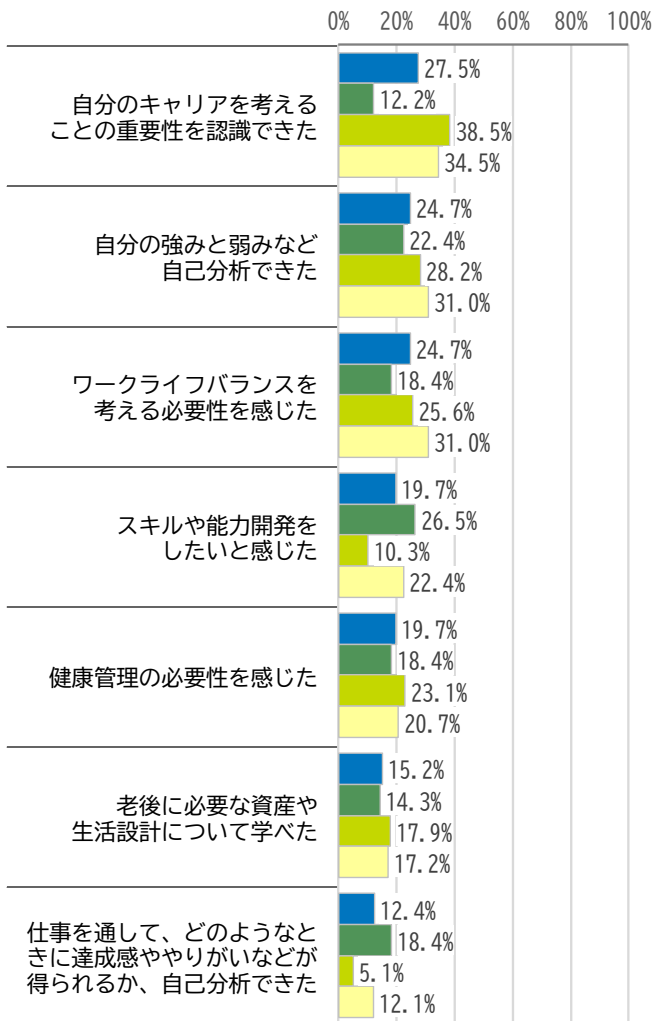
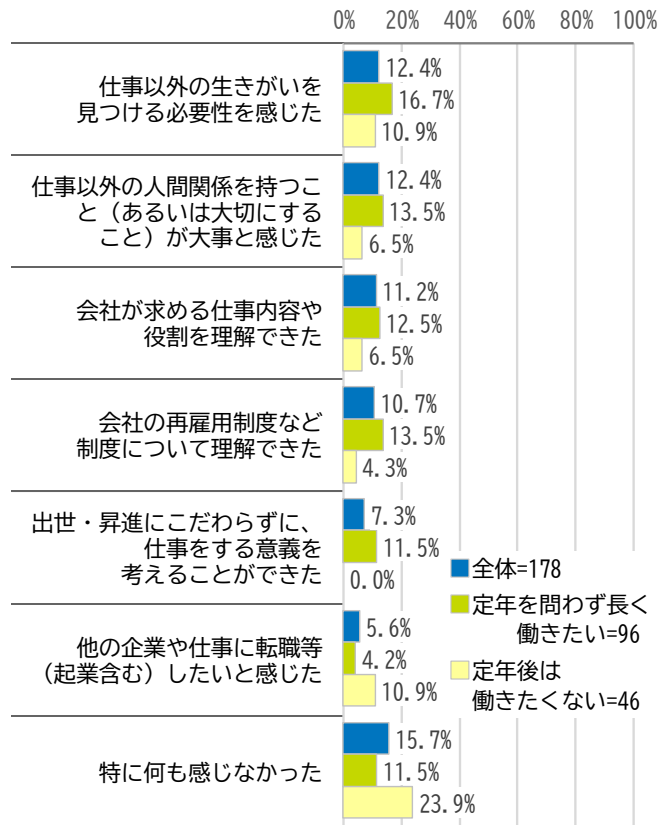
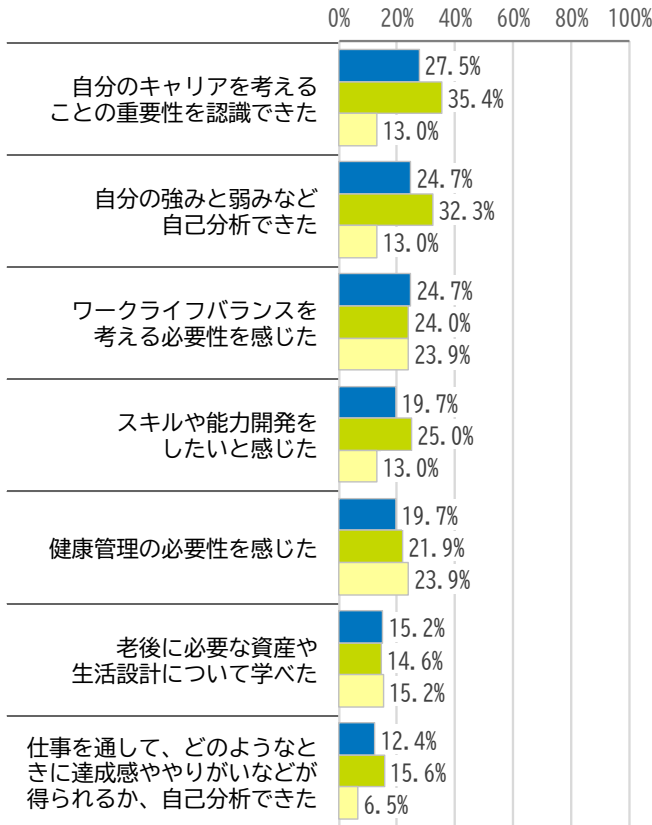
定年を問わず長く働きたい人は、「自分のキャリアを考えることの重要性を認識できた」、「自分の強みと弱みなど自己分析できた」と回答した人が3割を超えている。

図表2.1.3. 研修受講や相談機会を得られたことによる意見(複数選択)



※ 選択肢「自分は会社から必要とされていない人材だと感じた」「自分のこれまでのキャリアを否定されたように感じた」「その他」の選択は、5%に満たなかった。  
 ※ その他には「会社の実態を把握できた。」があった。





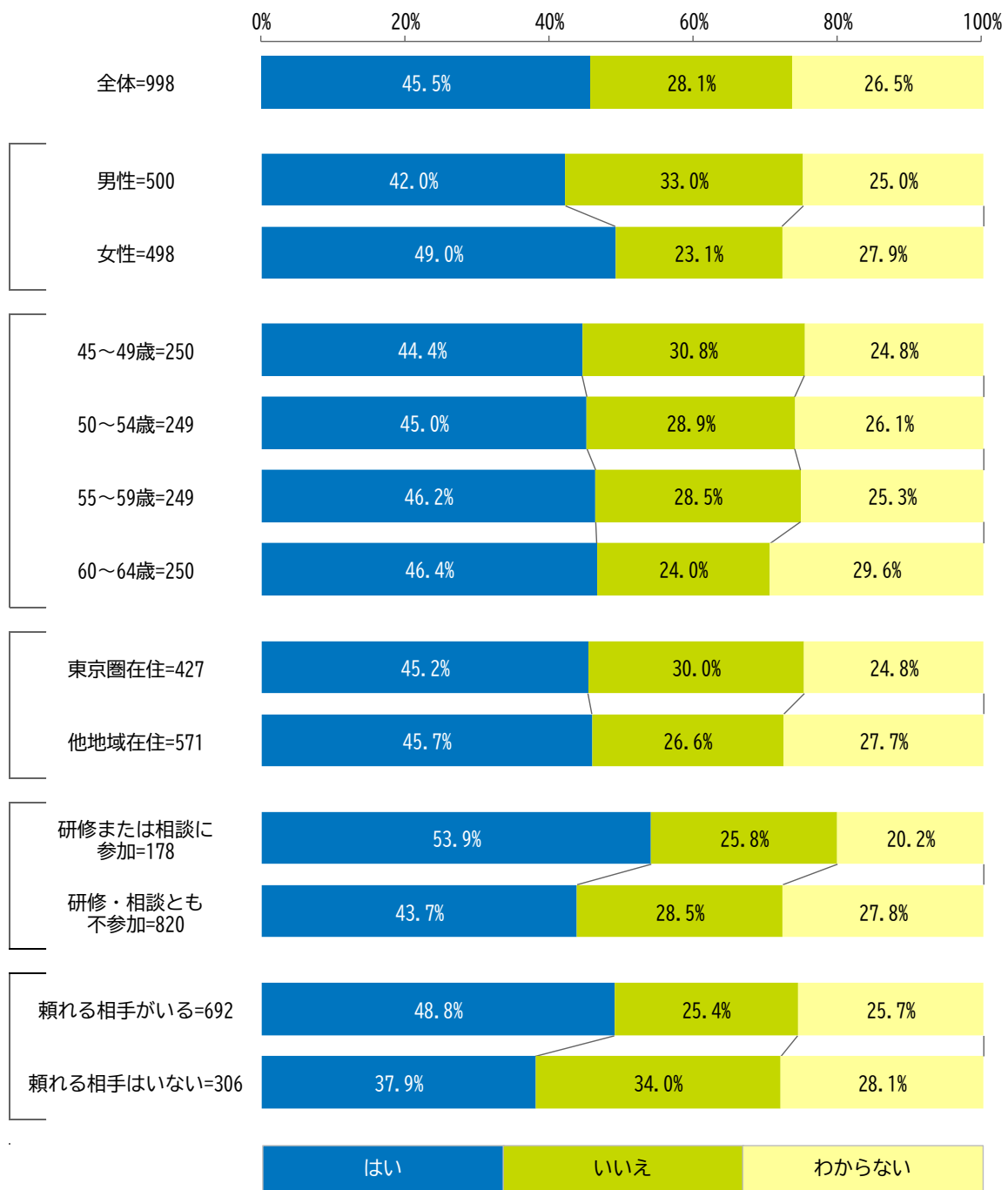
## 2.2. 定年後の仕事

### 2.2.1. 定年を問わず長く働く意向

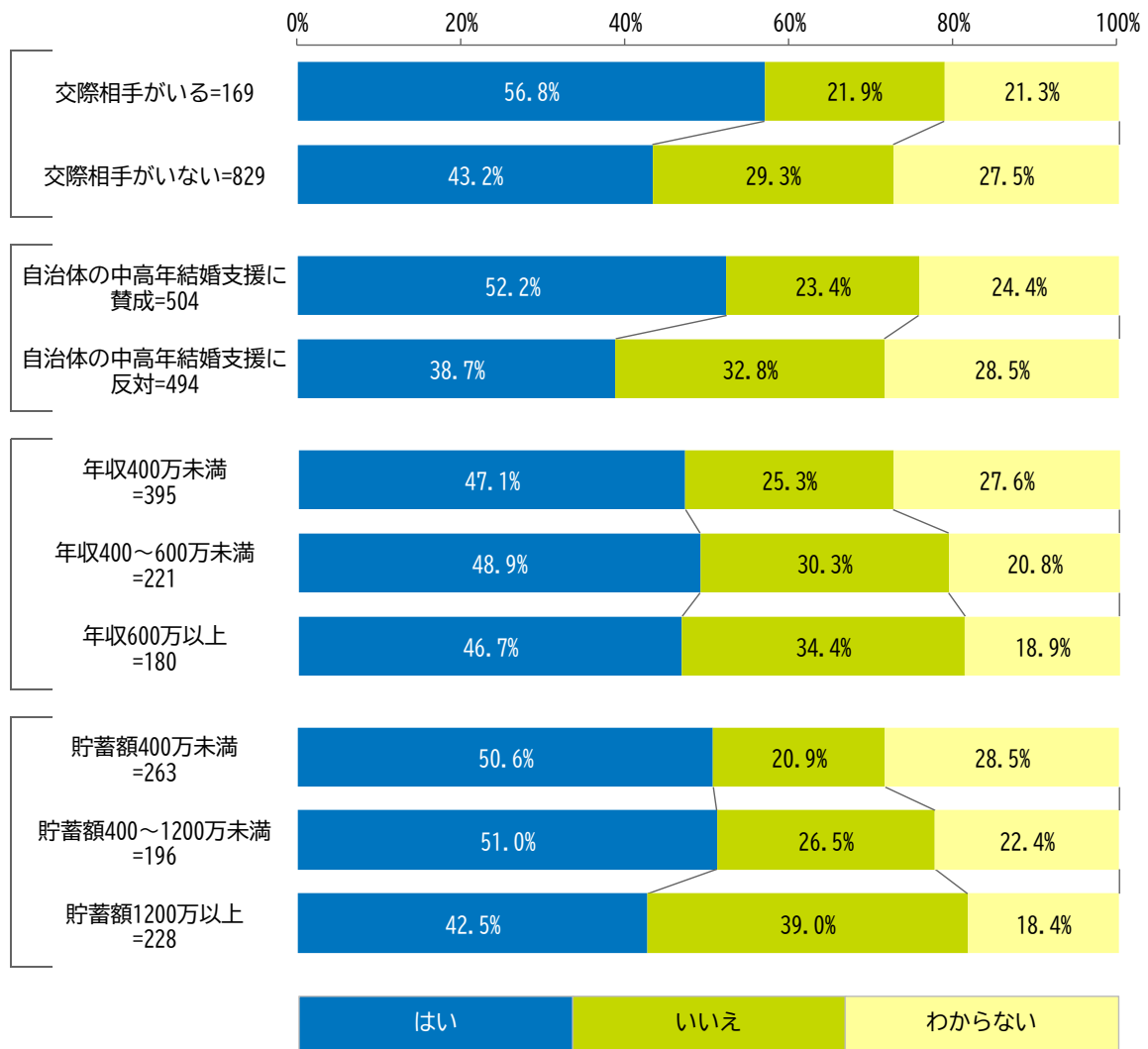
定年を問わず、できるだけ長く働きたいか尋ねたところ、全体の45.5%が長く働きたいと回答している。性別や年齢別、住まいには大きな差はないものの、人間関係の状況別に見てみると、「頼れる相手がいる」人の方が「頼れる相手がない」人よりも、「交際相手がいる」人の方が「交際相手がない」人よりも、できるだけ長く働きたいと回答している。

年収ごとには大きな差はないものの、貯蓄額が1,200万円未満では半数超が長く働きたいと回答している一方で、1,200万円以上となると、長く働きたいと回答する人は約4割にとどまる。

図表2.2.1. 定年を問わず長く働く意向(単一選択)







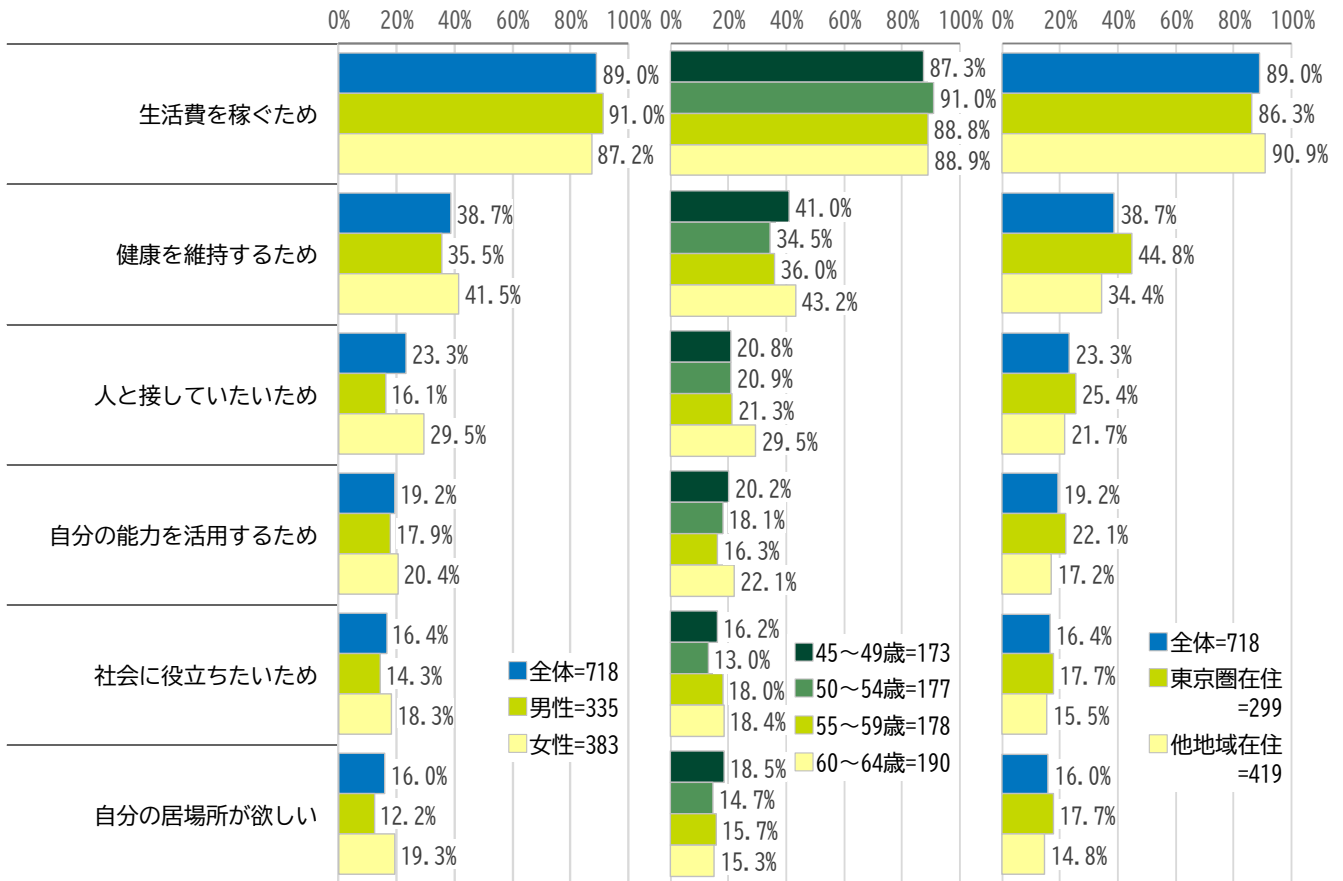
### 2.2.2. 定年を問わず長く働きたい理由

2.2.1で「できるだけ長く働きたい」または「わからない」を選択した回答者に、理由を尋ねたところ、全体では、「生活費を稼ぐため」(89.0%)が最も多く、男女ともに約9割に上る。

男性よりも女性の方が、「健康を維持するため」(男性35.5%、女性41.5%)、「人と接していたいため」(男性16.1%、女性29.5%)が多い。

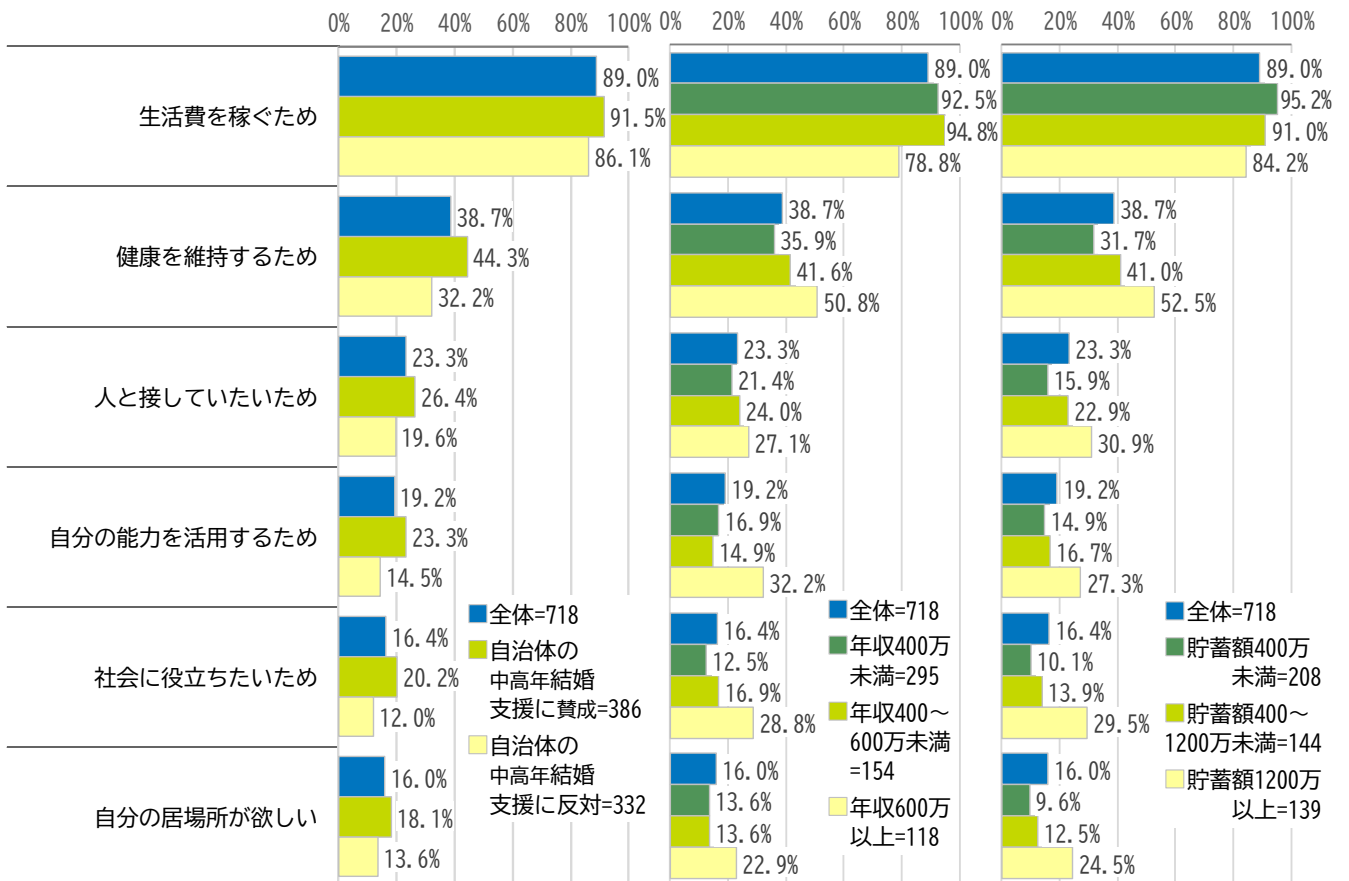
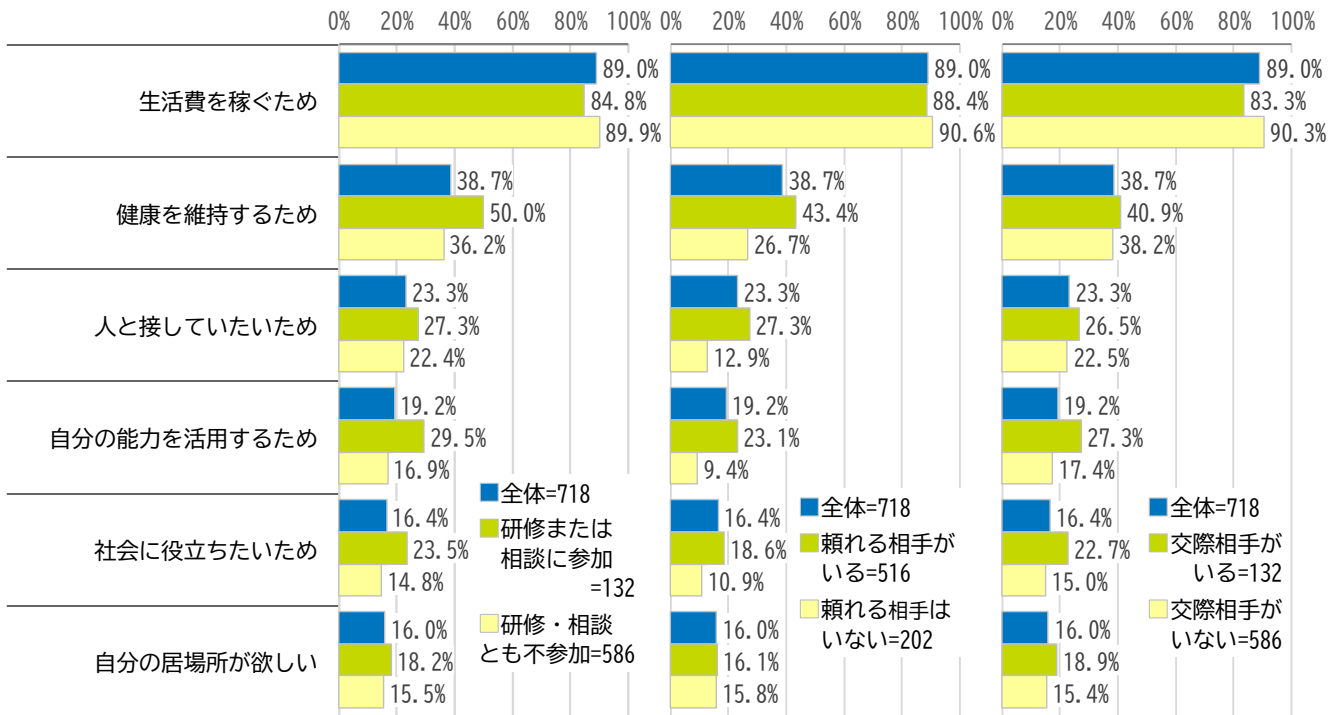
年収600万円以上、貯蓄額1,200万円以上の人においては、「健康を維持するため」という回答が約半数に上る。

図表2.2.2. 定年を問わず長く働きたい理由(複数選択)



※ 選択肢「その他」の選択は、5%に満たなかった。

※ その他には「時間があるから」「遊興費を得るため」「投資したいため」などがあつた。

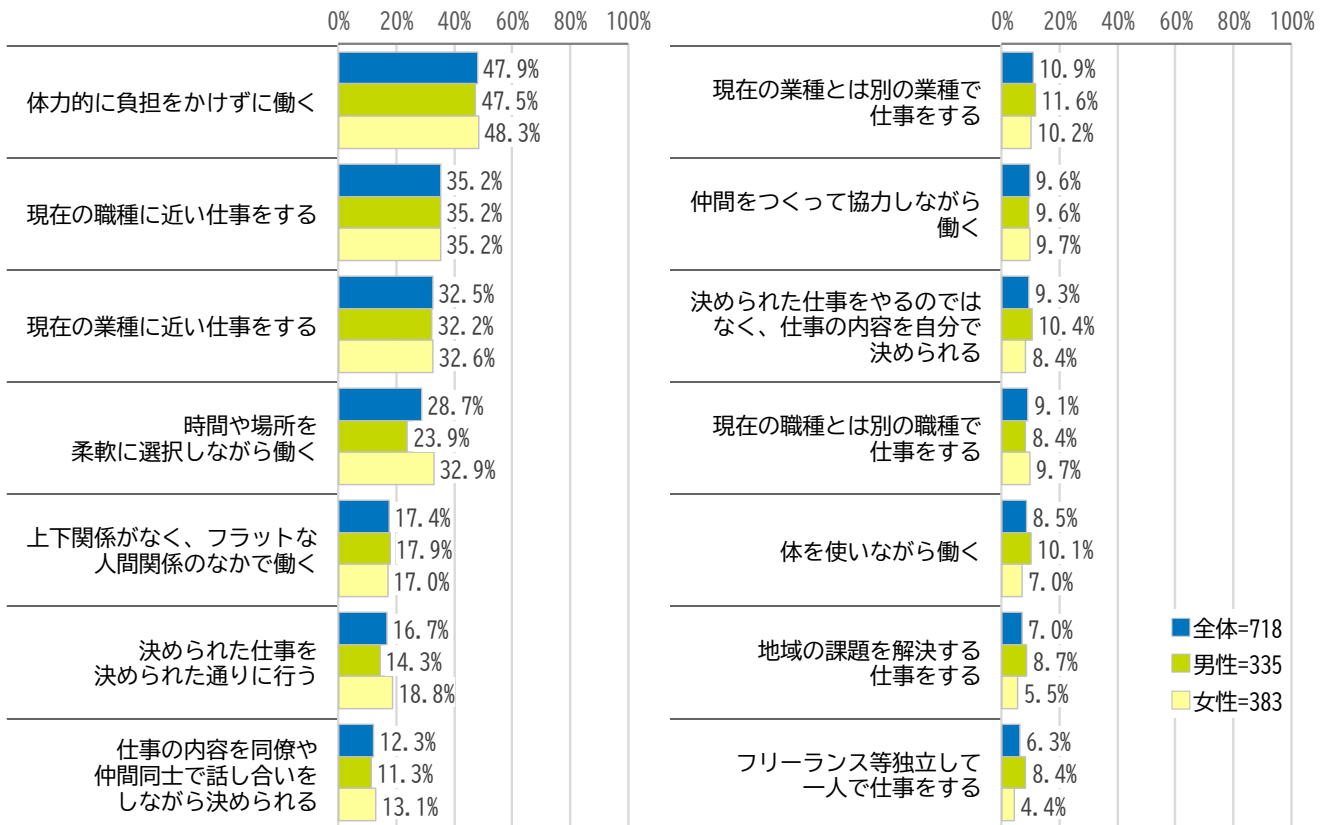


### 2.2.3. 定年後の働き方の希望

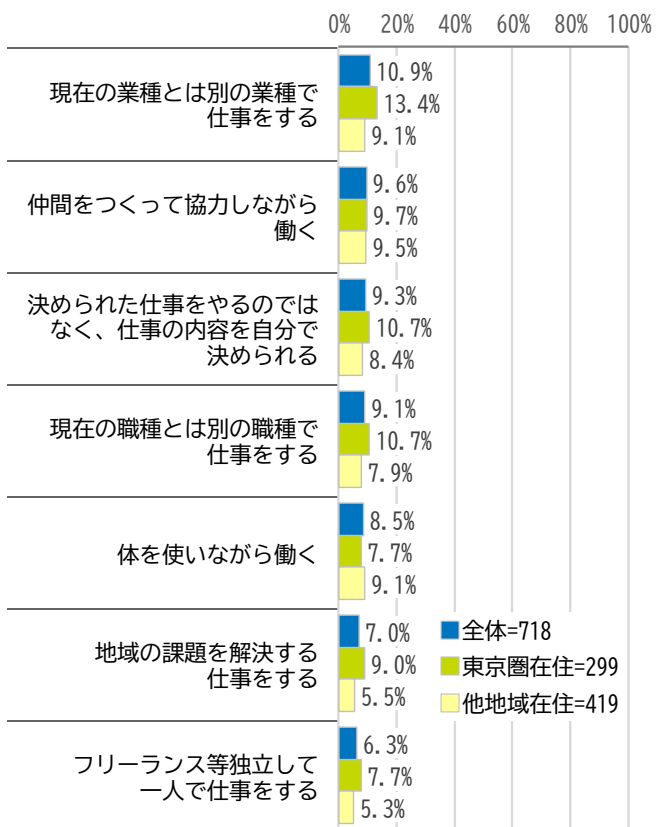
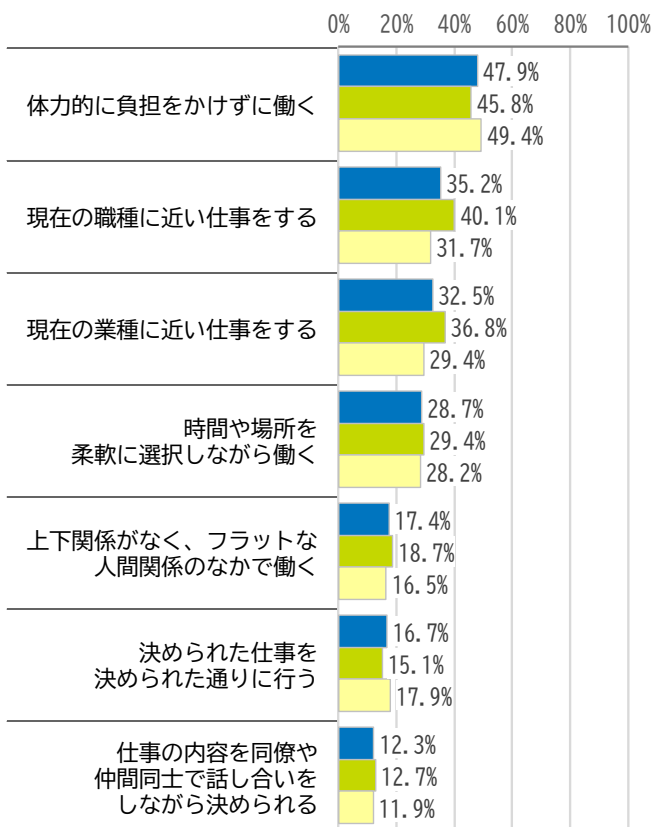
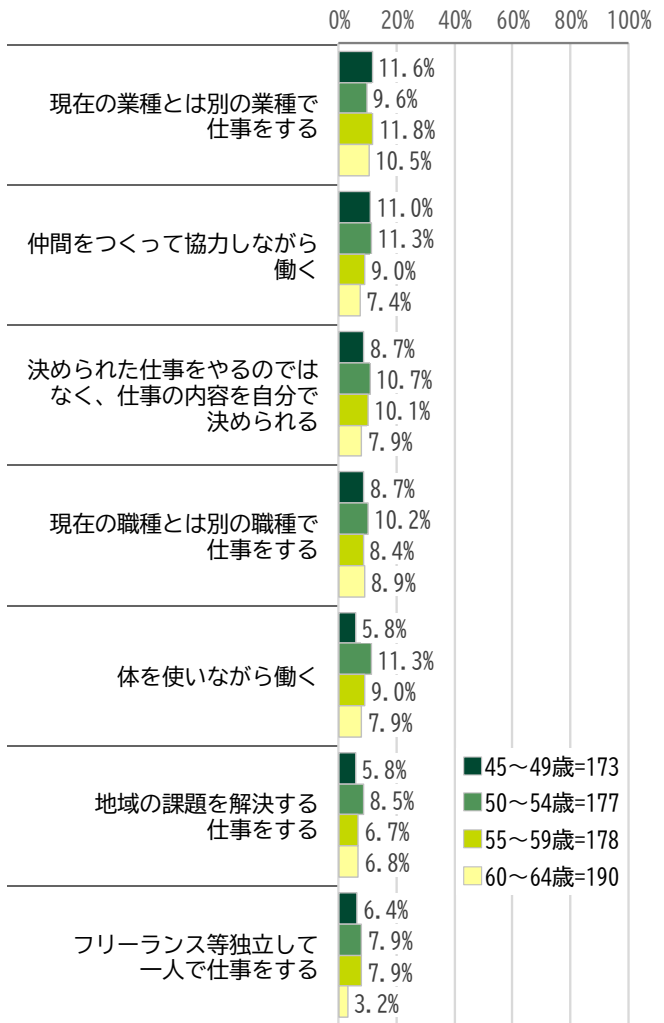
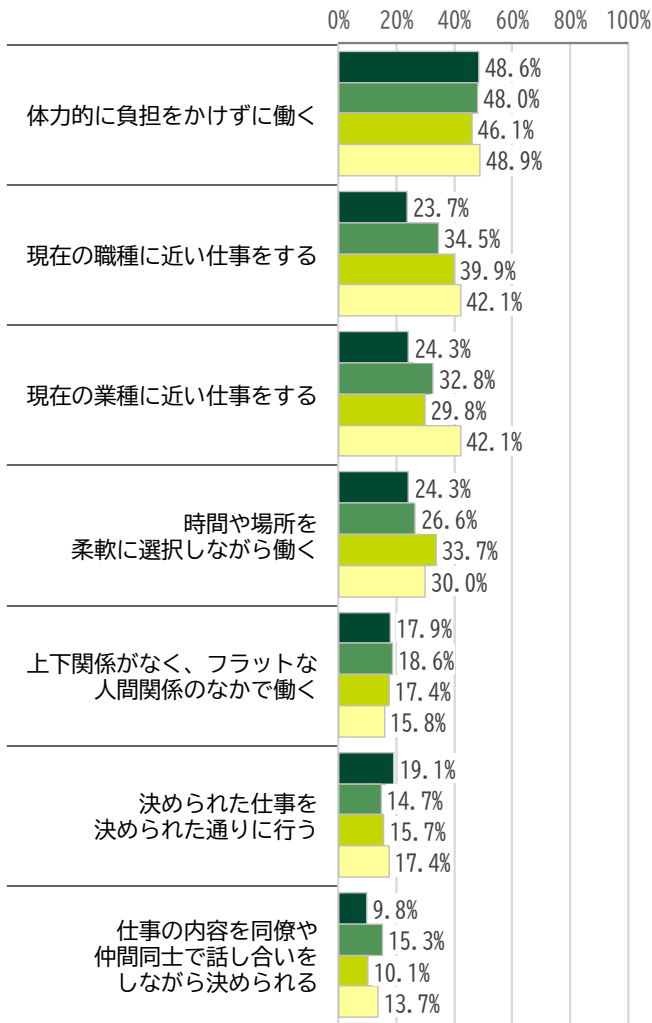
2.2.1で「できるだけ長く働きたい」または「わからない」を選択した回答者に、定年後の働き方として、希望する働き方のスタイルを尋ねたところ、全体では「体力的に負担をかけずに働く」(47.9%)が最も多く、「現在の職種に近い仕事をする」(35.2%)、「現在の業種に近い仕事をする」(32.5%)と続いている。男女別に見ても、この傾向は変わらない。

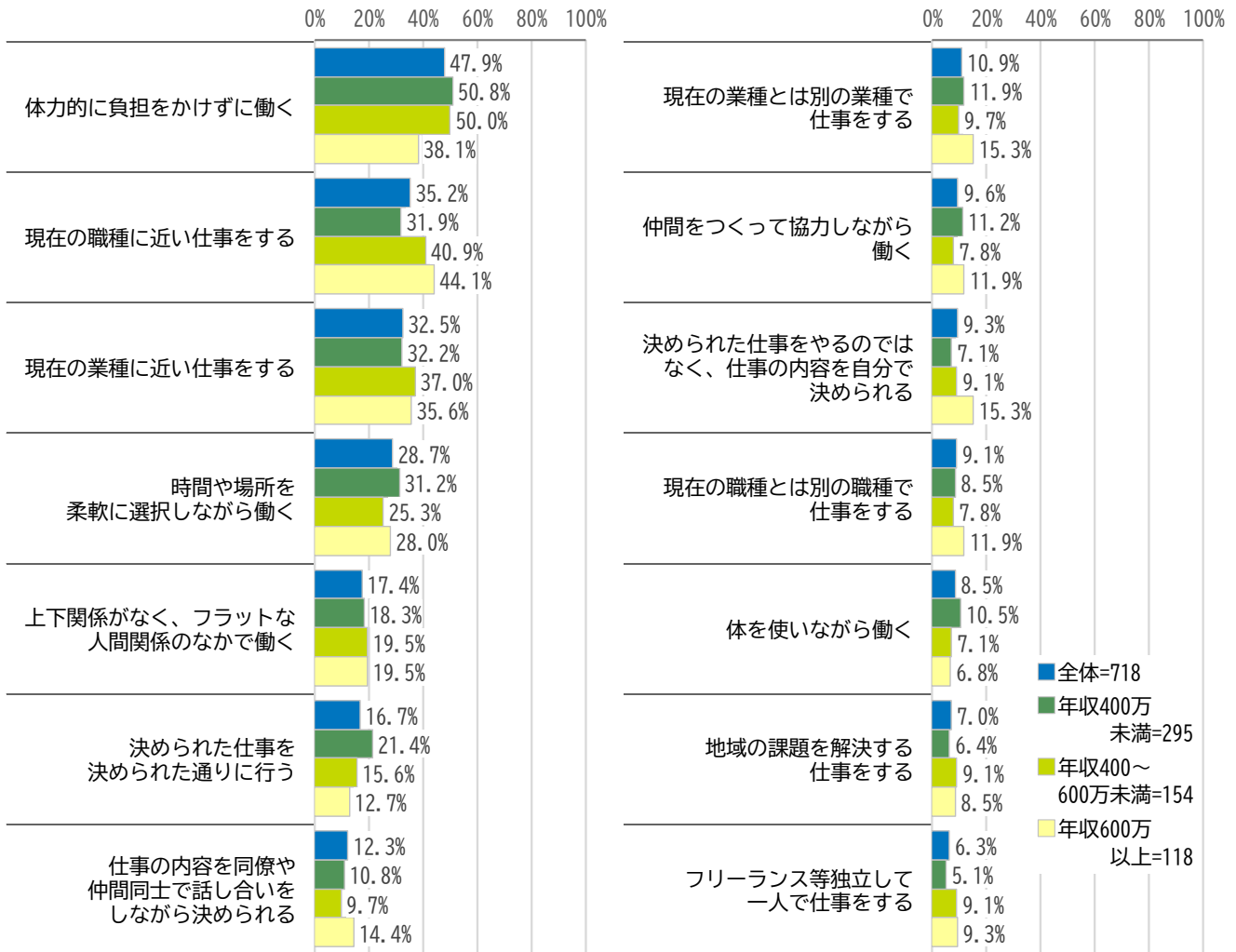
「現在の職種に近い仕事をする」や「現在の業種に近い仕事をする」、「時間や場所を柔軟に選択しながら働く」という回答は高齢になるに従ってやや上昇する傾向が見られる。

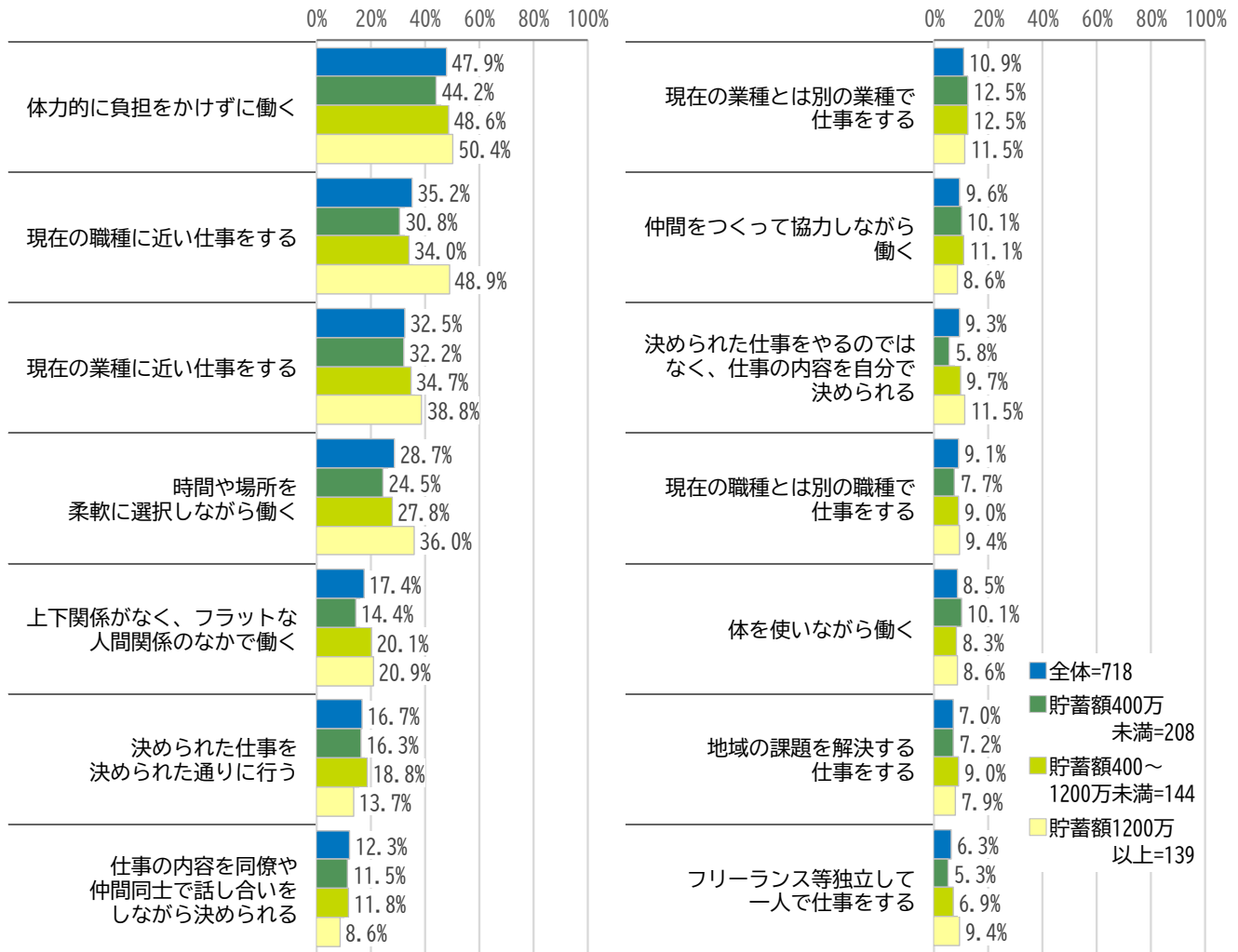
図表2.2.4. 定年後の働き方の希望(複数選択)



※ 選択肢「上下関係のある人間関係のなかで、指示を受けながら働く」「起業をして人を雇いながら働く」「上下関係のある人間関係のなかで、上席者の立場で指示をしながら働く」「その他」の選択は、5%に満たなかった。





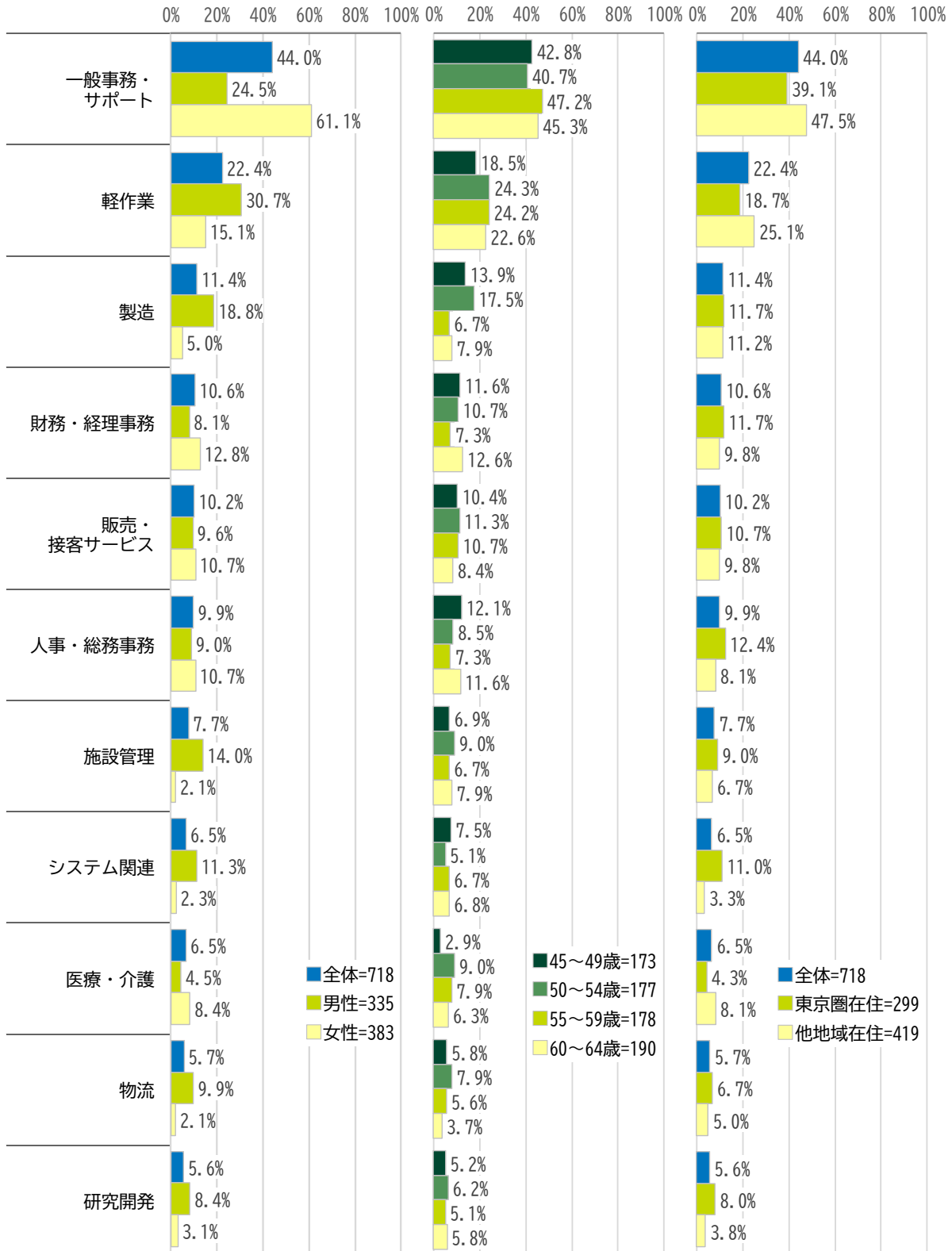


### 2.2.4. 再就職しても良いと考える仕事

2.2.1で「できるだけ長く働きたい」または「わからない」を選択した回答者に、どのような仕事であれば、再就職しても良いと感じるか尋ねたところ、全体では「一般事務・サポート」(44.0%)が最も多く、「軽作業」(22.4%)、「製造」(11.4%)と続いている。

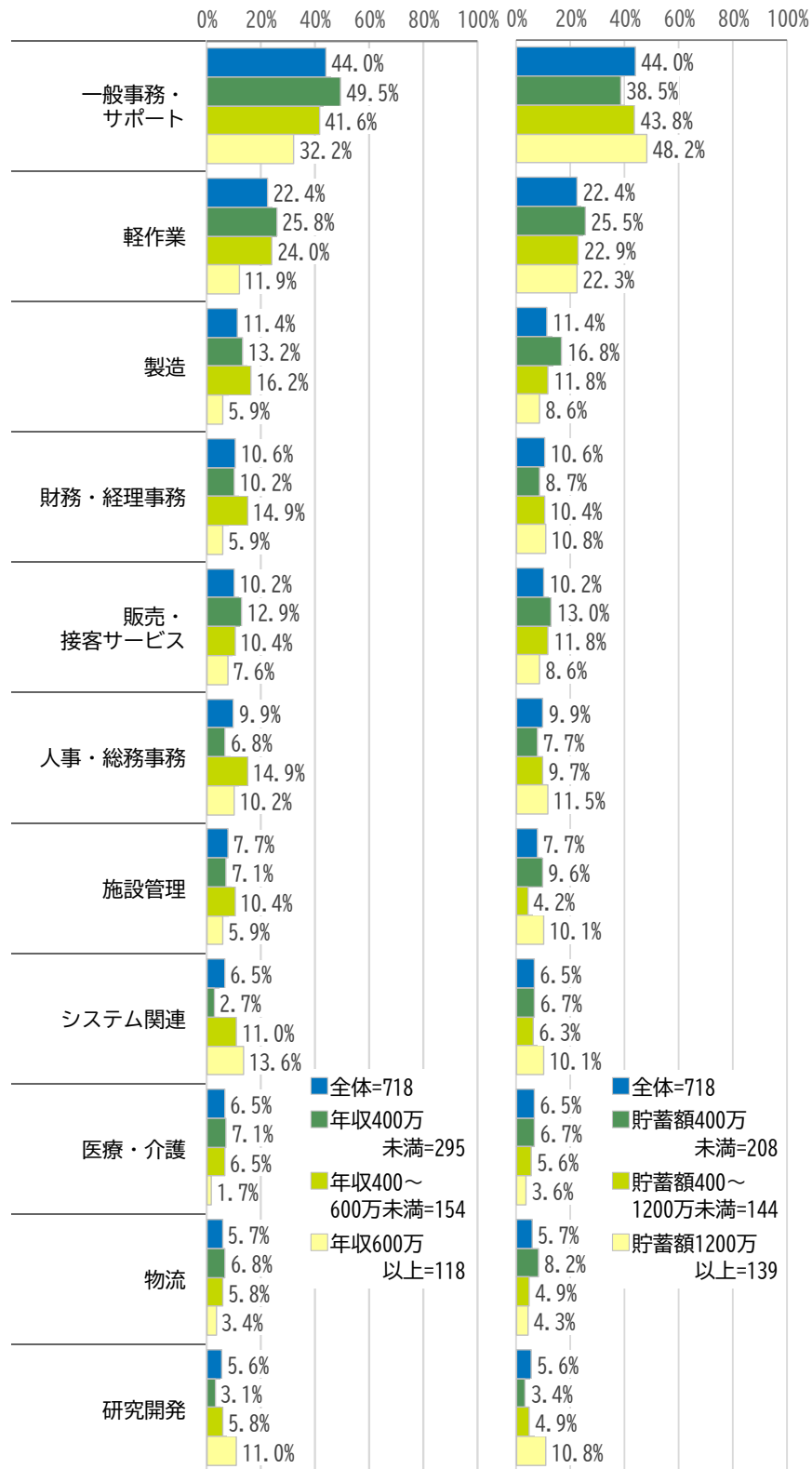
性別ごとに見ると、男性では「軽作業」(30.7%)が最も多く、女性では「一般事務・サポート」(61.1%)が最も多い。

図表2.2.3. 再就職しても良いと考える仕事(複数選択)





- ※ 選択肢「営業」「電話オペレーター」「調査・研究・コンサルティング」「教育」「企画・マーケティング」「商品開発」「翻訳・通訳」「経営企画」「法務」「保育」「広報・IR」「その他」の選択は、5%に満たなかった。
- ※ その他には「クリエイティブ」「管理栄養士」「調理師」「専門職」「資格を生かす仕事」「建設現場」「設計」「農業」「品質保証」「検査」「購買」などがあつた。



## 2.3. 私生活での人間関係

### 2.3.1. 友人の数

友人の数について尋ねたところ、「年齢が10歳以上若い友人」は「0人」という回答が最も多く、全体の約6割に上る。

性別で比べると、「年齢が10歳以上若い友人」は「0人」という回答が、男性では66.8%、女性では59.6%と最も多い。一方、「悩みごとを相談できる友人」は男性では「0人」という回答が50.4%と最も多いが、女性では、「2~3人」という回答が42.0%と最も多い。

年齢別で比べると、60~64歳の方は「年齢が10歳以上若い友人」が「0人」という回答が少なく、「年齢が10歳以上若い友人」がいる人が他の年代より多い。

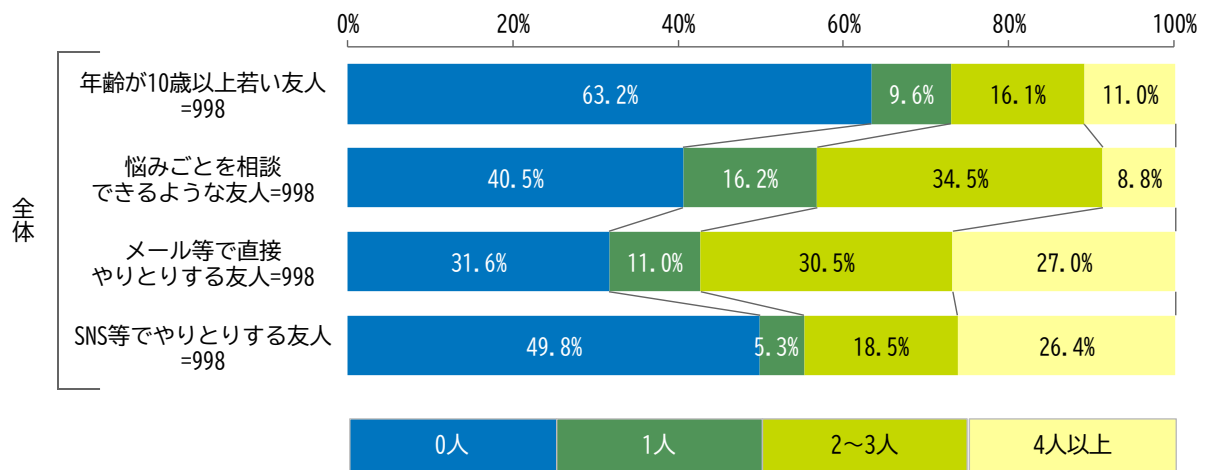
定年後に働きたい人より、働きたくない人の方が、「年齢が10歳以上若い友人」、「悩みごとを相談できるような友人」、「メール等で直接やりとりする友人」、「SNS等でやりとりする友人」でいずれも「0人」と回答した人が多い。

婚活の経験者に比べて、未経験者の方が、「年齢が10歳以上若い友人」、「悩みごとを相談できるような友人」、「メール等で直接やりとりする友人」、「SNS等でやりとりする友人」いずれも「0人」と回答した人が多い。

年収が高くなるにつれて、「年齢が10歳以上若い友人」、「悩みごとを相談できるような友人」、「メール等で直接やりとりする友人」、「SNS等でやりとりする友人」を持つ人が増える傾向が見られる。

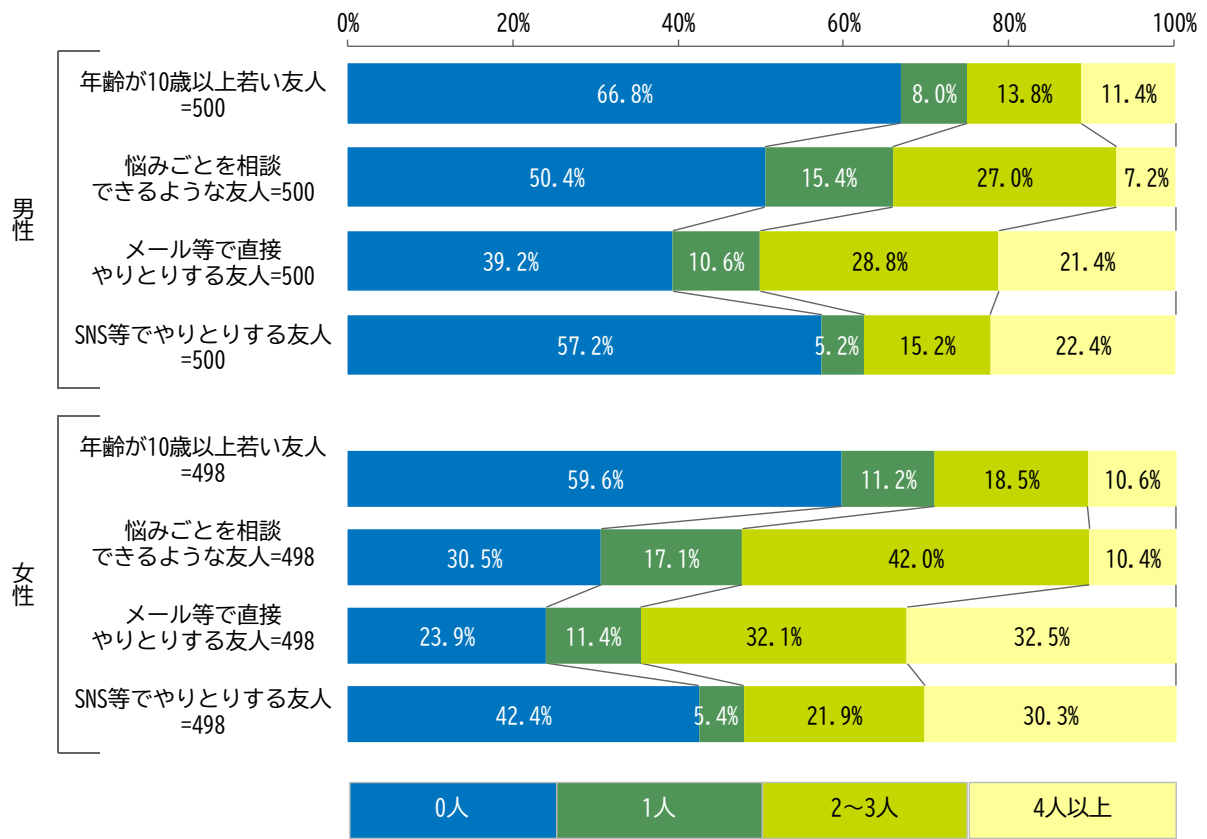
#### 2.3.1.1. 友人の数 全体

図表2.3.1.1. 友人の数 全体(単一選択)



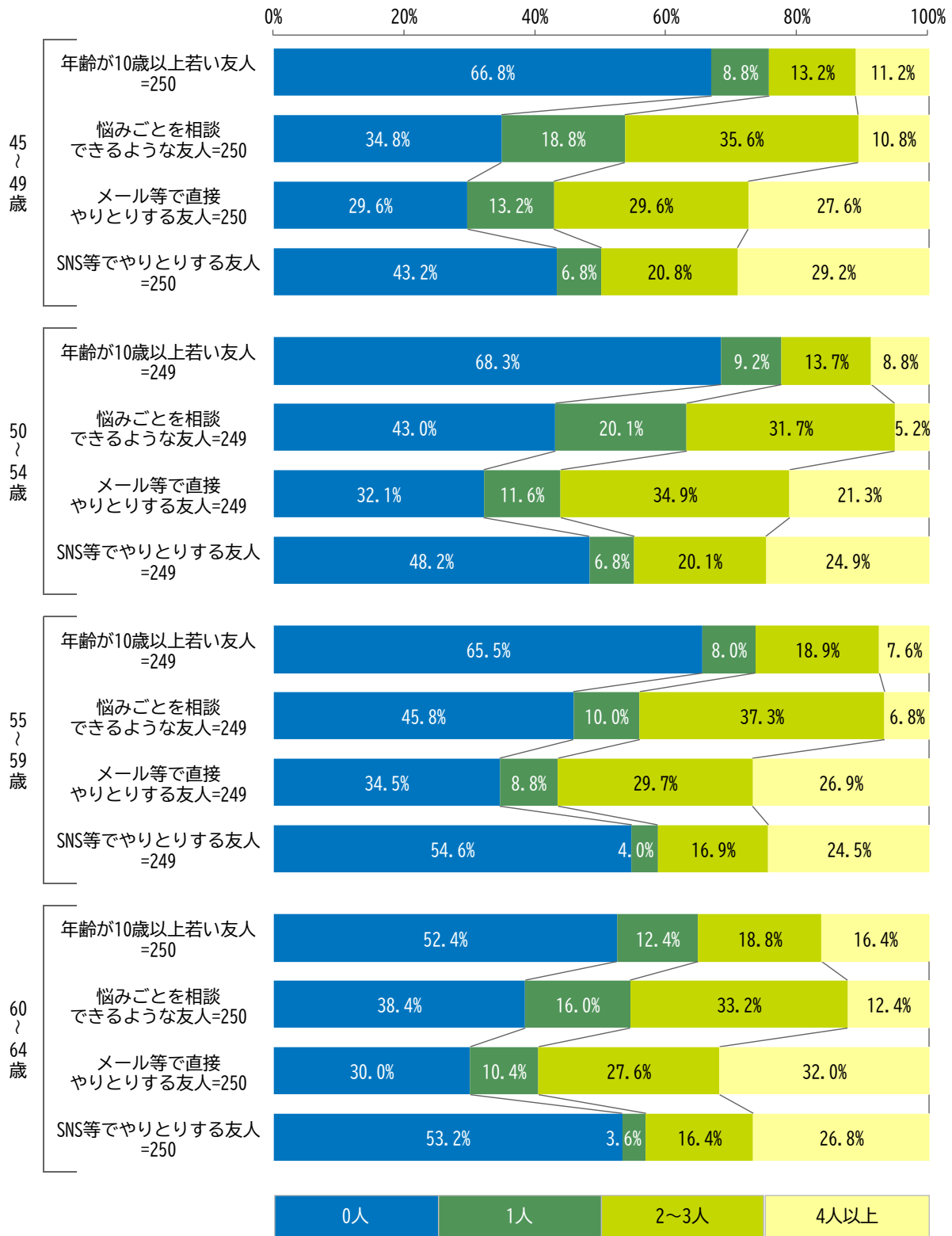
2.3.1.2. 友人の数 性別

図表2.3.1.2. 友人の数 性別(単一選択)



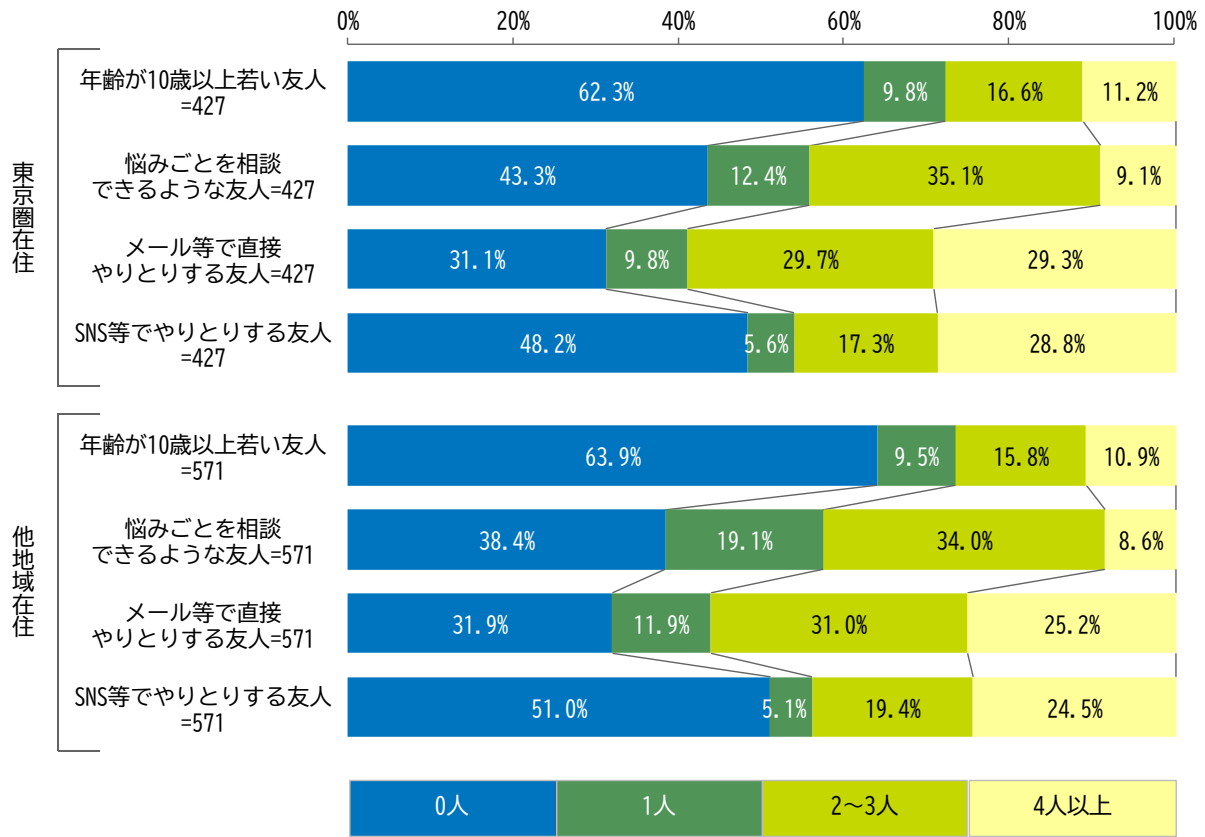
2.3.1.3. 友人の数 年齢別

図表2.3.1.3. 友人の数 年齢別(単一選択)



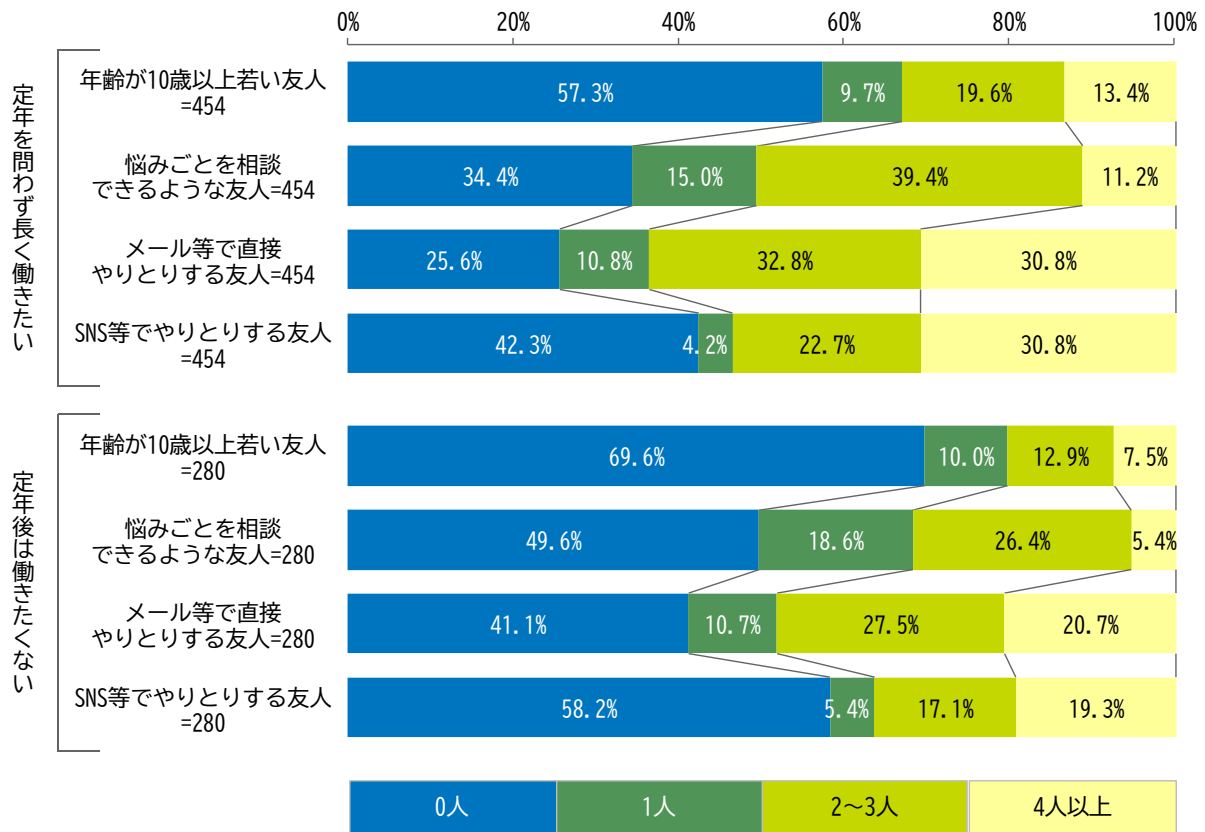
2.3.1.4. 友人の数 居住地状況別

図表2.3.1.4. 友人の数 居住地別(単一選択)



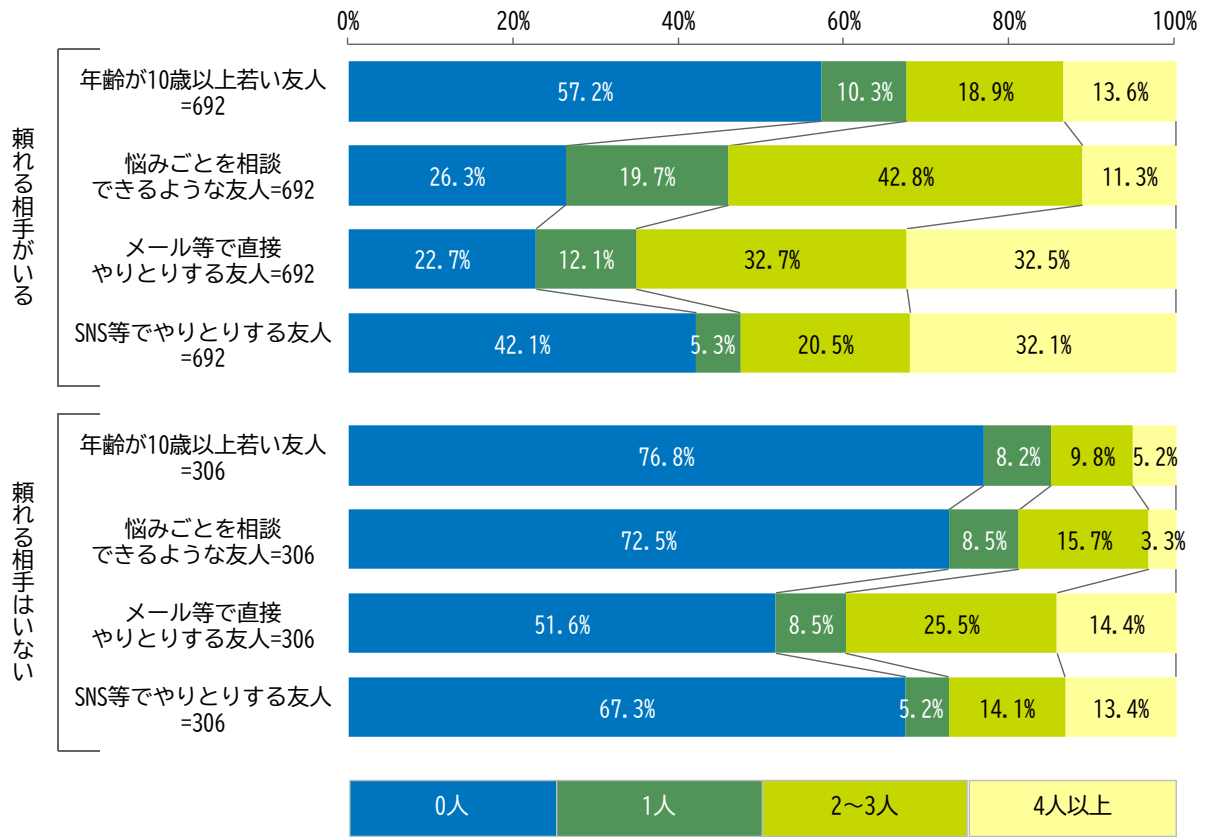
2.3.1.5. 友人の数 定年後の就業要望別

図表2.3.1.5. 友人の数 定年後の就業要望別(単一選択)



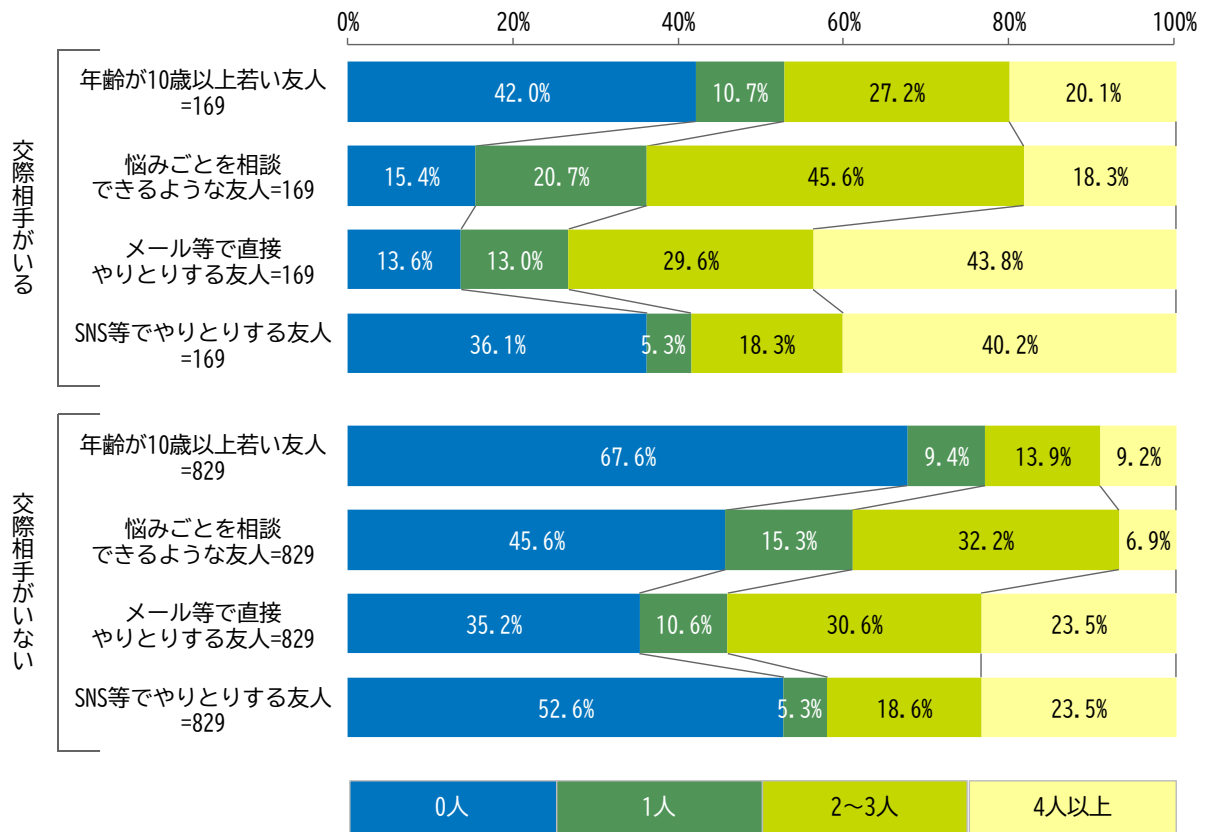
2.3.1.6. 友人の数 頼れる相手の有無別

図表2.3.1.6. 友人の数 頼れる相手の有無別(単一選択)



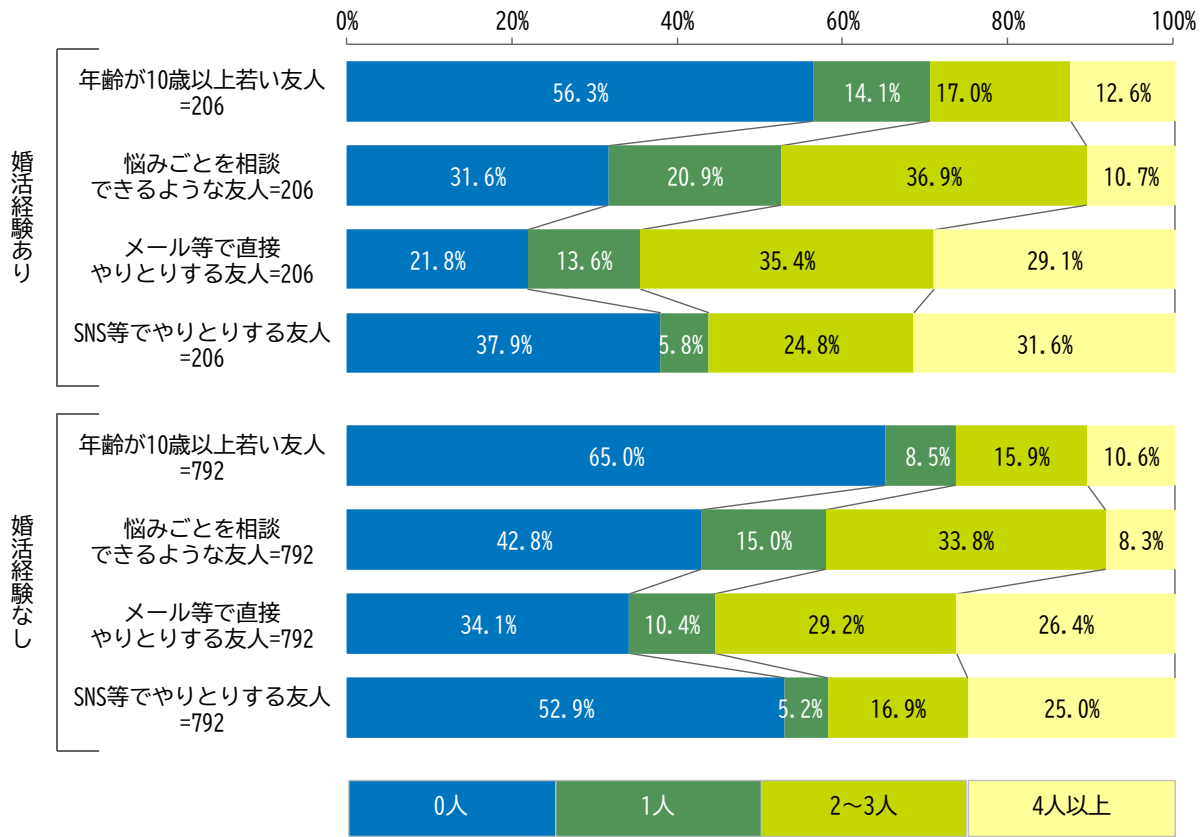
2.3.1.7. 友人の数 交際相手の有無別

図表2.3.1.7. 友人の数 交際相手の有無別(単一選択)



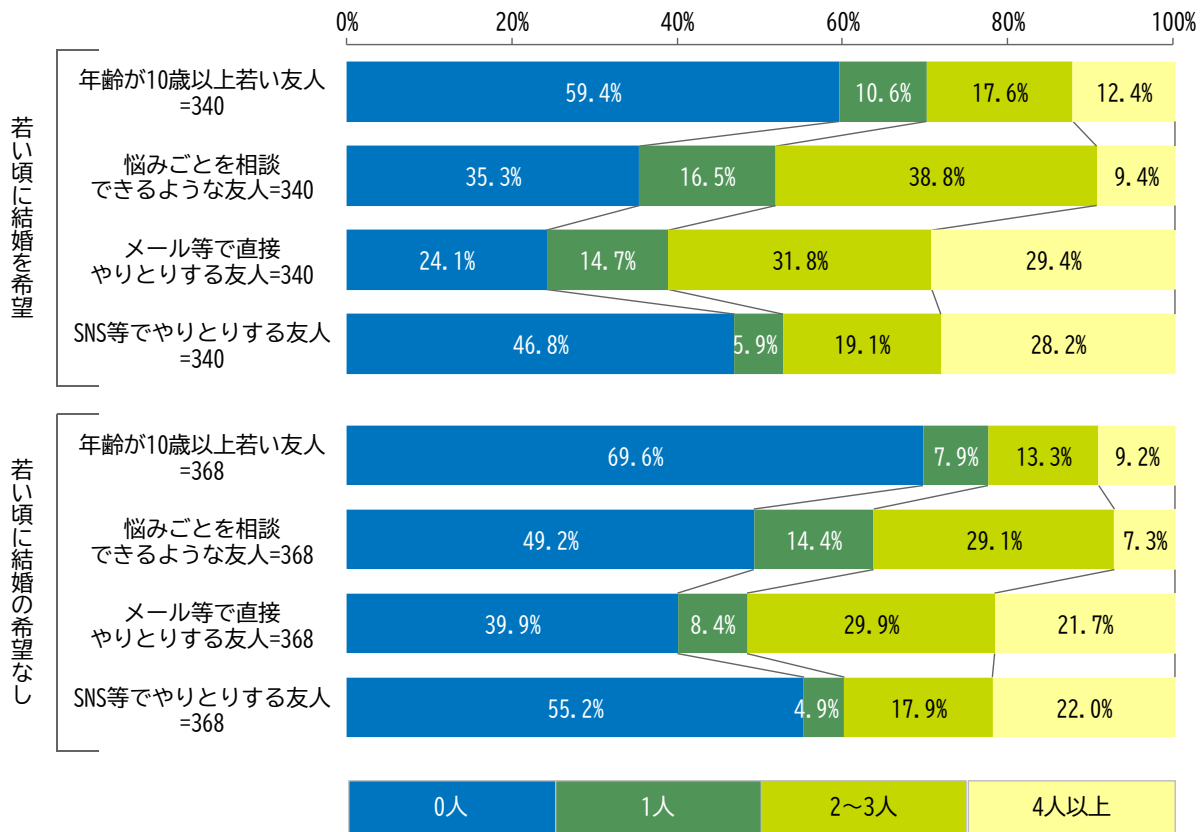
2.3.1.8. 友人の数 婚活経験別

図表2.3.1.8. 友人の数 婚活経験別(単一選択)



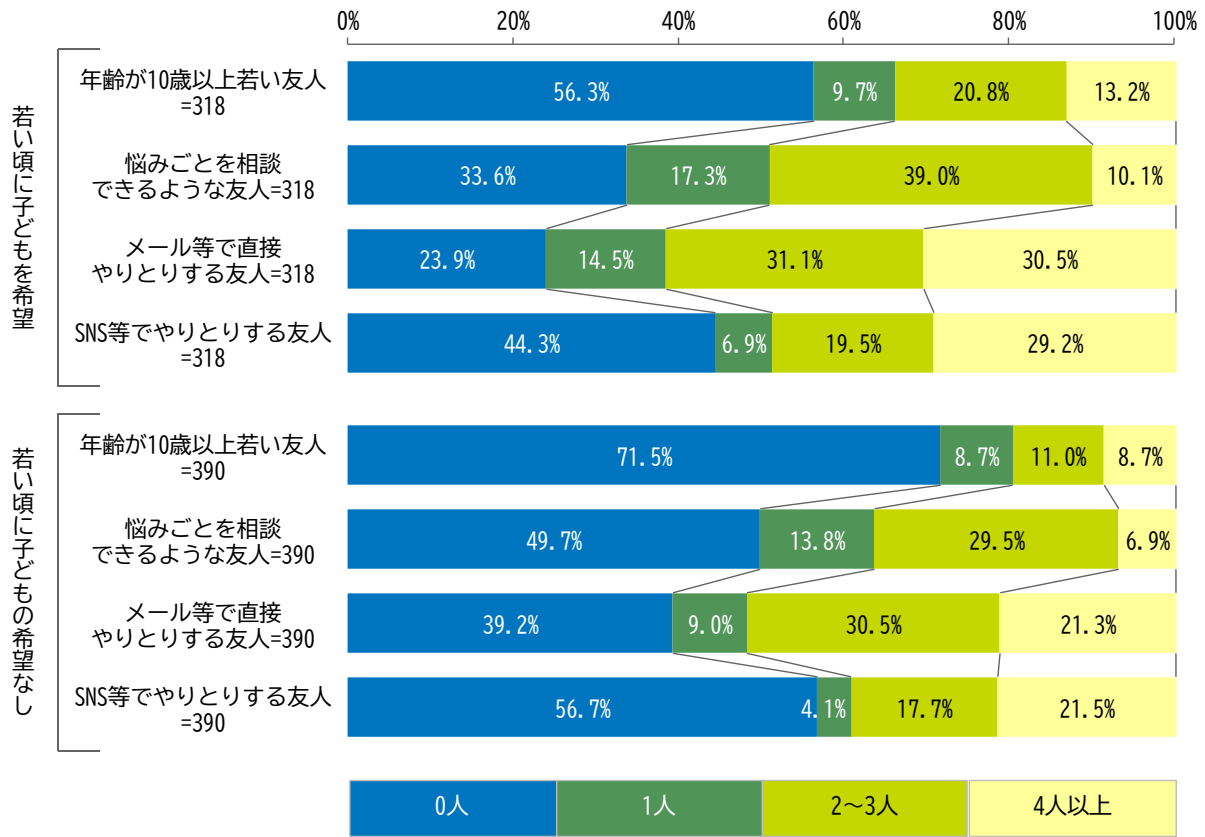
2.3.1.9. 友人の数 若い頃の結婚の希望別

図表2.3.1.9. 友人の数 若い頃の結婚の希望別(単一選択)



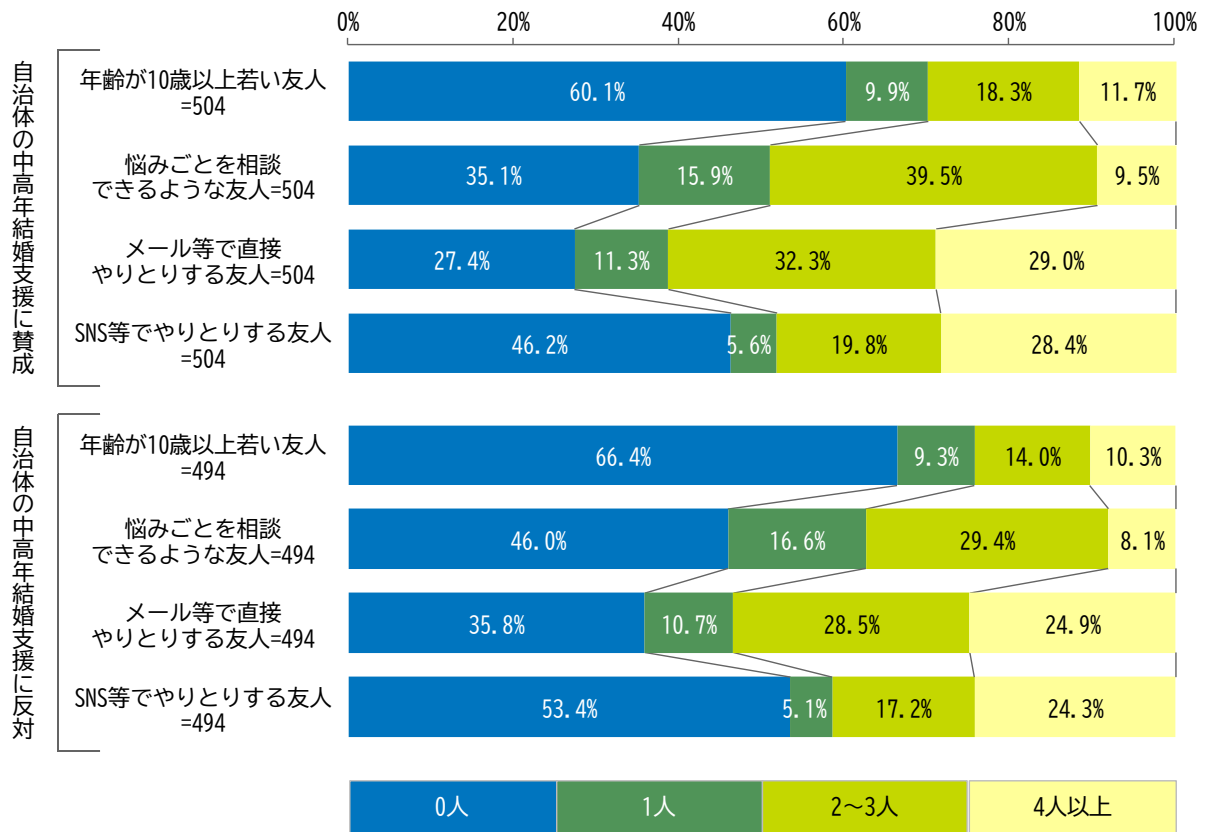
2.3.1.10. 友人の数 若い頃の子どもの希望別

図表2.3.1.10. 友人の数 若い頃の子どもの希望別(単一選択)



2.3.1.11. 友人の数 自治体の中高年結婚支援賛否別

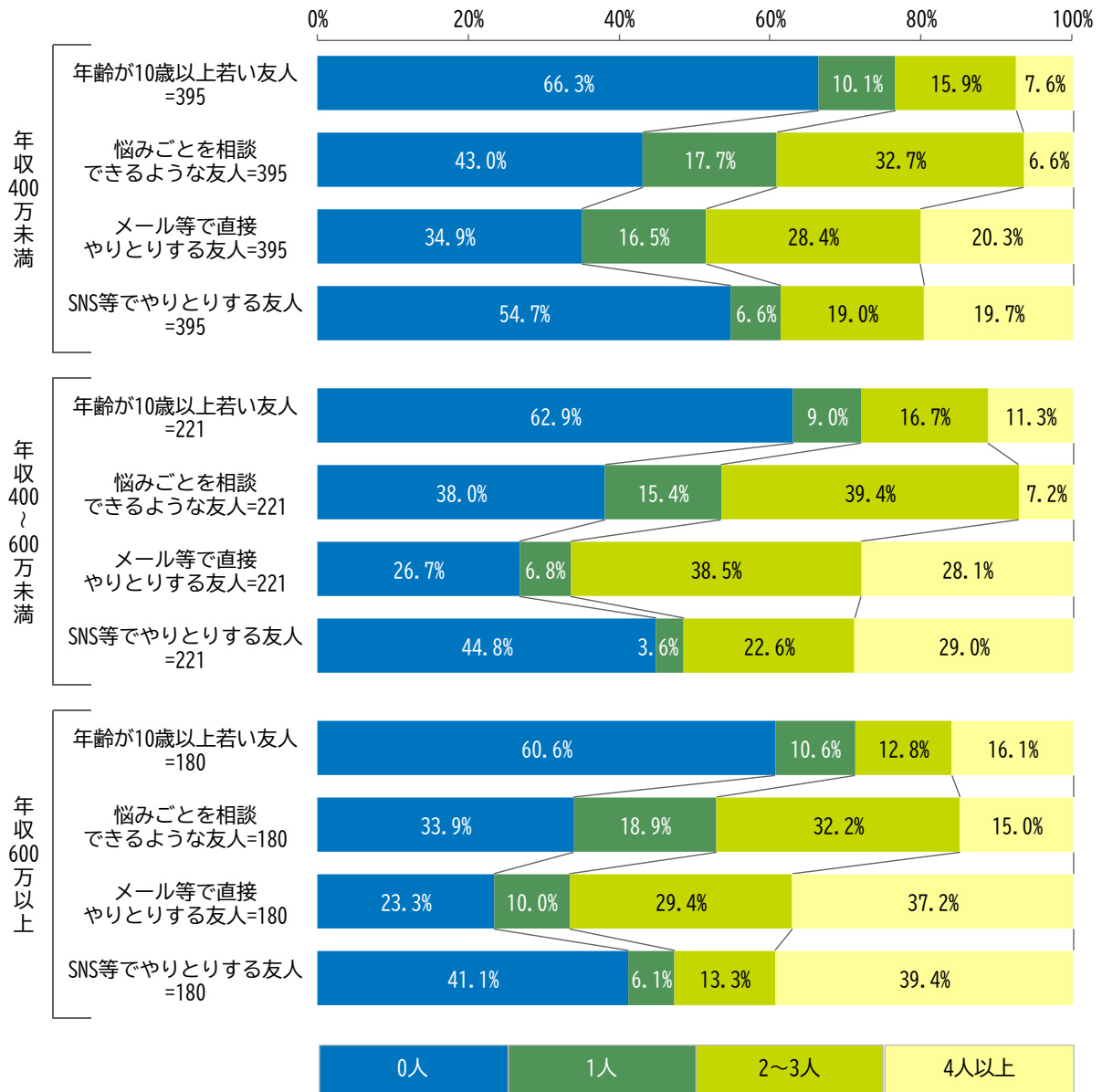
図表2.3.1.11. 友人の数 自治体の中高年結婚支援賛否別(単一選択)





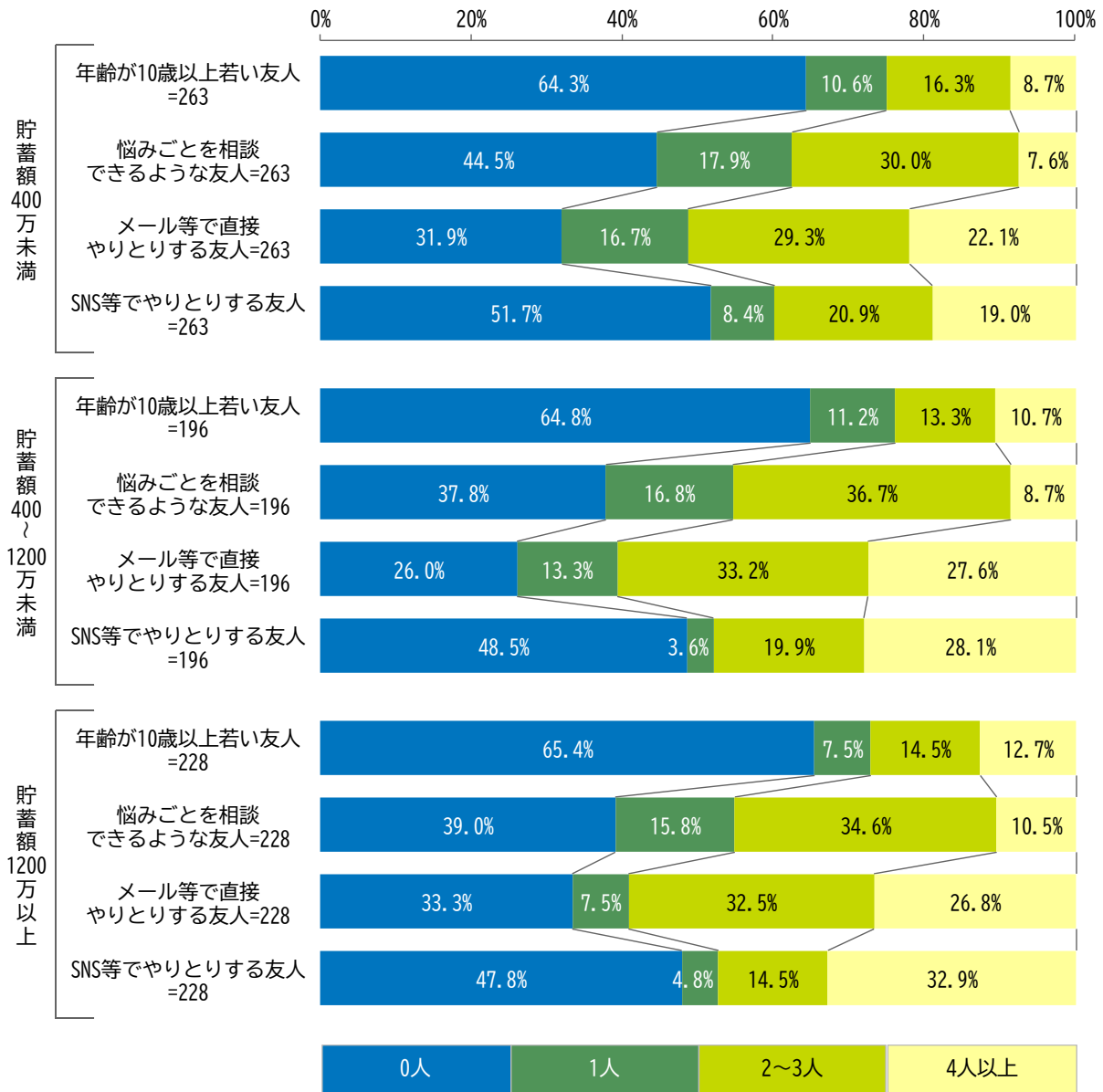
2.3.1.12. 友人の数 年収別

図表2.3.1.12. 友人の数 年収別(単一選択)



2.3.1.13. 友人の数 貯蓄額別

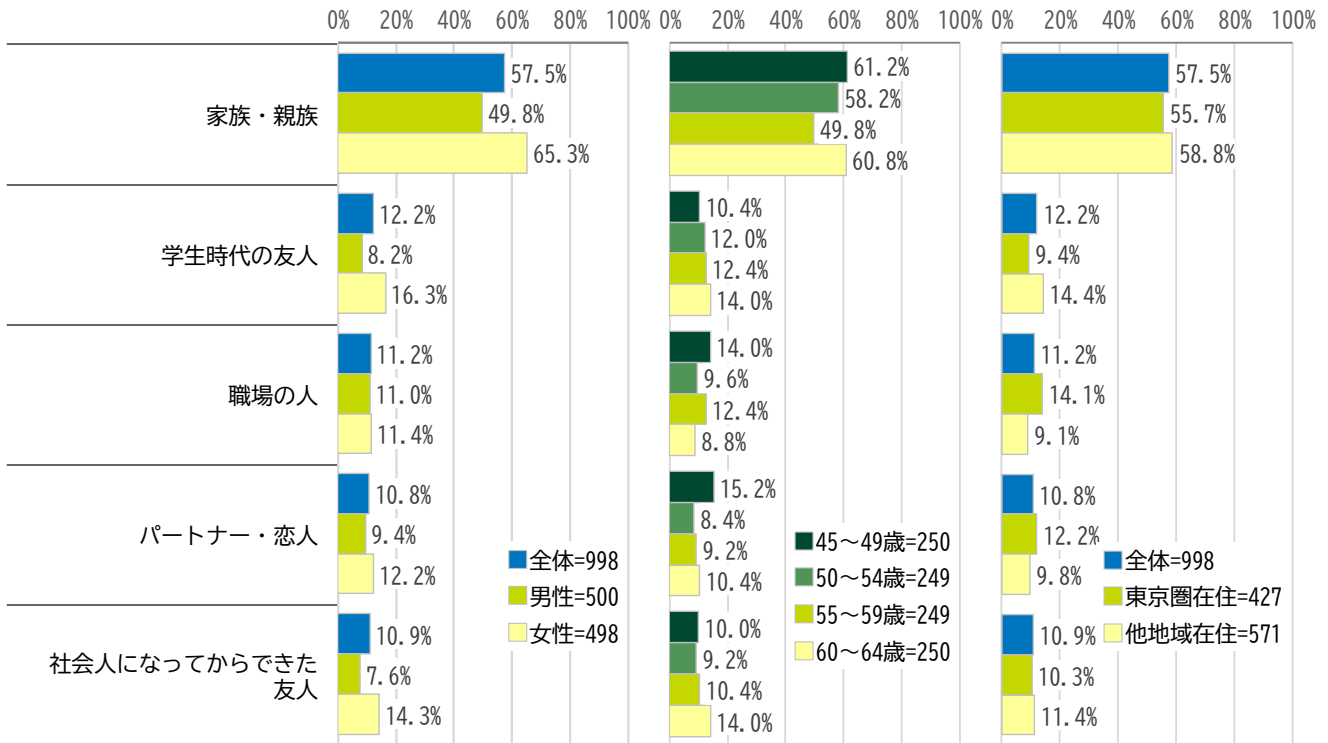
図表2.3.1.13. 友人の数 貯蓄額別(単一選択)



2.3.2. 頼れる相手

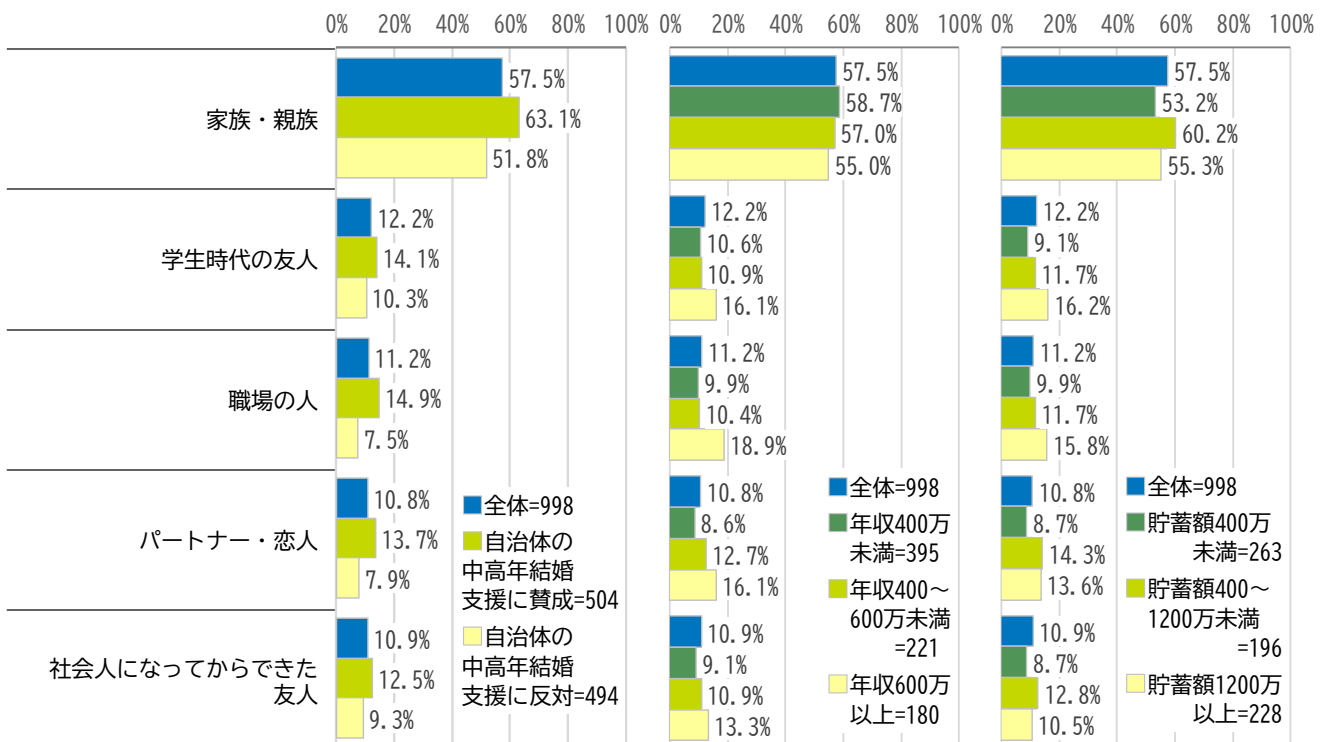
突然の病気など、一人では対処できない状況が発生したときに頼れる相手を尋ねたところ、全体では「家族・親族」(57.5%)が最も多く、他は2割以下である。加えて、「家族・親族」と回答した比率は、男性(49.8%)に比べて、女性(65.3%)の方が高い。

図表2.3.2. 頼れる相手(複数選択)



※ 選択肢「仕事を通じて知り合った人(職場の人除く)」「専門機関やNPO団体等」「地域の人」「その他」の選択は、5%に満たなかった。

※ その他には「役所」などがあった。



### 2.3.3. 共食相手

さまざまな相手と「共食(共に食事をすること)」する頻度を尋ねたところ、「家族」については、「毎日」を選択した人が最も多く約3割である。その他の相手については、「全くない」が最も多く、「仕事の知り合い(職場の人除く)」は約6割、「学生時代の友人」、「社会人になってからの友人」は約半数、「地域の人」は約9割に上る。

男女別に比べると、「学生時代の友人」、「社会人になってからの友人」については、女性の方が男性よりも、「共食」をする相手があり、頻度もやや高めである状況がうかがえる。

年齢別に比べると、45～49歳の方は、「家族」との「共食」を「毎日」行う比率が他の年齢層より高い。

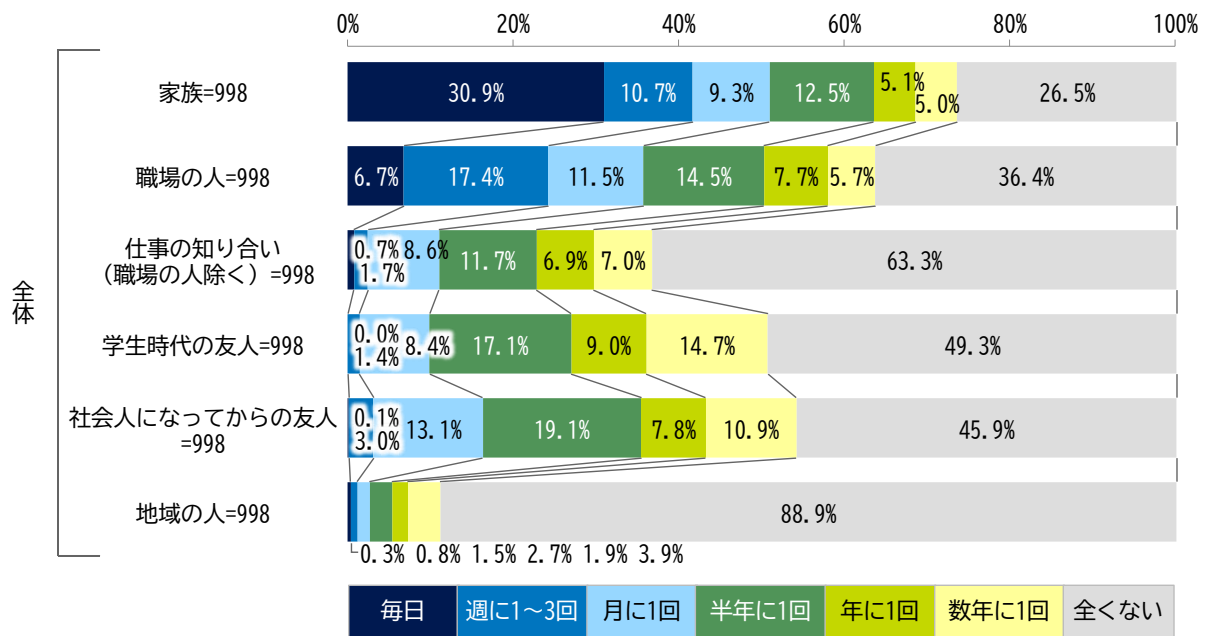
居住地別に比べると、他地域在住の方は、「家族」との「共食」を「毎日」行う比率が東京圏在住の方より高い。

頼れる相手の有無別に比べると、頼れる相手のいない方は、すべての項目で「全くない」が頼れる相手のいる方より多い。

交際相手の有無別に比べると、交際相手のいない方は、すべての項目で「全くない」が交際相手のいる方より多い。

#### 2.3.3.1. 共食相手 全体

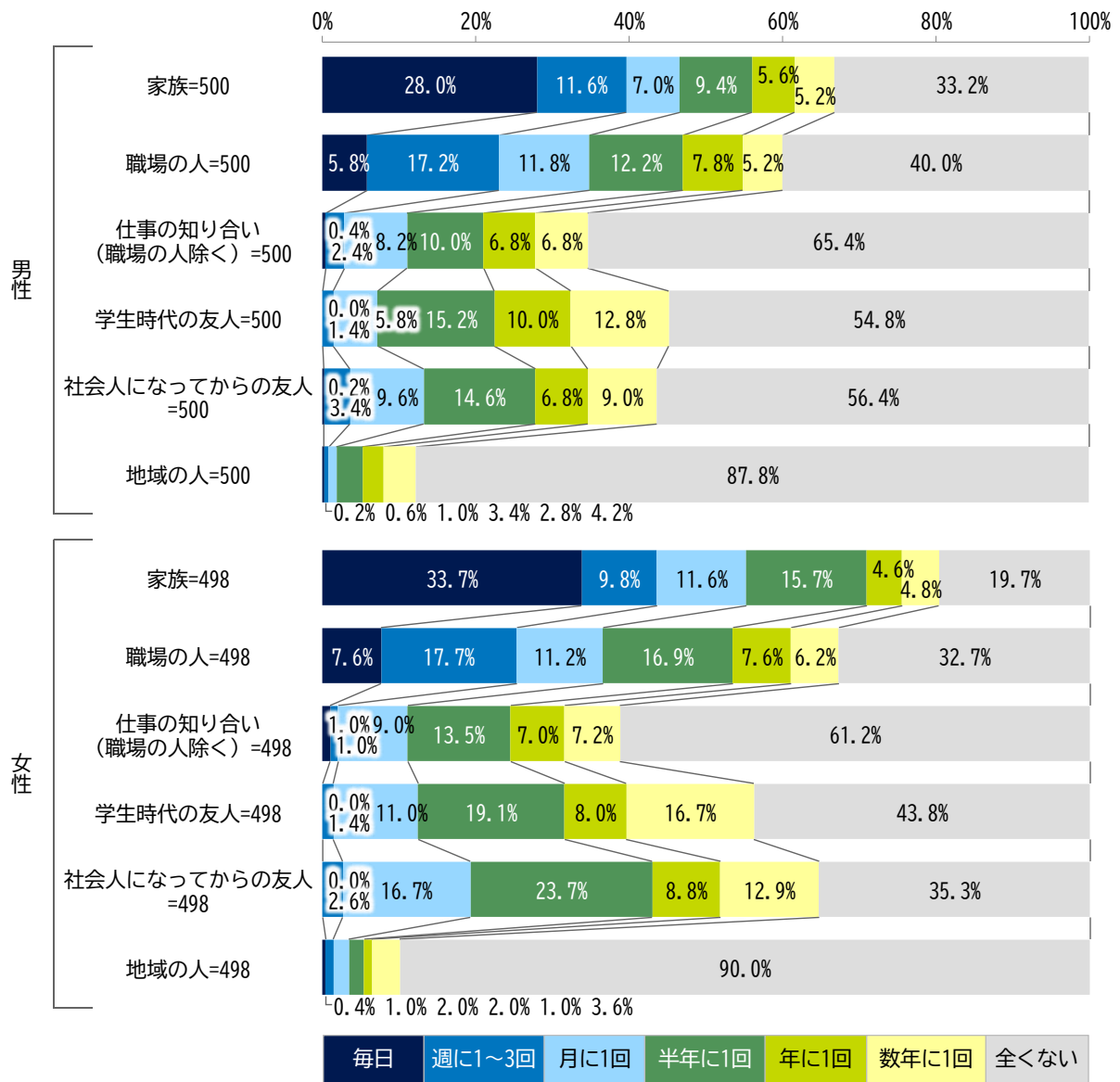
図表2.3.3.1. 共食相手 全体(単一選択)



※ その他として「恋人」「習い事の恩師」「学生時代の恩師」「教え子」「教会・寺関係者」「年配の方」「行きつけのショップの店員」などがあつた。

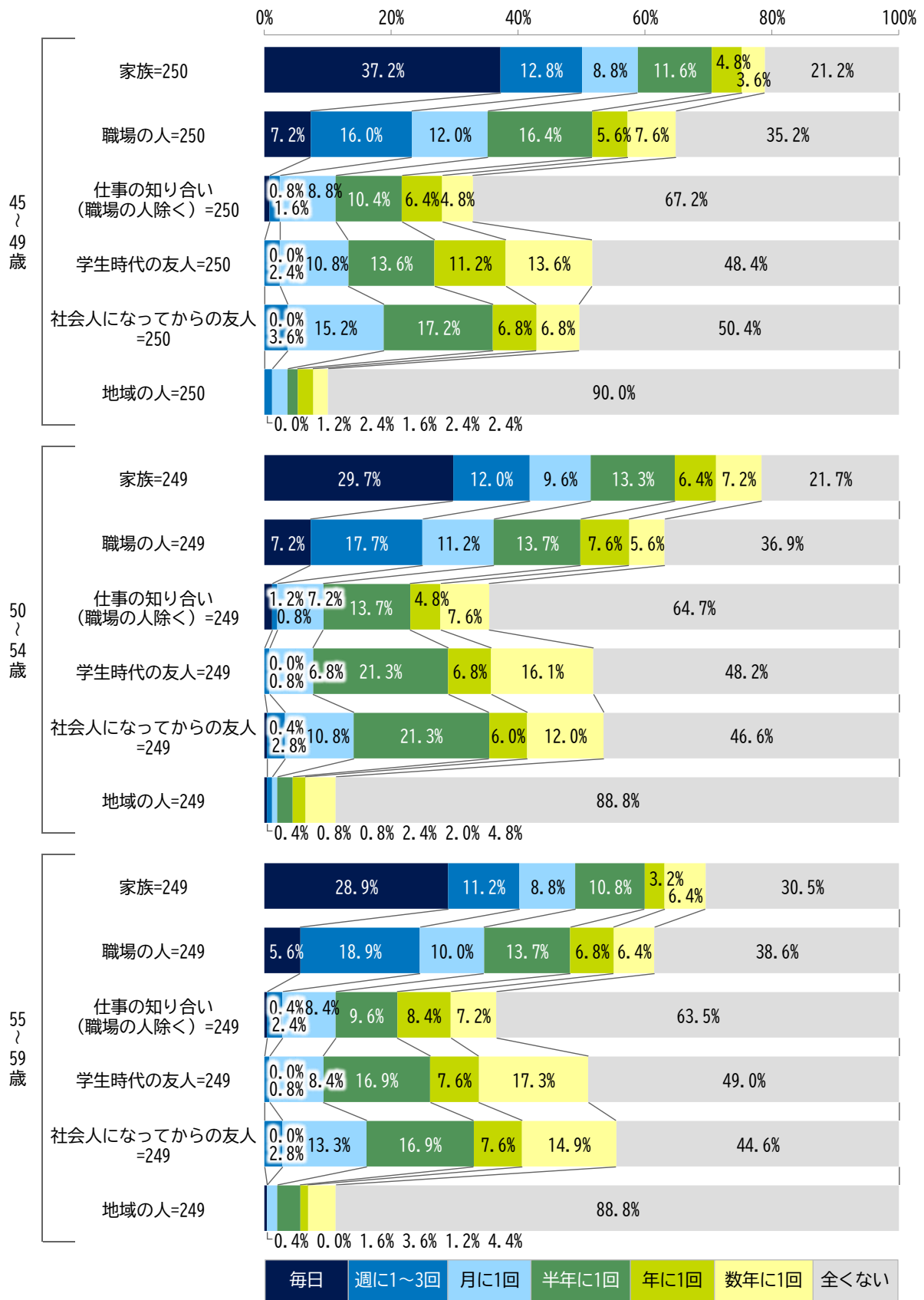
2.3.3.2. 共食相手 性別

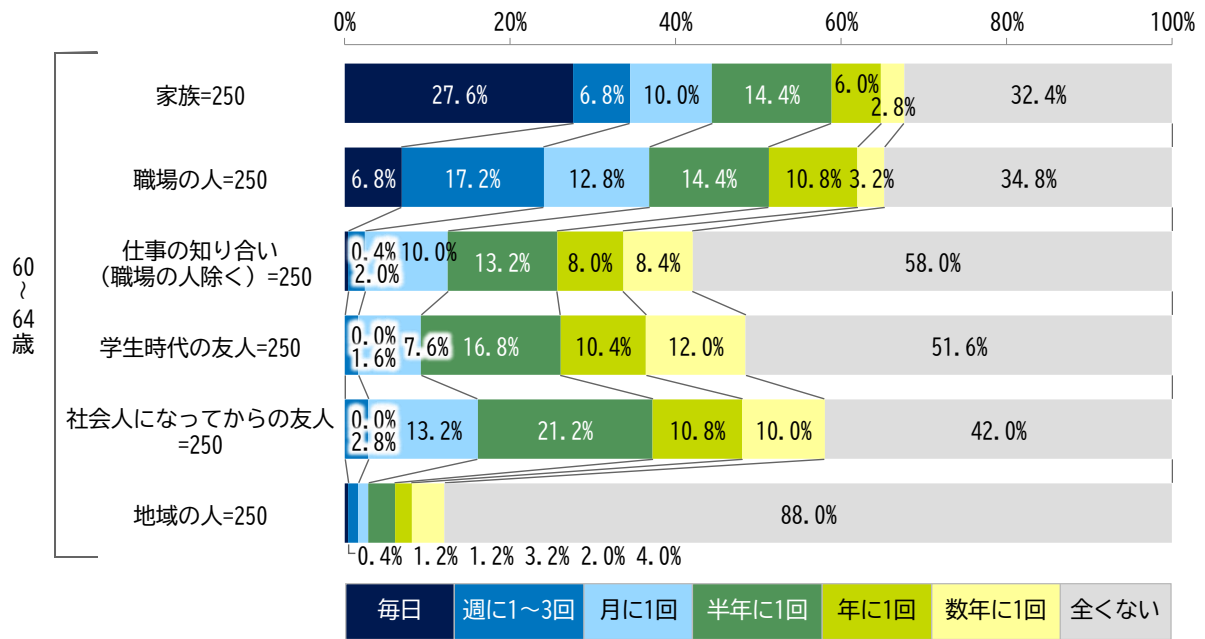
図表2.3.3.2. 共食相手 性別(単一選択)



2.3.3.3. 共食相手 年齢別

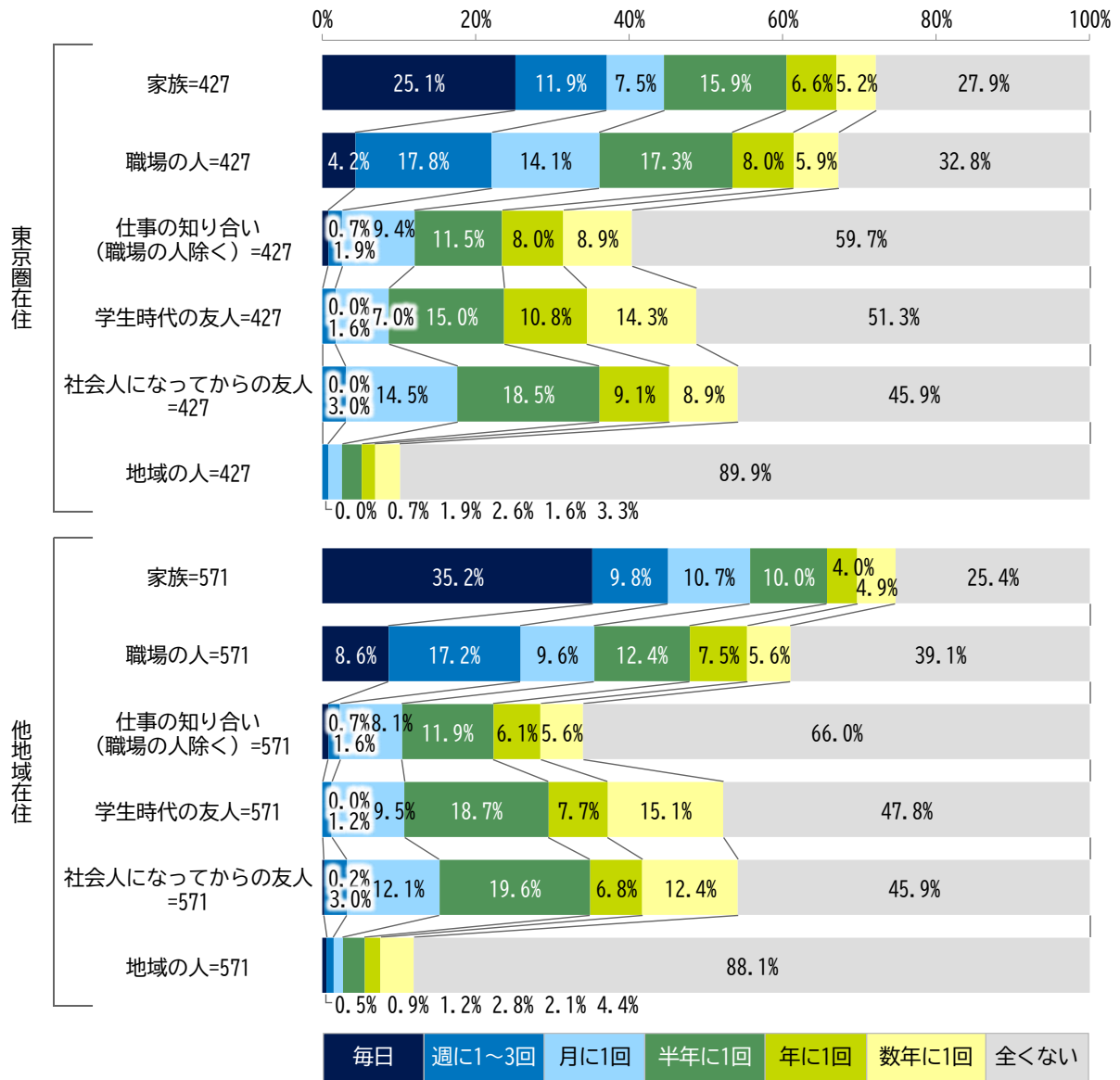
図表2.3.3.3. 共食相手 年齢別(単一選択)





2.3.3.4. 共食相手 居住地別

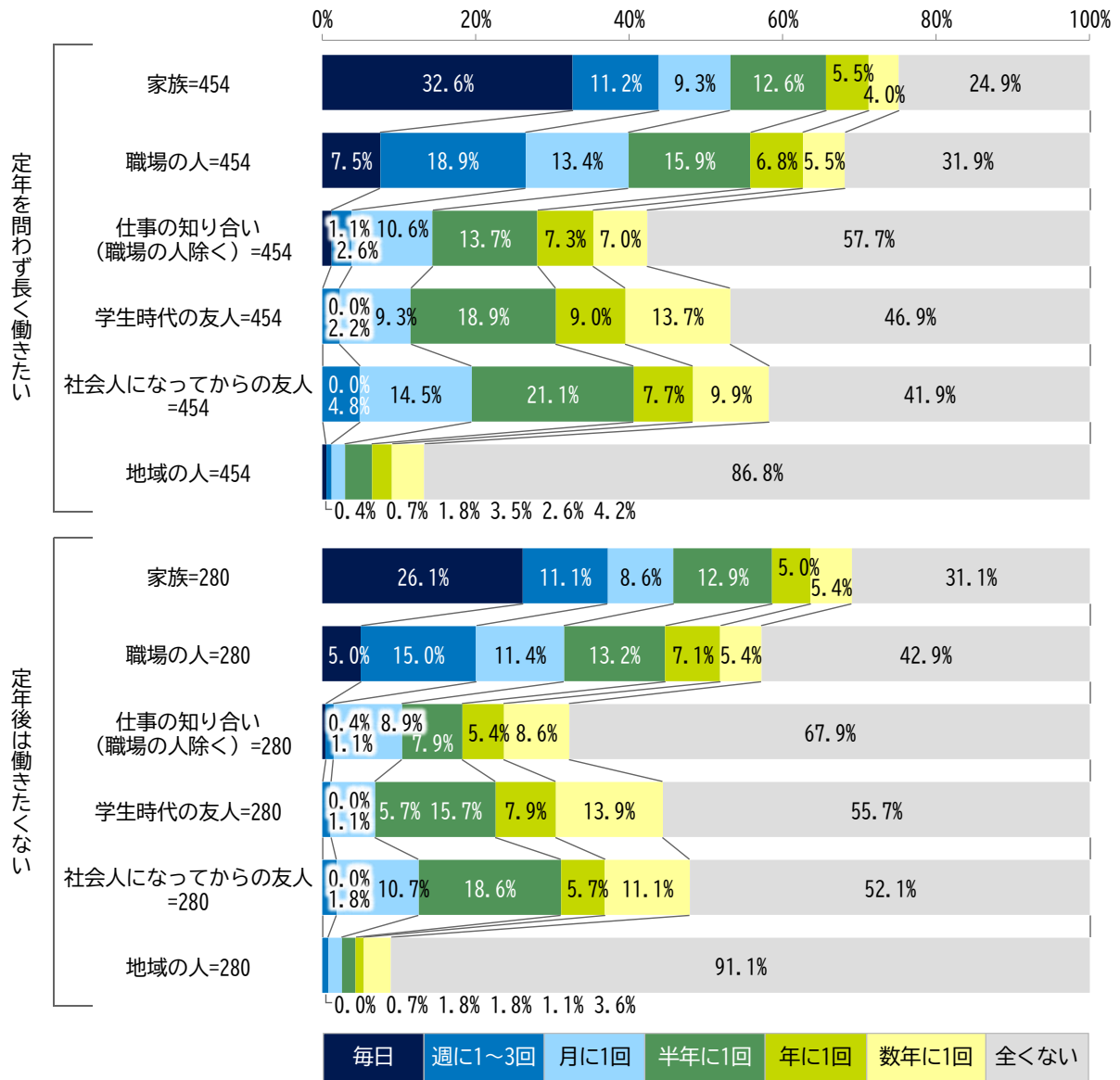
図表2.3.3.4. 共食相手 居住地別(単一選択)





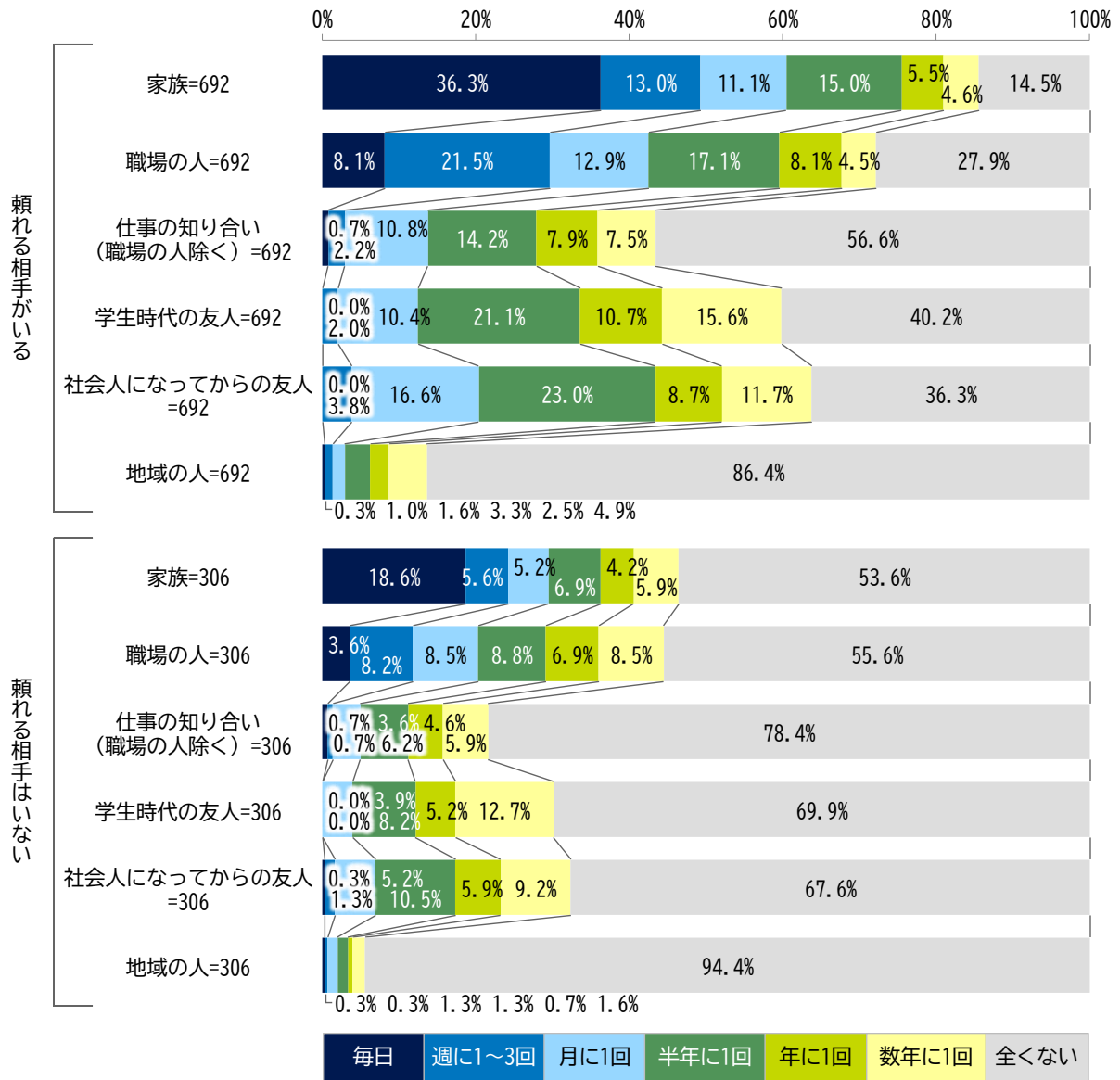
2.3.3.5. 共食相手 定年後の就業要望別

図表2.3.3.5. 共食相手 定年後の就業要望別(単一選択)



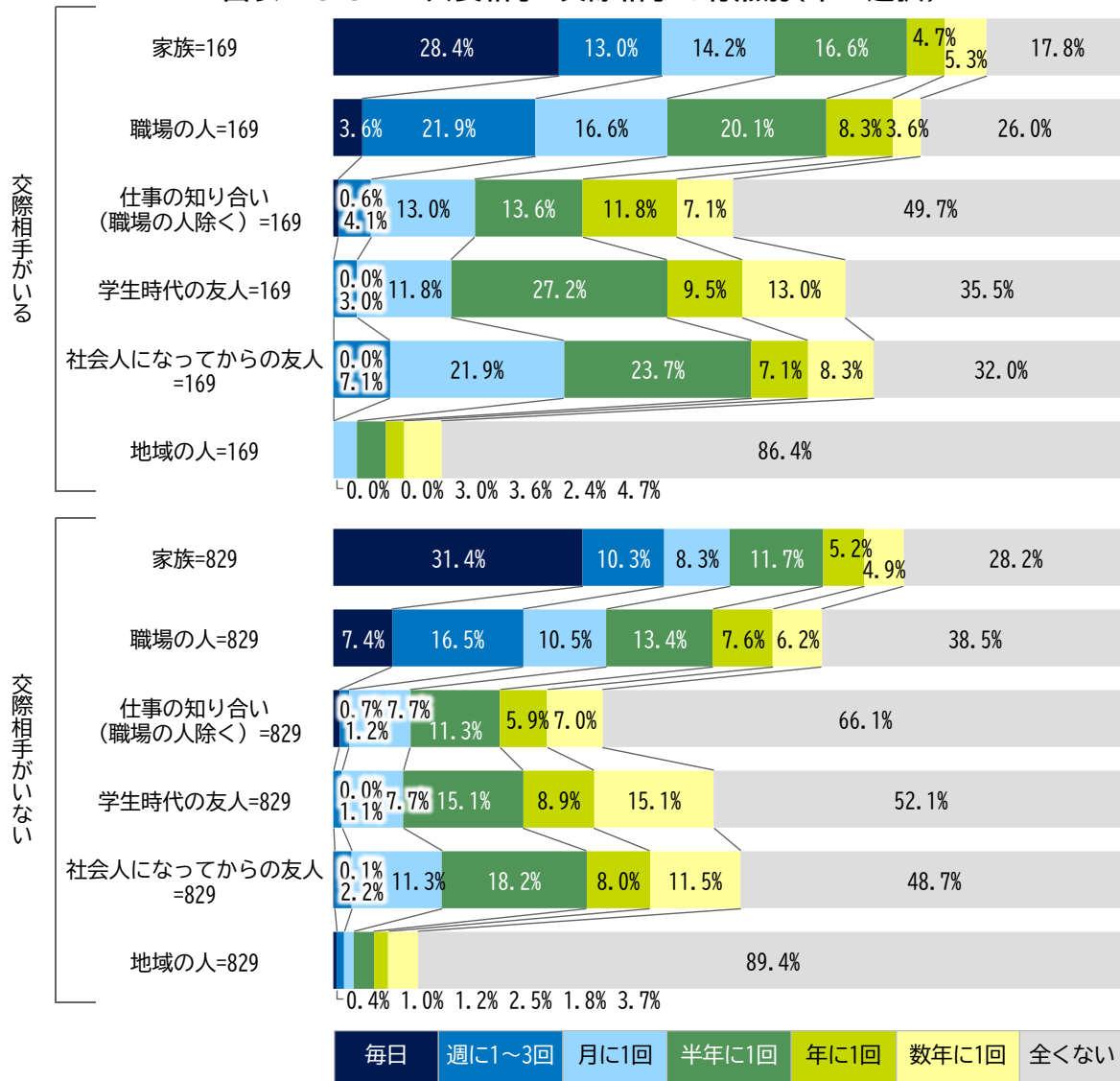
2.3.3.6. 共食相手 頼れる相手の有無別

図表2.3.3.6. 共食相手 頼れる相手の有無別(単一選択)



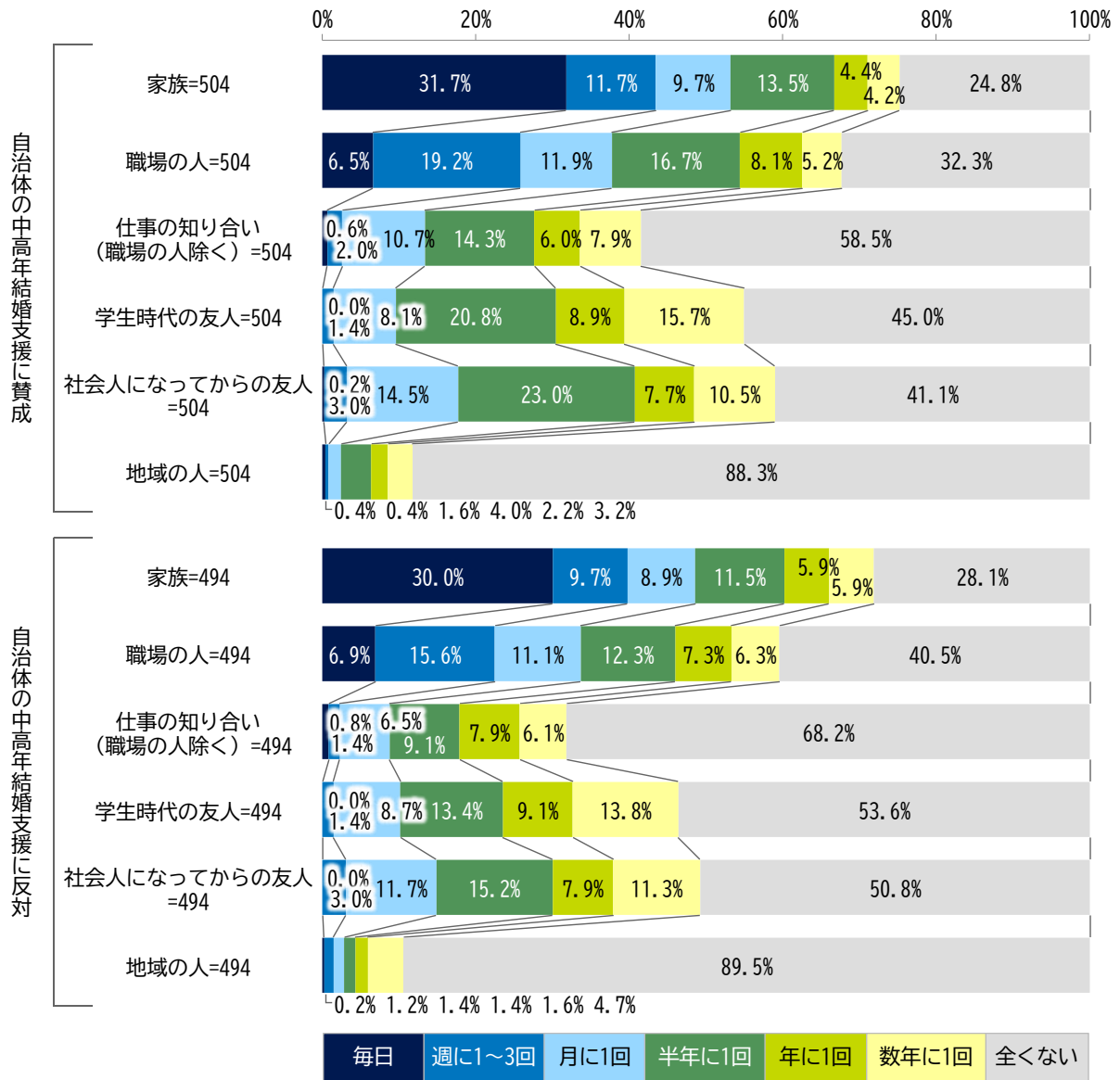
2.3.3.7. 共食相手 交際相手の有無別

図表2.3.3.7. 共食相手 交際相手の有無別(単一選択)



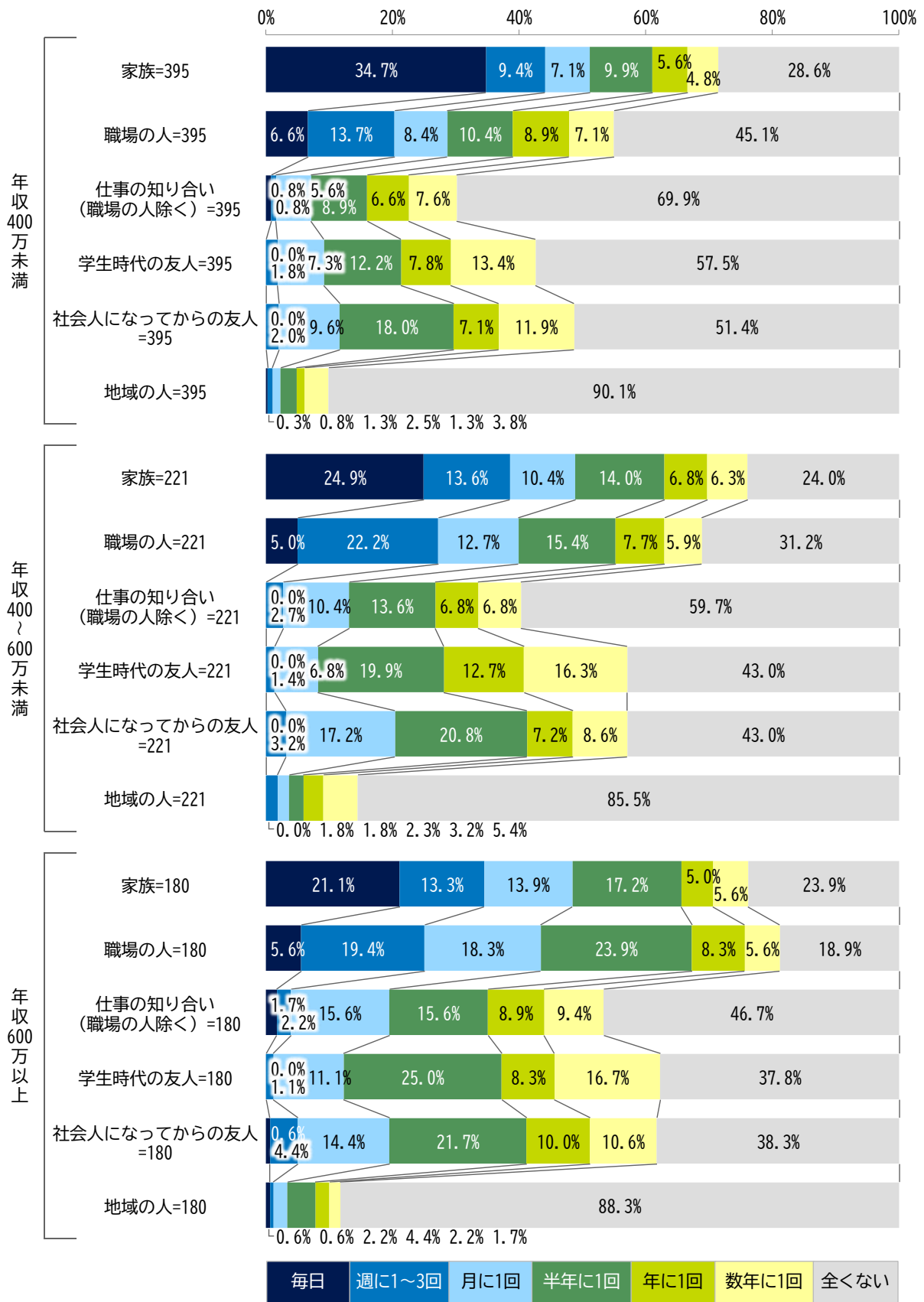
2.3.3.8. 共食相手 自治体の中高年結婚支援賛否別

図表2.3.3.8. 共食相手 自治体の中高年結婚支援賛否別(単一選択)



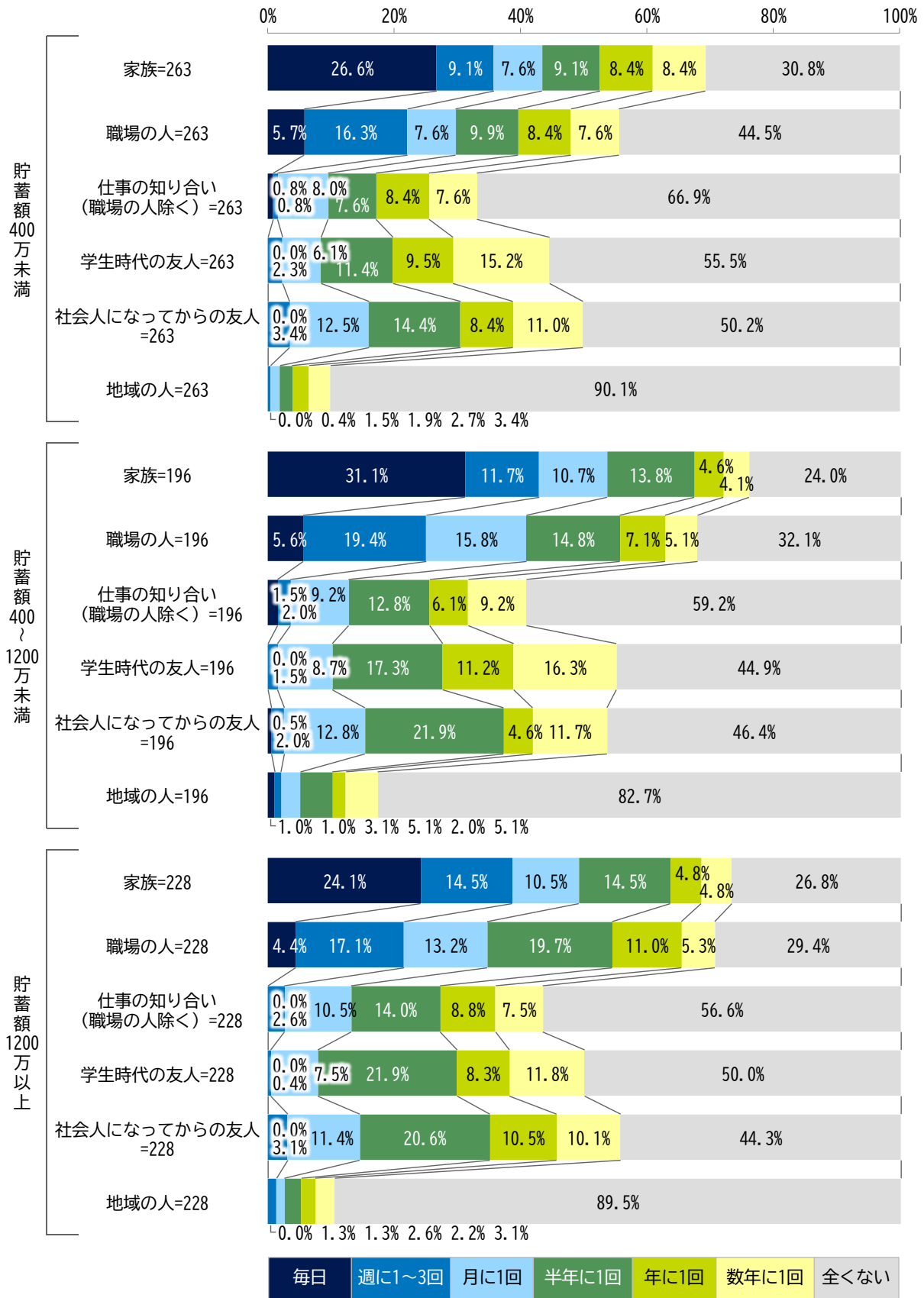
2.3.3.9. 共食相手 年収別

図表2.3.3.9. 共食相手 年収別(単一選択)



2.3.3.10. 共食相手 貯蓄額別

図表2.3.3.10. 共食相手 貯蓄額別(単一選択)



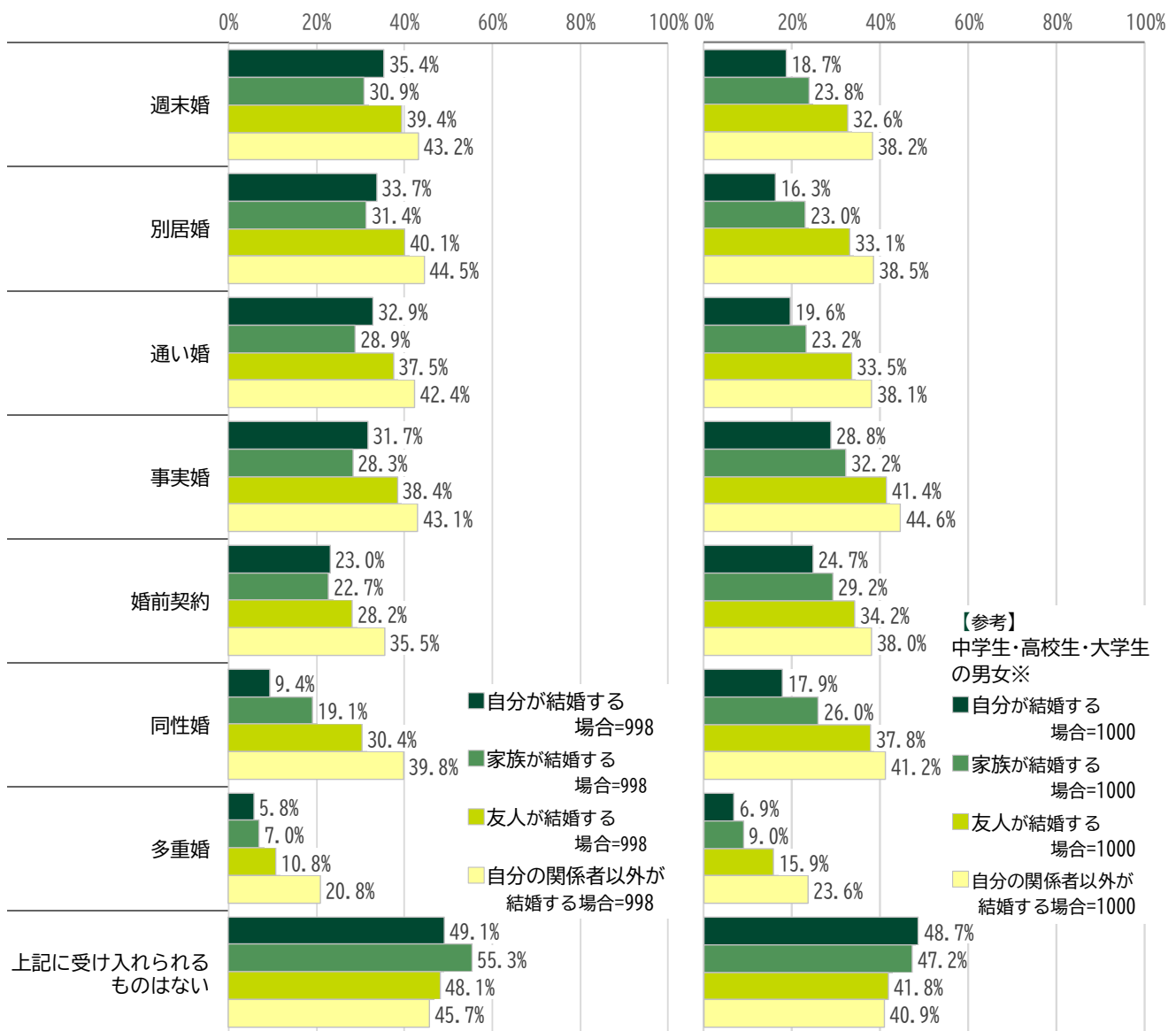
## 2.4. 結婚・恋愛

### 2.4.1. 多様な結婚に対する意識

受容できる多様な「結婚」の形を属性別に尋ねたところ、いずれの結婚の形に対しても、自分の関係者以外が結婚する場合は受容できるという回答が多い。過去に当社で実施した若者向けの調査結果と比べても類似の傾向が見られる。

「自分が結婚する場合」においては、「週末婚」(35.4%)が最も多く、「別居婚」(33.7%)、「通い婚」(32.9%)、「事実婚」(31.7%)と続き、それらの結婚の形は、若者向けの調査では「自分が結婚する場合」が他の場合よりも許容度がやや低かったが、今回の調査では「家族が結婚する場合」よりも許容度がやや高い。

図表2.4.1. 多様な結婚に対する意識(複数選択)



週末婚: 婚姻届は提出するが、基本的には別居生活をし、週末だけ共同生活をする事  
 別居婚: 婚姻届は提出するが、別居生活を維持すること  
 通い婚: 婚姻届は提出するが、基本的には別居生活をし、2人の都合に合わせてお互いの家を行き来すること  
 事実婚: パートナー(異性・同性)と、婚姻届を提出せずに、夫婦と同様の関係になること  
 婚前契約: 入籍前に結婚後の生活や離婚の際の条件などを契約で取り決めておくこと  
 同性婚: 同性同士が、パートナーシップ制度を使って、「結婚」に相当する関係になること  
 多重婚: 1対1以上で結婚すること

※ 右: 2022年実施の「2022 若者意識調査 -サステナビリティ、金融経済教育、キャリア等に関する意識-」(日本総合研究所)データによる

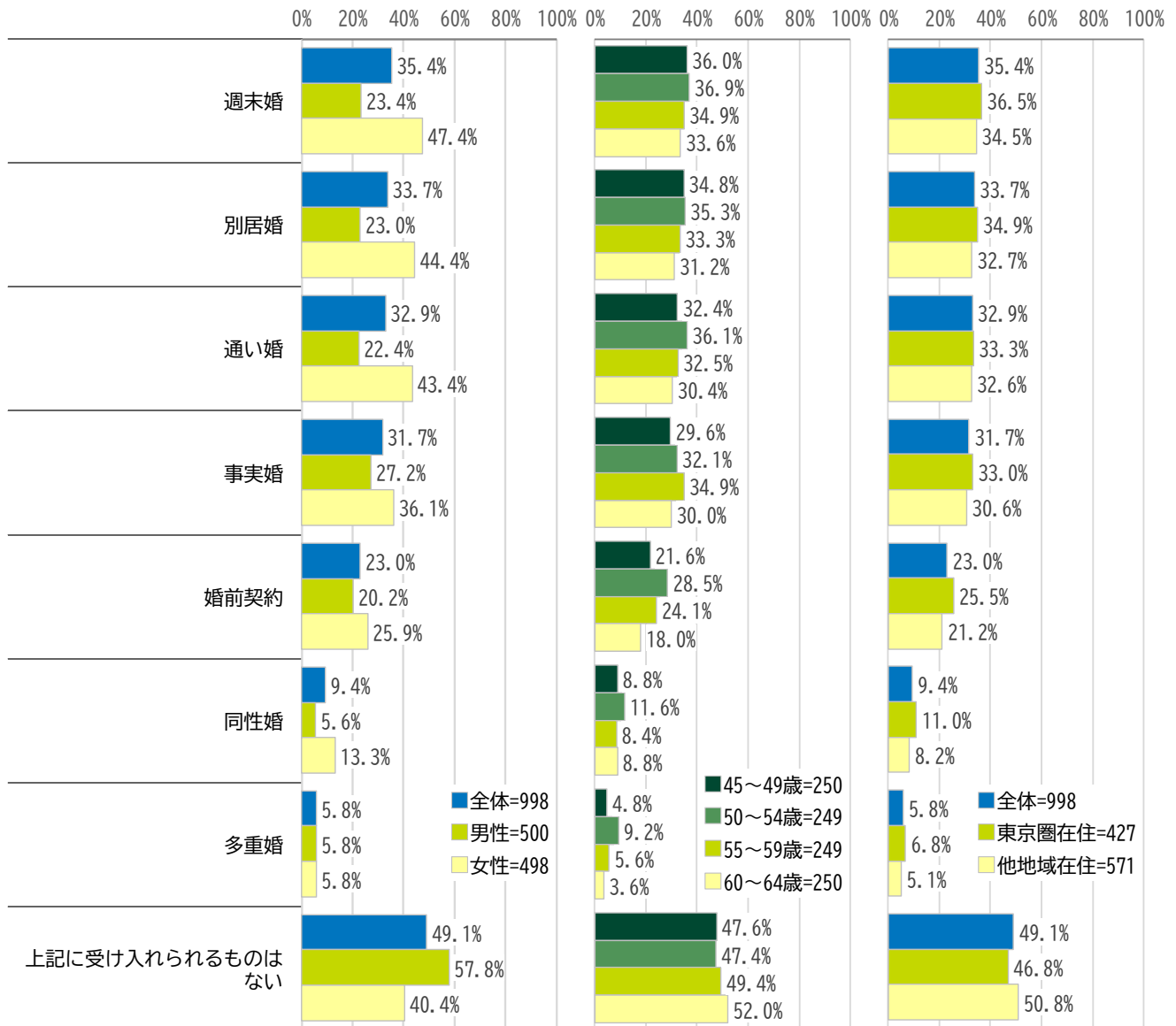
2.4.1.1. 多様な結婚に対する意識\_自分が結婚する場合

自分が結婚する場合で、受容できる多様な「結婚」の形を属性別に見ると、男性よりも女性の方が、多様な結婚に対して受容できるという回答が多い。一方、年齢区分や住まい別は、大きな差は見られない。

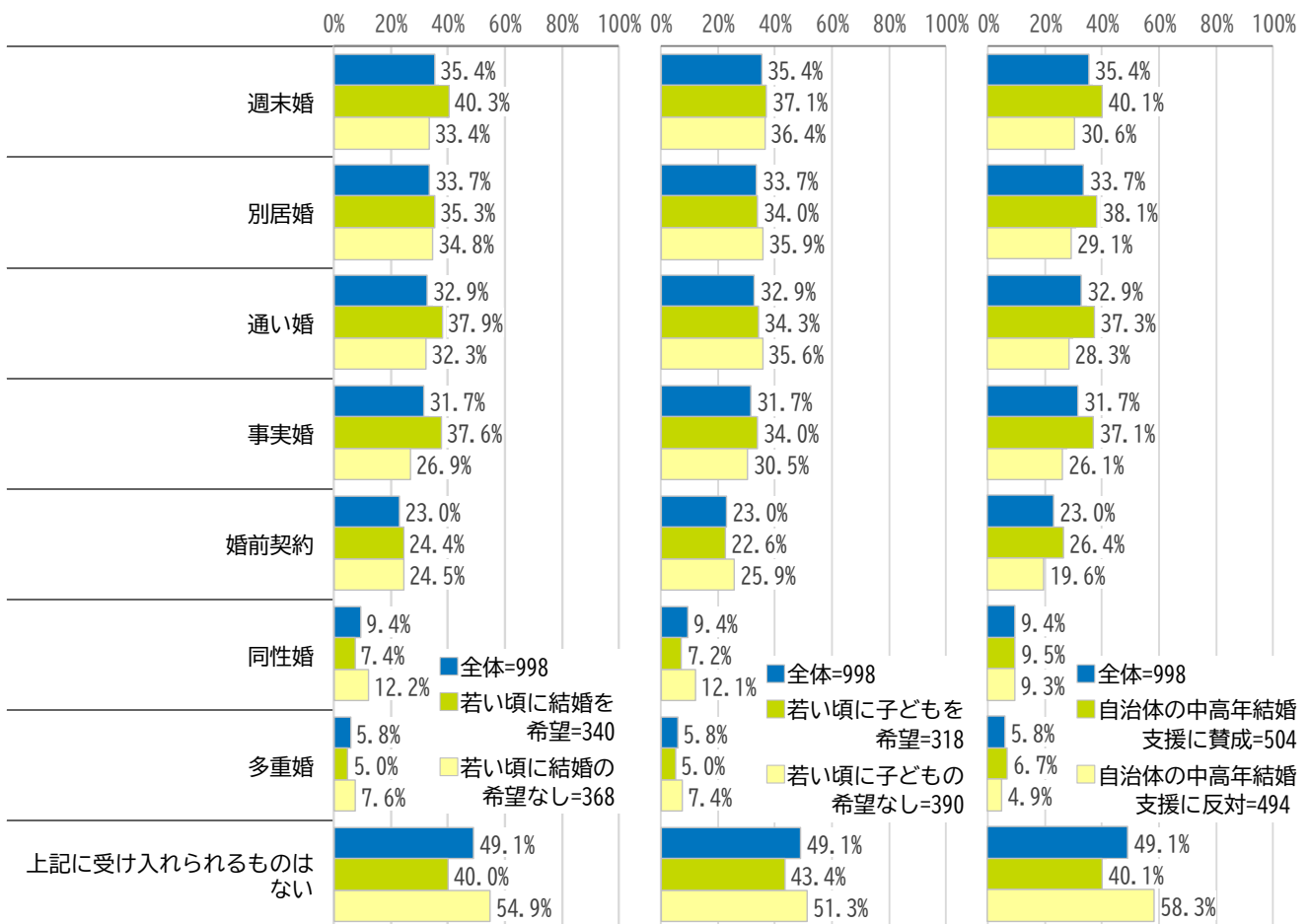
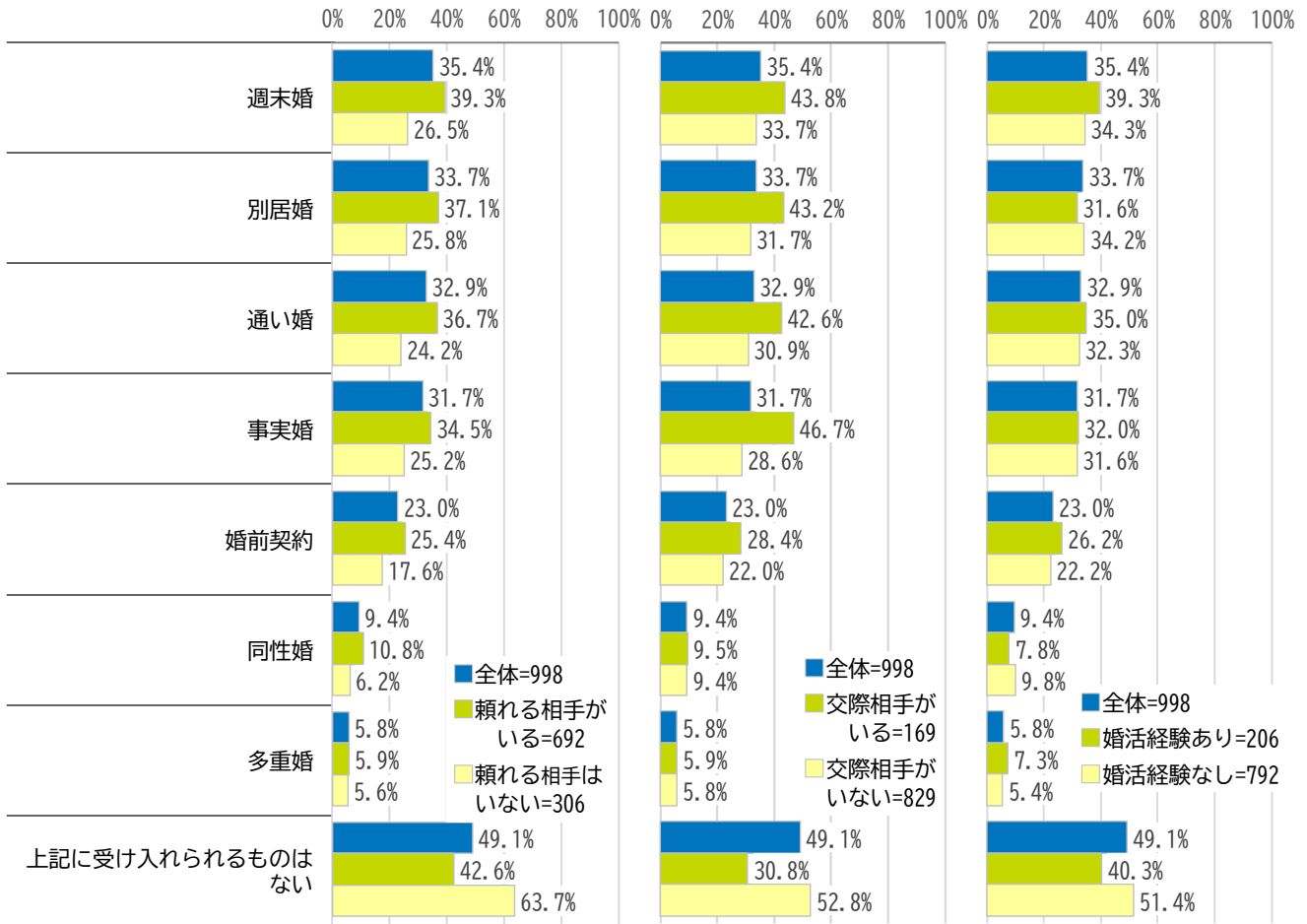
婚活経験の有無では、多様な結婚に対する受容について大きな差はないが、自治体の中高年結婚支援に賛成している人の方が、反対している人に比べて受容している傾向が見られる。

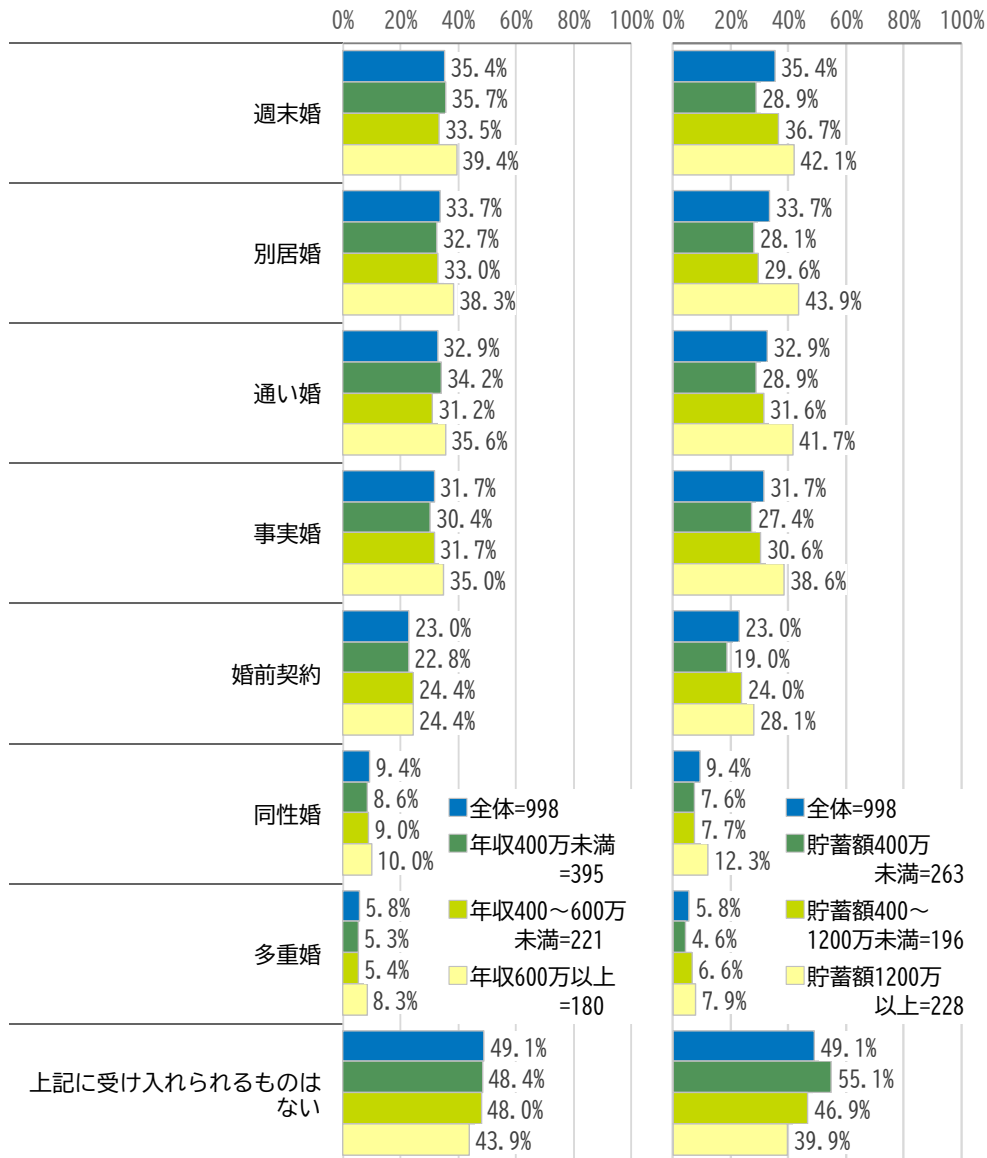
貯蓄額別では、貯蓄額が多くなるに従い、多様な結婚に対して受容度が高い傾向が見られる。

図表2.4.1.1. 多様な結婚に対する意識\_自分が結婚する場合(複数選択)









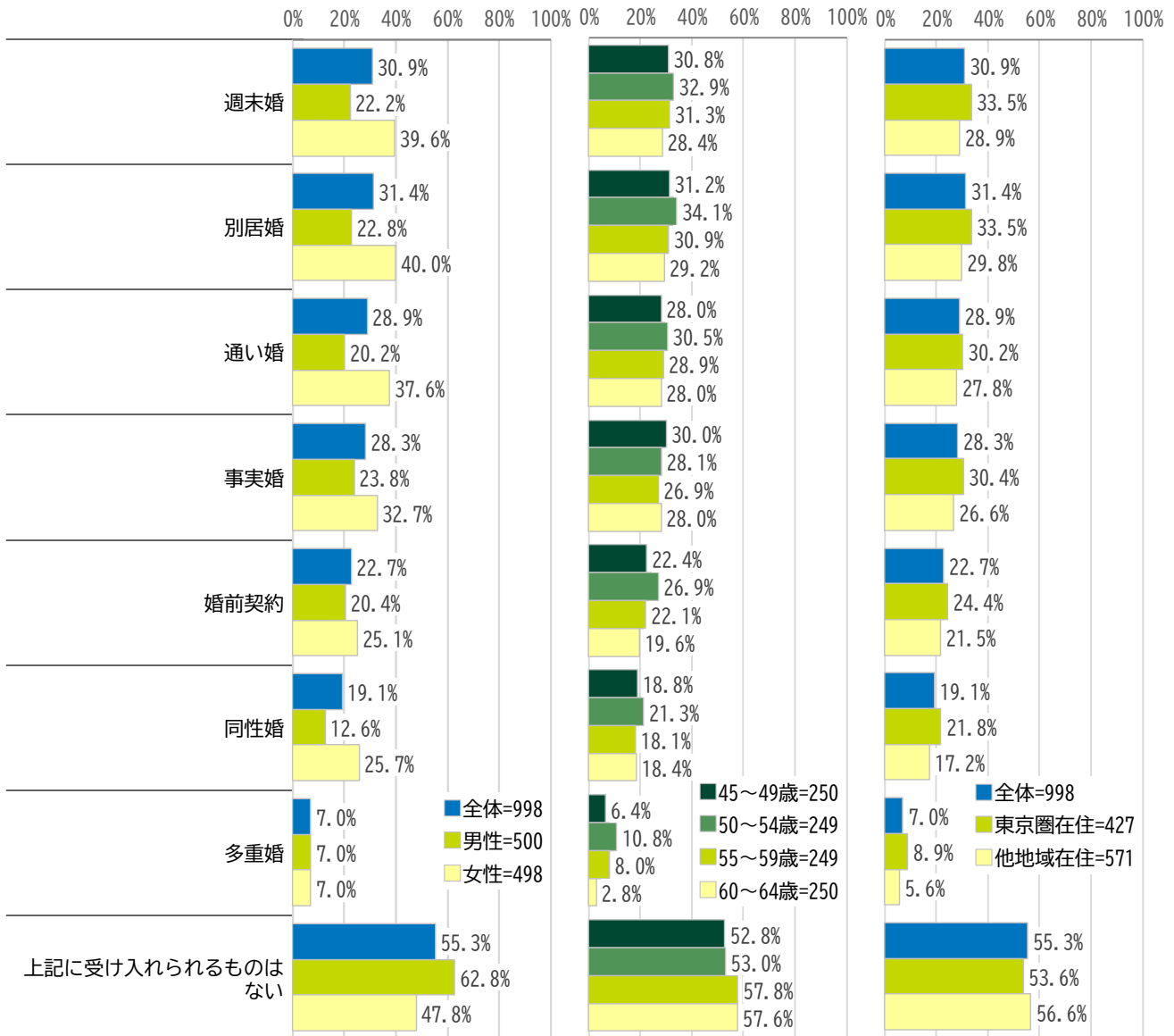
2.4.1.2. 多様な結婚に対する意識\_家族が結婚する場合

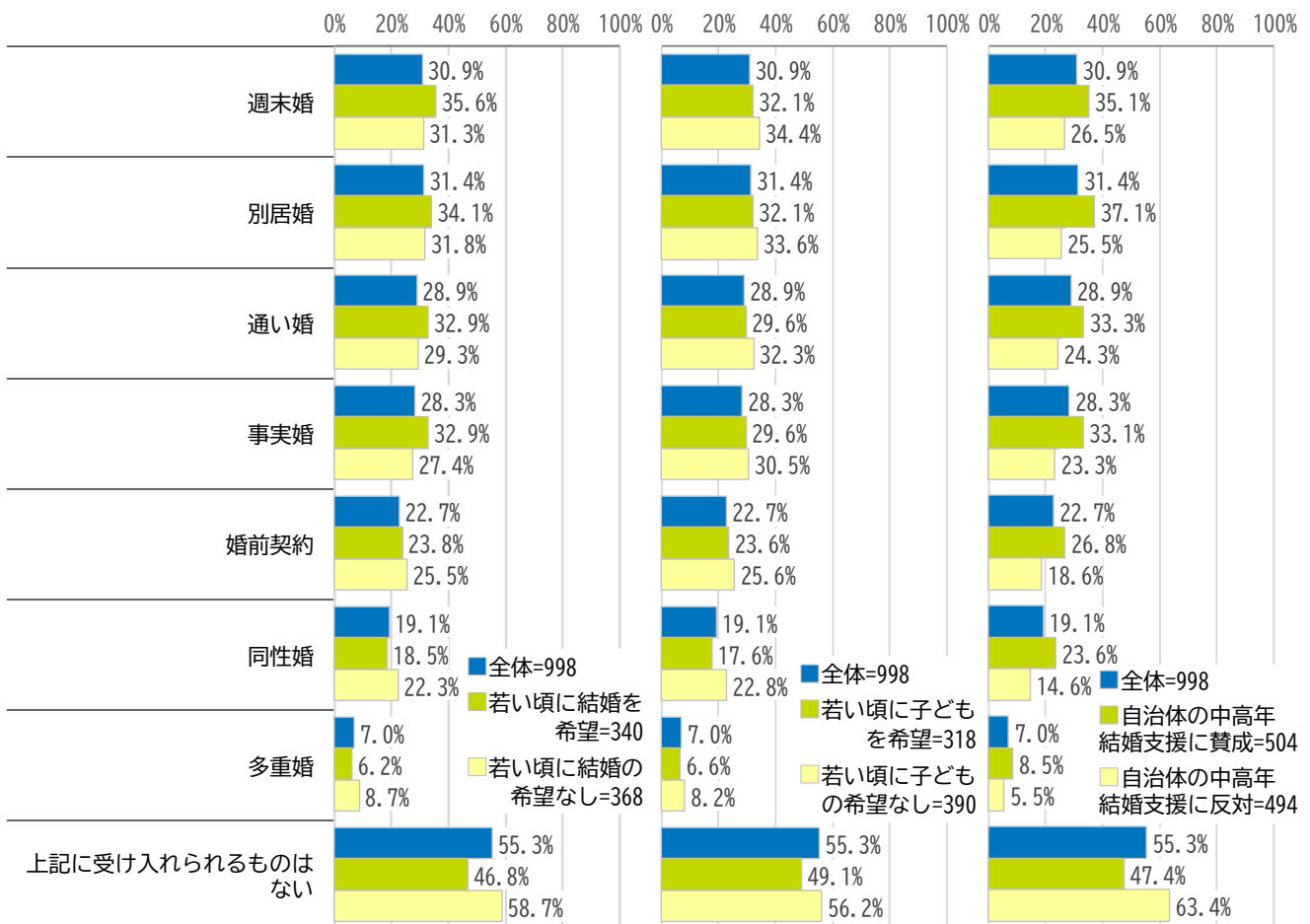
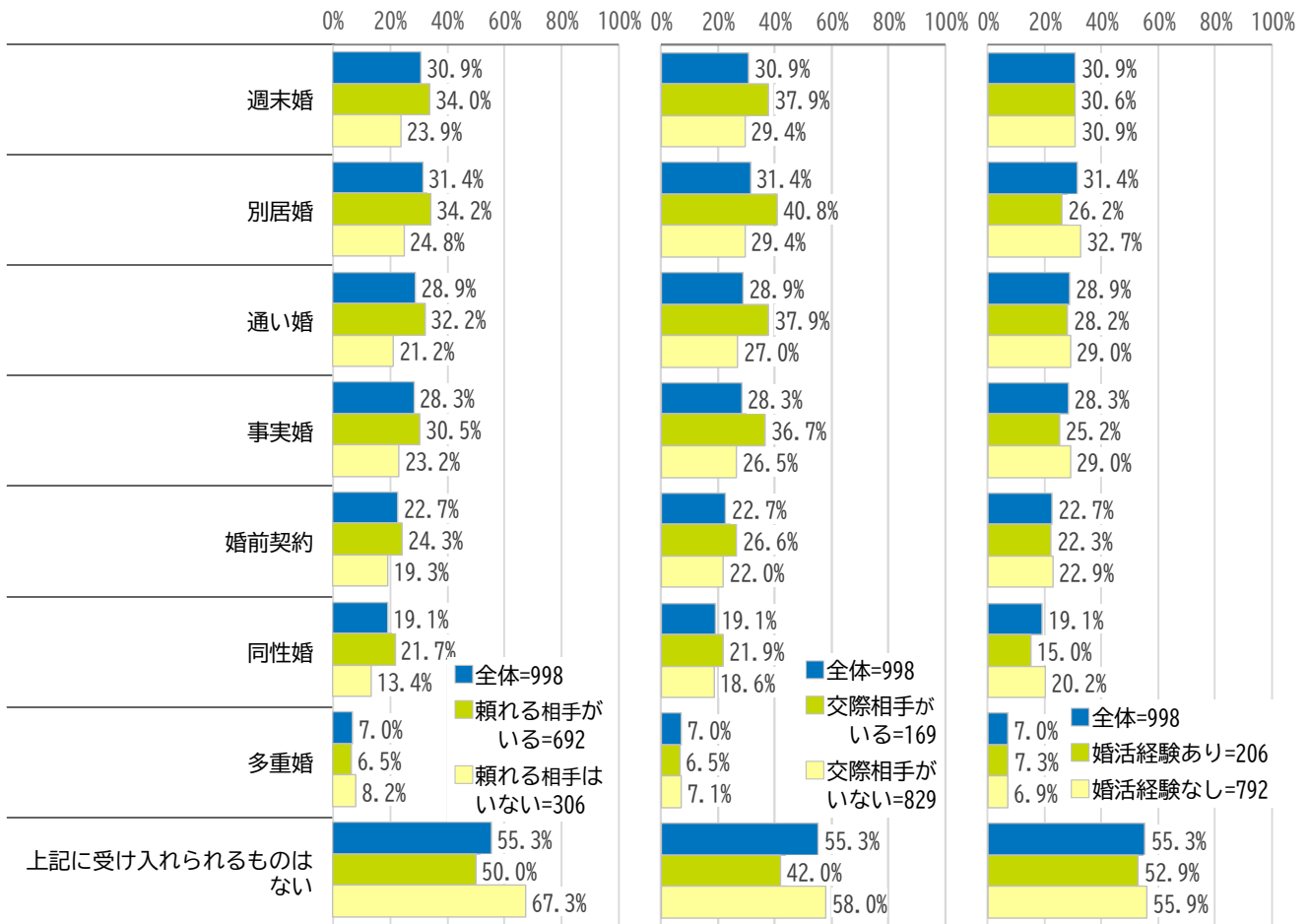
家族が結婚する場合で、受容できる多様な「結婚」の形を属性別に見ると、男性よりも女性の方が、多様な結婚に対して受容できるという回答が多い。一方、年齢区分や住まい別は、大きな差は見られない。

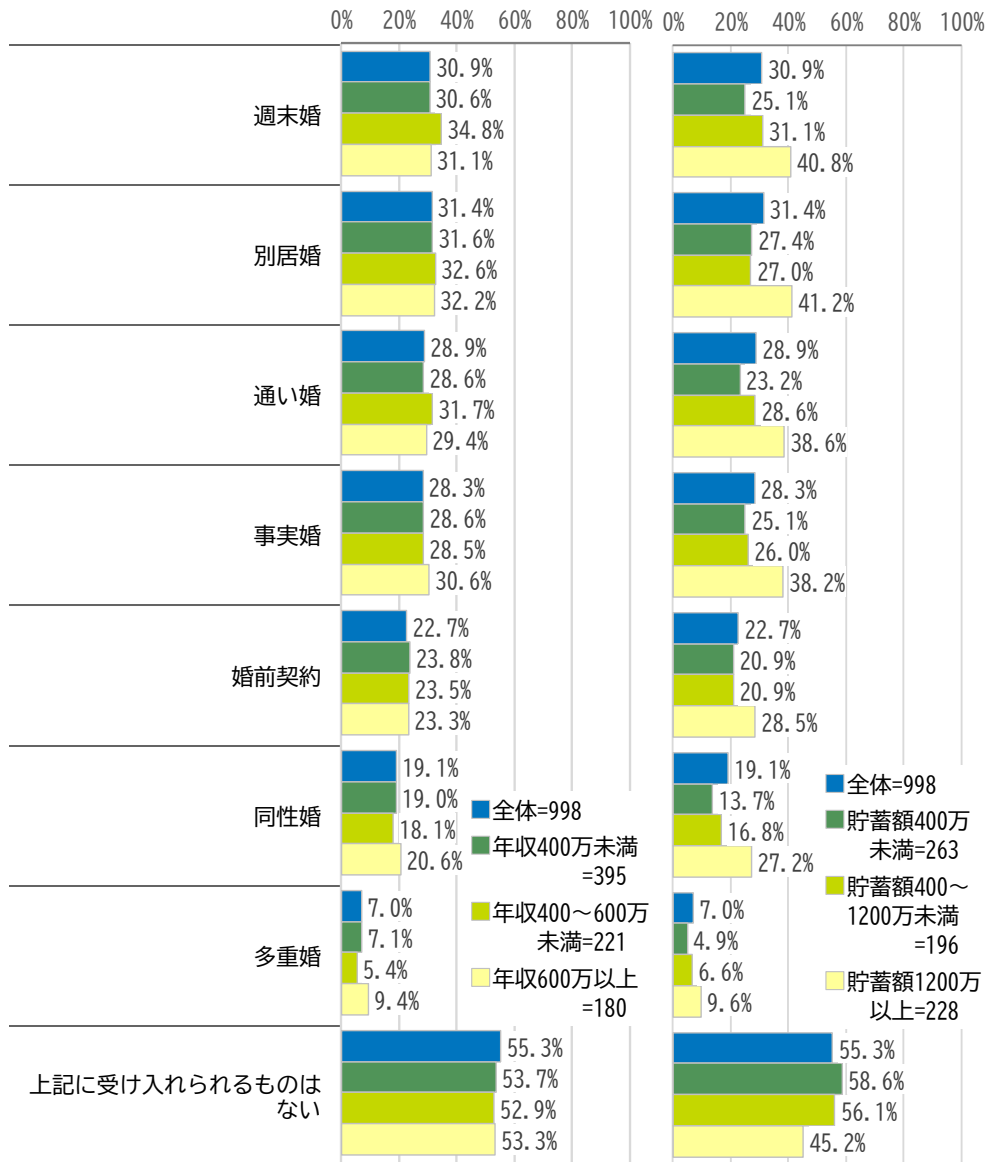
婚活経験の有無では、多様な結婚に対する受容について大きな差はないが、自治体の中高年結婚支援に賛成している人の方が、反対している人に比べて受容している傾向が見られる。

貯蓄額別では、1,200万円以上の方が、多様な結婚に対して受容度が高い。

図表2.4.1.2. 多様な結婚に対する意識\_家族が結婚する場合(複数選択)







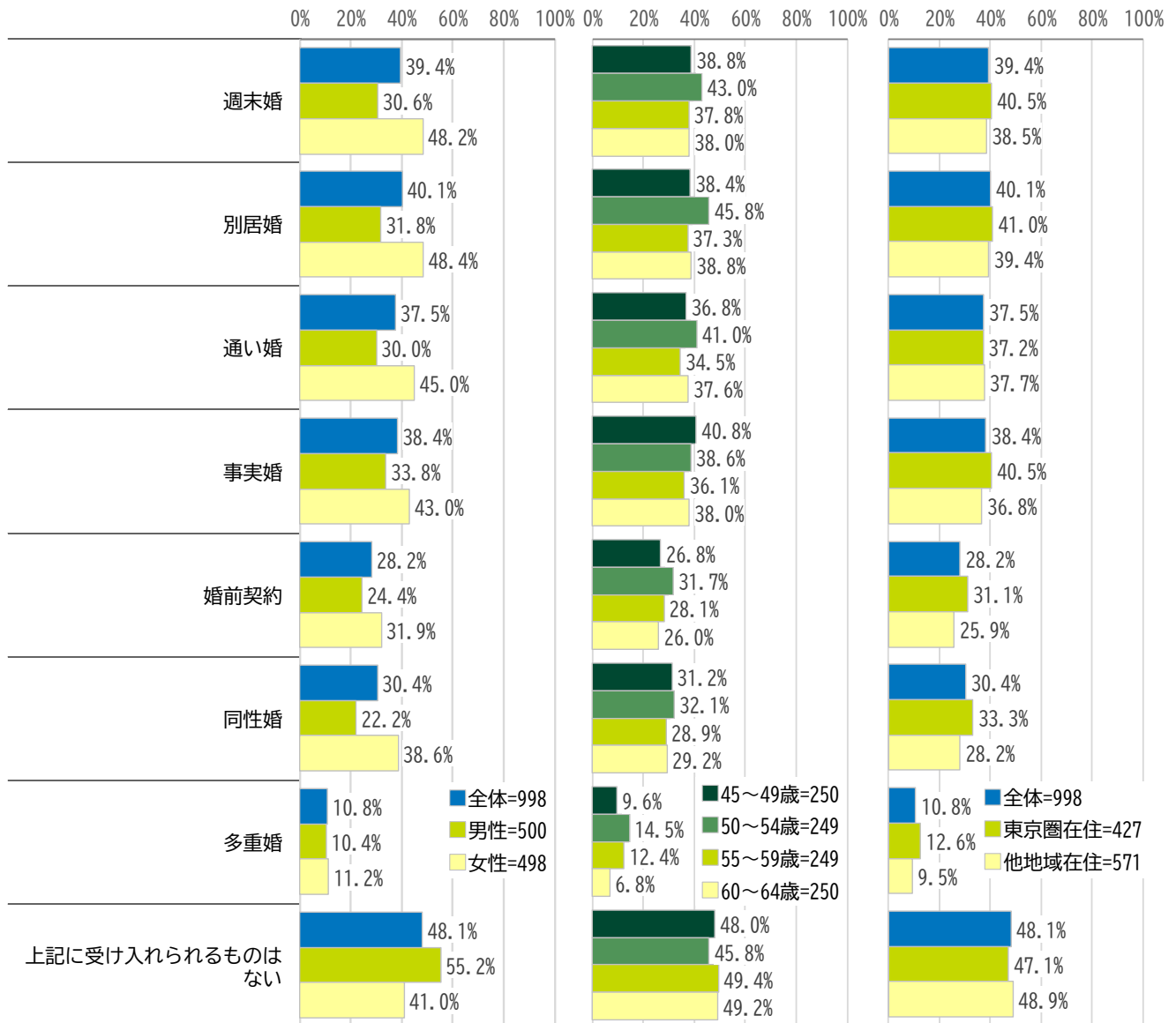
2.4.1.3. 多様な結婚に対する意識\_友人が結婚する場合

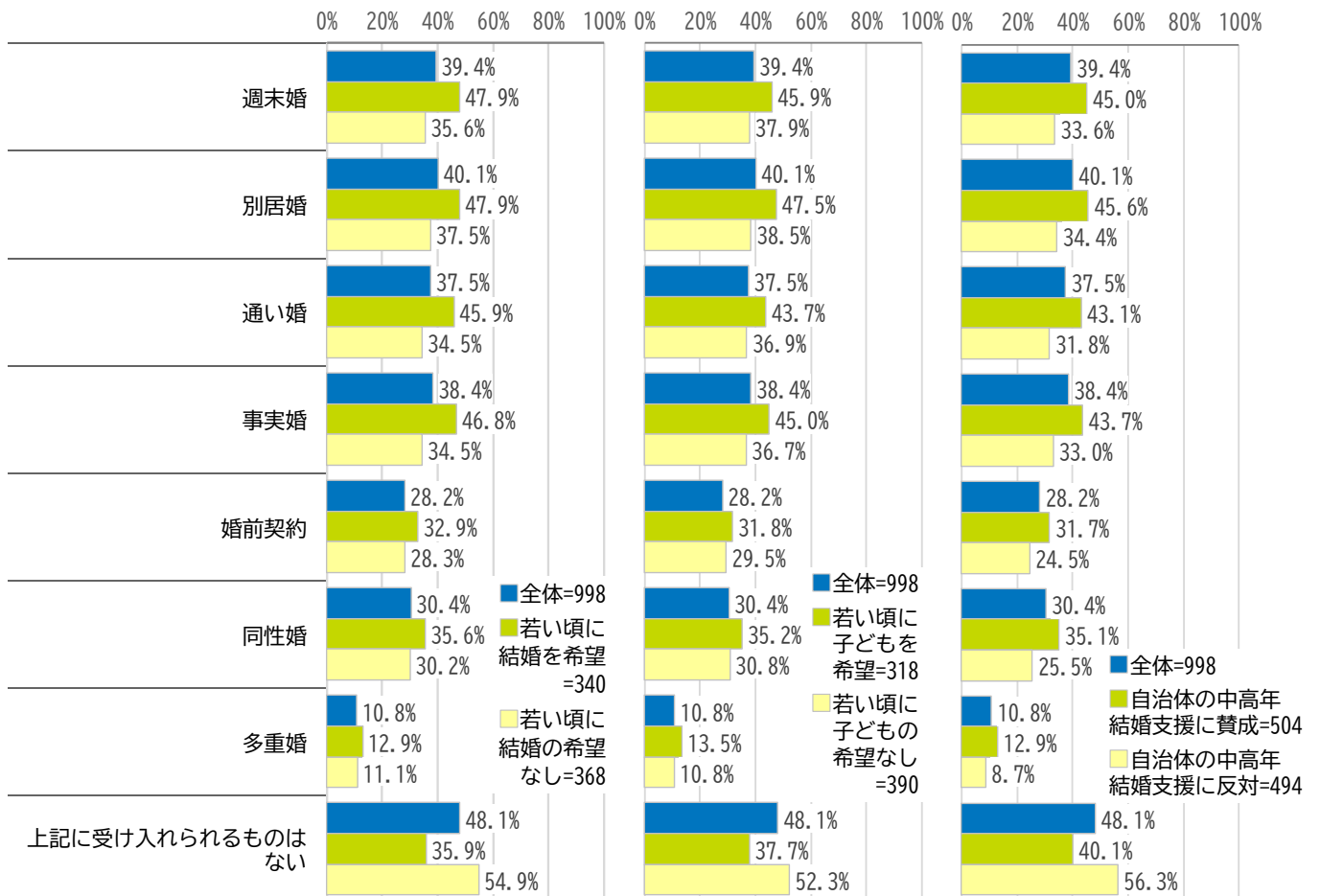
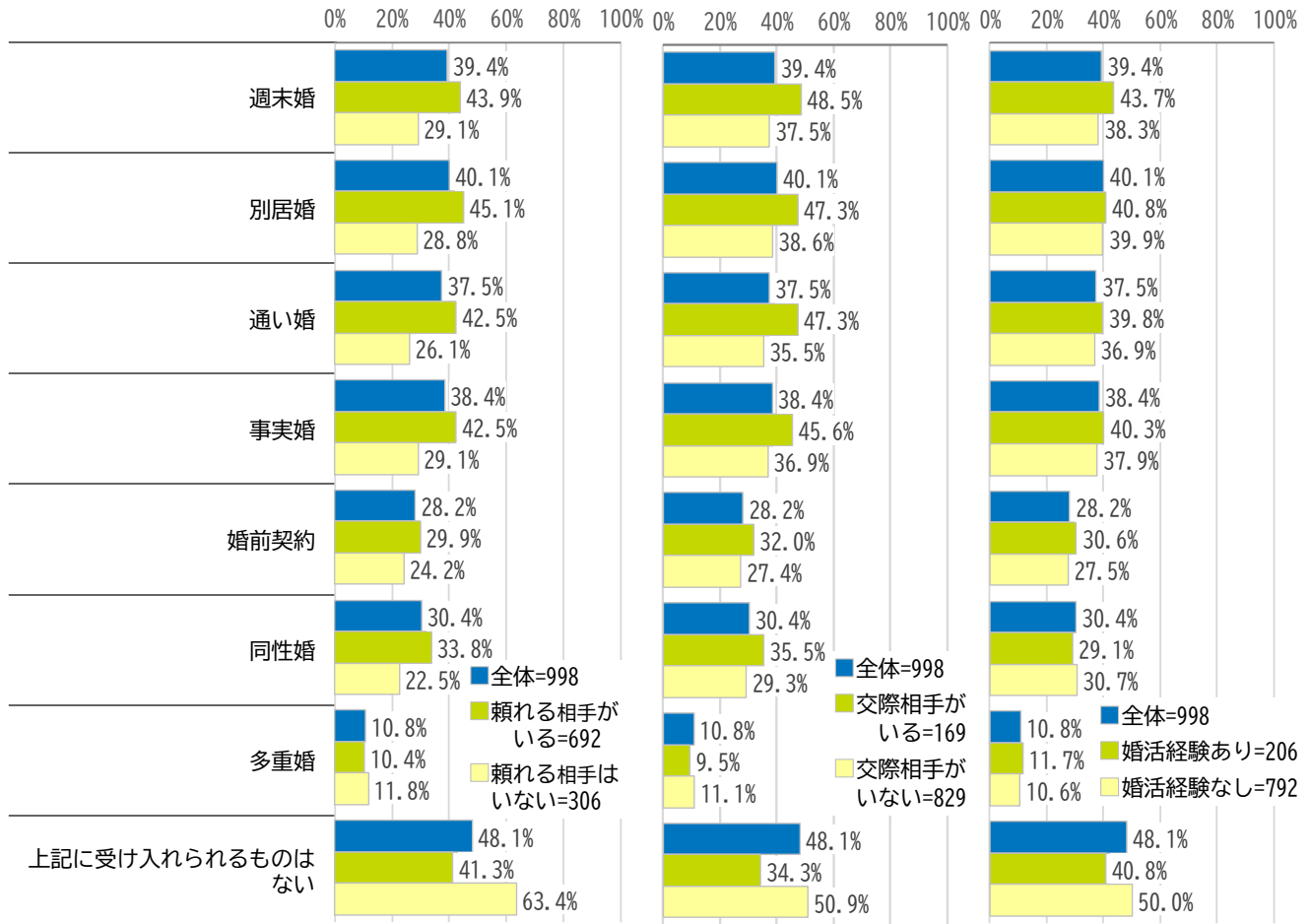
友人が結婚する場合で、受容できる多様な「結婚」の形を属性別に見ると、男性よりも女性の方が、多様な結婚に対して受容できるという回答が多い。一方、年齢区分や住まい別では、大きな差は見られない。

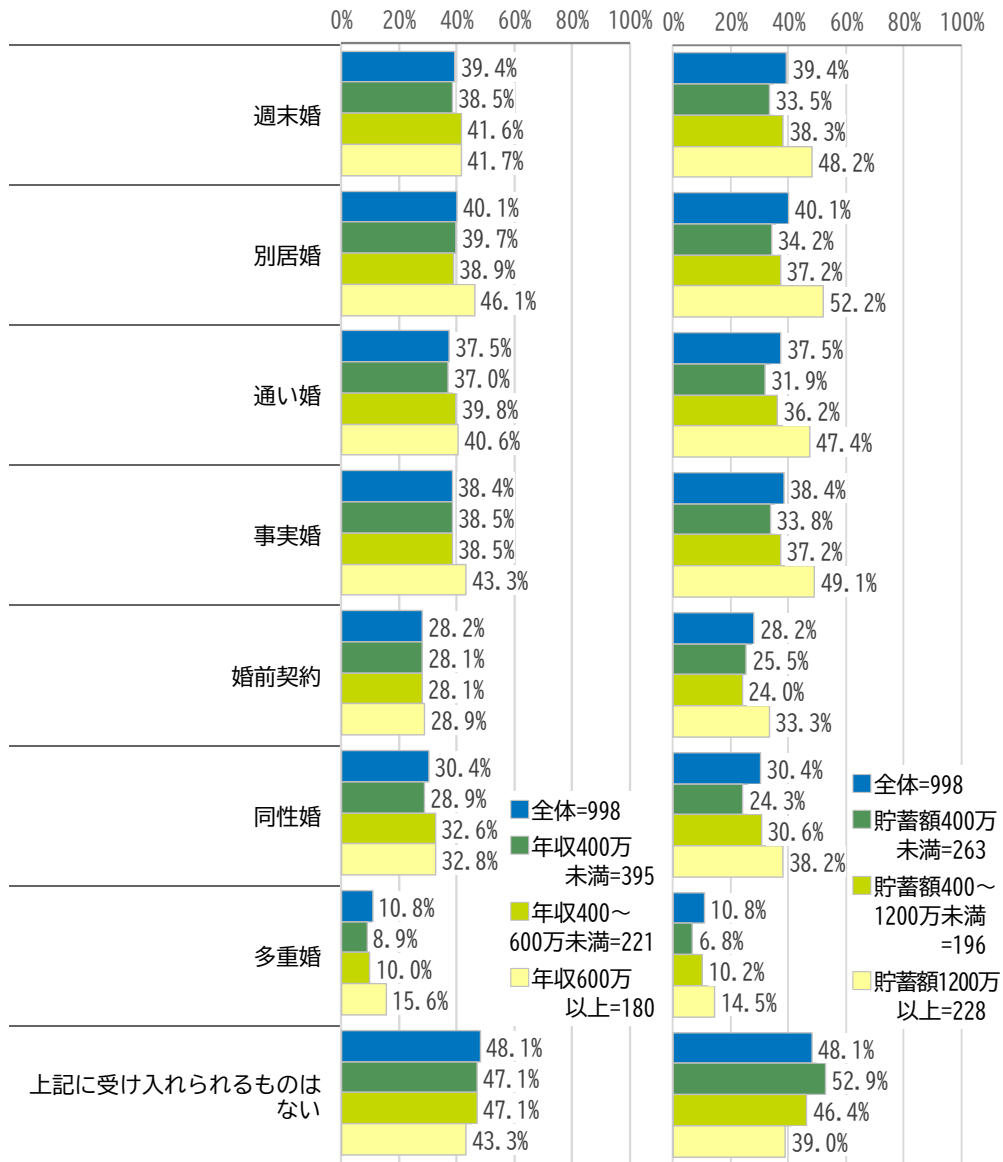
婚活経験の有無では、多様な結婚に対する受容について大きな差はないが、自治体の中高年結婚支援に賛成している人の方が、反対している人に比べて受容している傾向が見られる。

貯蓄額別では、貯蓄額が多くなるに従い、多様な結婚に対して受容度が高い傾向が見られる。

図表2.4.1.3. 多様な結婚に対する意識\_友人が結婚する場合(複数選択)









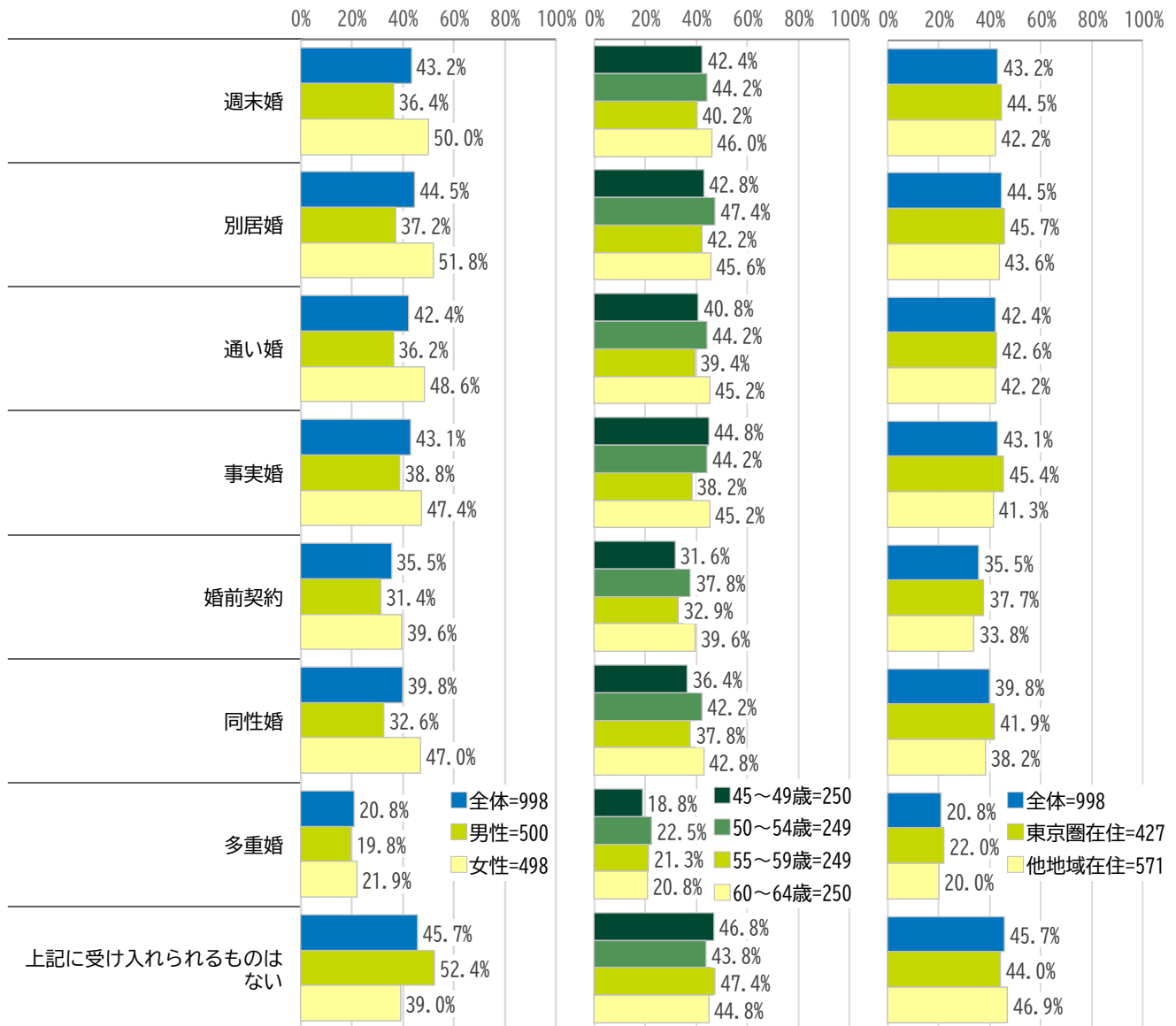
2.4.1.4. 多様な結婚に対する意識\_自分の関係者以外が結婚する場合

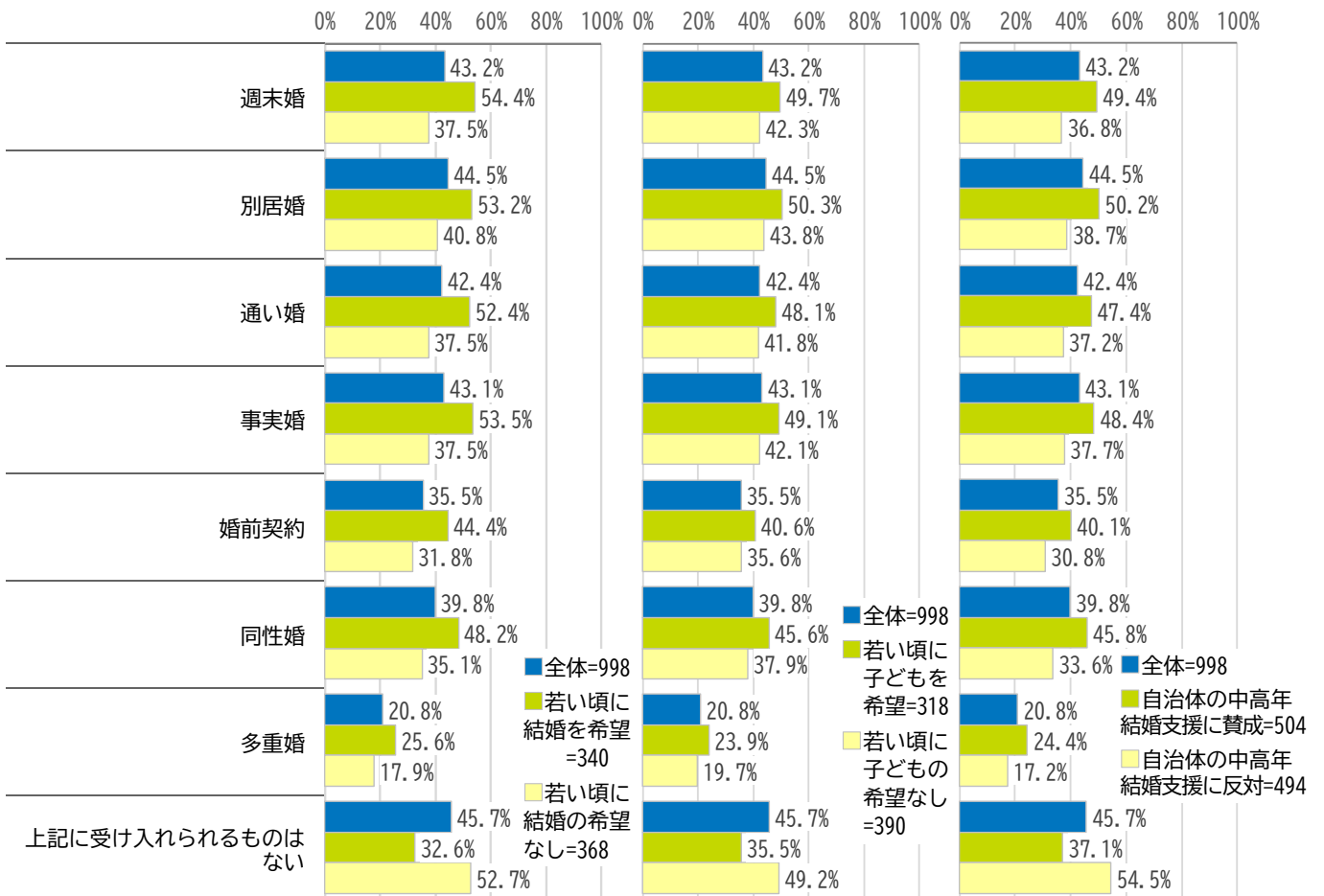
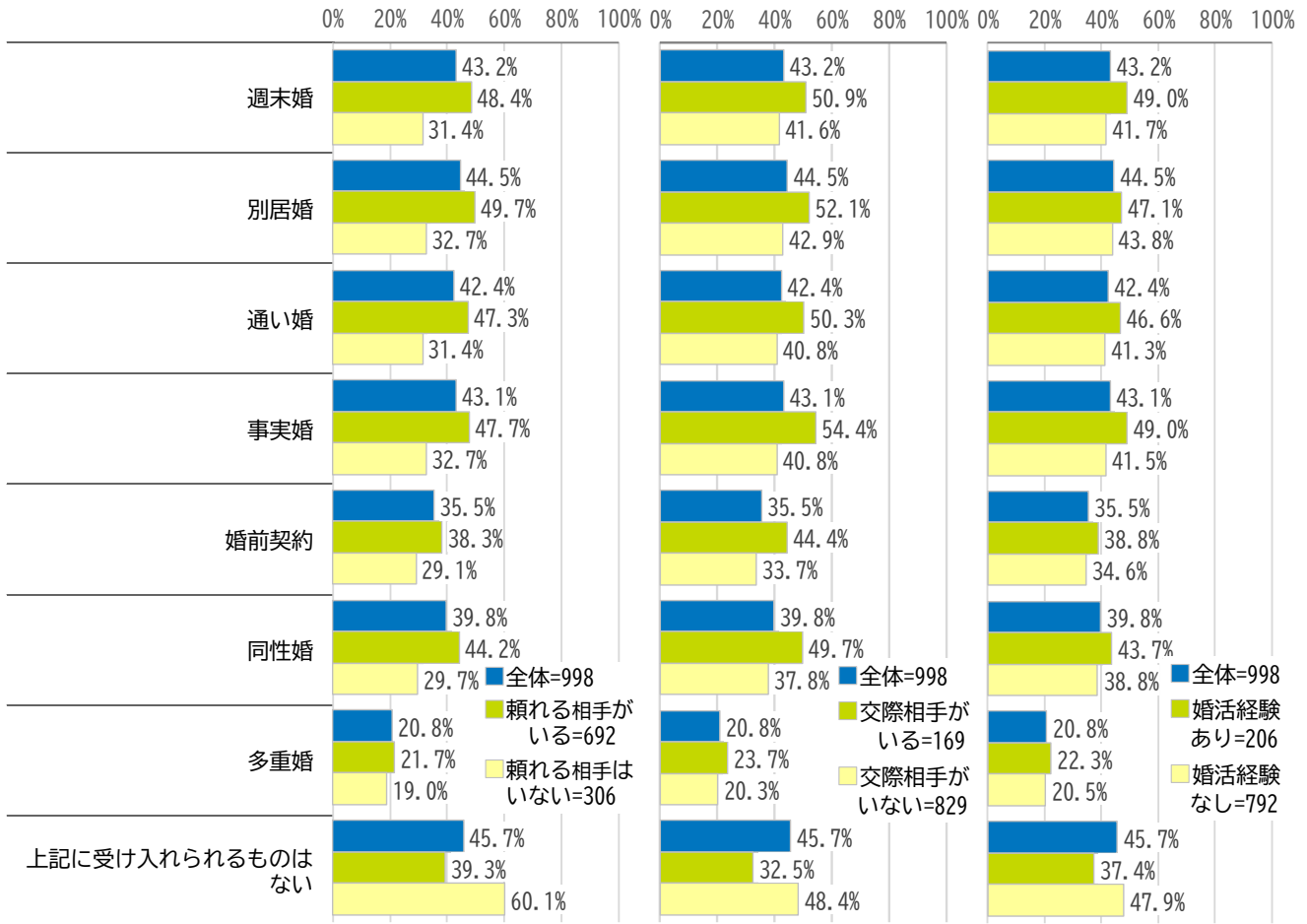
自分の関係者以外が結婚する場合で、受容できる多様な「結婚」の形を属性別に見ると、男性よりも女性の方が、多様な結婚に対して受容できるという回答が多い。一方、年齢区分や住まい別は、大きな差は見られない。

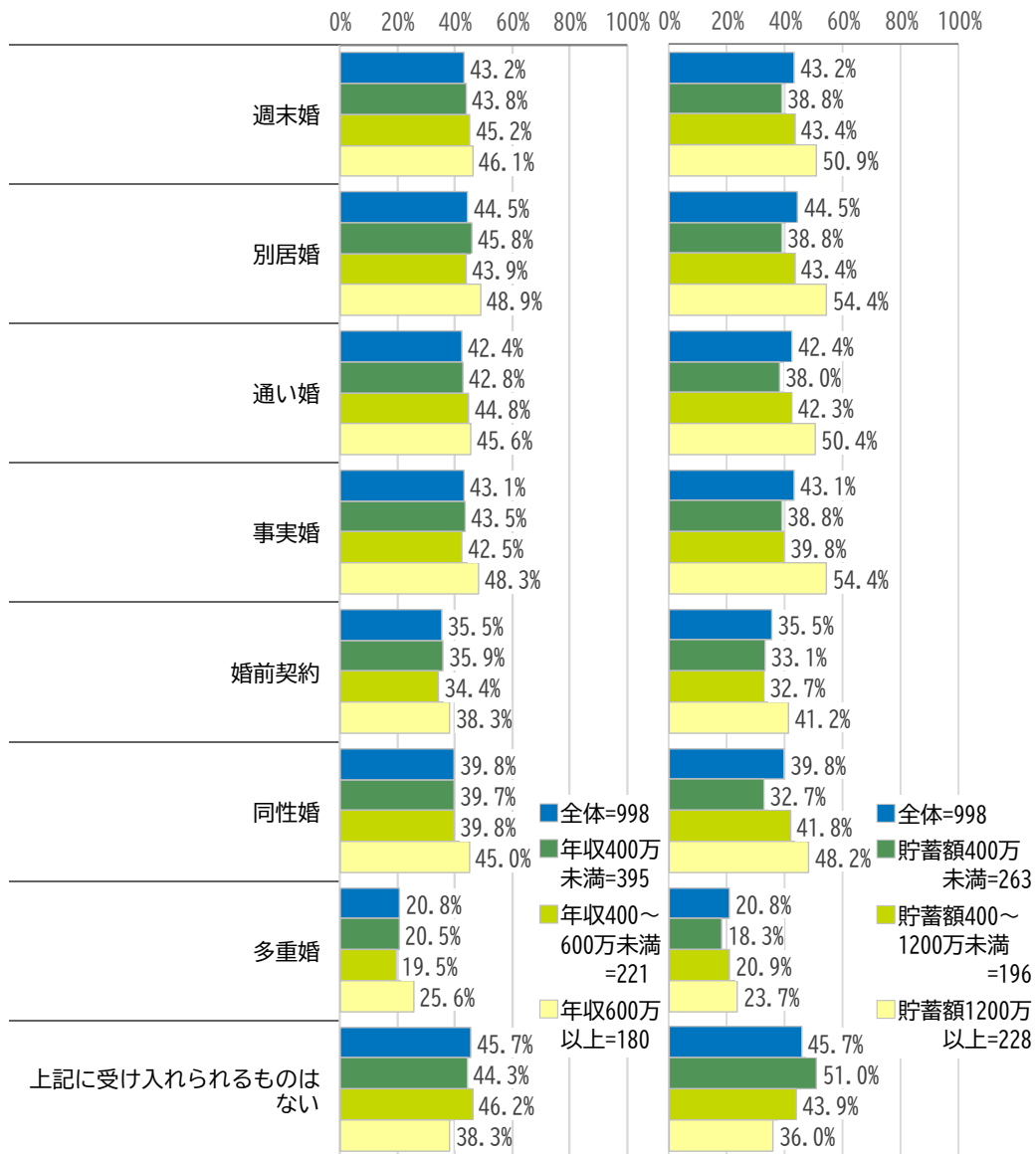
婚活経験の有無では、多様な結婚に対する受容について大きな差はないが、自治体の中高年結婚支援に賛成している人の方が、反対している人に比べて受容している傾向が見られる。

貯蓄額別では、貯蓄額が多くなるに従い、多様な結婚に対して受容度が高い傾向が見られる。

図表2.4.1.4. 多様な結婚に対する意識\_自分の関係者以外が結婚する場合(複数選択)







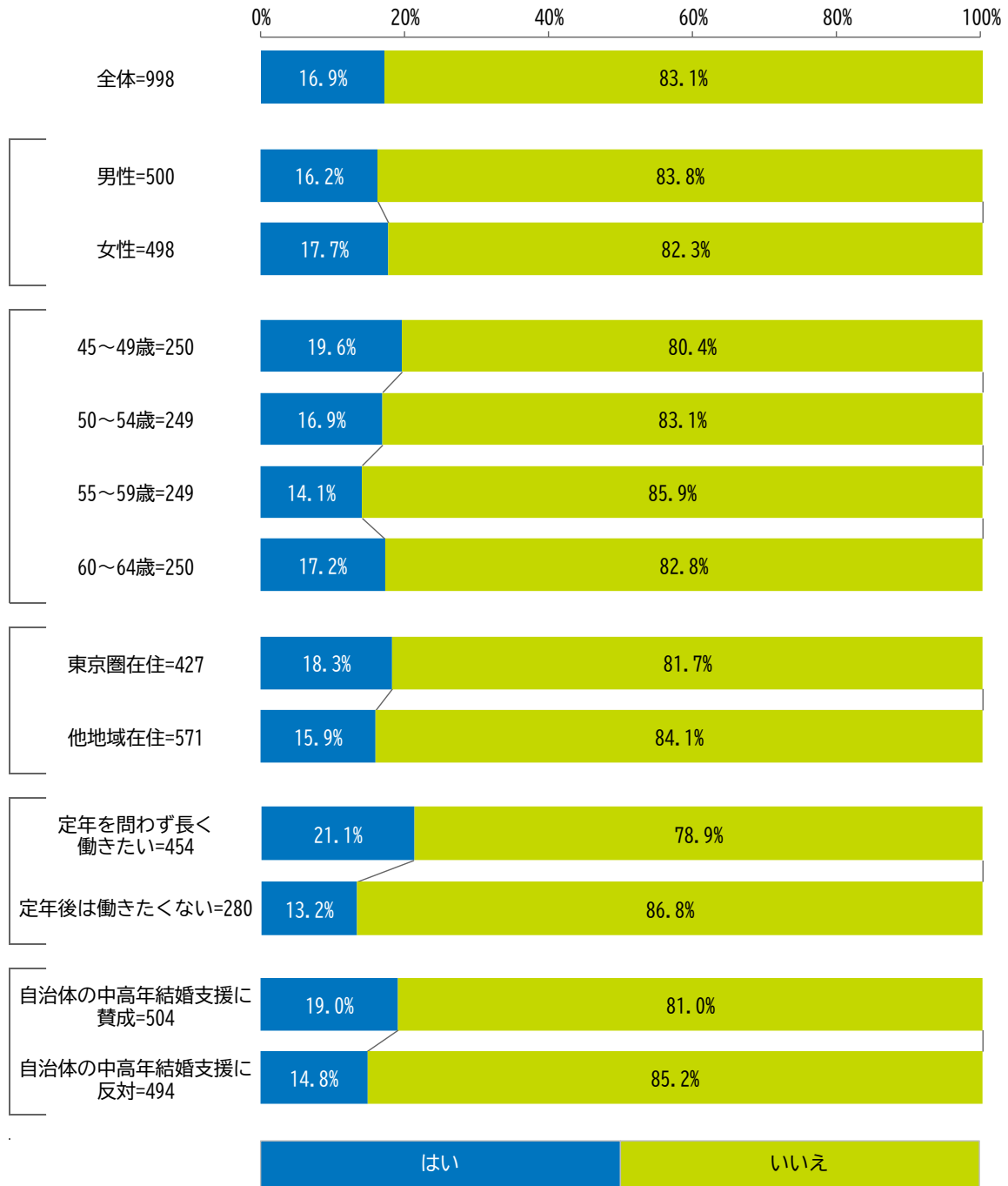
### 2.4.2. 交際相手の有無

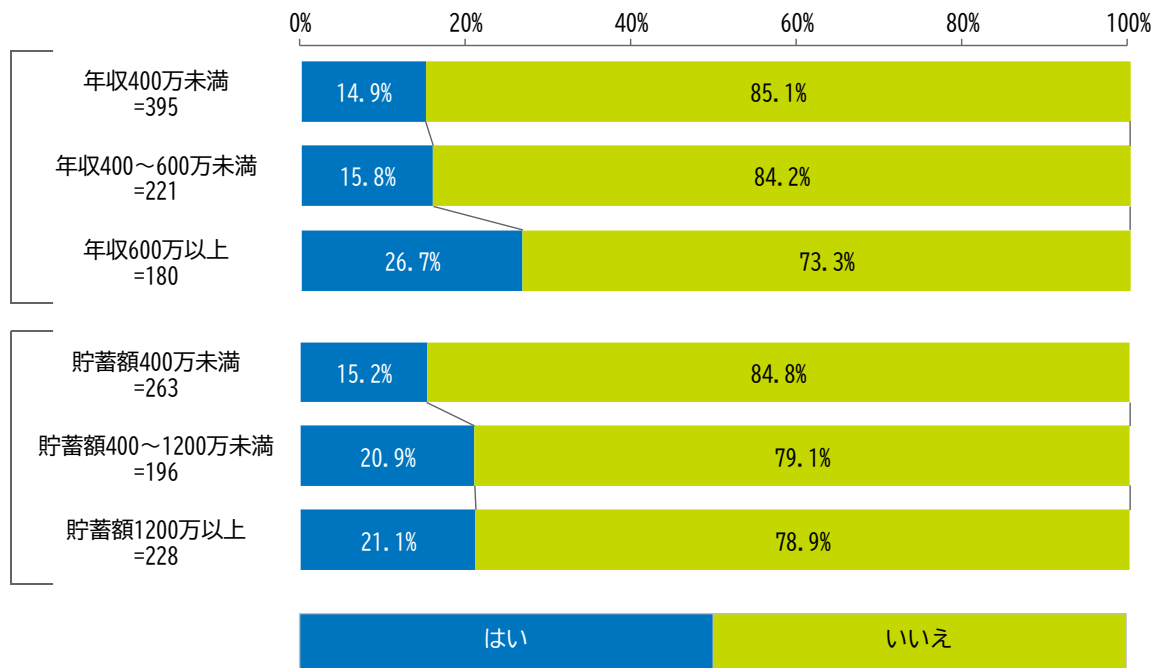
交際相手の有無を尋ねたところ、全体のうち、交際相手がいる人は2割弱である。性別や年齢、住まいにおいてもほぼ変わらない。

交際相手がいる人の割合は、自治体の中高年結婚支援に賛成している人(19.0%)の方が、反対している人(14.8%)に比べてやや多いものの、いずれも2割以下である。

年収600万以上の人は、年収600万円未満の人に比べて、交際相手がいるという回答が多く、3割弱である。

図表2.4.2. 交際相手の有無(単一選択)



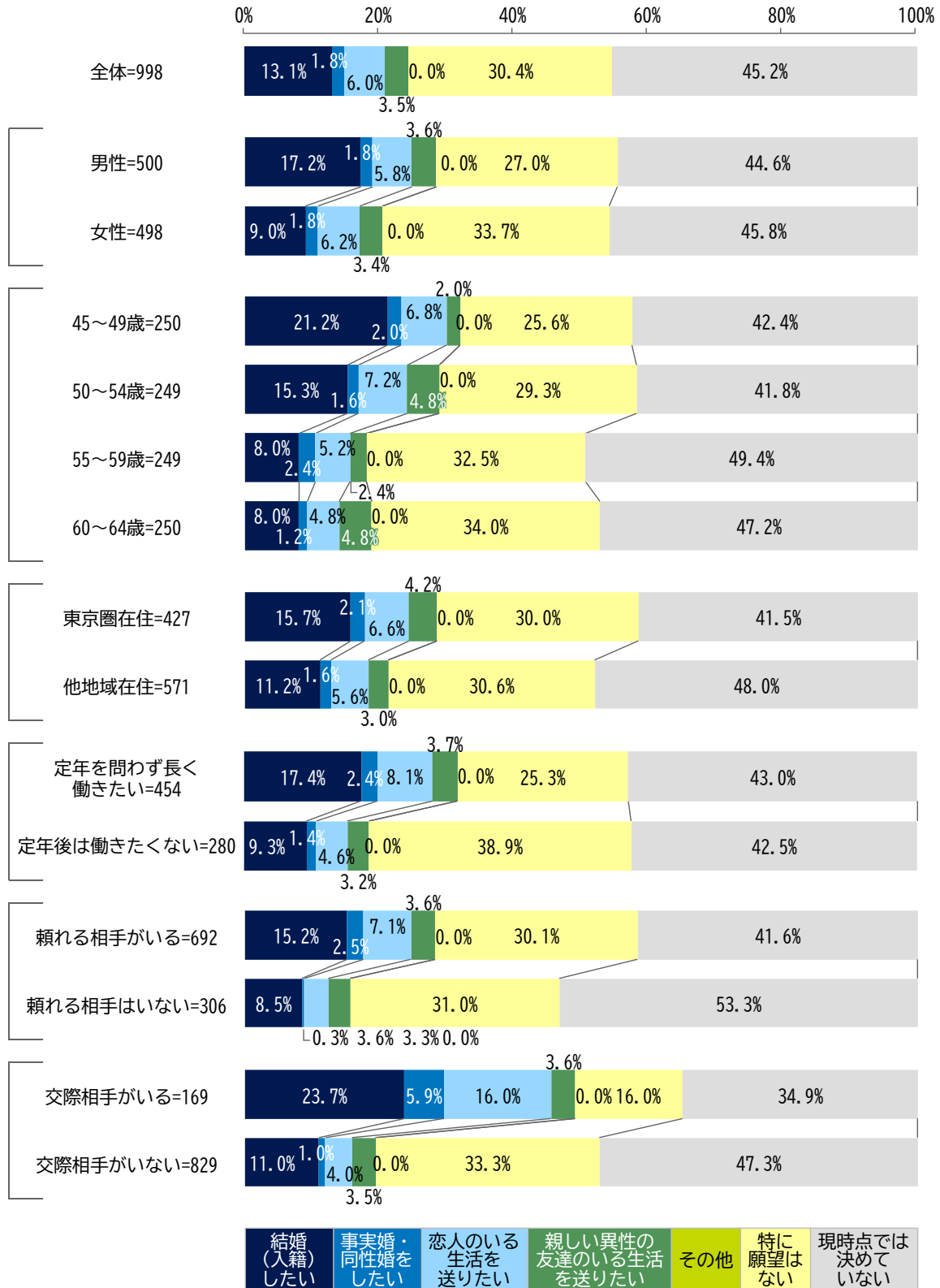


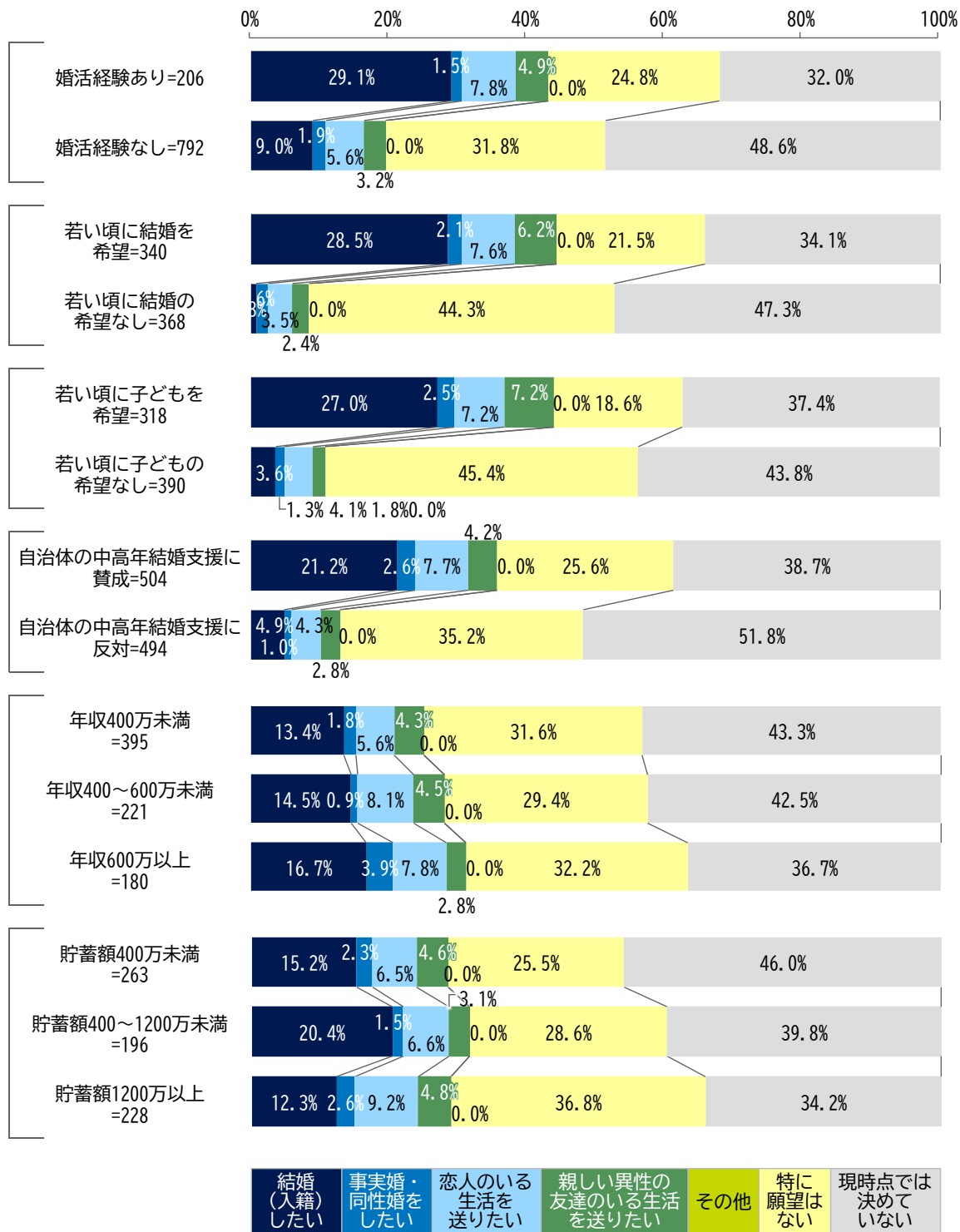
### 2.4.3. 恋愛・結婚の願望

将来の恋愛・結婚についての願望を尋ねたところ、恋愛・結婚の願望がある人は全体の3割弱である。婚活経験のない人に比べて経験のある人の方が、若い頃に結婚や子どもを希望していなかった人より希望していた人の方が、結婚(入籍)をしたい人が多く、それぞれ約3割存在している。

自治体の中高年結婚支援に反対している人に比べて、賛成をしている人の方が、結婚(入籍)をしたい人が多く、約2割が「結婚(入籍)をしたい」と回答している。

図表2.4.3. 恋愛・結婚の願望(単一選択)



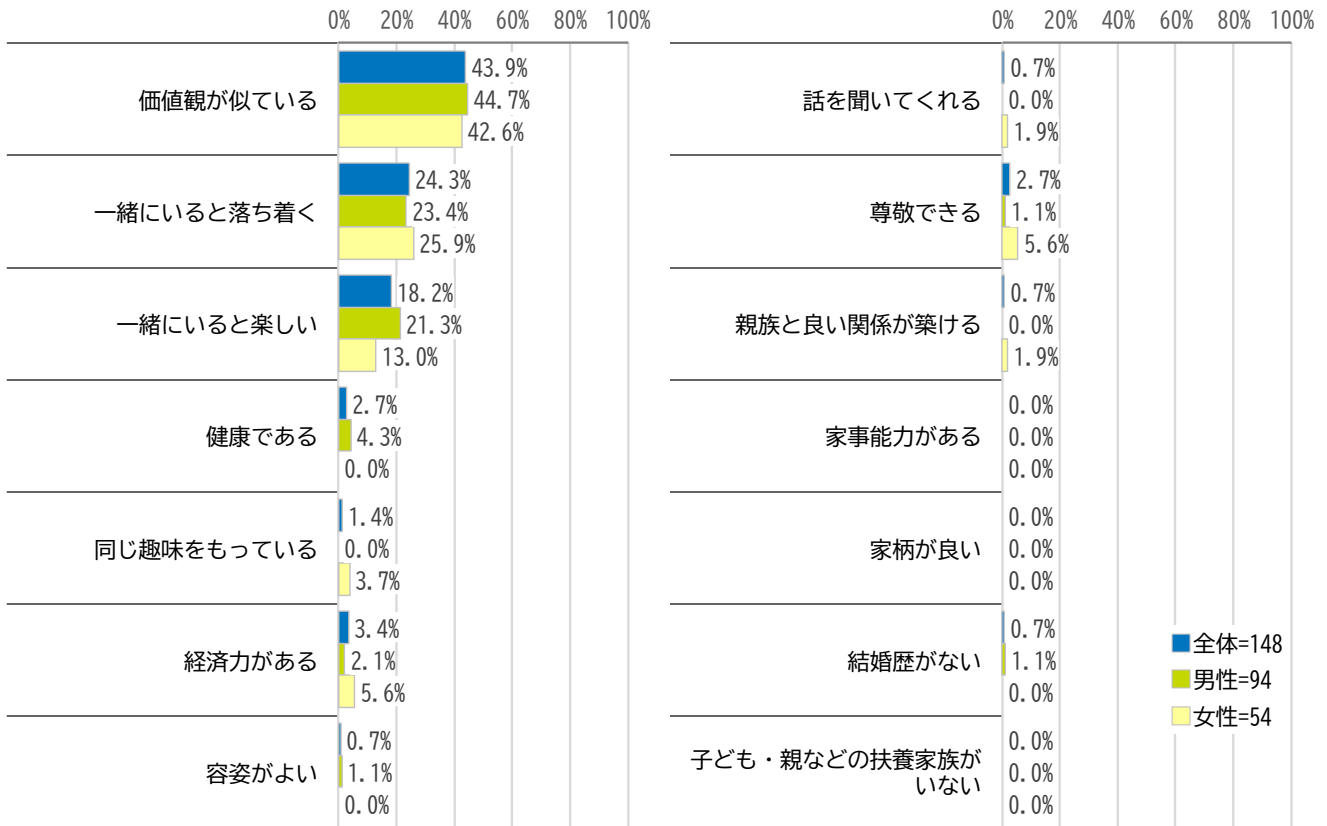


2.4.3.1. 結婚相手に求める条件

2.4.3で「結婚・事実婚・同性婚をしたい」を選択した回答者に、相手に求める条件上位3つまでを尋ねたところ、全体では「価値観が似ている」(43.9%)が最も多く、男女ともに傾向は同じである。「60～64歳」においては、「価値観が似ている」を選択した人が約半数に上る。

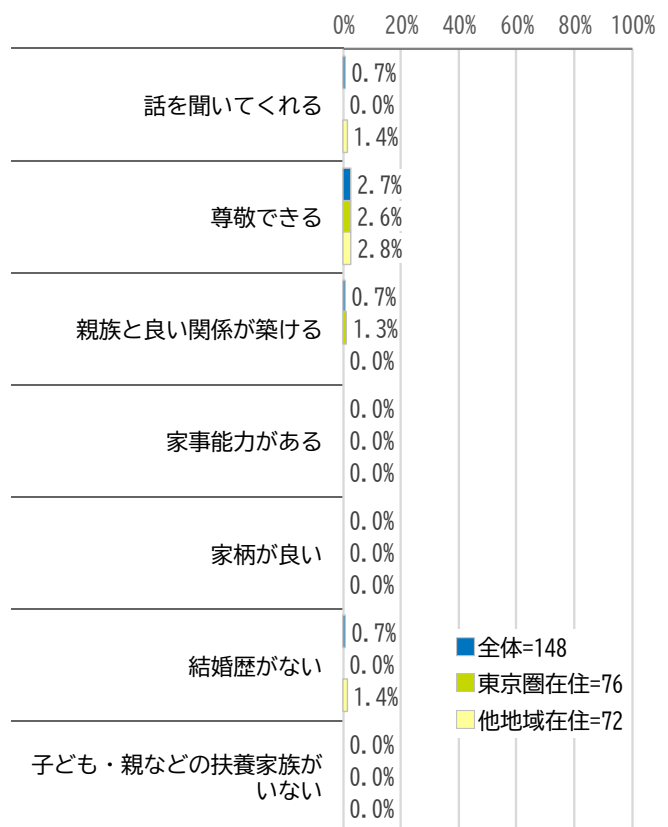
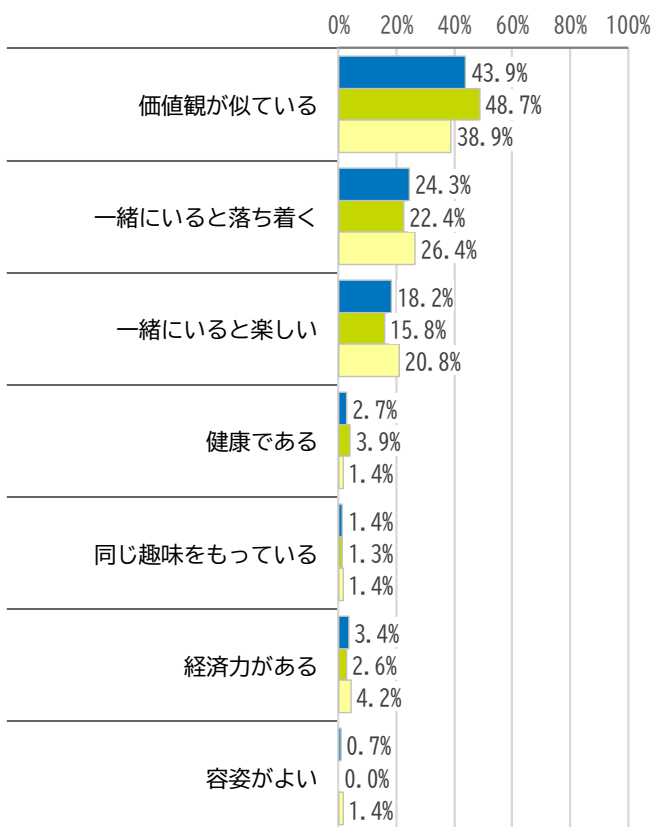
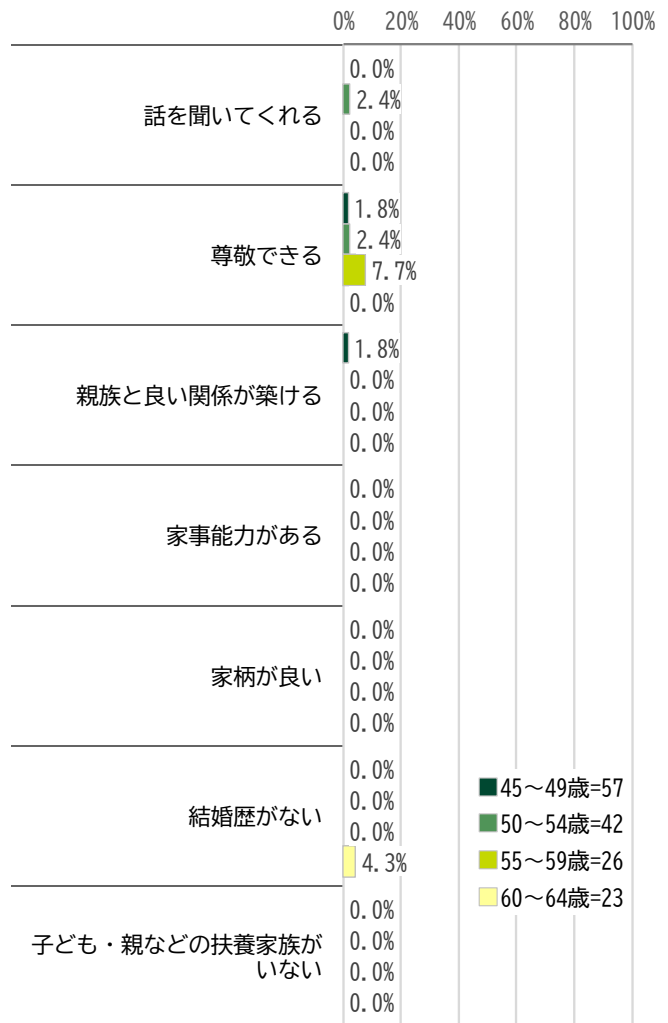
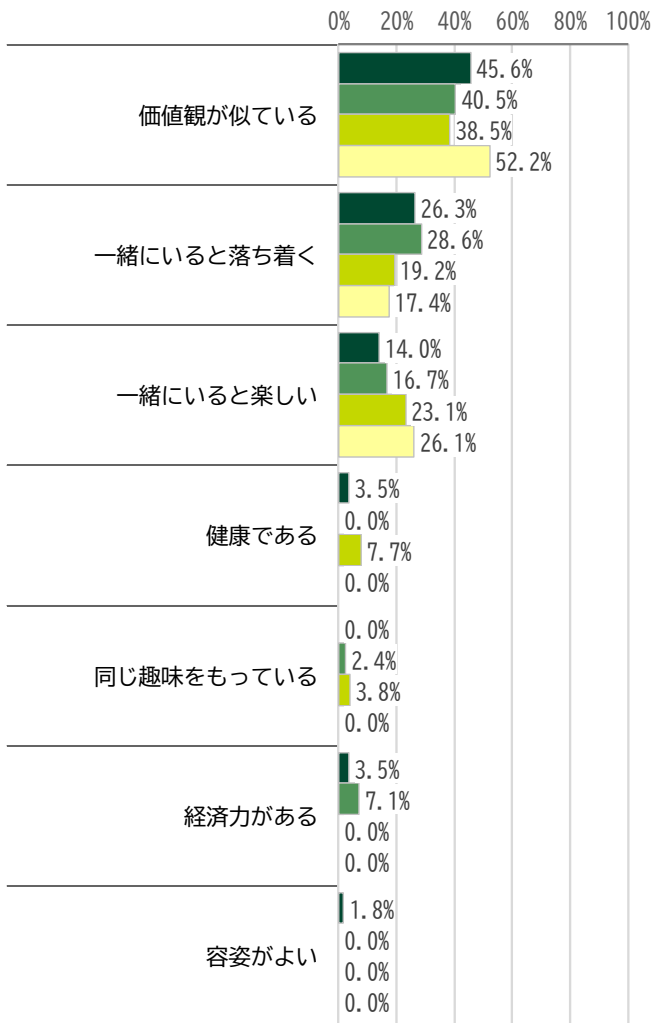
年齢別には、高齢になるに従って、「一緒にいると楽しい」を選択する傾向が見られる。

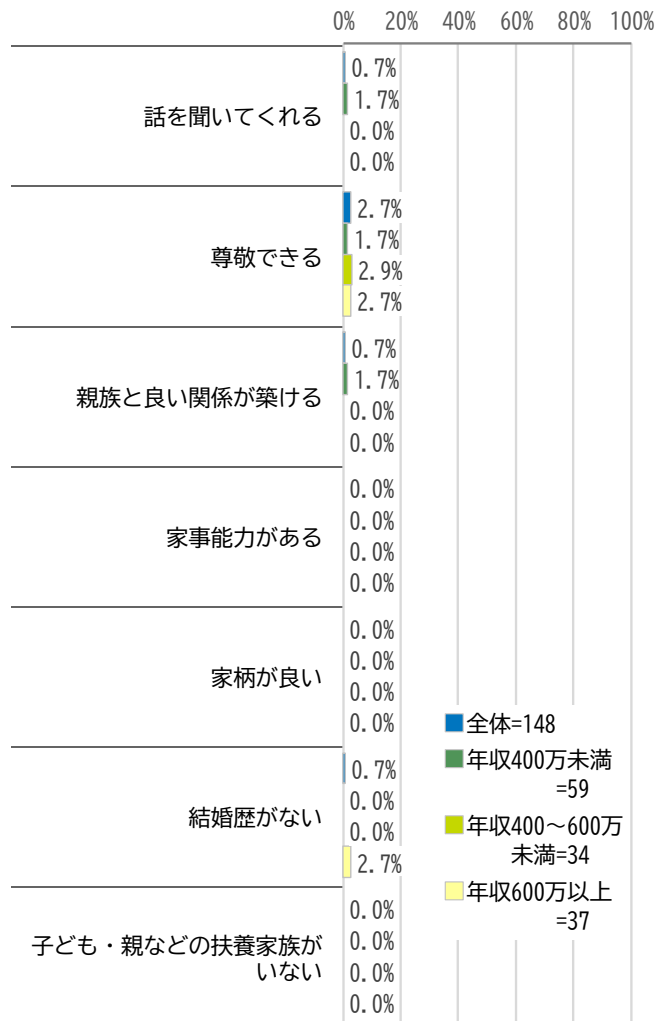
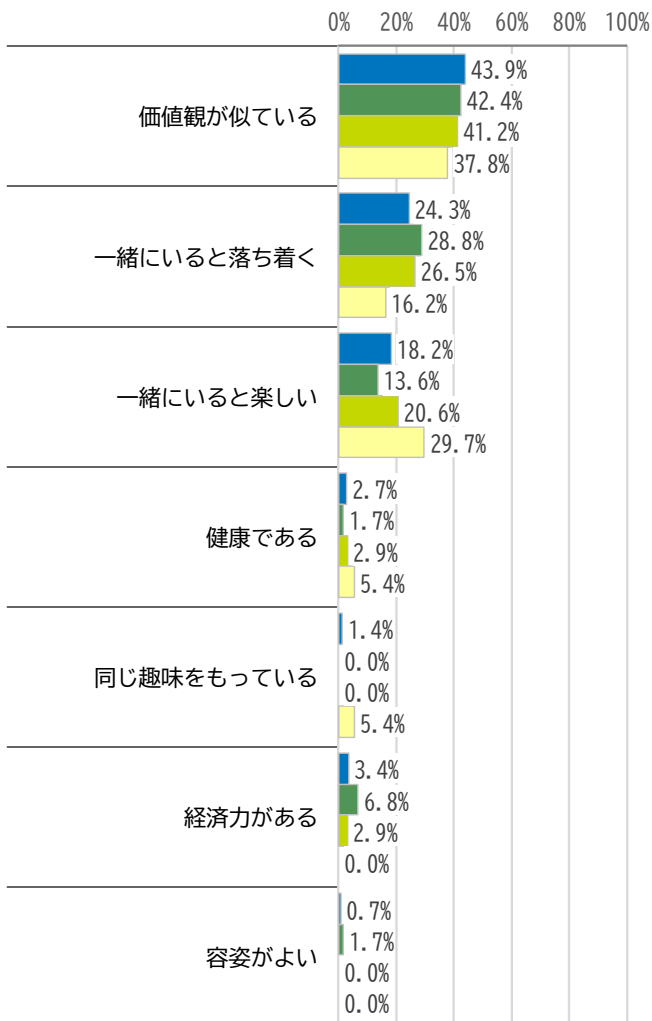
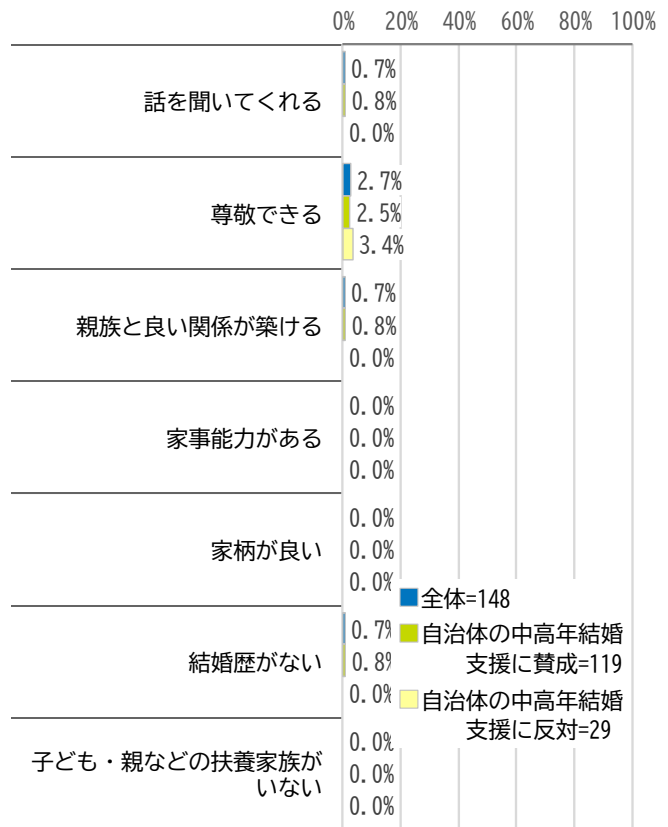
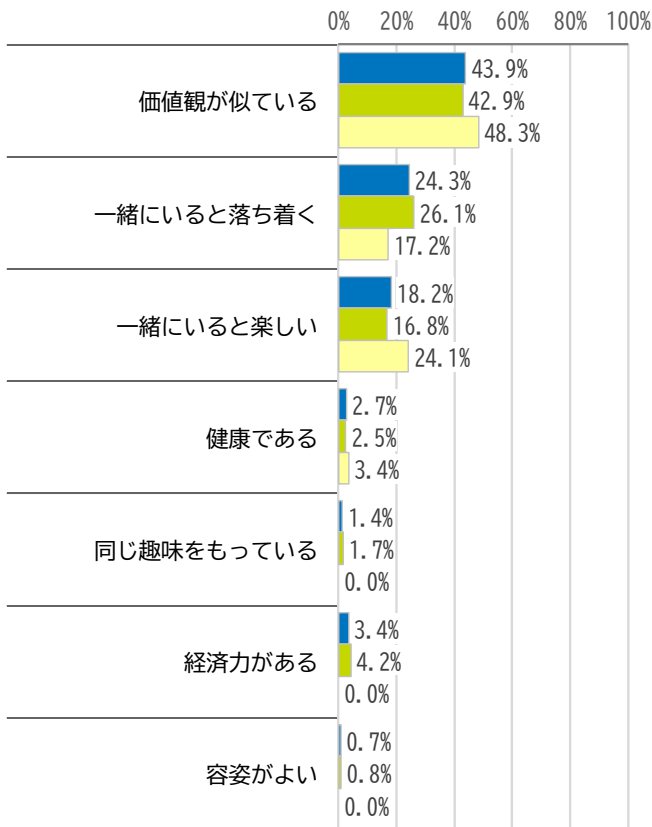
図表2.4.3.1. 結婚相手に求める条件(上位3つ選択)(1位のみ)



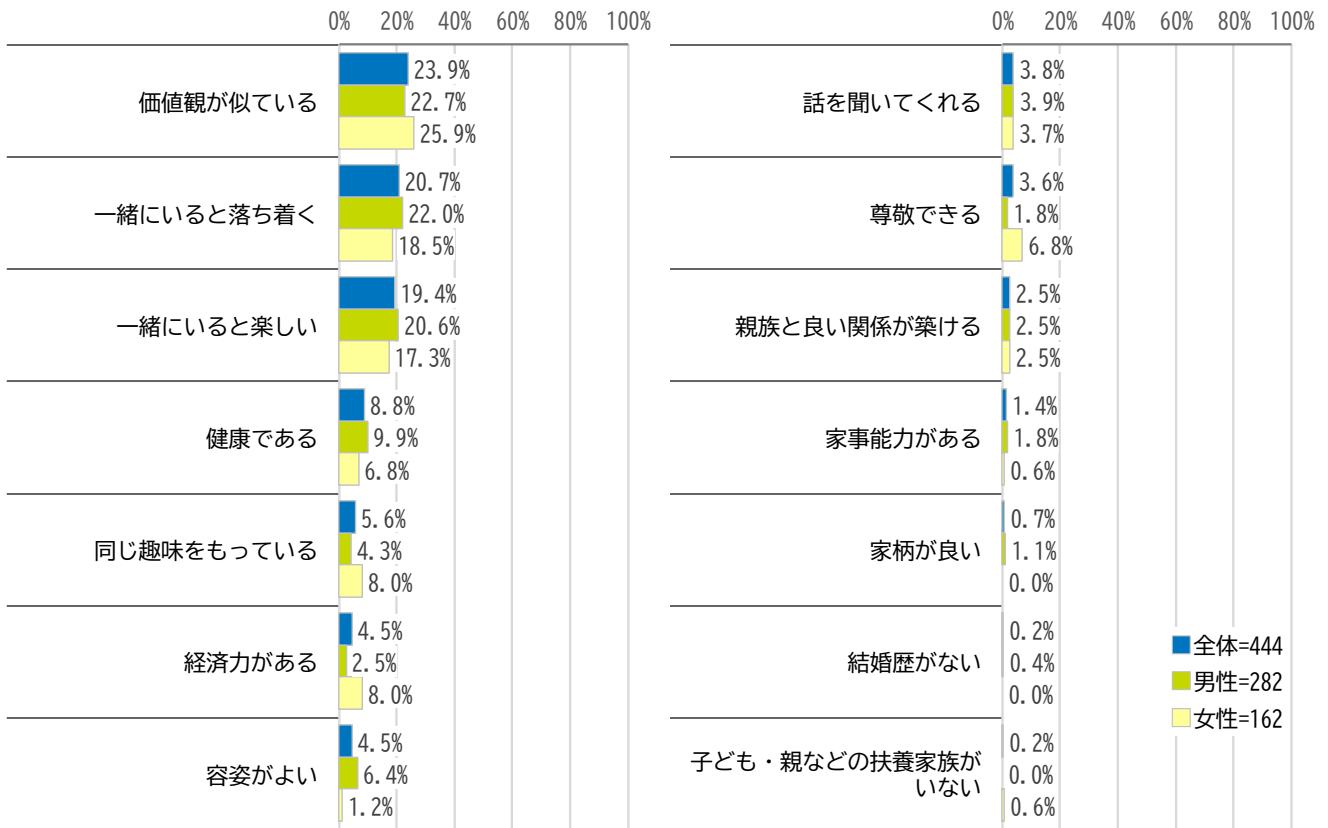
※ 選択肢「学歴が高い」の選択はなく、「その他」の選択は、0.7%であった。



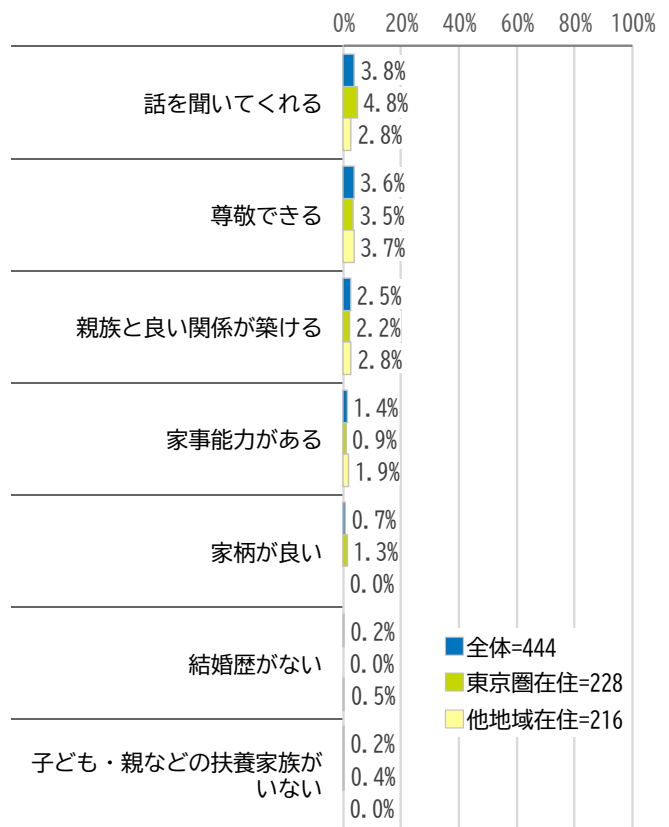
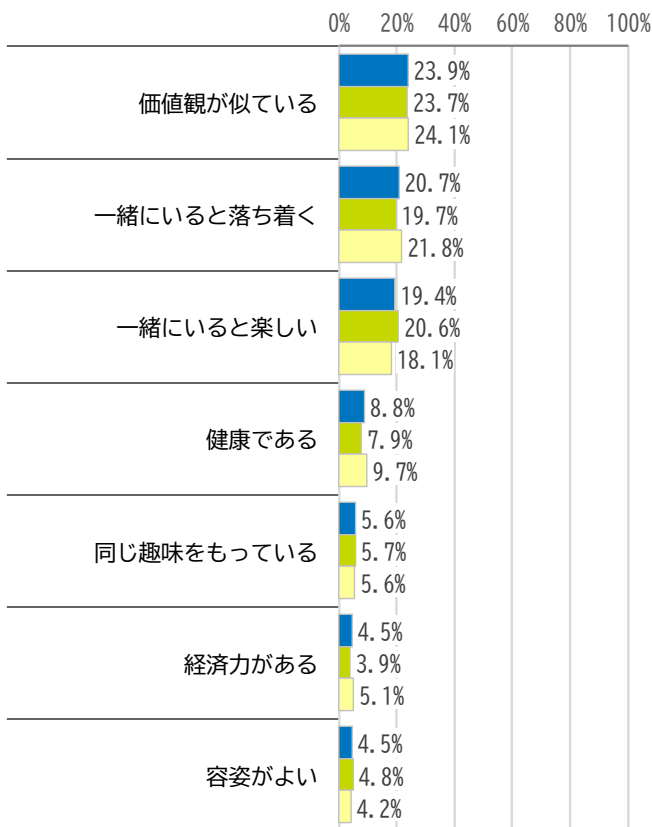
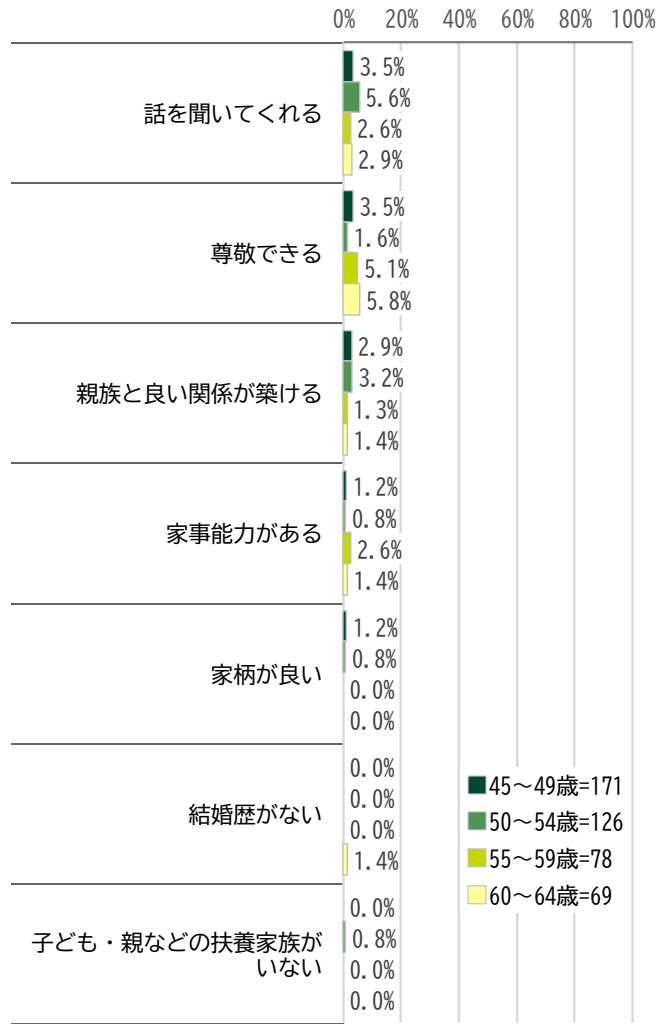
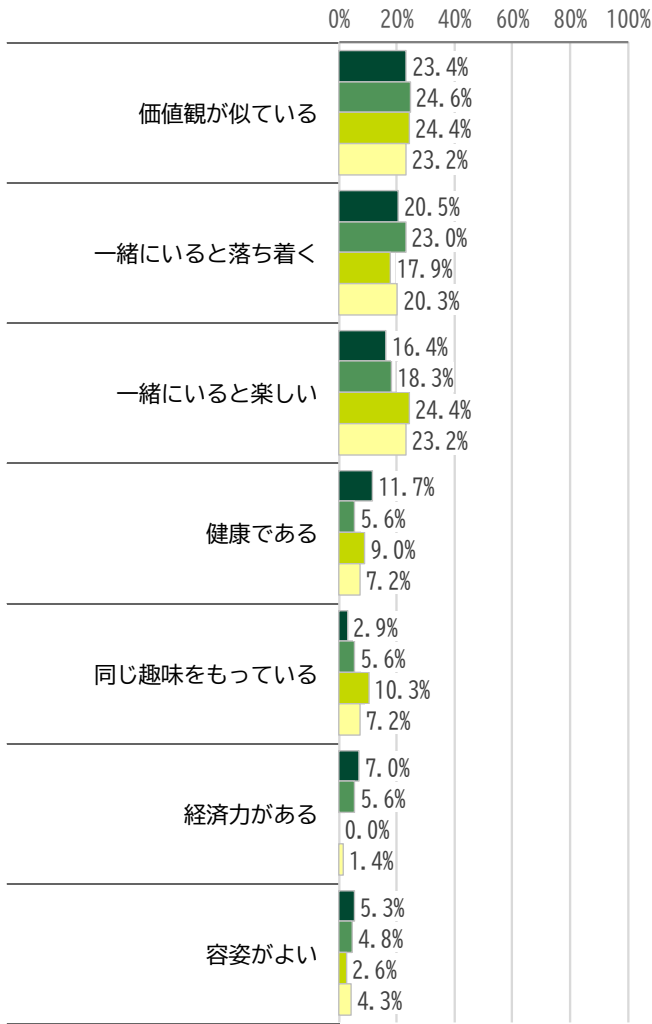


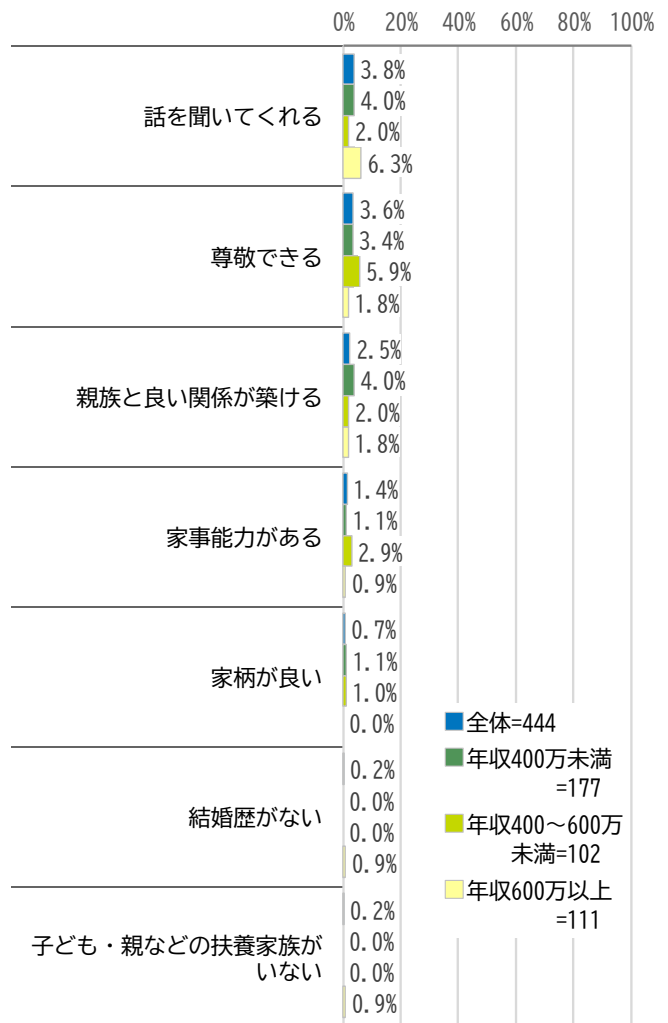
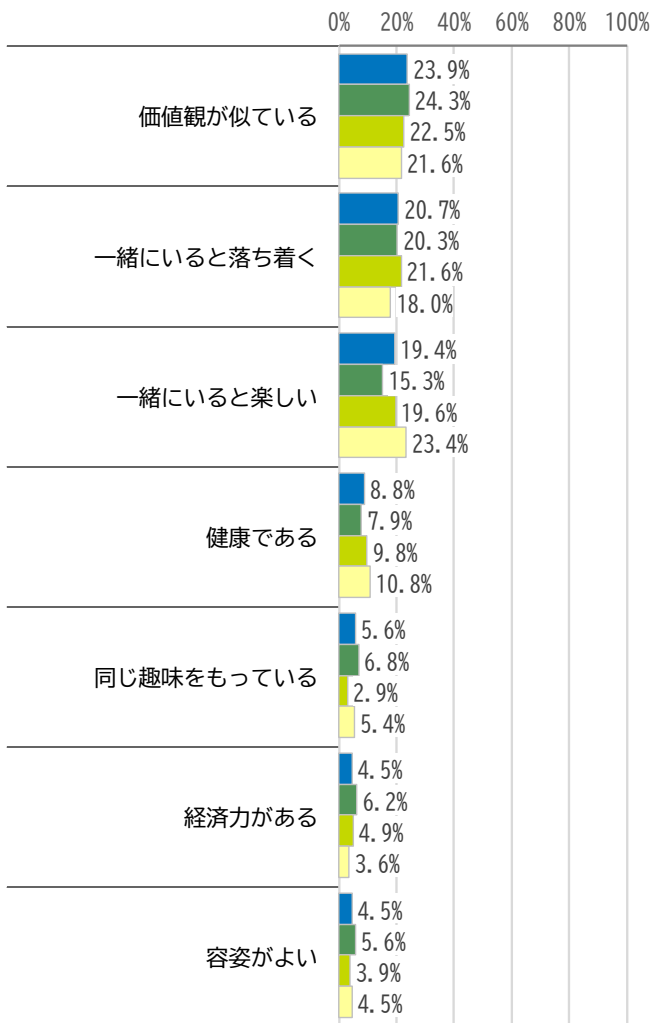
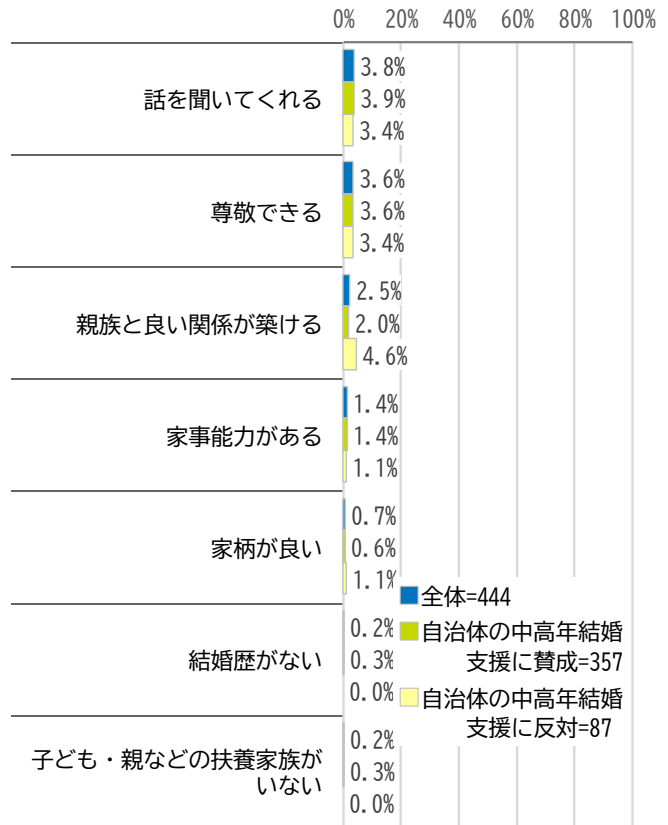
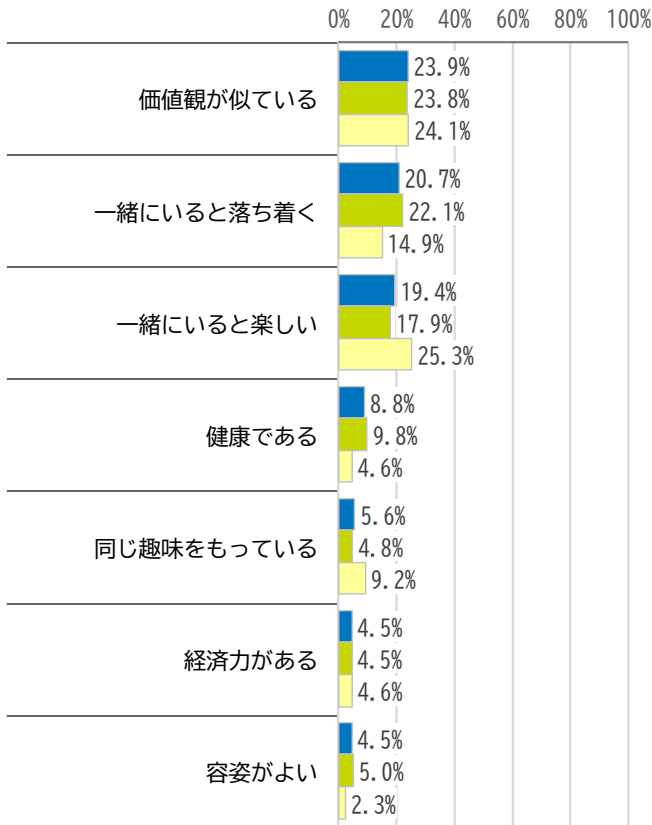


図表2.4.3.1. 結婚相手に求める条件(上位3つ選択)(1~3位の計)



※ 選択肢「学歴が高い」の選択はなく、「その他」の選択は、0.2%であった。

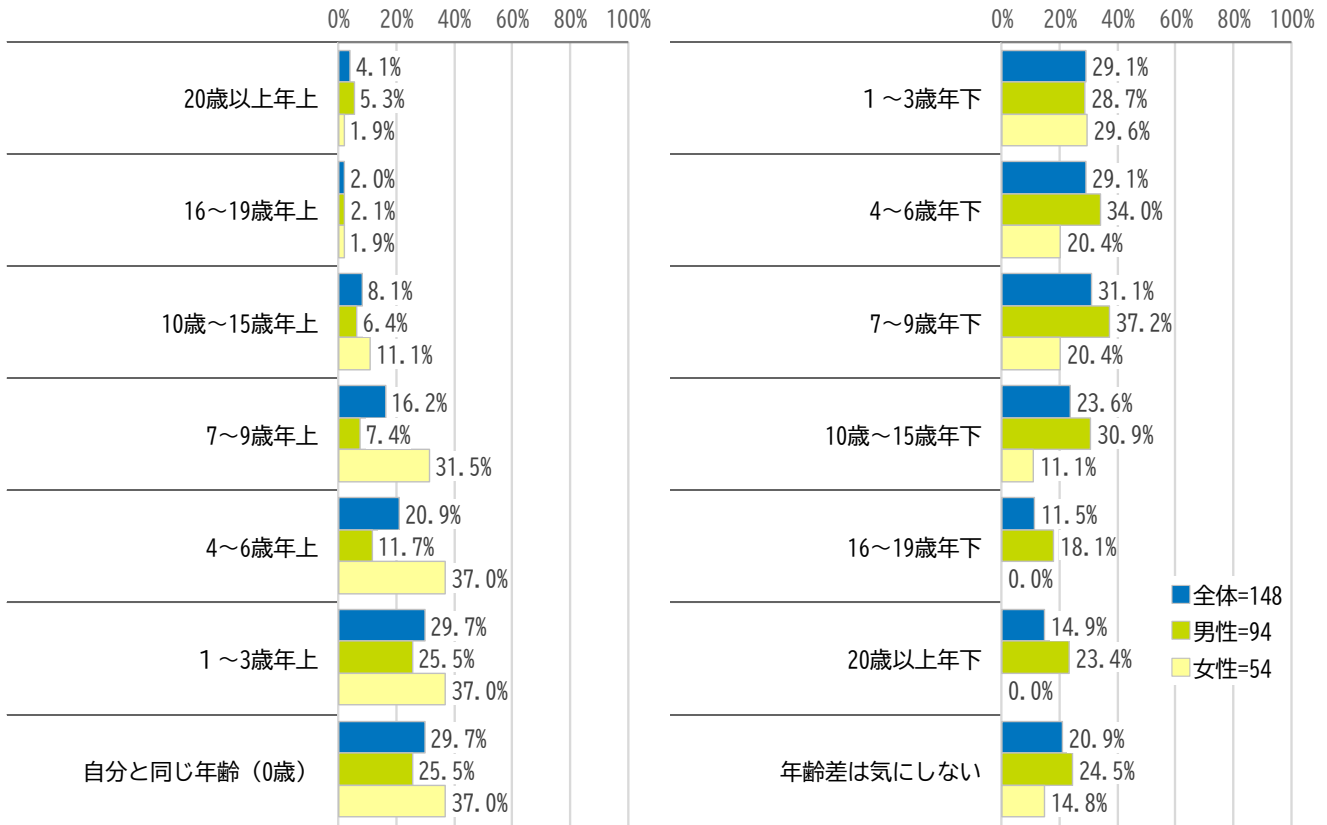


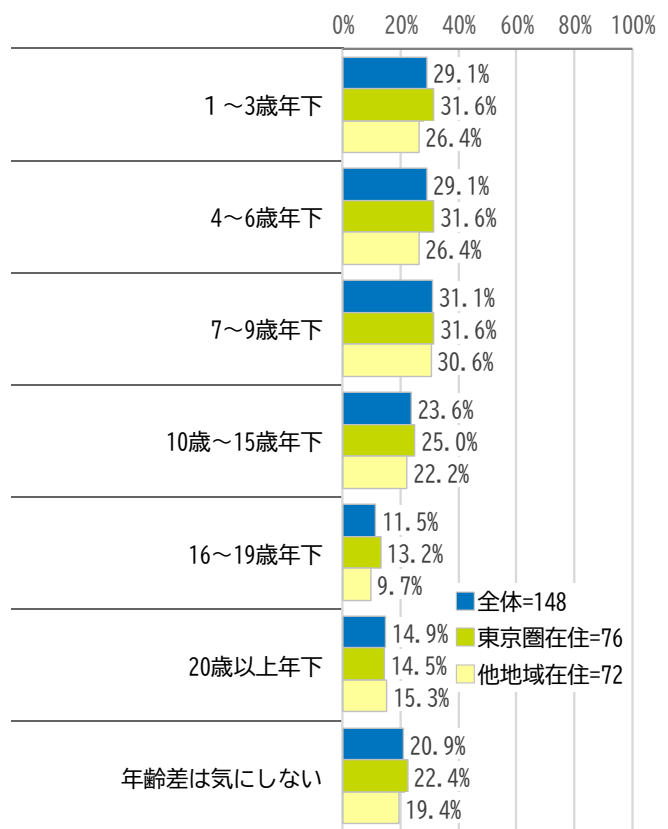
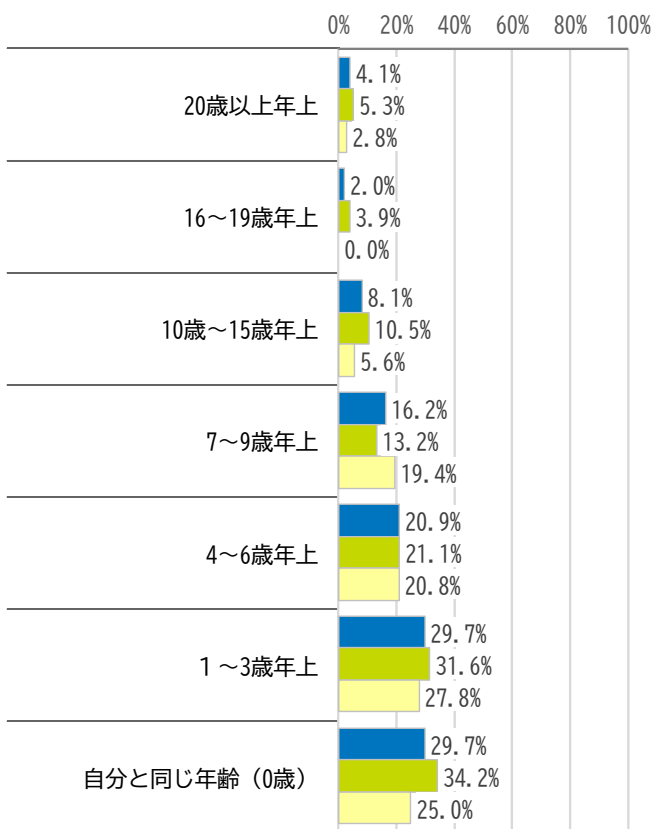
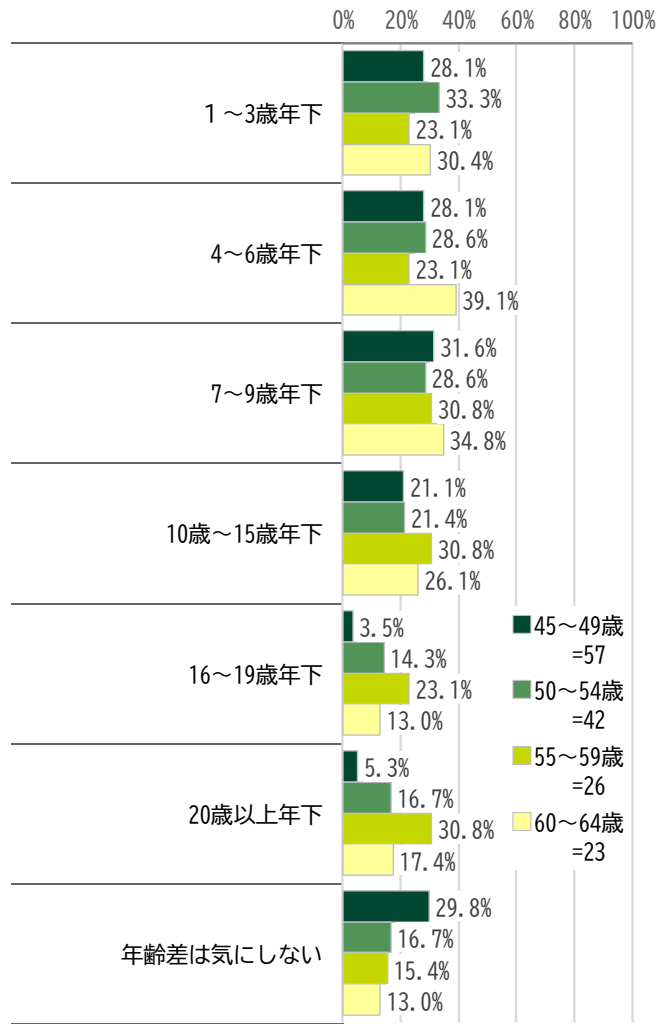
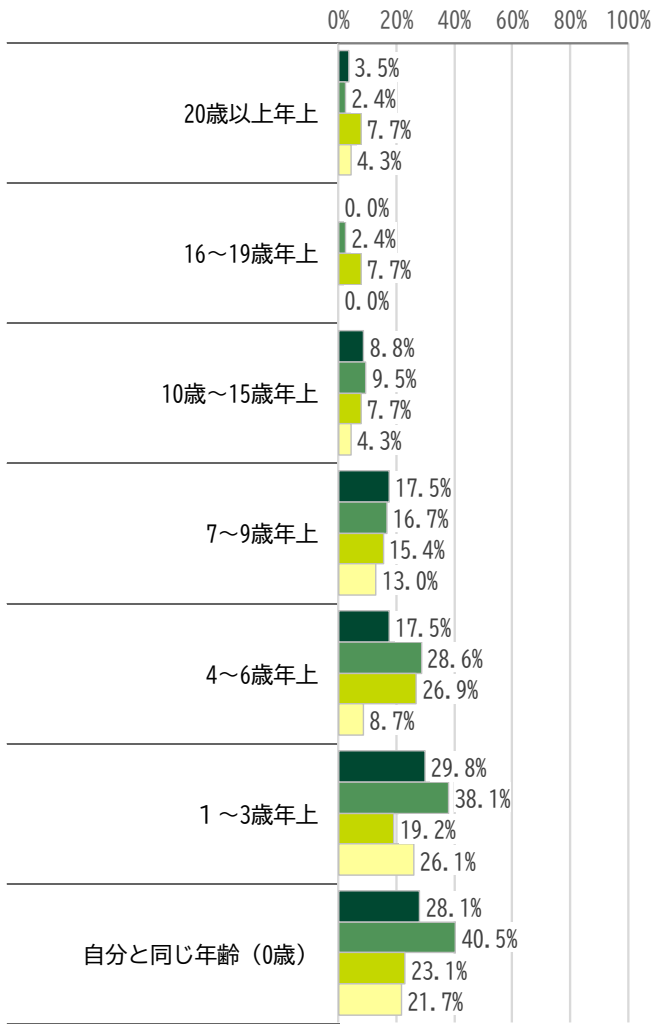


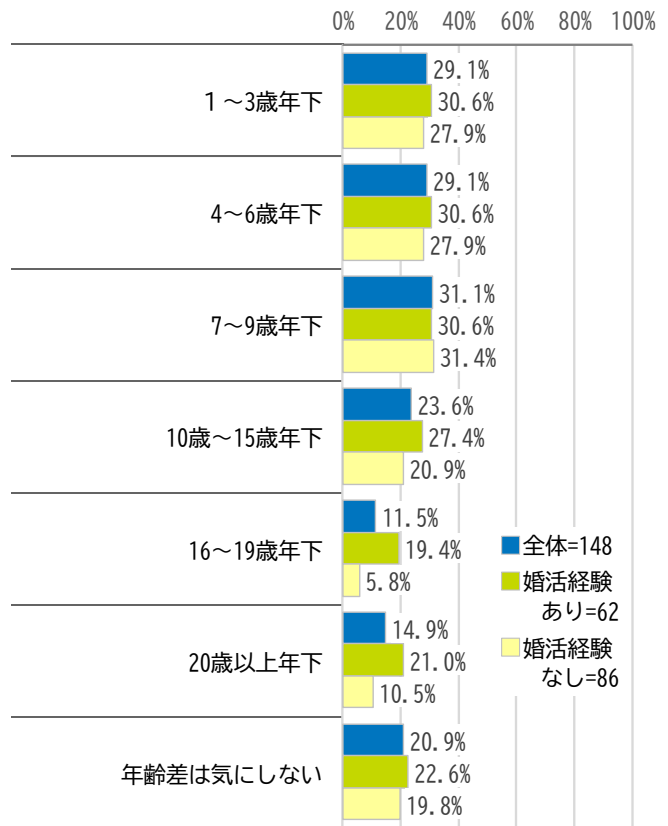
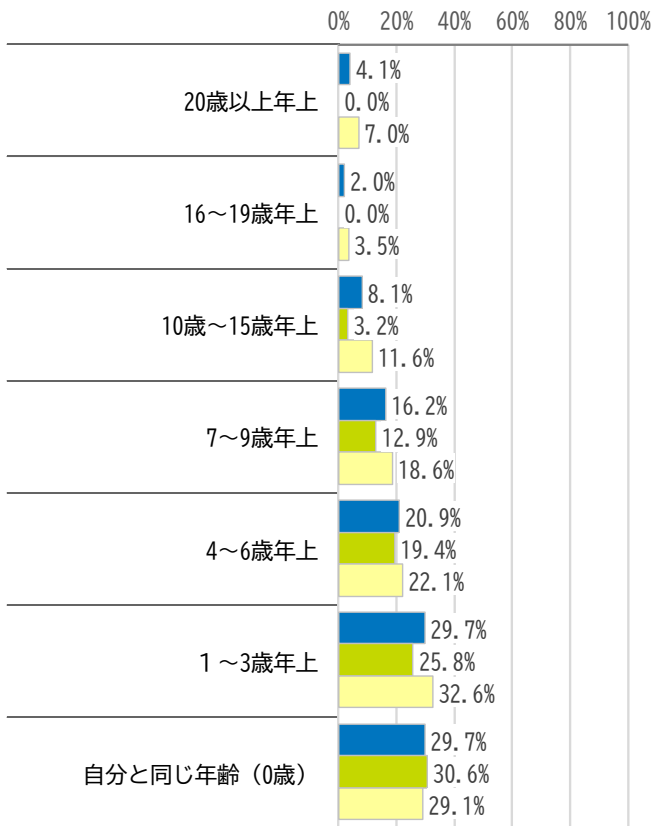
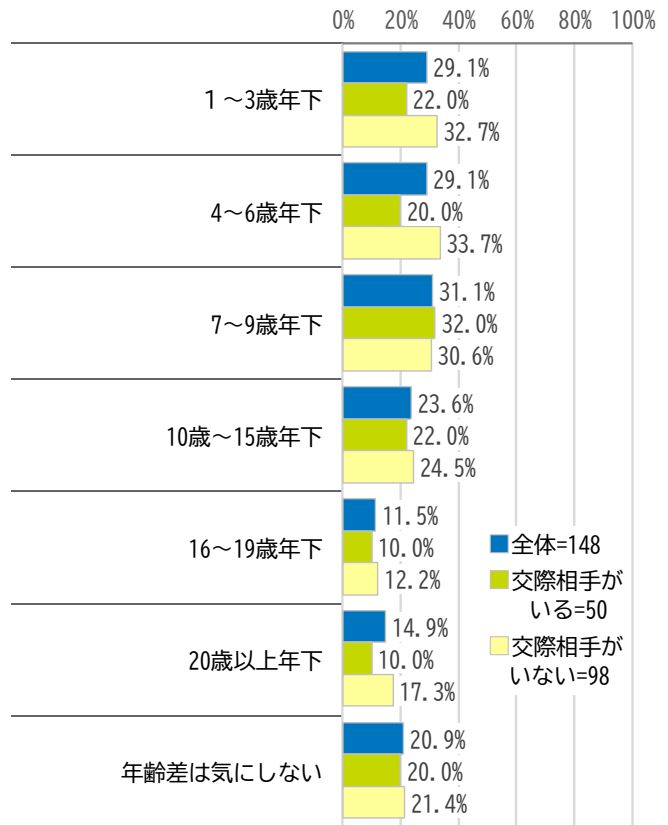
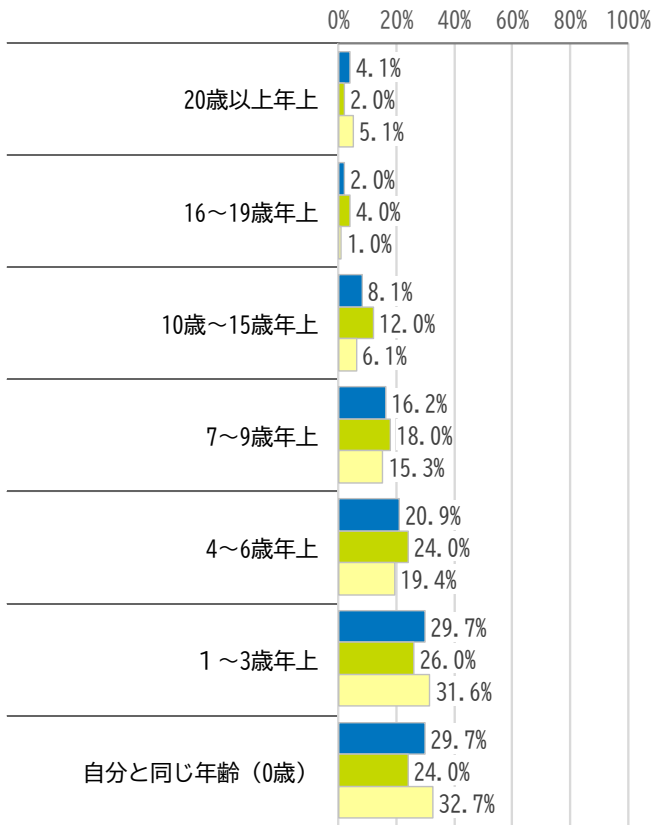
### 2.4.3.2. 結婚相手との年齢差の許容範囲

2.4.3で「結婚・事実婚・同性婚をしたい」を選択した回答者に、相手との年齢差の許容範囲を尋ねたところ、男性においては、「7～9歳年下」(37.2%)が最も多く、「4～6歳年下」(34.0%)、「10歳～15歳年下」(30.9%)と続いている。一方、女性においては、「4～6歳年上」(37.0%)、「1～3歳年上」(37.0%)、「自分と同じ年齢」(37.0%)が最も多い。

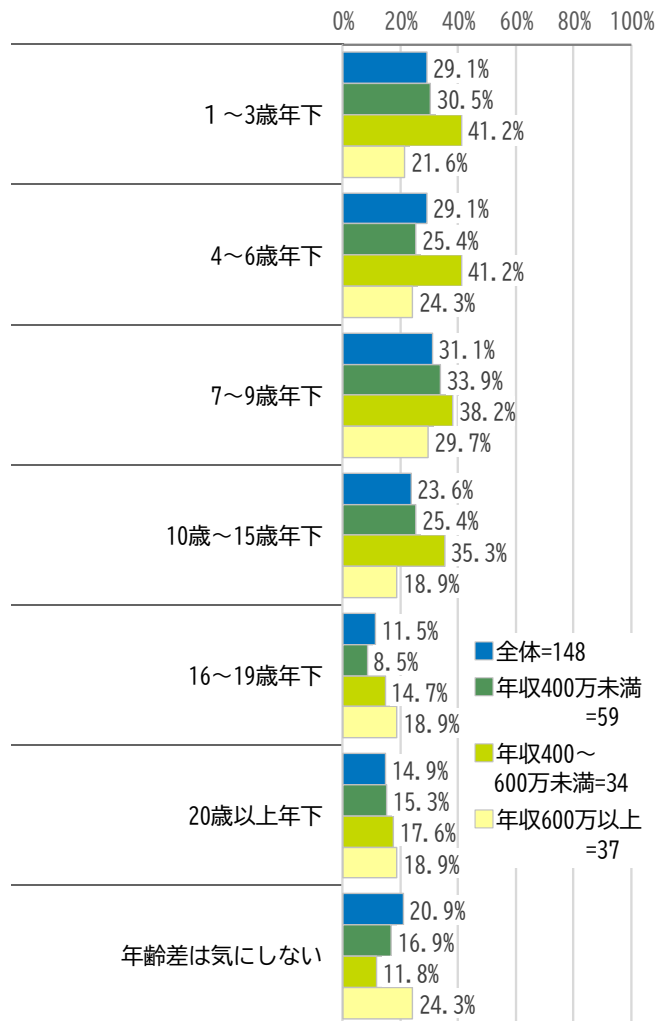
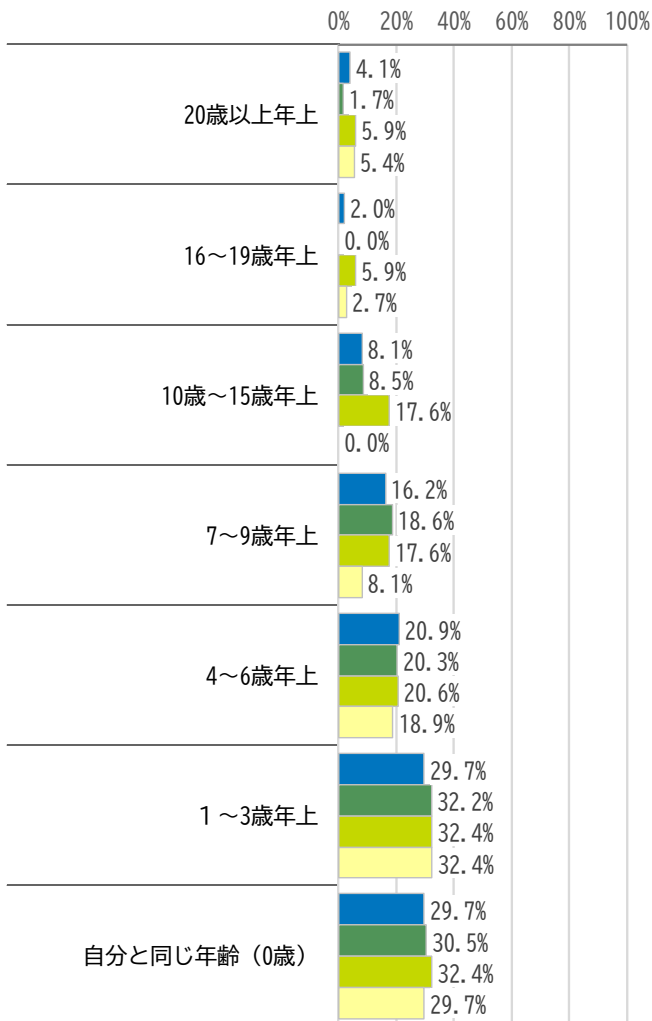
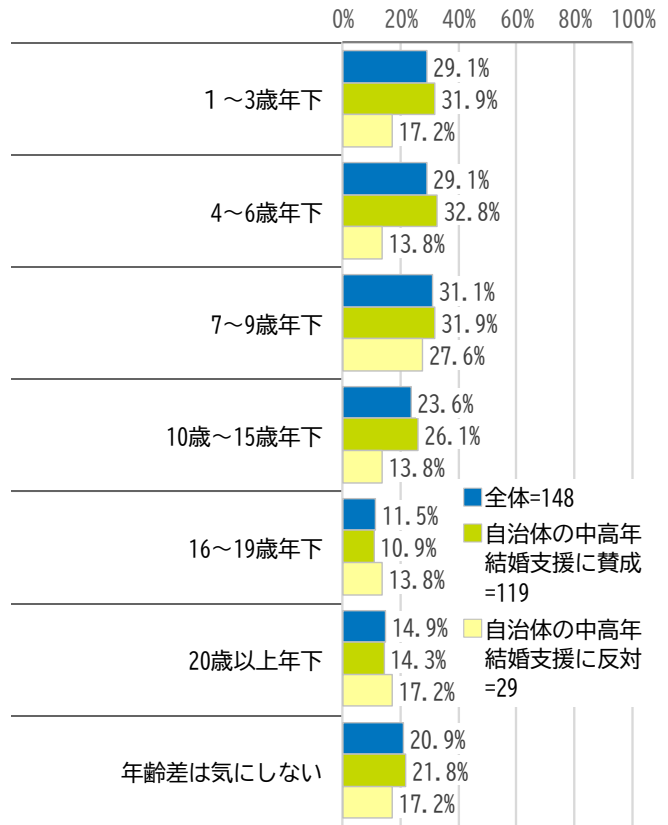
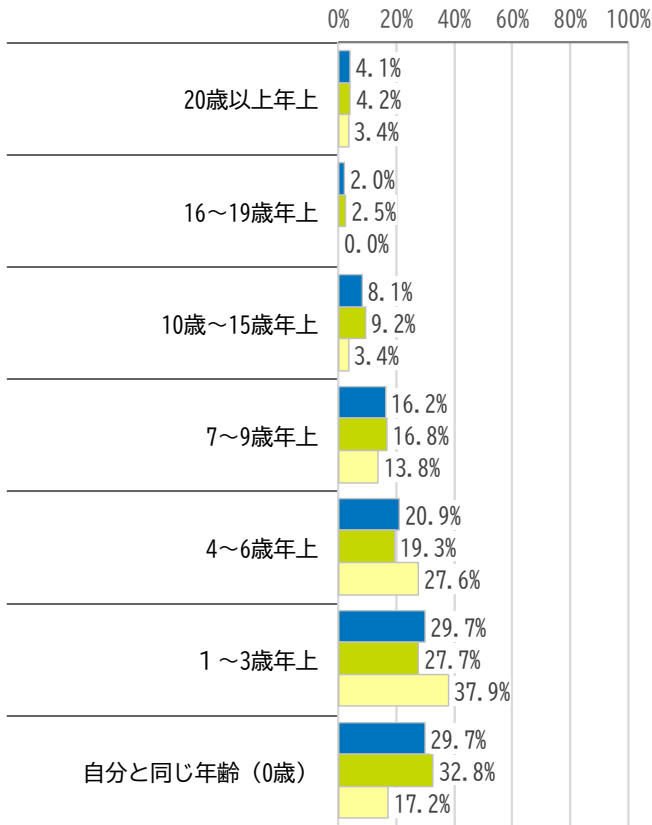
図表2.4.3.2. 結婚相手との年齢差の許容範囲(複数選択)

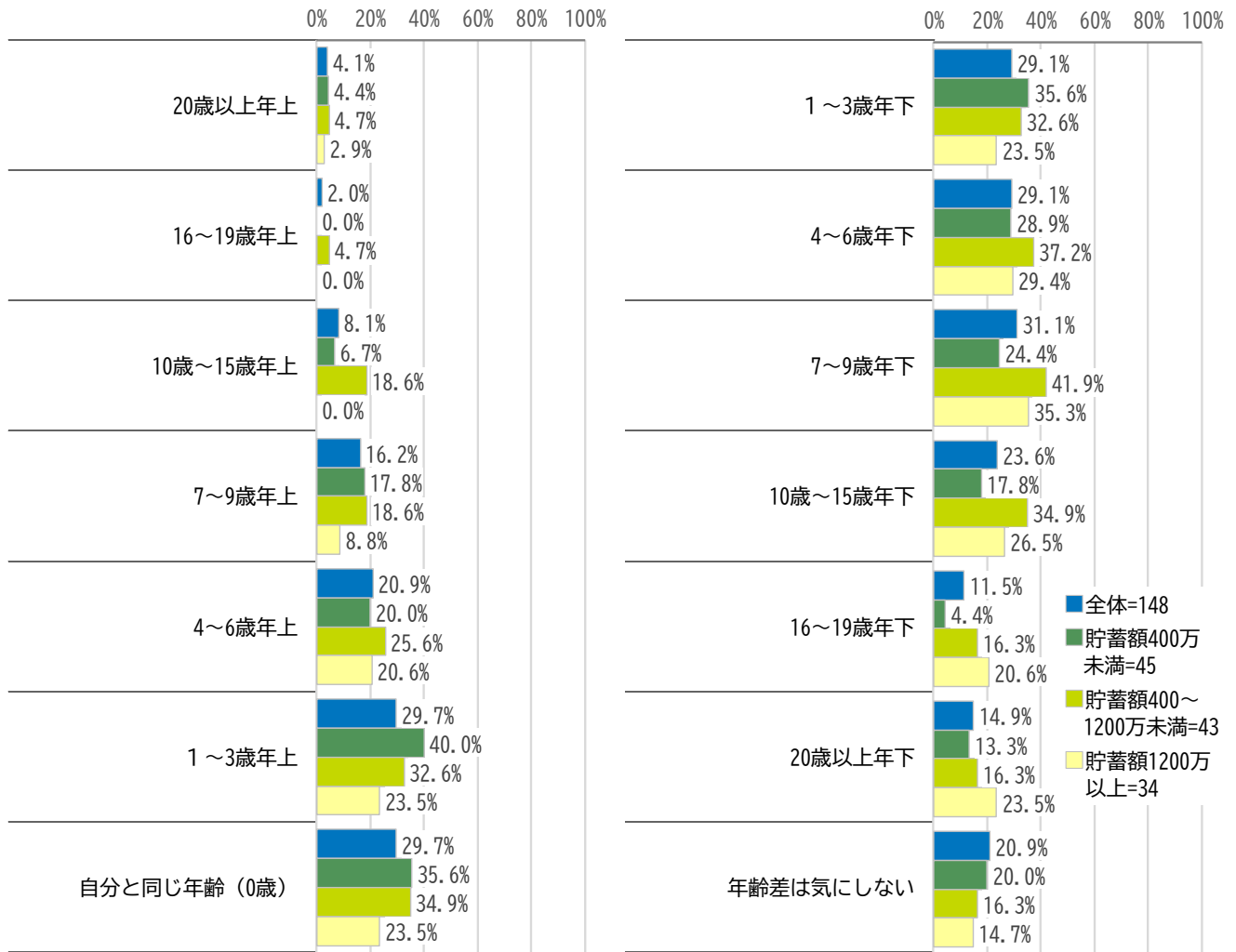










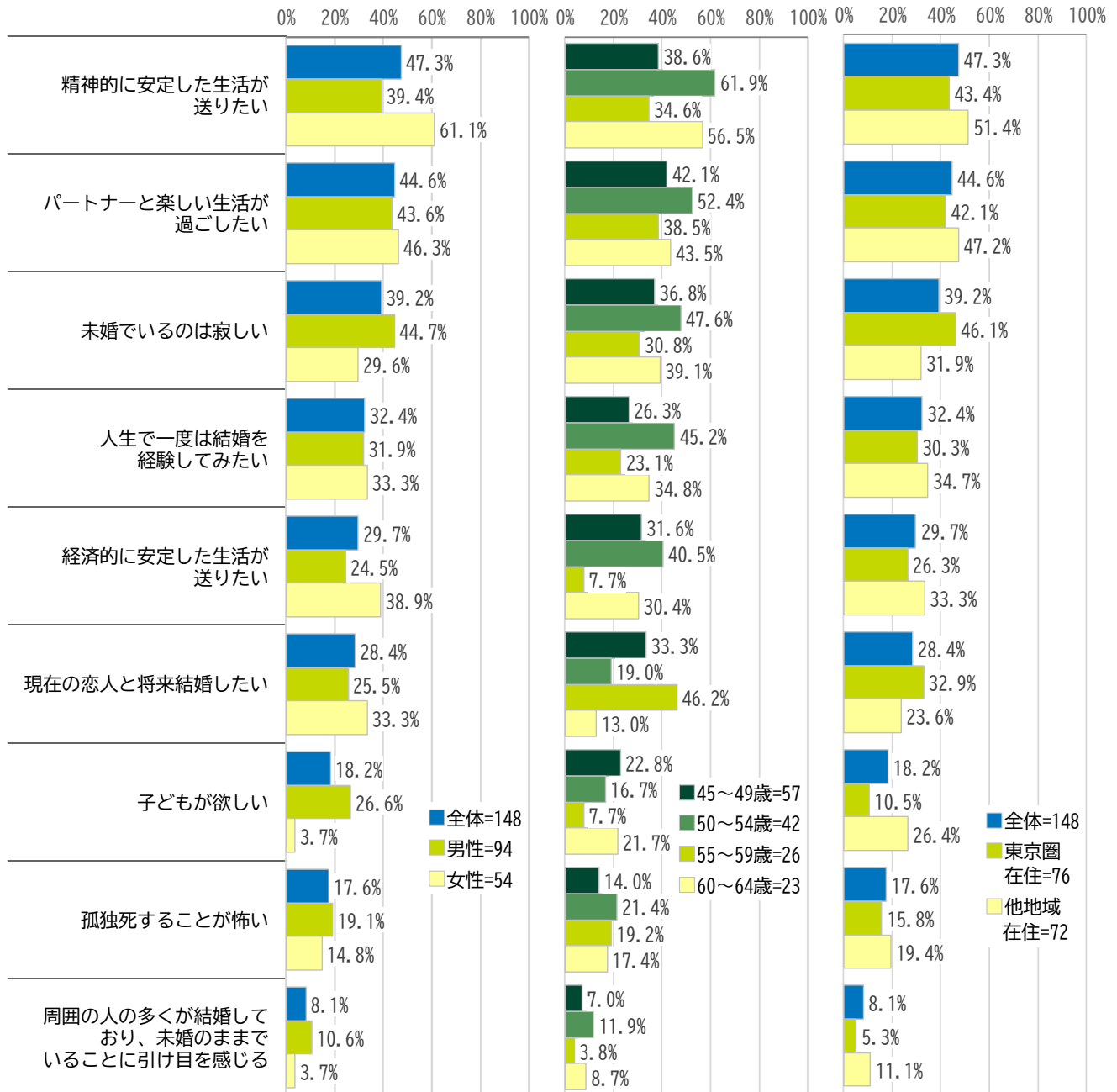


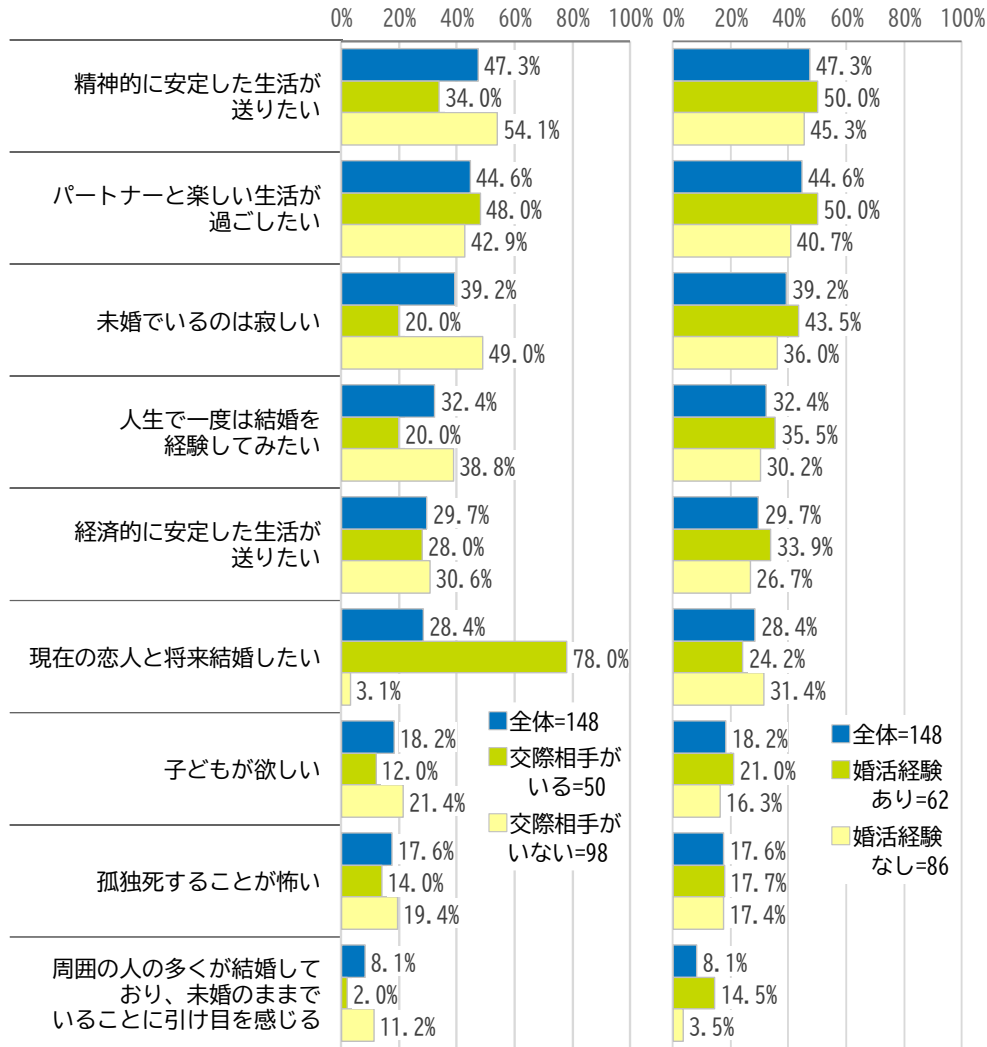
2.4.3.3. 結婚を望む理由

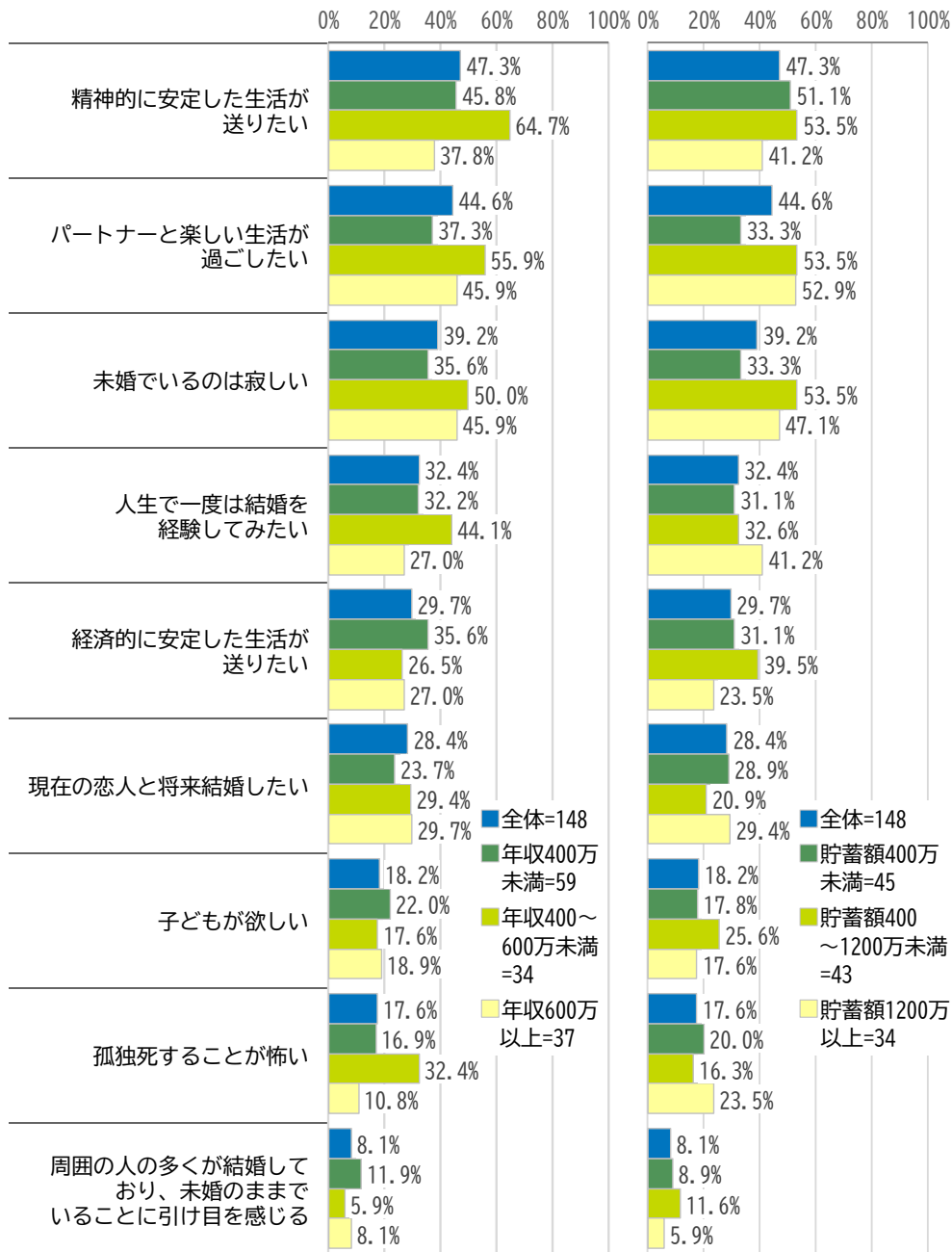
2.4.3で「結婚・事実婚・同性婚をしたい」を選択した回答者に、理由を尋ねたところ、全体では、「精神的に安定した生活が送りたい」(47.3%)が最も多く、「パートナーと楽しい生活が過ごしたい」(44.6%)、「未婚でいるのは寂しい」(39.2%)と続いている。男女別に見てみると、男性では、「未婚でいるのは寂しい」(44.7%)が最も多く、「パートナーと楽しい生活が過ごしたい」(43.6%)、「精神的に安定した生活が送りたい」(39.4%)と続いている。

交際相手がいる人は、「現在の恋人と将来結婚したい」(78.0%)が最も多く、「パートナーと楽しい生活が過ごしたい」(48.0%)、「精神的に安定した生活が送りたい」(34.0%)と続いている。

図表2.4.3.3. 結婚を望む理由(複数選択)







### 2.4.4. 婚活経験

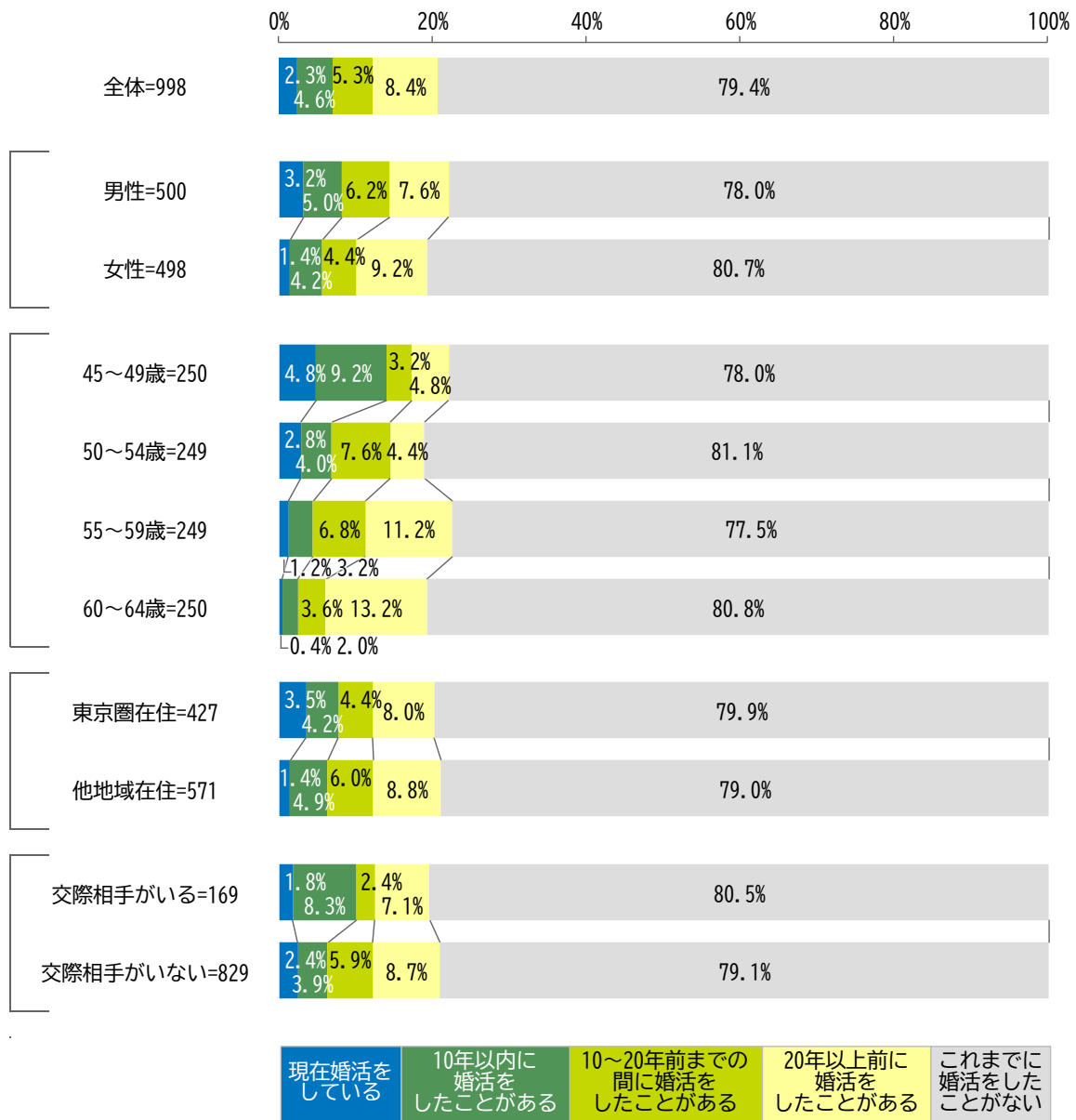
今までに婚活（結婚相手・交際相手を見つけることを目的とした活動）をしたことがあるか尋ねたところ、全体では、約8割の人が「これまでに婚活をしたことがない」と回答している。

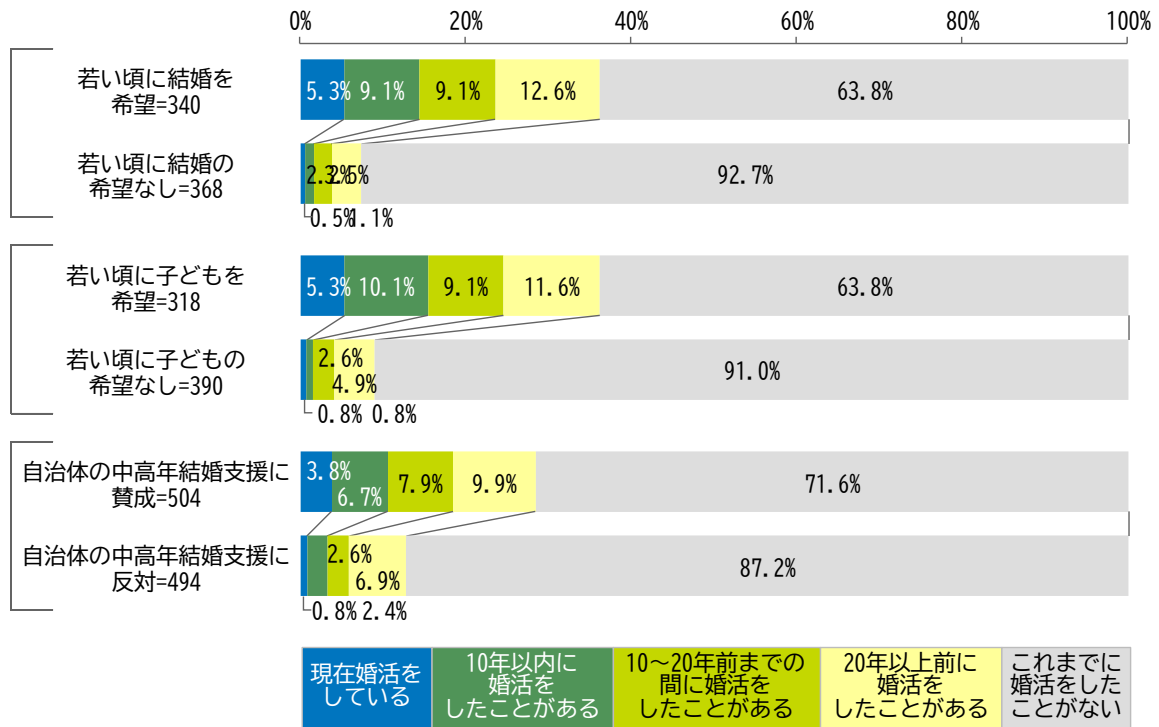
若い頃に結婚や子どもを持つことを希望していた人は、そのような希望を持っていない人に比べて、過去に婚活をした経験のある人が多い。

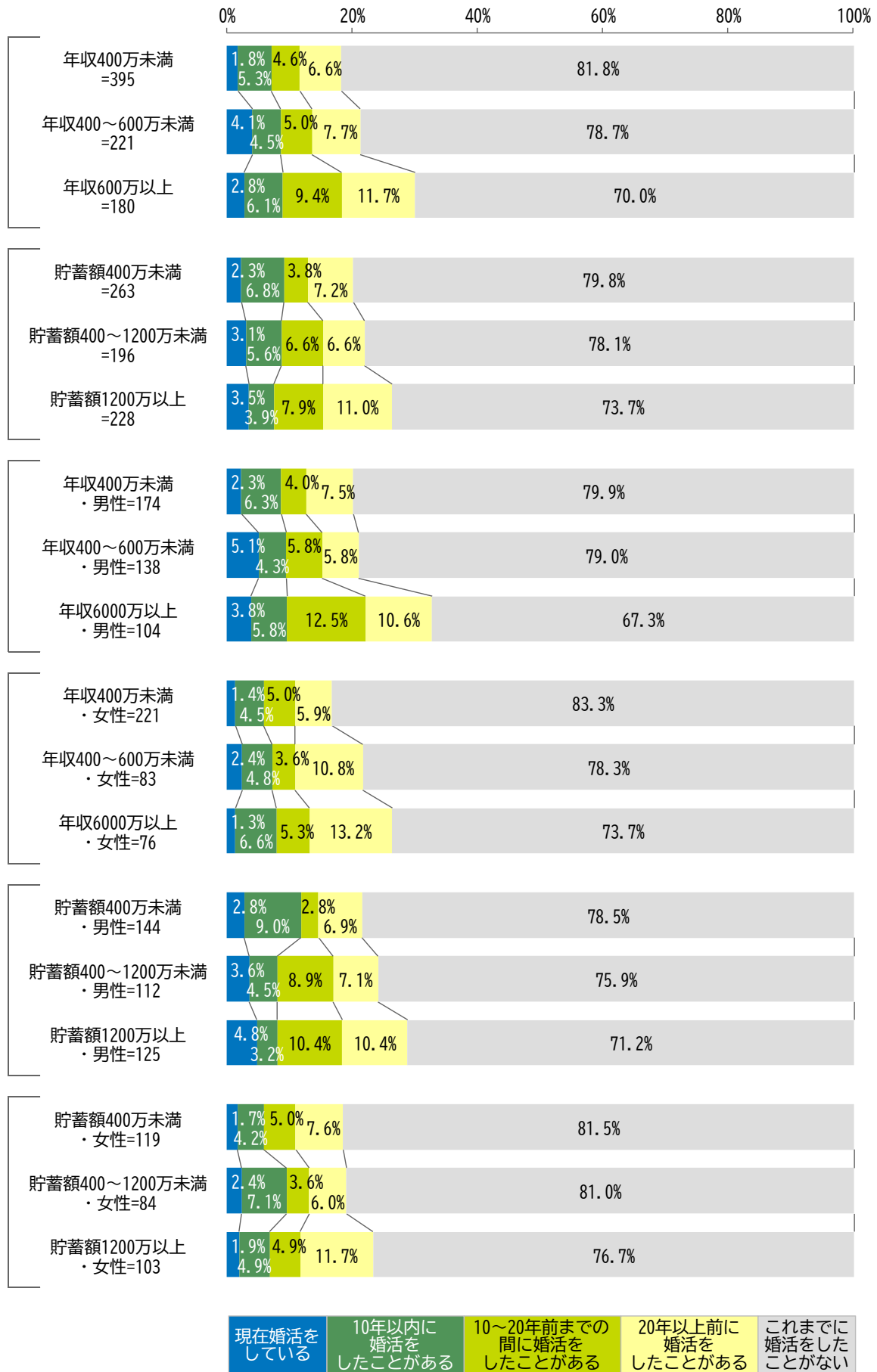
自治体の中高年結婚支援に賛成している人は、反対している人に比べて、過去に婚活をした経験のある人が多い。

年収額や貯蓄額が多くなるに従い、過去に婚活をした経験のある人が多い。

図表2.4.4. 婚活経験（単一選択）









### 2.4.4.1. 婚活内容

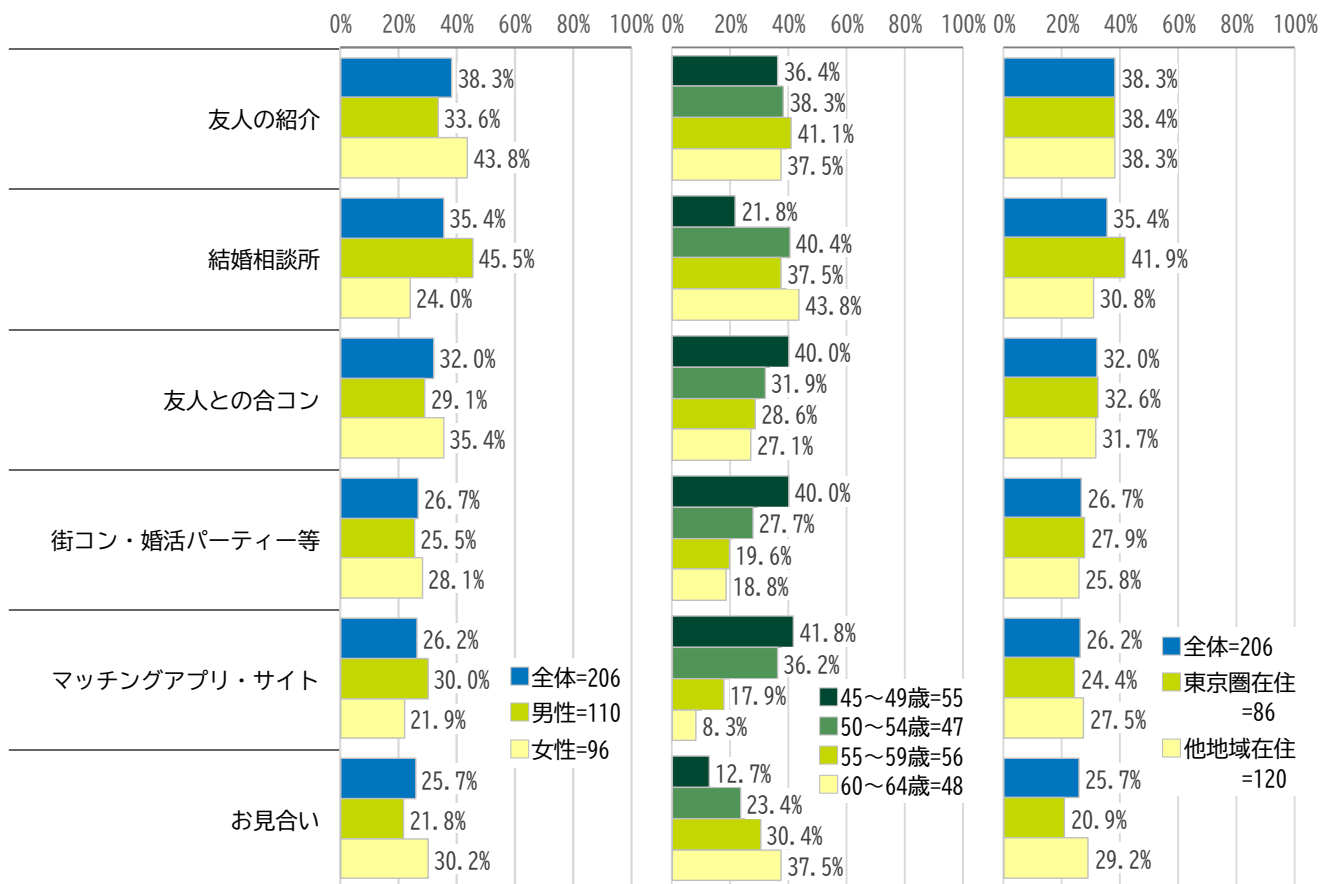
2.4.4で「婚活をしている」または「婚活をしたことがある」を選択した回答者に、どのような婚活を行ったか尋ねたところ、全体では、「友人の紹介」(38.3%)が最も多く、「結婚相談所」(35.4%)、「友人との合コン」(32.0%)と続いている。性別ごとに見ると、男性では「結婚相談所」(45.5%)が最も多く、女性では「友人の紹介」(43.8%)が最も多い。

年齢別に見てみると、「友人との合コン」、「街コン・婚活パーティー等」、「マッチングアプリ・サイト」は年齢が若くなるにつれて多くなっており、一方、「お見合い」は年齢が高くなるにつれて多くなっている。

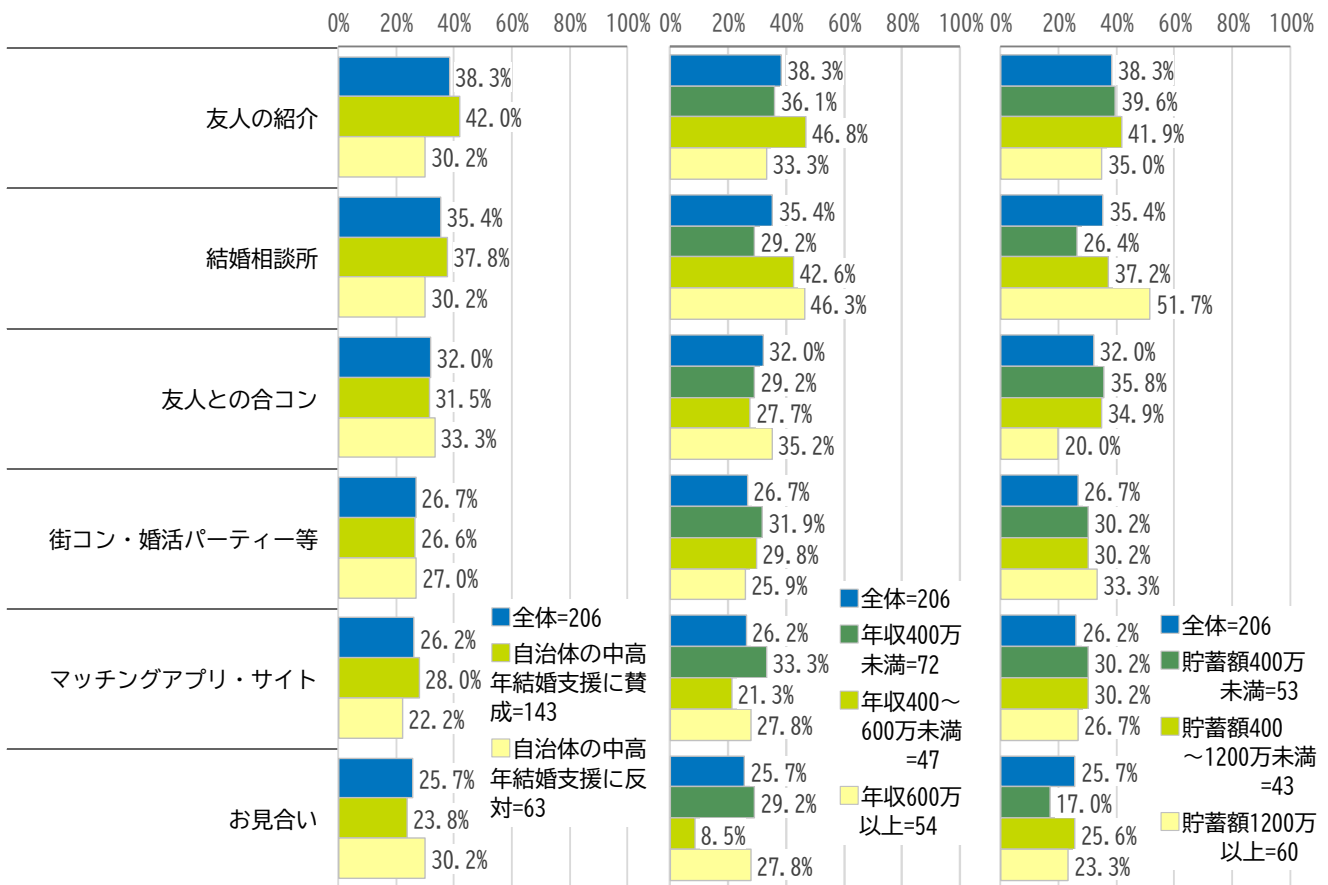
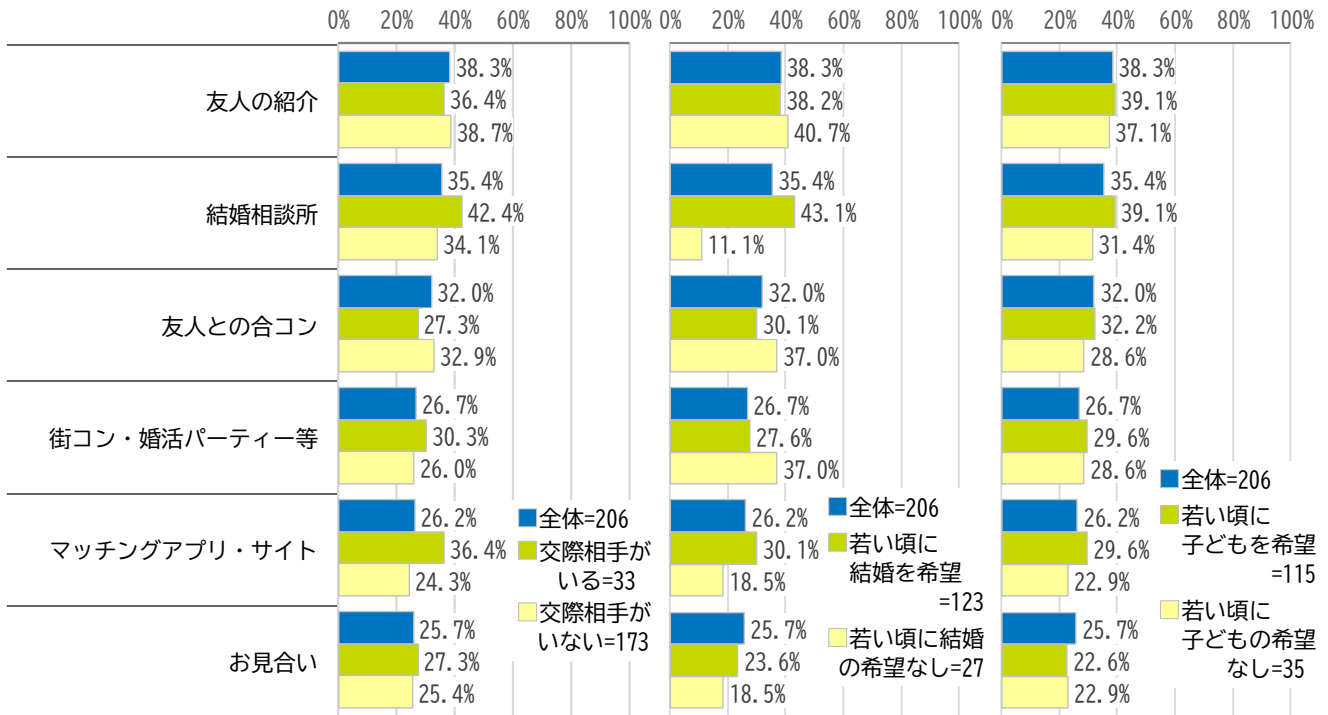
若い頃に結婚を希望していた人は、「結婚相談所」(43.1%)が最も多く、「友人の紹介」(38.2%)、「友人との合コン」(30.1%)、「マッチングアプリ・サイト」(30.1%)と続いている。

年収や貯蓄額が高くなるにつれて、「結婚相談所」の利用者が増える傾向が見られる。

図表2.4.4.1. 婚活内容(複数選択)



※ 選択肢「行政主催などの公的な結婚支援事業に参加」「その他恋活・婚活関係の出会い(趣味(習い事、サークル活動、SNS、ゲームなど)の集まりでの恋活・婚活等)」の選択は、5%に満たなかった。  
 ※ その他恋活・婚活関係の出会いには「SNSの趣味の交流会」などがあつた。



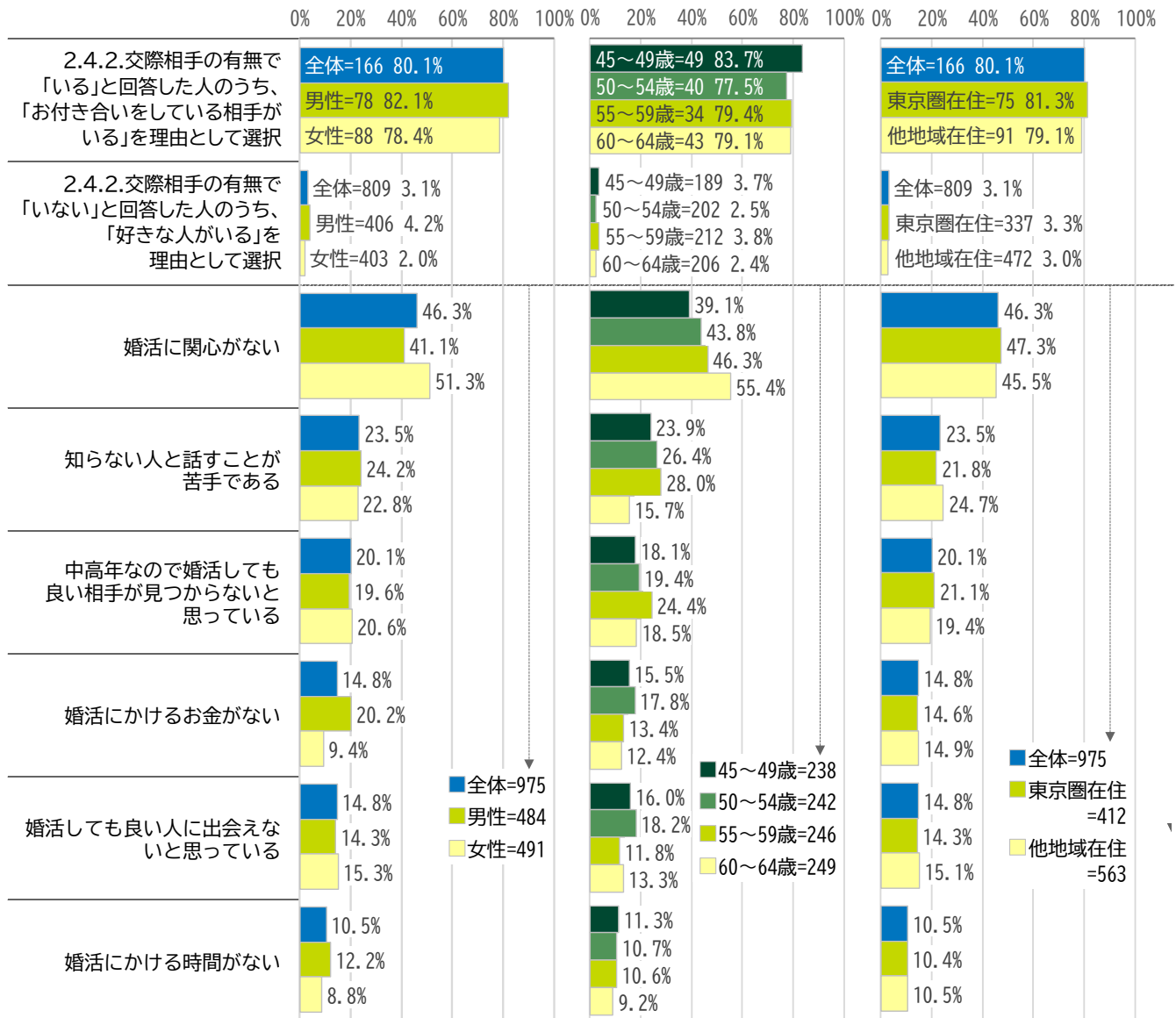
2.4.4.2. 現在、婚活をしていない理由

2.4.4で「現在婚活をしていない」を選択した回答者に、理由を尋ねたところ、全体としては「婚活に関心がない」(46.3%)が最も多く、「知らない人と話すことが苦手である」(23.5%)、「中高年なので婚活しても良い相手が見つからないと思っている」(20.1%)と続いている。

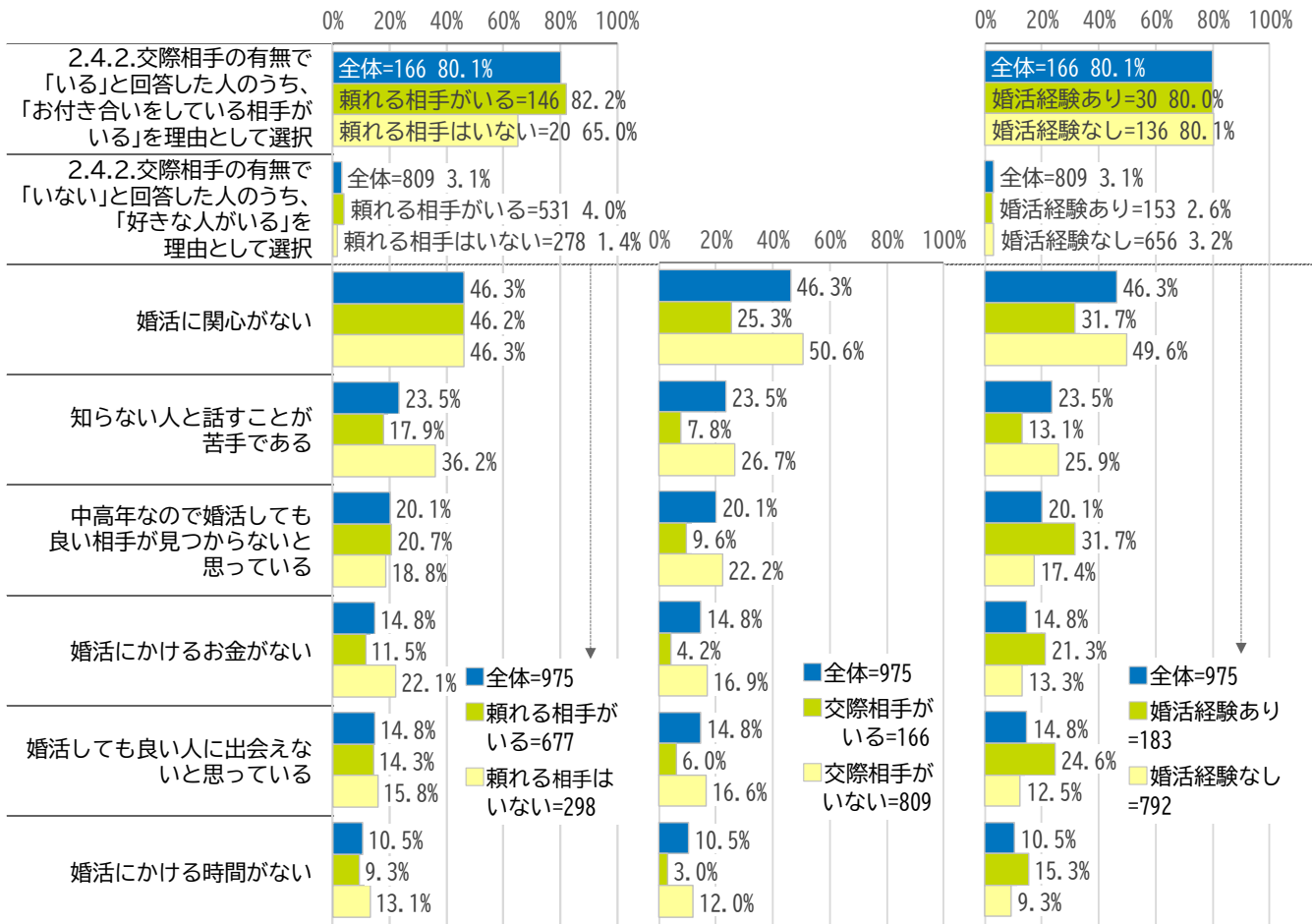
年齢別には、年齢が高くなるに従って、「婚活に関心がない」人が増える傾向が見られる。

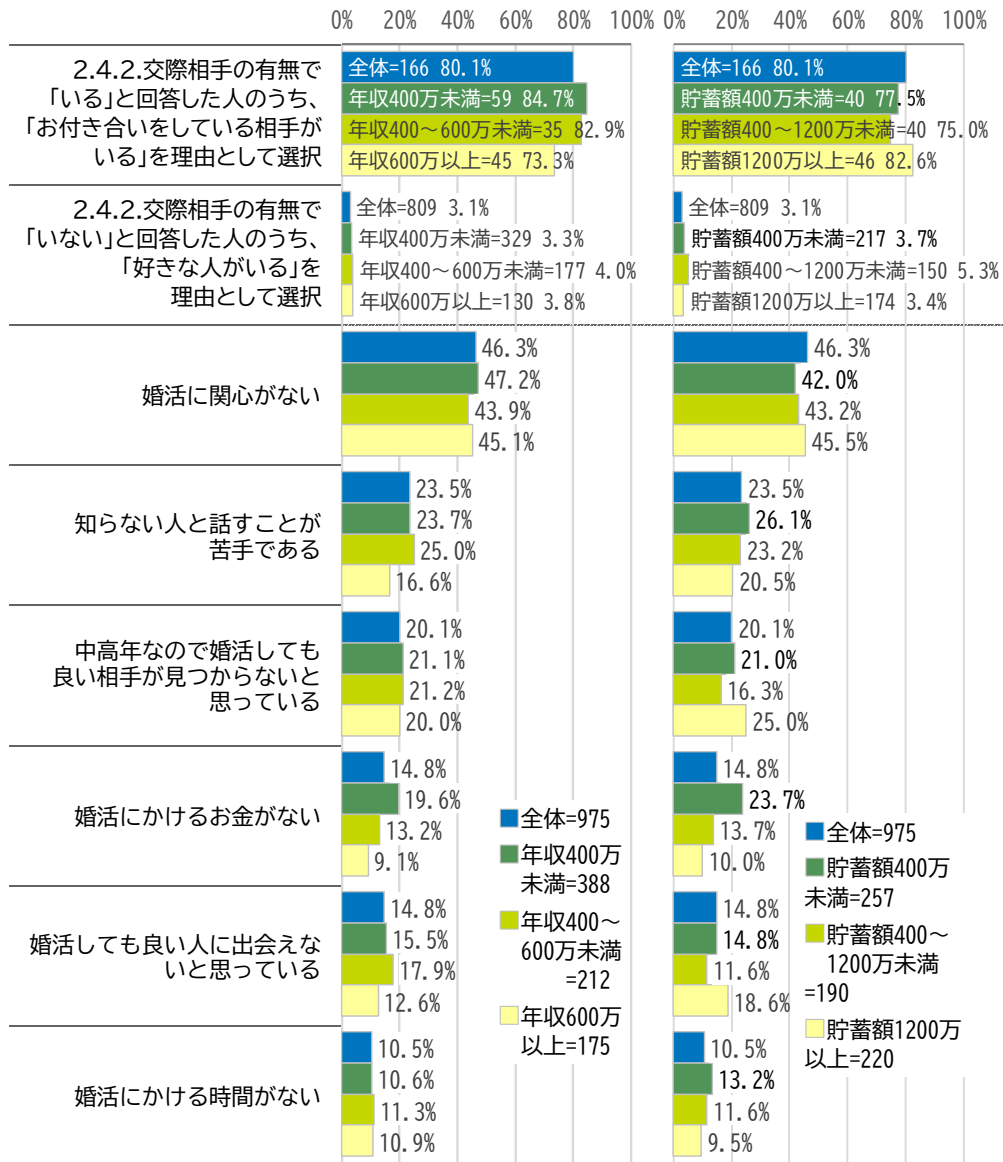
頼れる相手がいる人と、頼れる相手がない人を比べると、いずれも「婚活に関心がない」が最も多いものの、次に多いのが、頼れる相手がいる人は「中高年なので婚活しても良い相手が見つからないと思っている」(20.7%)に対して、頼れる相手がない人は「知らない人と話すことが苦手である」(36.2%)となっている。

図表2.4.4.2. 現在、婚活をしていない理由(複数選択)



※ 選択肢「婚活をして傷つきたくない」「婚活をすることが恥ずかしい」「親戚から婚活することに反対されている」「その他」の選択は、5%に満たなかった。  
 ※ その他には「母親の介護」「家庭の事情」「自分が結婚するに値する人間ではないので」「面倒」「何となく」「一人が幸せと感じる」「結婚する気がない」「結婚願望のある人と関わり合いたくない」などがあつた。





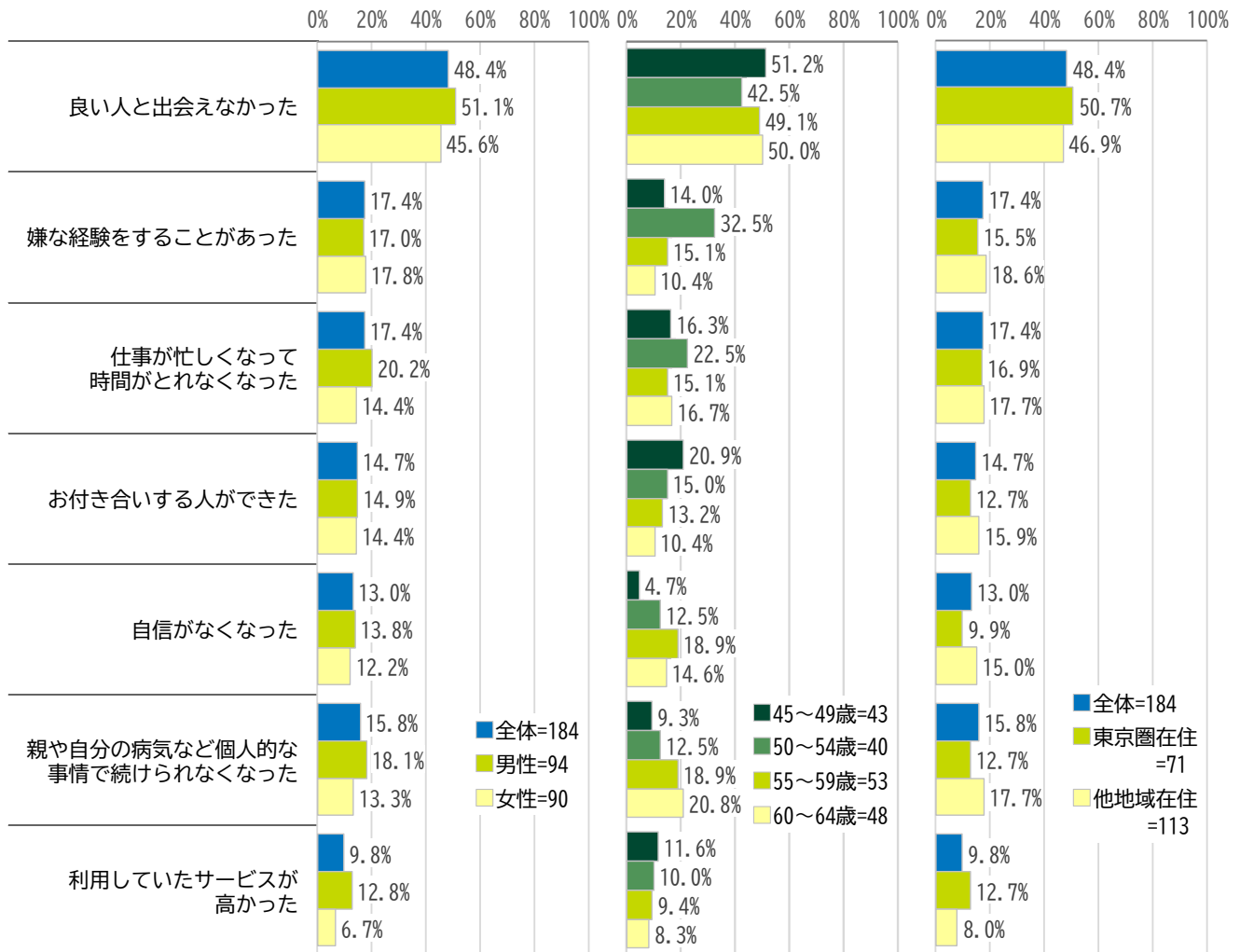
2.4.4.3. 婚活をやめた理由

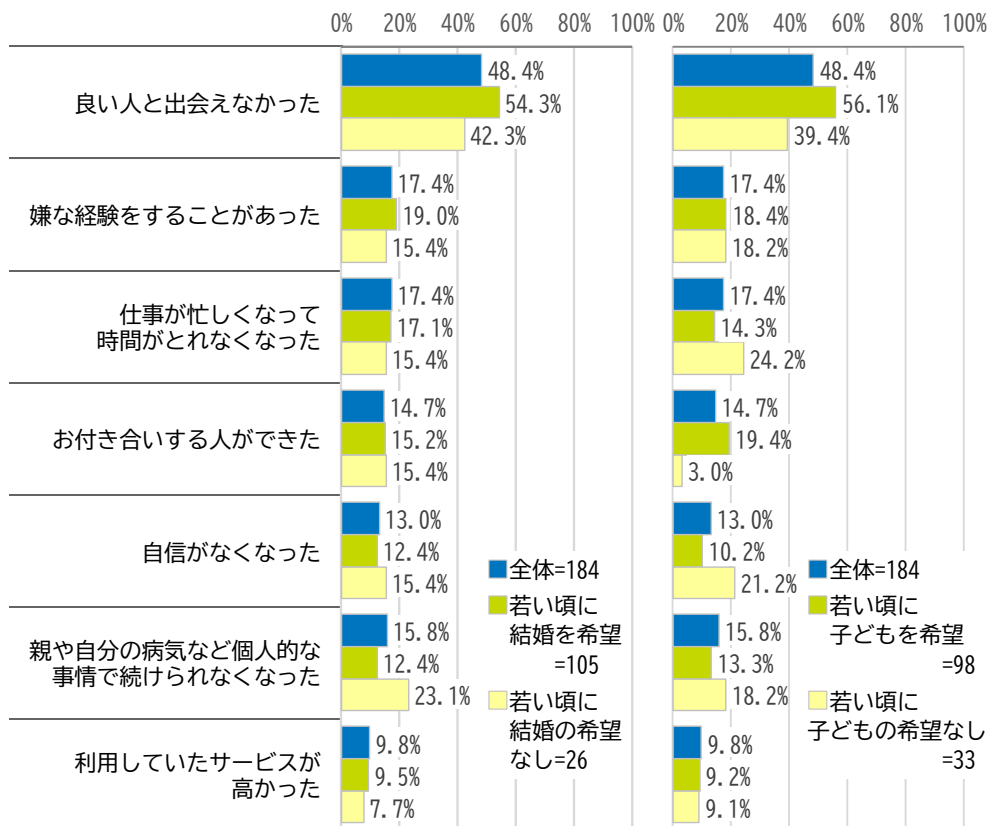
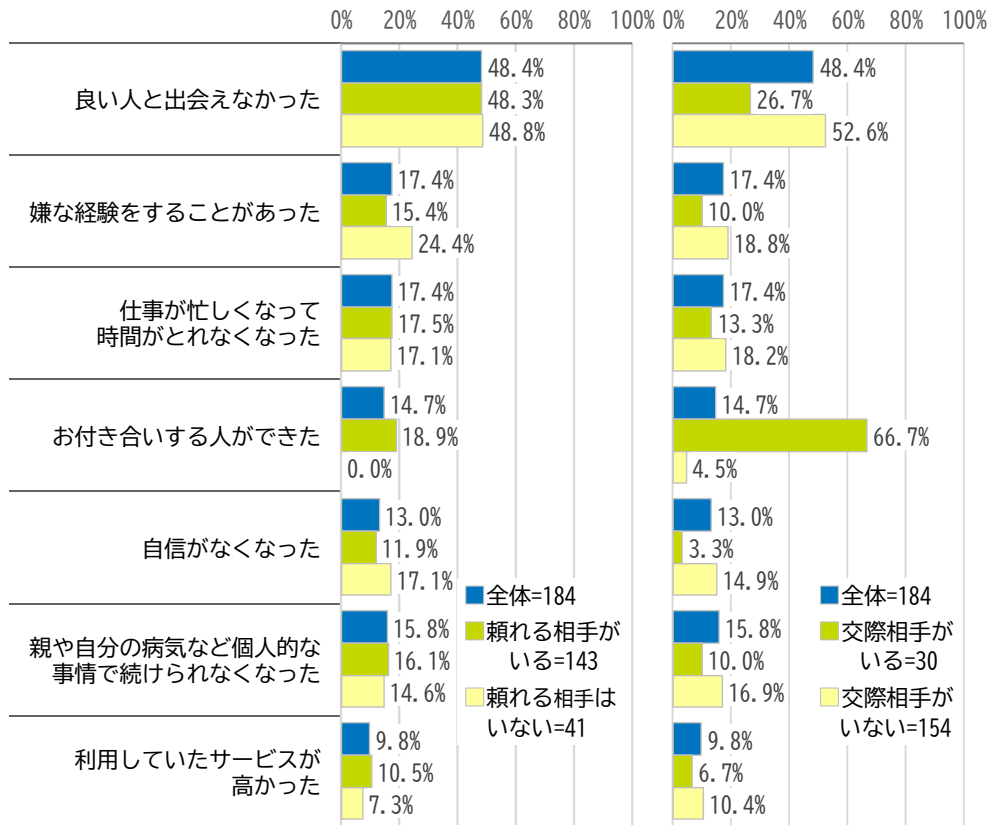
2.4.4で「過去に婚活をしていたけれど、現在婚活をしていない」を選択した回答者に、やめてしまった理由を尋ねたところ、全体としては、「良い人と出会えなかった」(48.4%)が最も多く、約半数に上る。男女別に見てもこの傾向は変わらない。

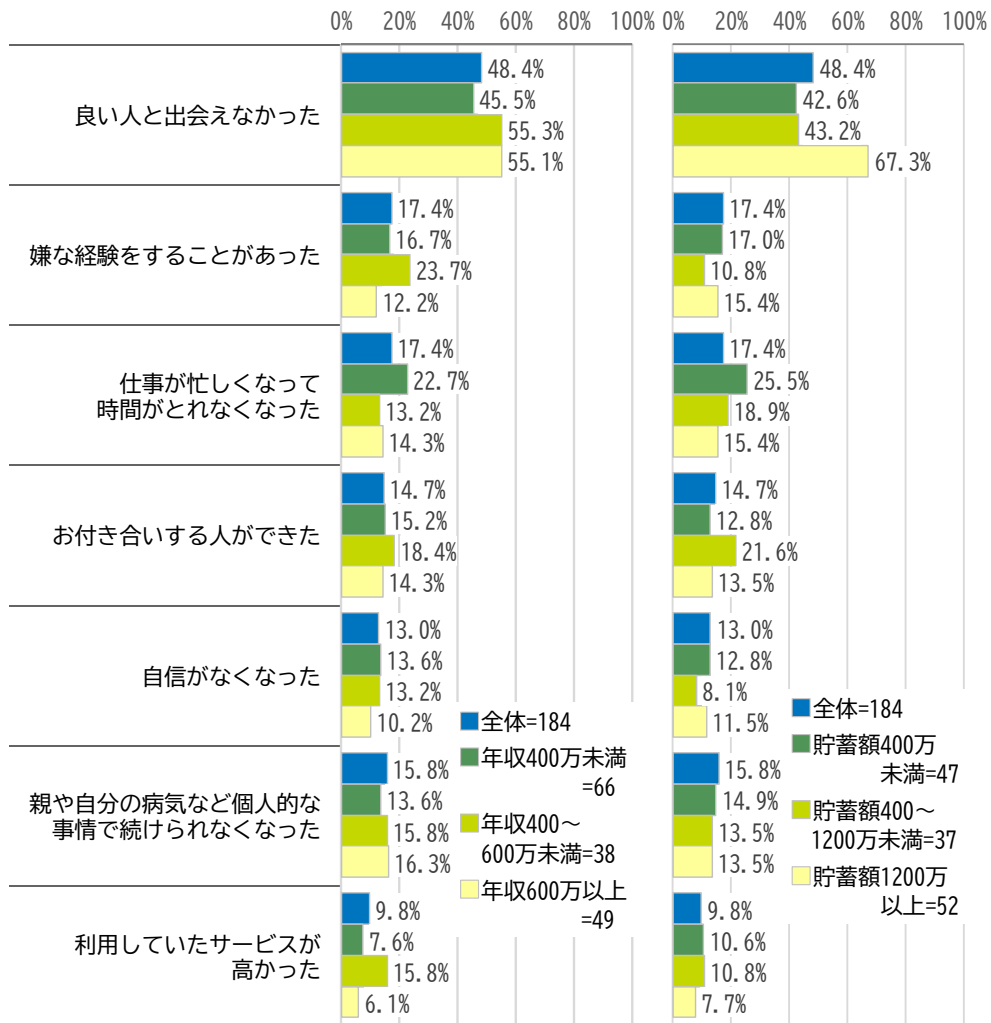
年齢別に見てみると、年齢が高くなるにつれて「お付き合いする人ができた」という回答は減り、「親や自分の病気など個人的な事情で続けられなくなった」という回答は年齢が高くなるに増えている。

若い頃に結婚や子どもを希望していた人においては、「良い人と出会えなかった」が半数を超えている。

図表2.4.4.3. 婚活をやめた理由(複数選択)









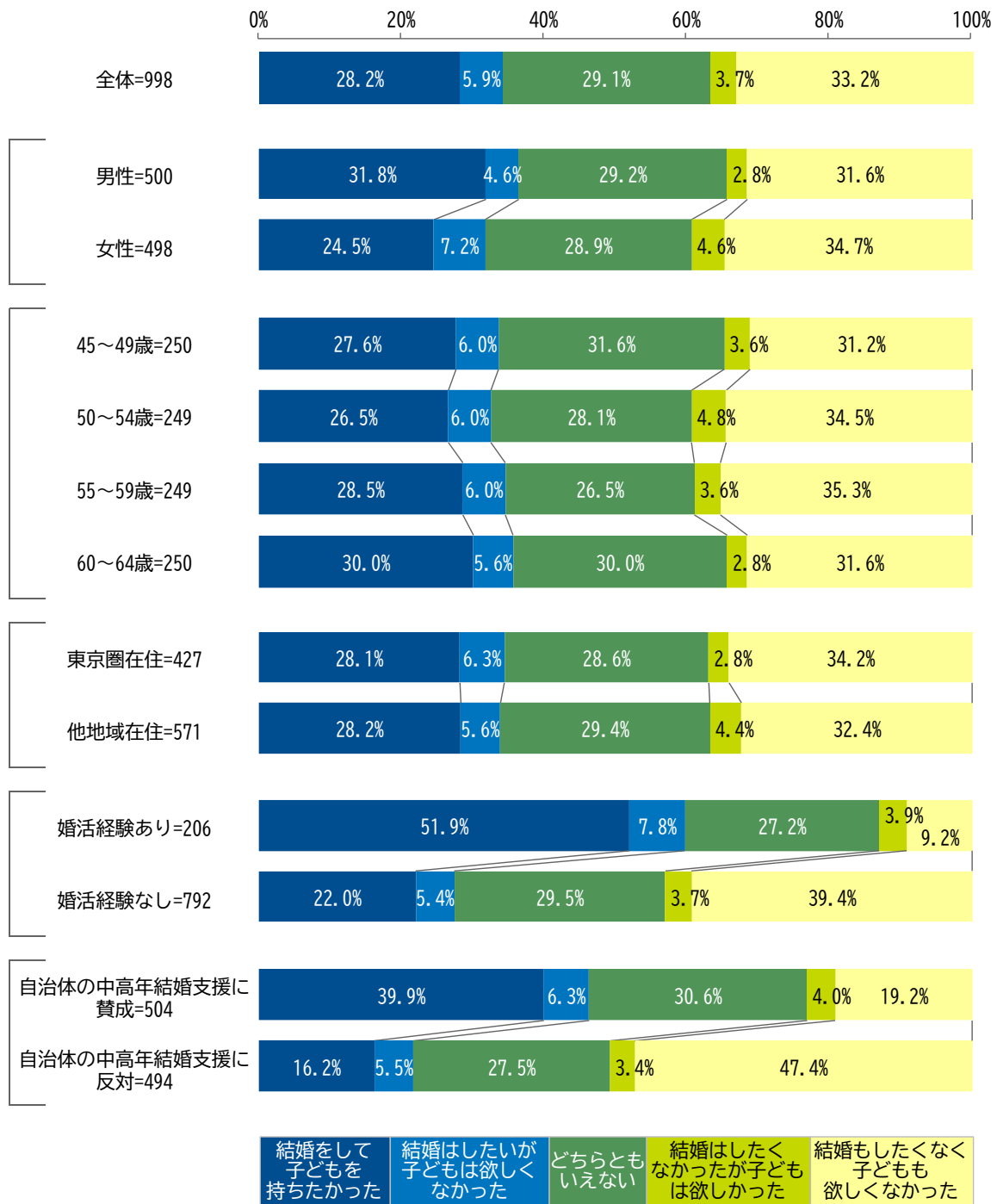
### 2.4.5. 若い頃の結婚と子どもの希望

若い頃、結婚や子どもを持つことへの希望をもっていか尋ねたところ、全体としては「結婚もしたくなく子どもも欲しくなかった」(33.2%)が最も多く、「どちらともいえない」(29.1%)、「結婚をして子どもを持ちたかった」(28.2%)と続いている。「結婚はしたいが子どもは欲しくなかった」(5.9%)は1割未満である。

婚活経験ありの人は、「結婚をして子どもを持ちたかった」(51.9%)が最も多く、約半数に上る。

自治体の中高年結婚支援に賛成している人のうち、「結婚をして子どもを持ちたかった」(39.9%)が最も多く、約4割に上る。

図表2.4.5. 若い頃の結婚と子どもの希望(単一選択)



### 2.4.6. 結婚しなかった理由

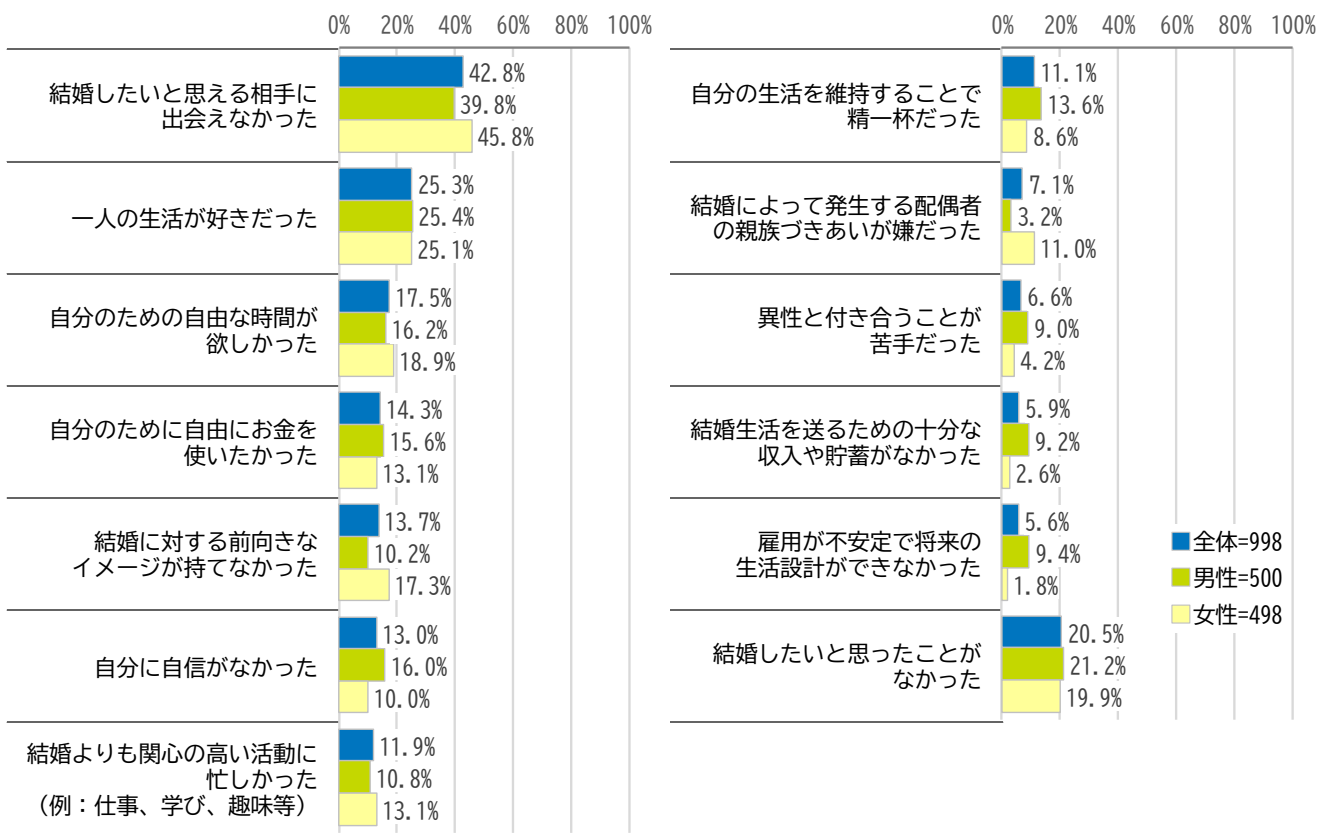
今まで結婚しなかった理由を尋ねたところ、全体として「結婚したいと思える相手に出会えなかった」(42.8%)が最も多く、「一人の生活が好きだった」(25.3%)、「自分のための自由な時間が欲しかった」(17.5%)と続いている。男女別で比べても、この傾向は変わらない。

住まい別に見ると、「結婚したいと思える相手に出会えなかった」が最も多いことには変わりはないものの、「一人の生活が好きだった」という回答は、他地域在住(21.7%)に比べて、東京圏在住(30.0%)はやや多くなっている。

婚活経験の有無別で比べると、婚活経験ありの人が結婚しなかった理由としては、「結婚したいと思える相手に出会えなかった」(58.7%)が最も多く、約6割に上る。

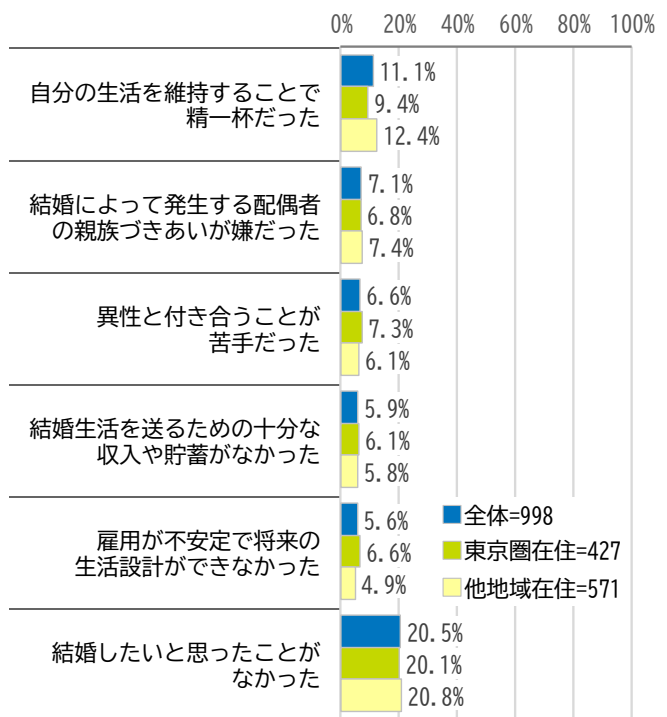
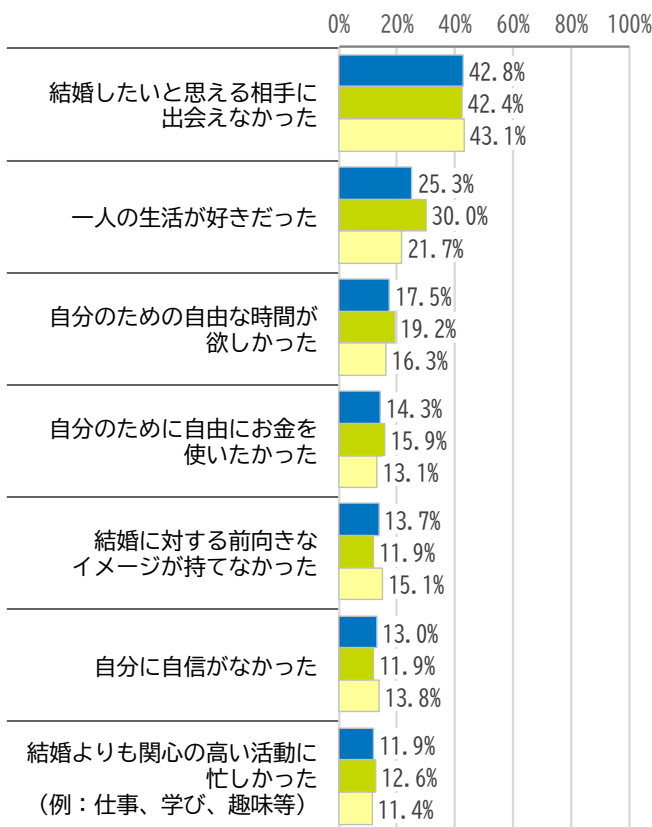
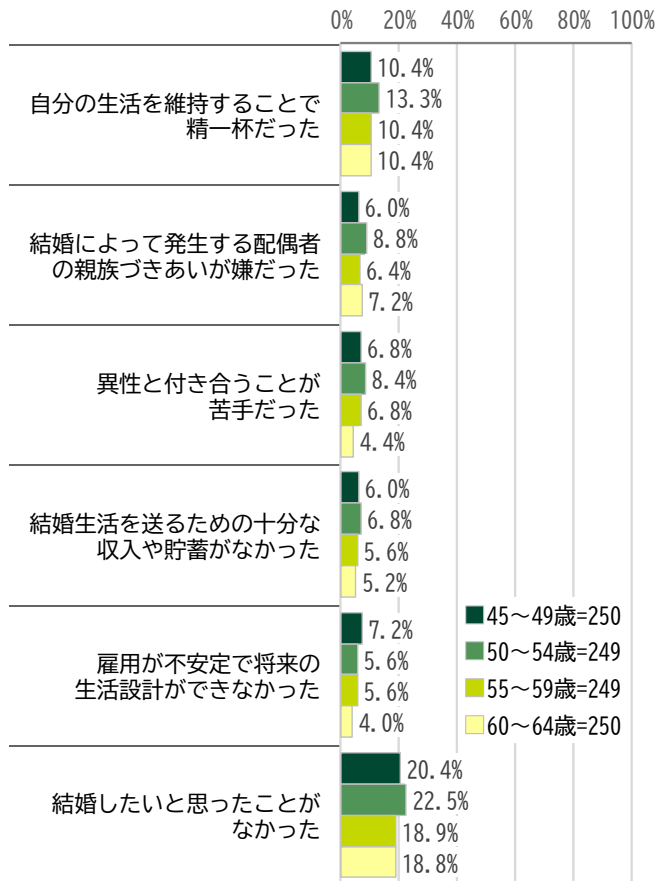
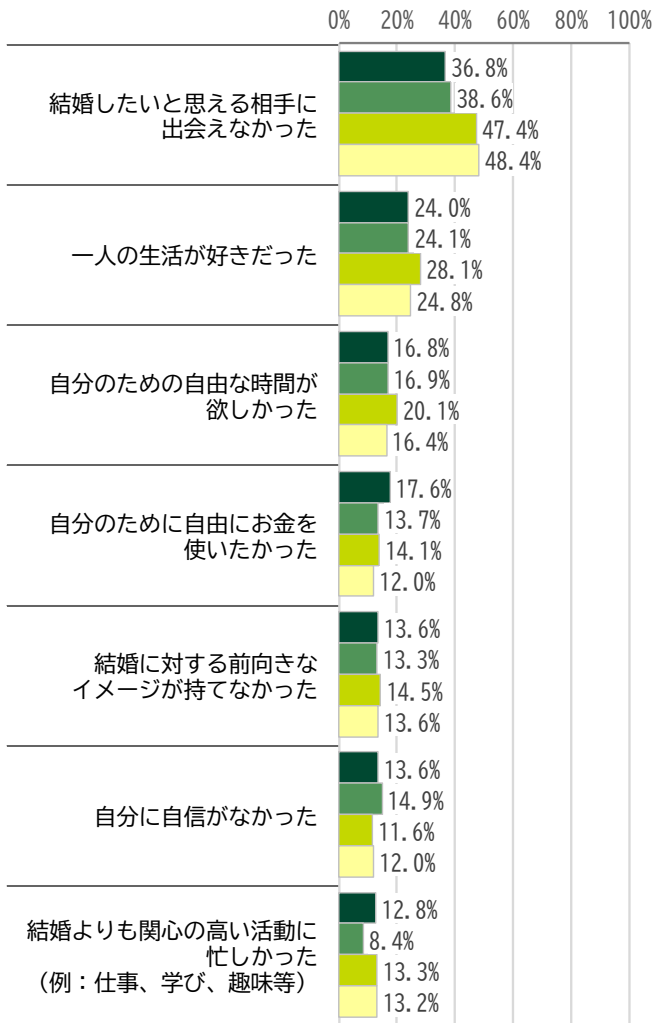
若い頃に結婚や子どもを持つことを希望していた人においては、「結婚したいと思える相手に出会えなかった」が最も多い。一方、希望していなかった人においては、「一人の生活が好きだった」という回答が最も多い。

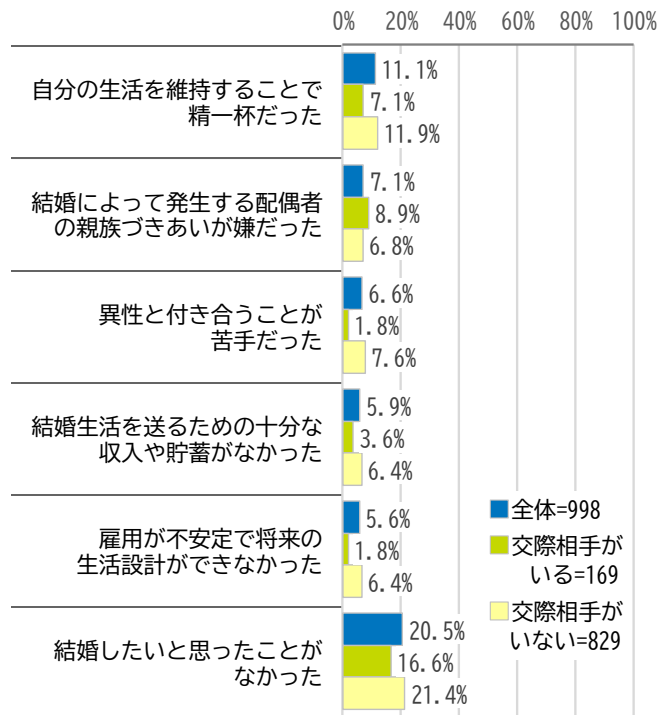
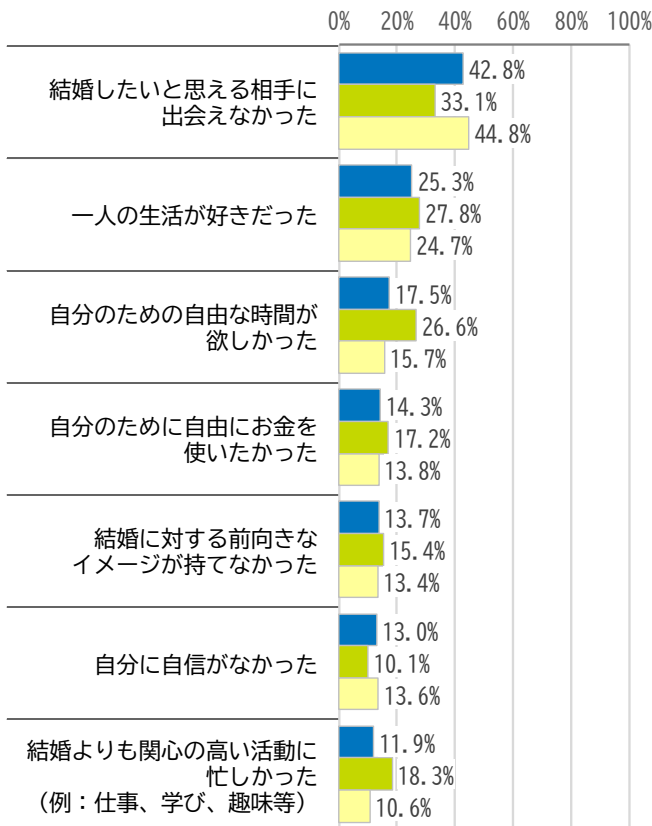
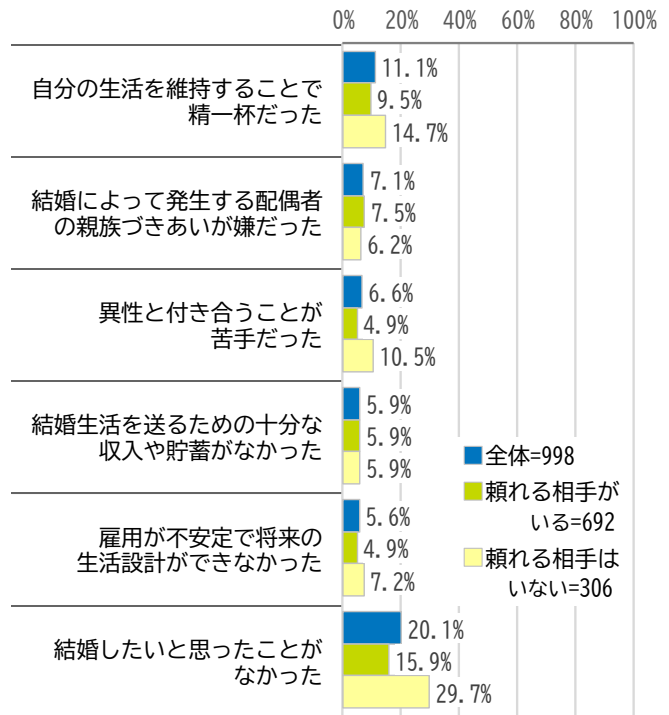
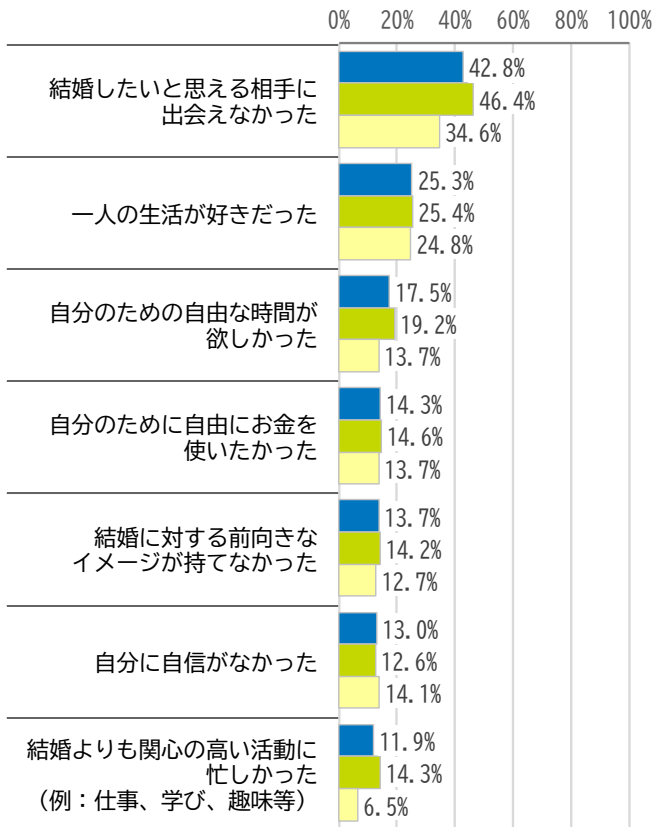
図表2.4.6. 結婚しなかった理由(複数選択)

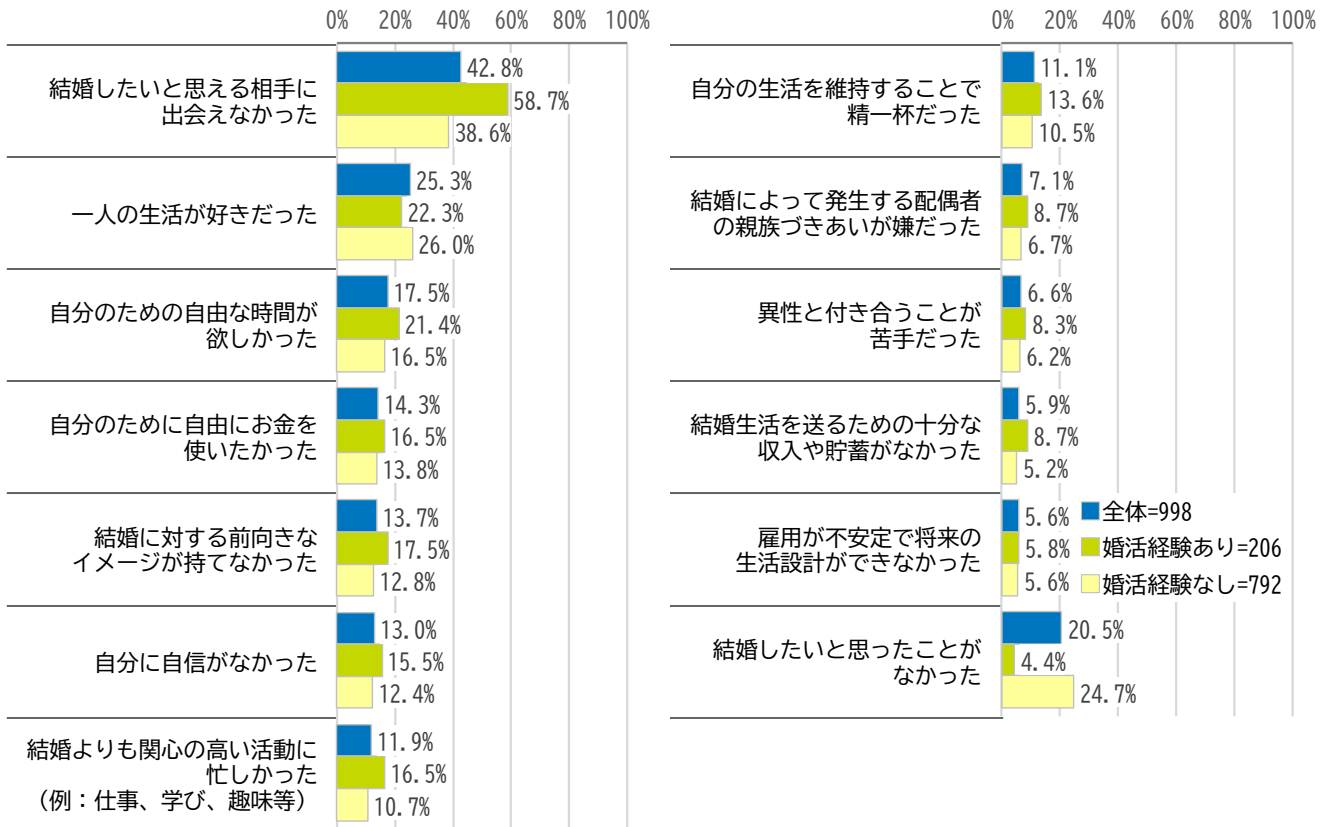


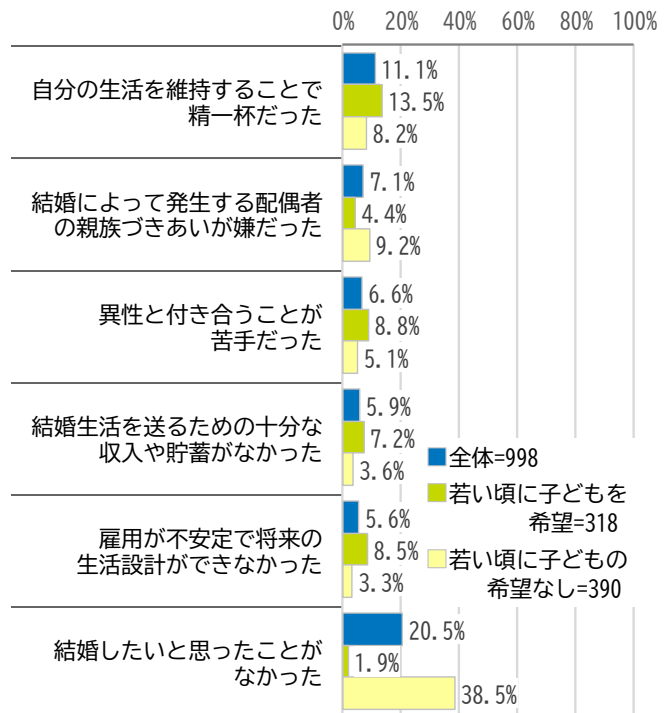
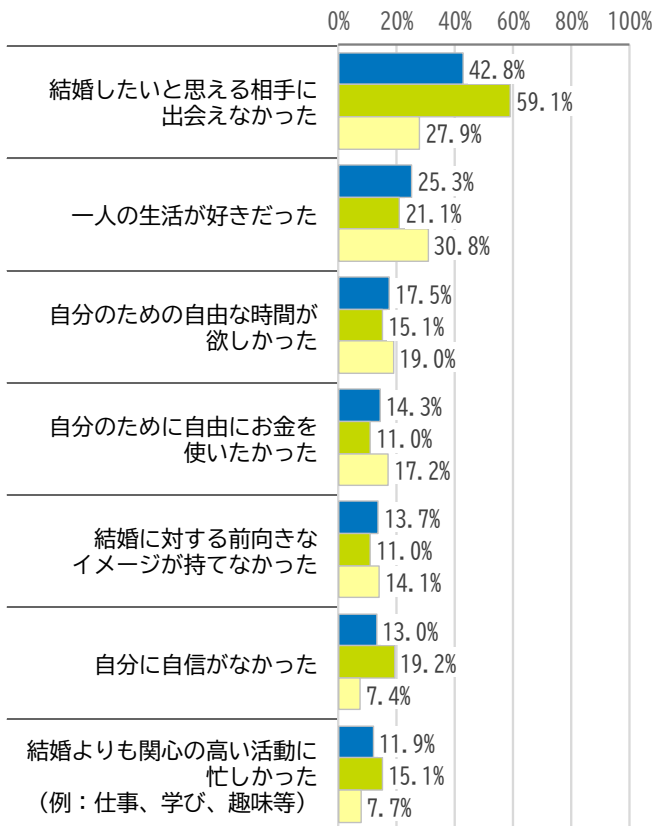
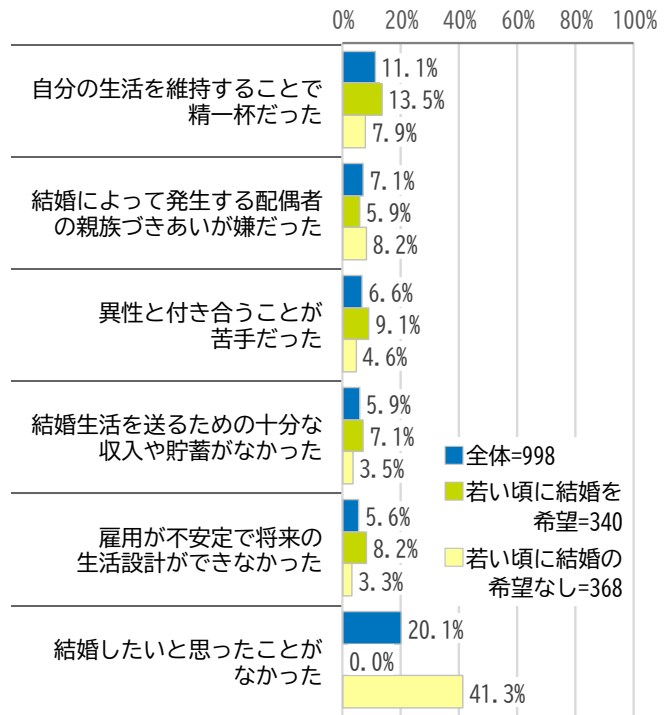
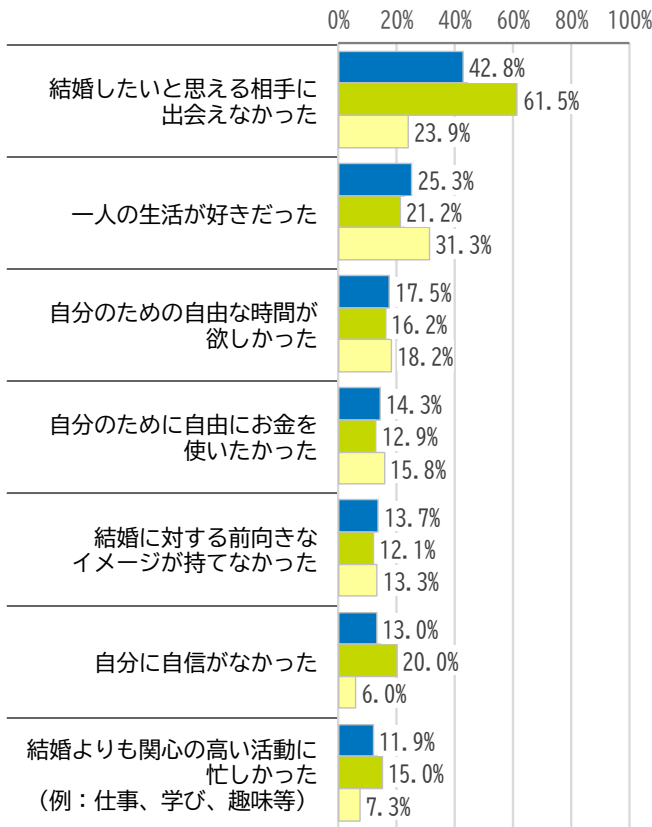
※ 選択肢「結婚後、育児・家事の負担が増えるのが嫌だった」「社会・経済環境を考えると、結婚や子どもを持つことはリスクだと感じた」「配偶者及び子どものいる結婚生活に魅力を感じなかった」「子どもを持つことによって発生する親同士の付き合いが嫌だった」「配偶者は欲しかったが、子どもを持ちたくなかった」「周囲から結婚することを強く求められ、結婚することが嫌になった」「結婚をすると仕事が続けづらい職場環境で働いていた」「他の人と自由に恋愛できなくなるのが嫌だった」「結婚することに親族が反対をしていた」「出産をすると仕事が続けづらい職場環境で働いていた」「親族から求められている条件(例:二世帯住宅で住む)に当てはまる相手を見つけることが難しかった」「結婚後も働き続けることを認めてくれる相手を見つけることが難しかった」「その他」の選択は、5%に満たなかった。

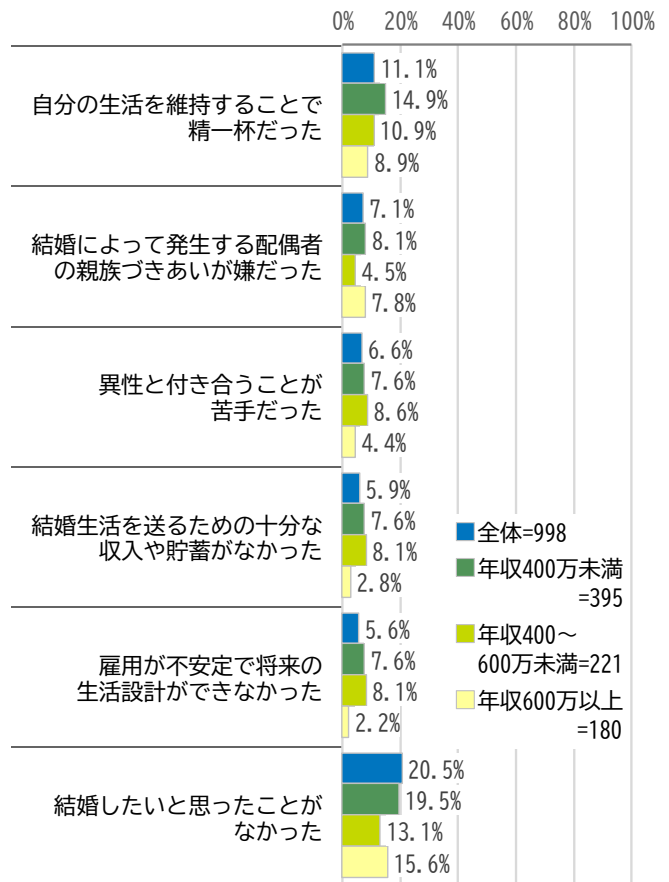
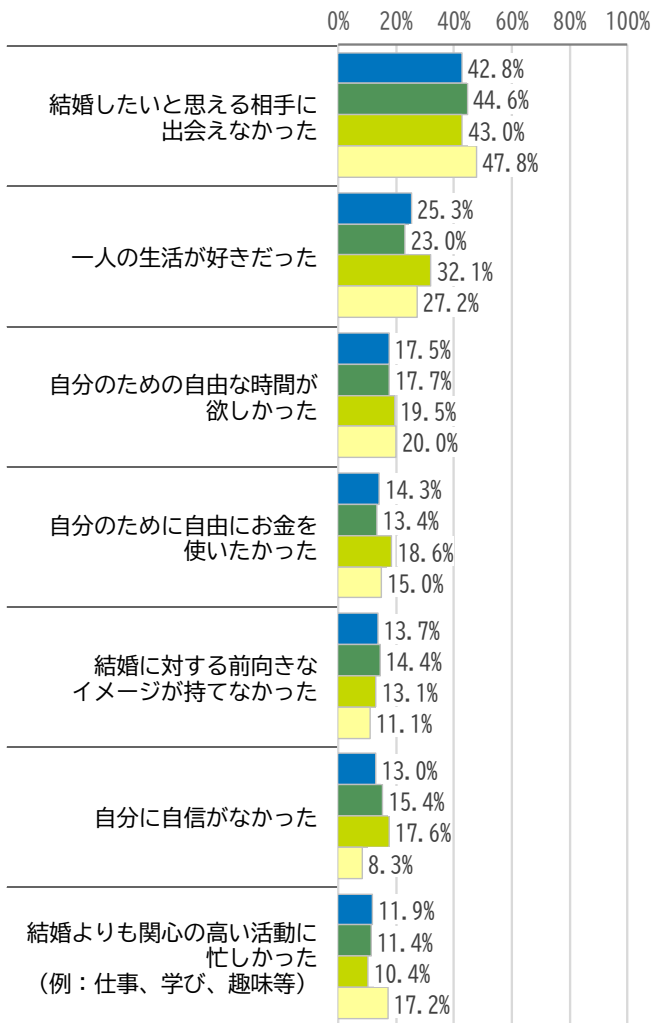
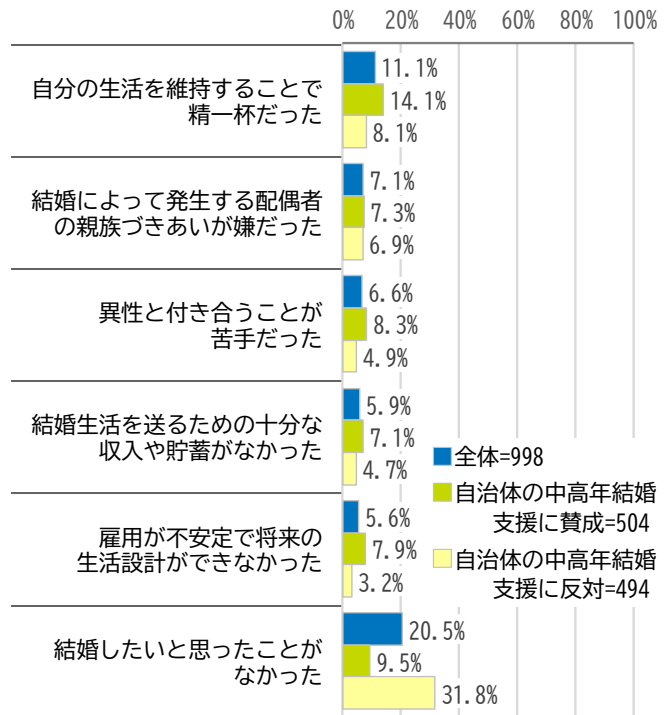
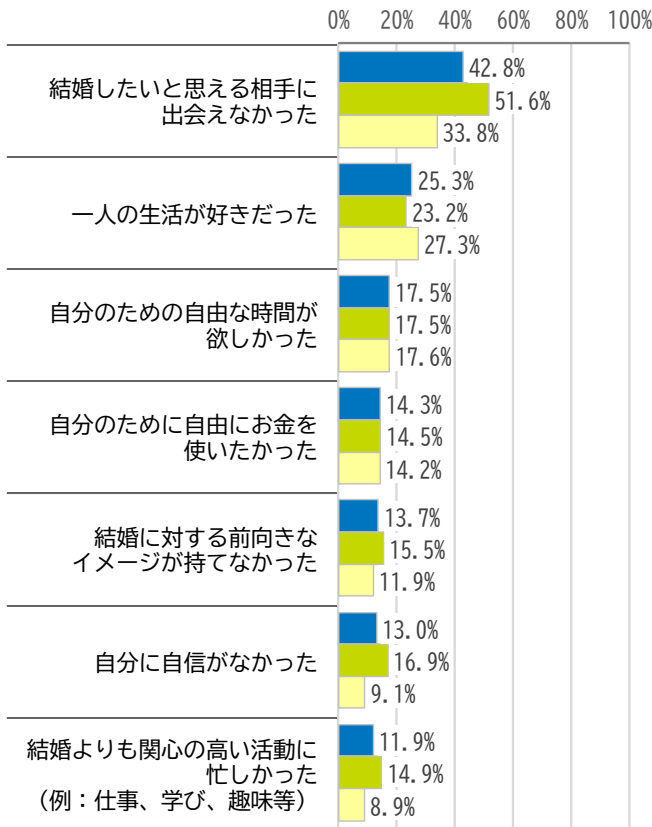
※ その他には「こりた」「介護をしていた」「家庭の事情」「子供が産めないから。」「健康問題」「なんとなく」などがあつた。

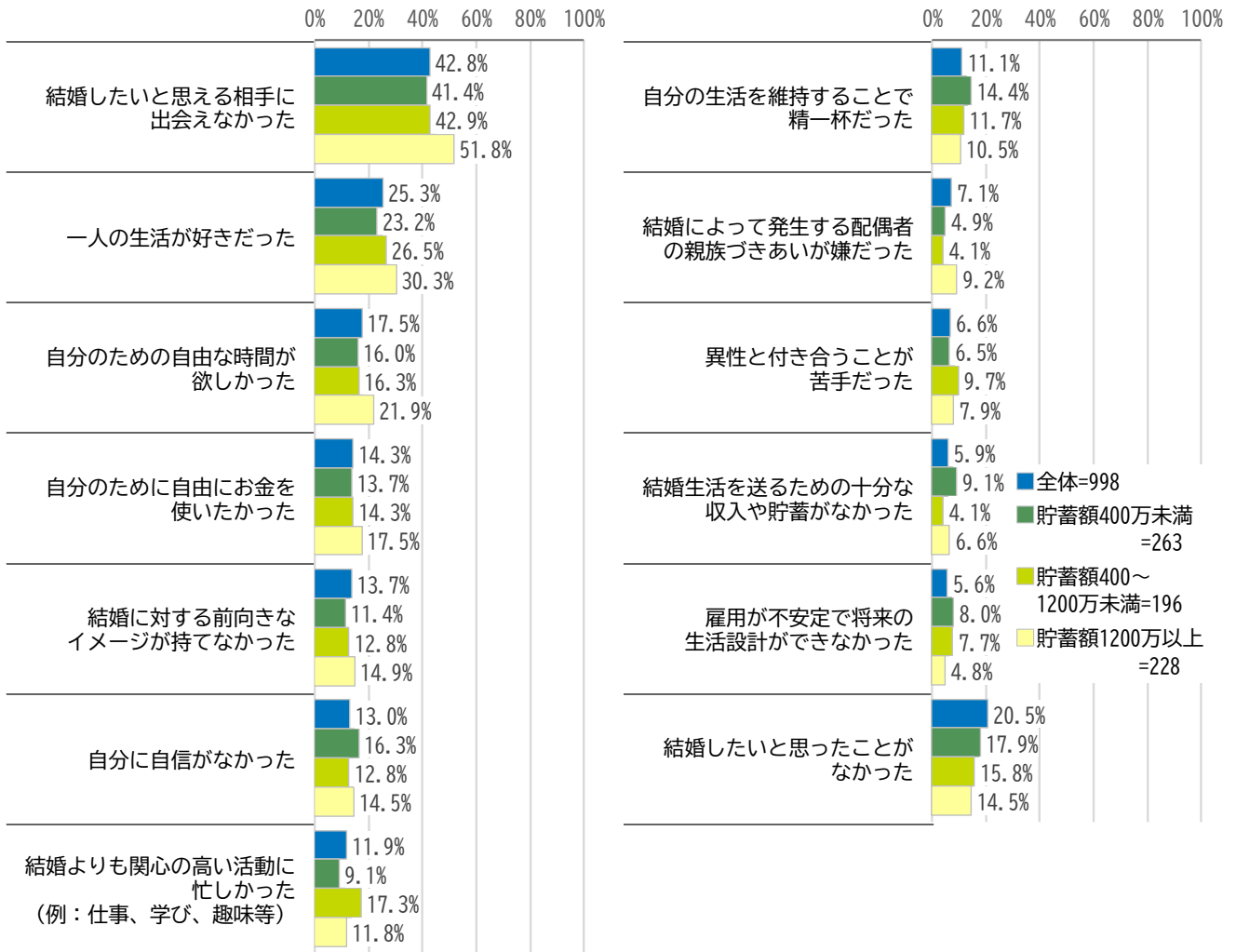












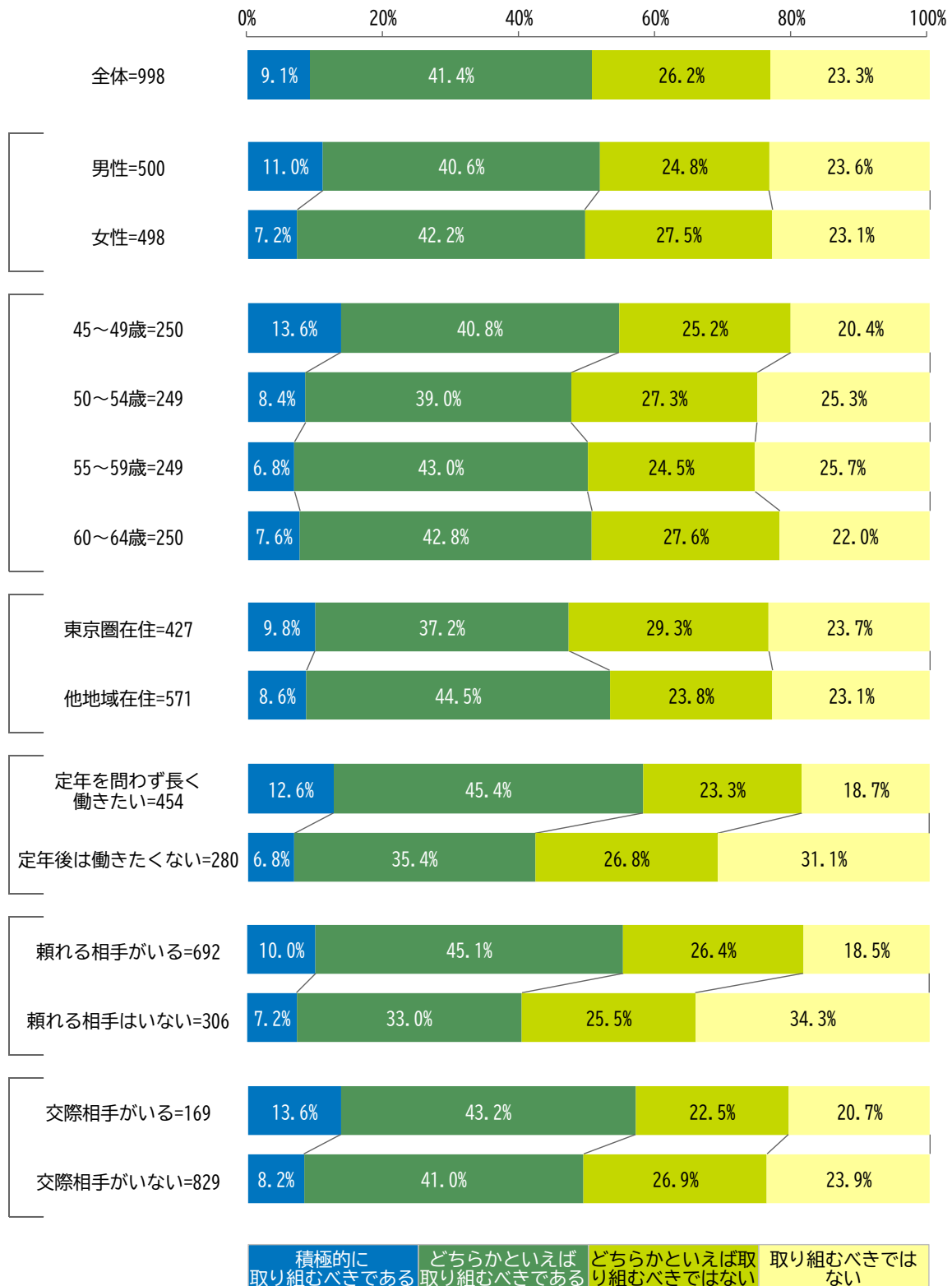


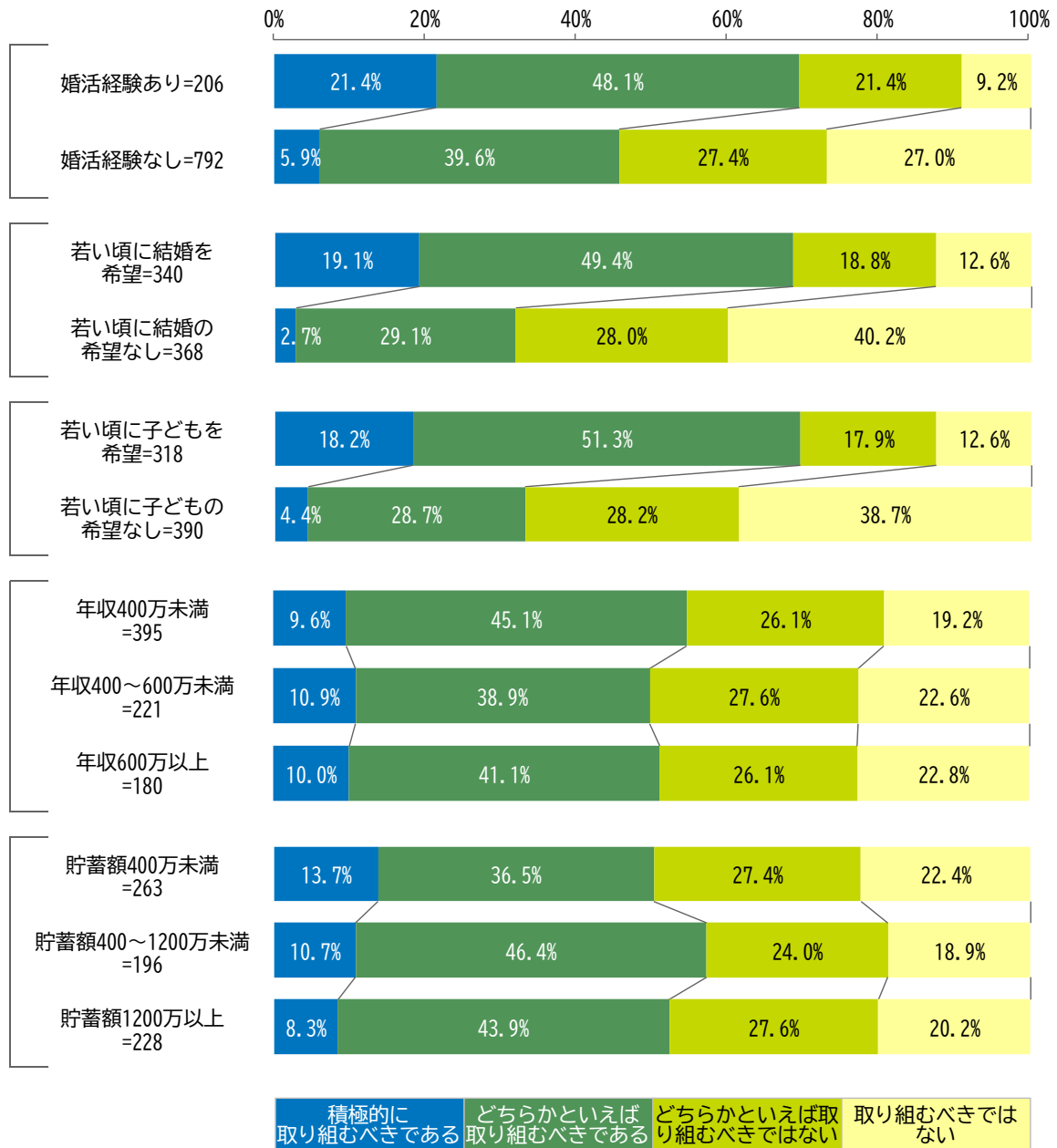
### 2.4.7. 自治体による中高年対象の結婚等支援事業への賛否

結婚やパートナー探しを支援する施策(事業)を中高年に対して、都道府県や市町村が取り組むべきか尋ねたところ、全体として約半数が賛成(「積極的に取り組むべきである」、「どちらかといえば取り組むべきである」と回答している)。

住まい別では、東京圏在住(47.1%)に比べて、他地域在住(53.1%)の方が賛成をしている人がやや多い。若い頃に結婚や子どもを持つことを希望していた人においては、7割近くの人が賛成をしている。

図表2.4.7. 自治体による中高年対象の結婚等支援事業への賛否(単一選択)

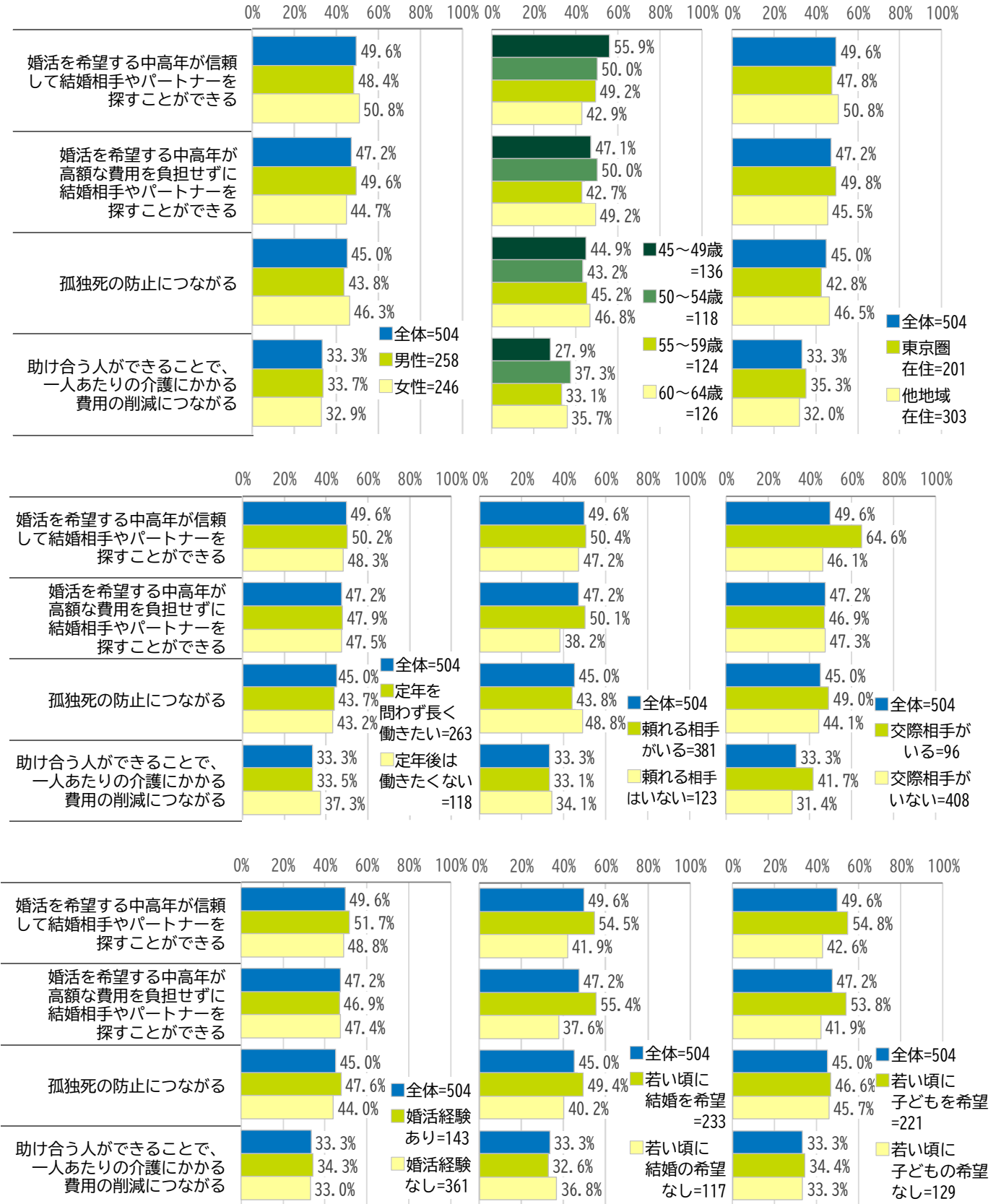


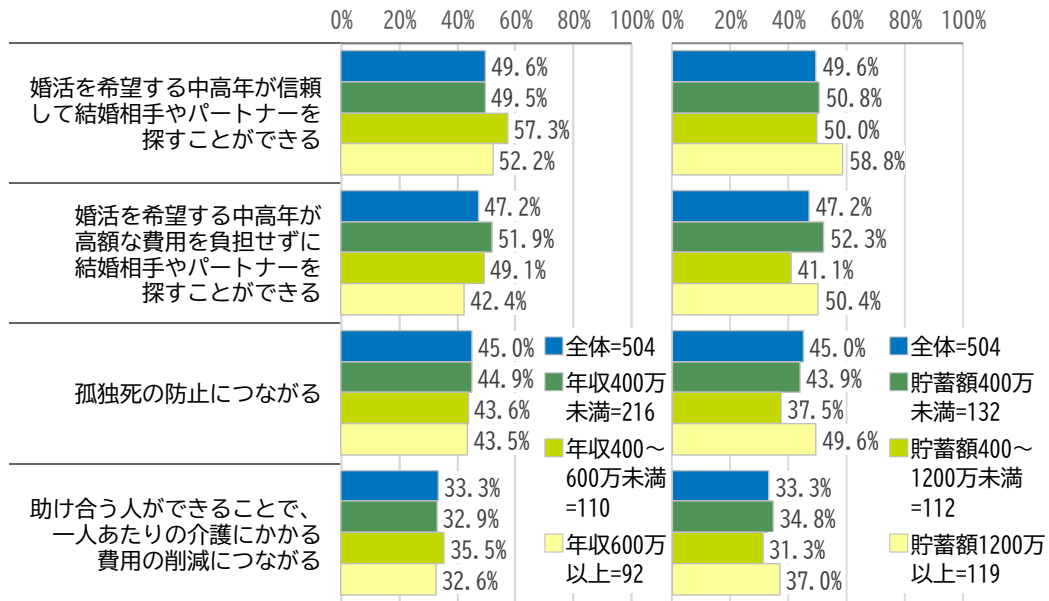


2.4.7.1. 自治体による中高年対象の結婚等支援事業に賛成する理由

2.4.7で「自治体が中高年を対象とした結婚等支援事業に取り組むべき」「どちらかというに取り組むべき」を選択した回答者に、理由を尋ねたところ、「婚活を希望する中高年が信頼して結婚相手やパートナーを探すことができる」(49.6%)が最も多いが、「孤独死の防止につながる」(45.0%)も半数近い回答となっている。

図表2.4.7.1. 自治体による中高年対象の結婚等支援事業に賛成する理由(複数選択)





#### 2.4.8. 婚活に対する意見やエピソード

婚活に対するご意見やエピソードを、自由記述で回答を依頼したところ、以下の回答を得た。

人それぞれ・押し付けなくて欲しい(一部抜粋) 同様回答38件

- 個人の自由意志に任せるのが一番だと思います(50代前半・女性)
- 少子化の問題があり、結婚しないといけない風潮が昔からあるが、個人の自由や希望がそれぞれ違うので、独身であっても社会的に認めて欲しい。(40代後半・女性)
- 本人にやる気がなければ周りが騒いでも仕方ない(50代前半・男性)

婚活に肯定的(一部抜粋) 同様回答29件

- 孤独に陥りがちな世代を国行政が支えるのは、有意義に思う。(50代前半・男性)
- 出会いを作る場を多く作っていただければありがたいです(40代後半・男性)
- 積極的にやらなければ高齢化が進む(50代後半・男性)

興味なし(一部抜粋) 同様回答28件

- 婚活はやらなかったし、興味もなかった(60代前半・男性)
- どんな年齢層であれ、結婚に関しての支援を必要とする人はいるだろう。私は興味が無いので、それぞれ都合のいいようにやってくれればいい。私に必要なのは終活であって、婚活ではない。(60代前半・男性)

難しい・出会えない(一部抜粋) 同様回答26件

- いい人にはなかなか出会えない(50代後半・男性)
- つきあうまで行かない(40代後半・男性)
- もっと気軽に参加できるとよい(40代後半・女性)

良い思い出がない(一部抜粋) 同様回答19件

- 結婚相談所が、男性に若い女性を妊娠のために見つけるべきとアドバイスすること、風潮があり、45歳で試し登録をしたところ、年齢差別のようなとても嫌な思いをさせられた。(40代後半・女性)
- 婚活は精神的に疲れるのもう二度とやりたくない(50代前半・女性)

信用できない(一部抜粋) 同様回答16件

- 詐欺もあるので、見極めも大切(50代後半・女性)
- 婚活をした事が無いし、周りでも知る限りした事のある人が居ないので特にエピソード等がありません。ただ、結婚詐欺とか余り良いイメージが無いです。(60代前半・女性)

結婚願望がない(一部抜粋) 同様回答15件

- 結婚の意味をみいだせないなので婚活していない。(50代後半・女性)
- 特にない。それと心底結婚や相手を特に求めている人間がいることを人間として認めてほしい。(50代後半・女性)

年齢的に遅い(一部抜粋) 同様回答12件

- 今の年齢では自分には無縁だと思っている。(60代前半・女性)

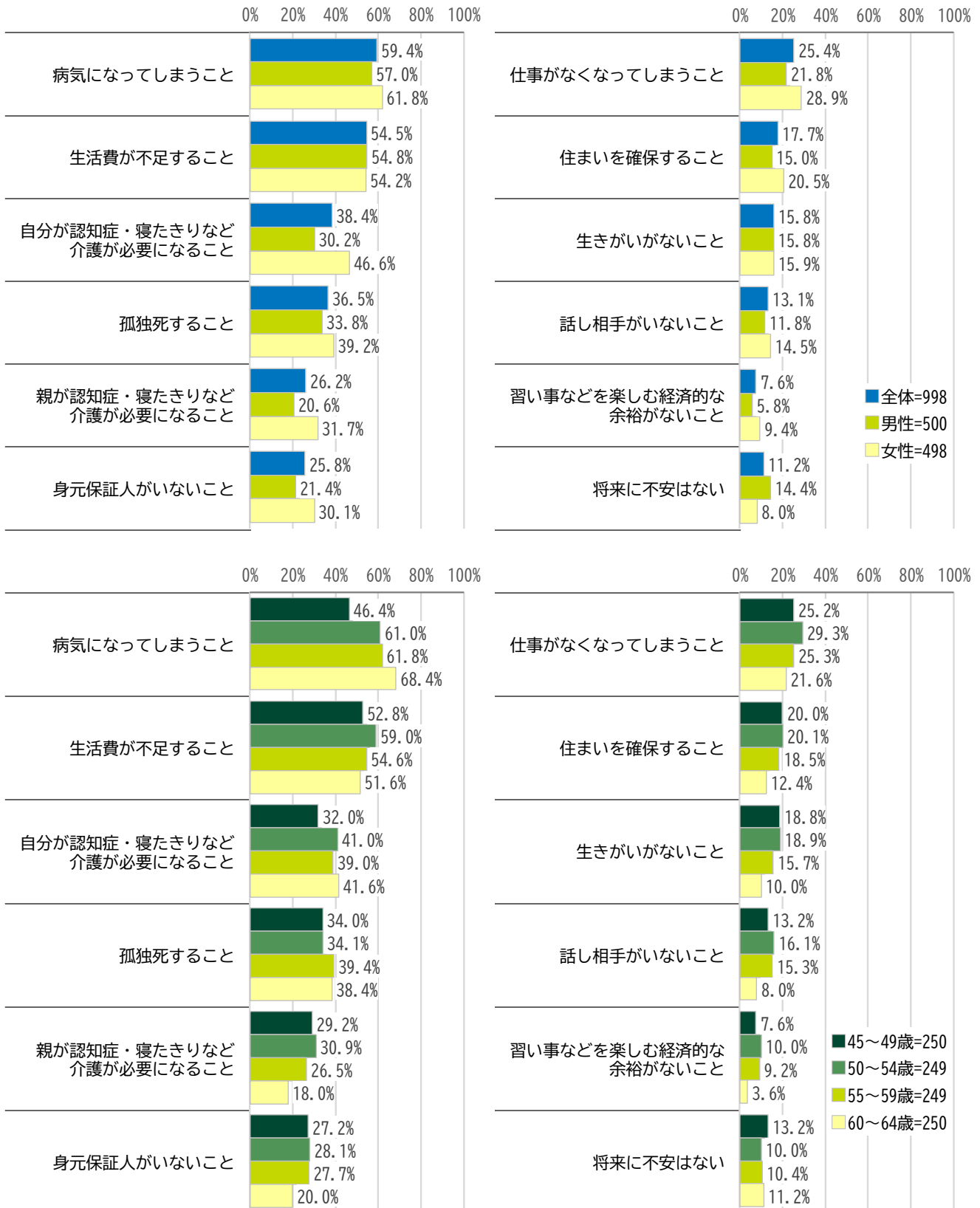
その他の主な回答

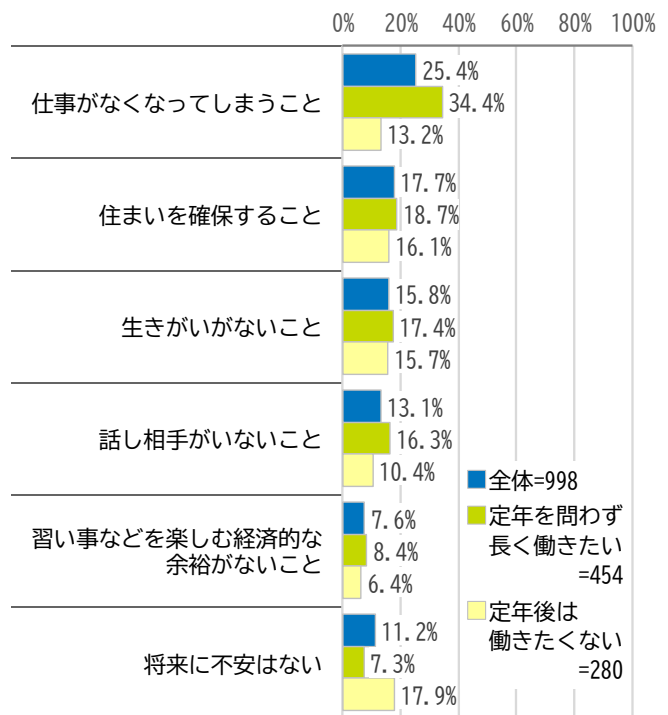
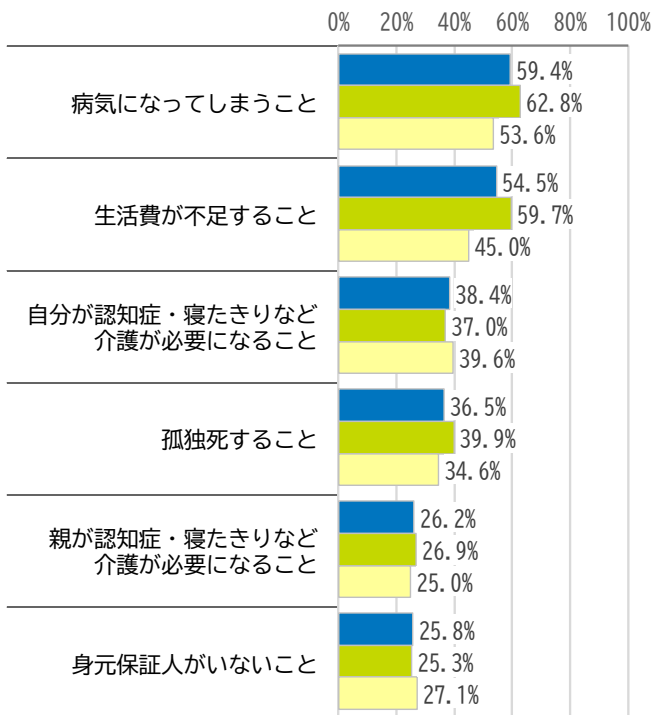
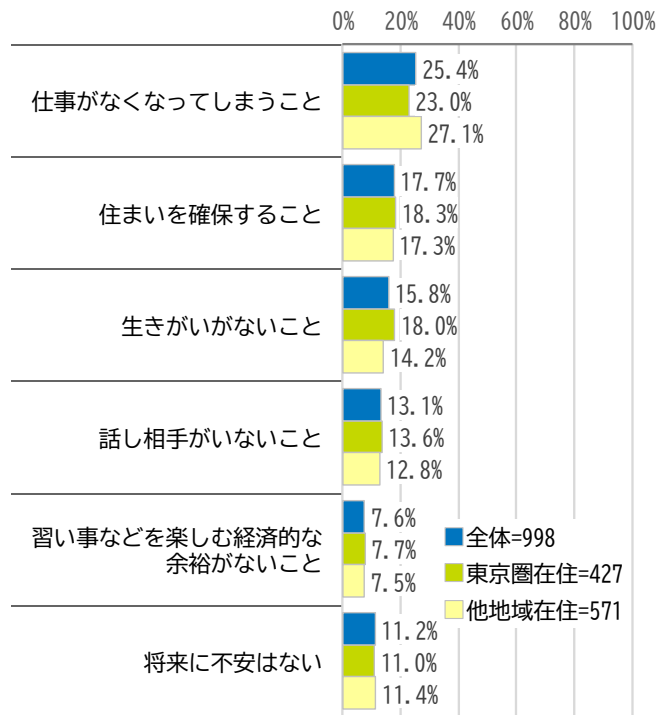
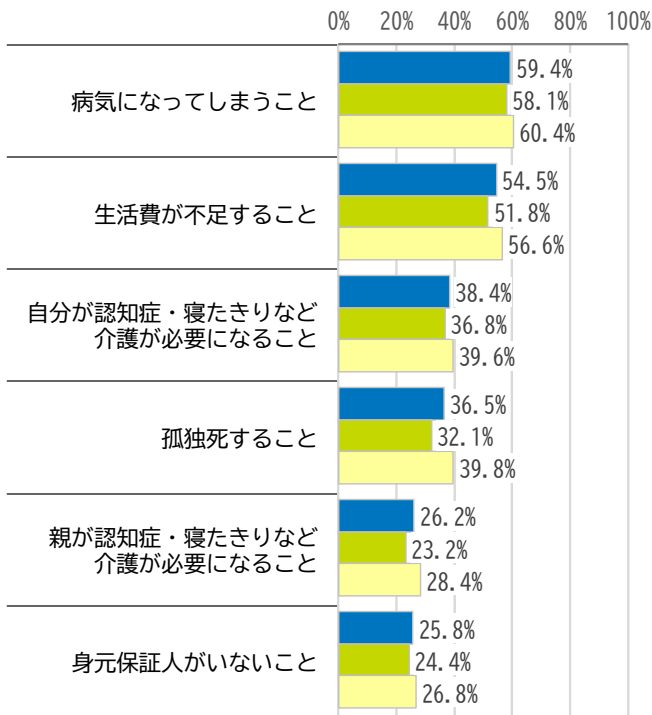
お金がかかる10件、結婚にこだわらない出会いを望む7件、婚活に否定的7件、異性の理想が高すぎる6件、精神的に負担・面倒4件、もっと情報を望む4件、あきらめている4件、結婚したい人がいたが結婚できなかった3件など。

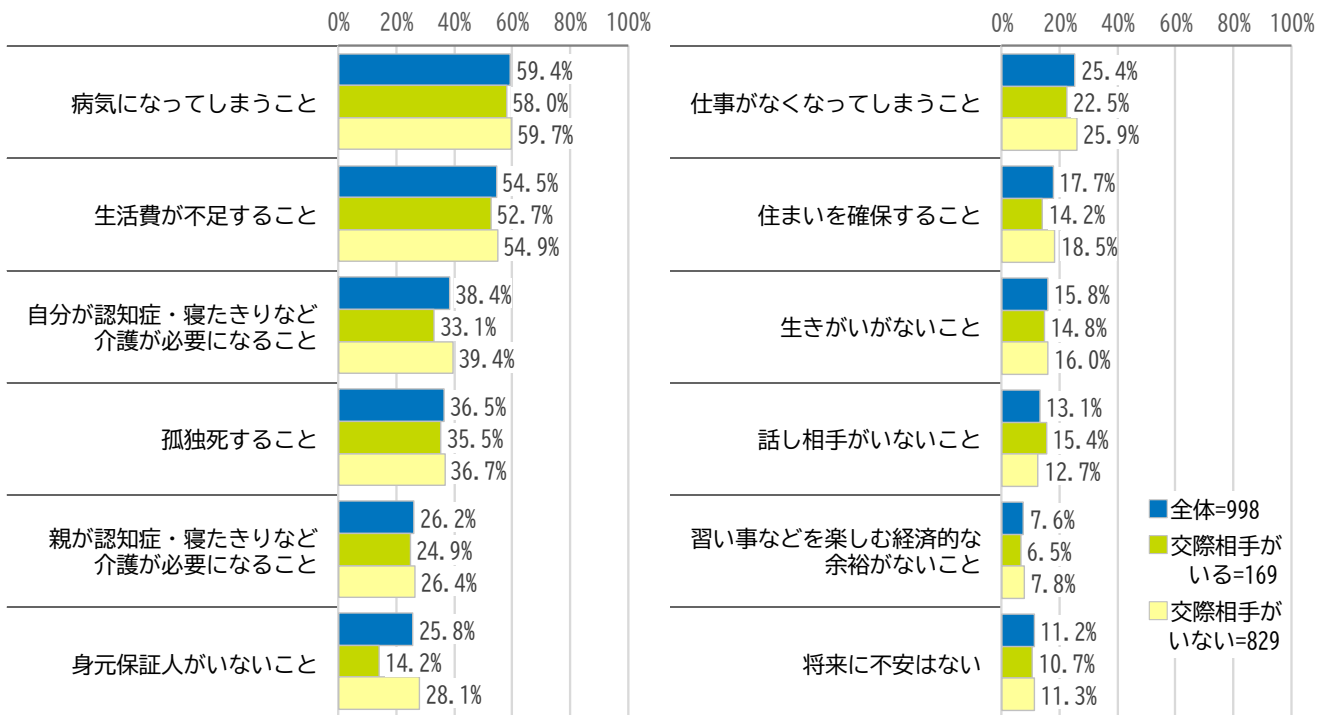
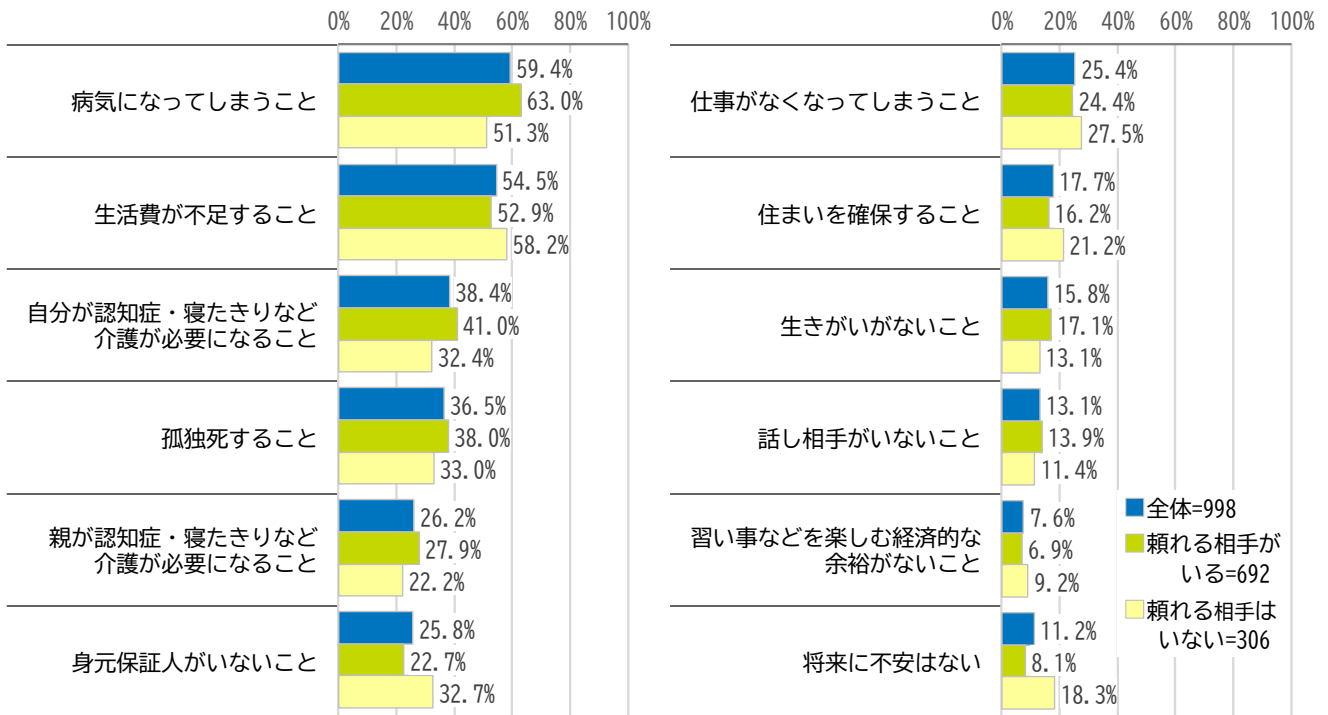
## 2.5. 将来の不安理由

将来に不安があるか、理由を尋ねたところ、全体では、「病気になってしまうこと」(59.4%)が最も多く、「生活費が不足すること」(54.5%)、「自分が認知症・寝たきりなど介護が必要になること」(38.4%)と続いている。

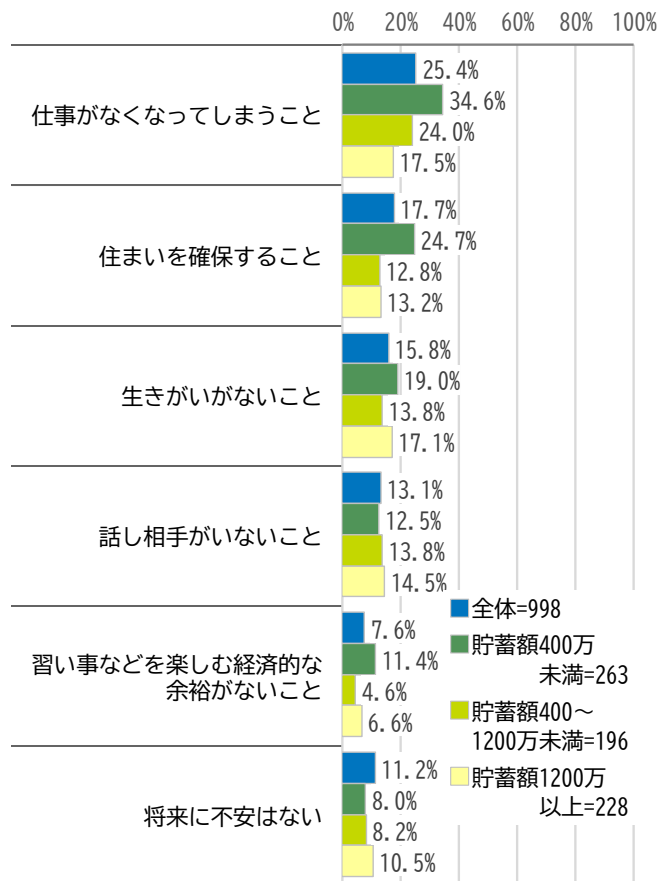
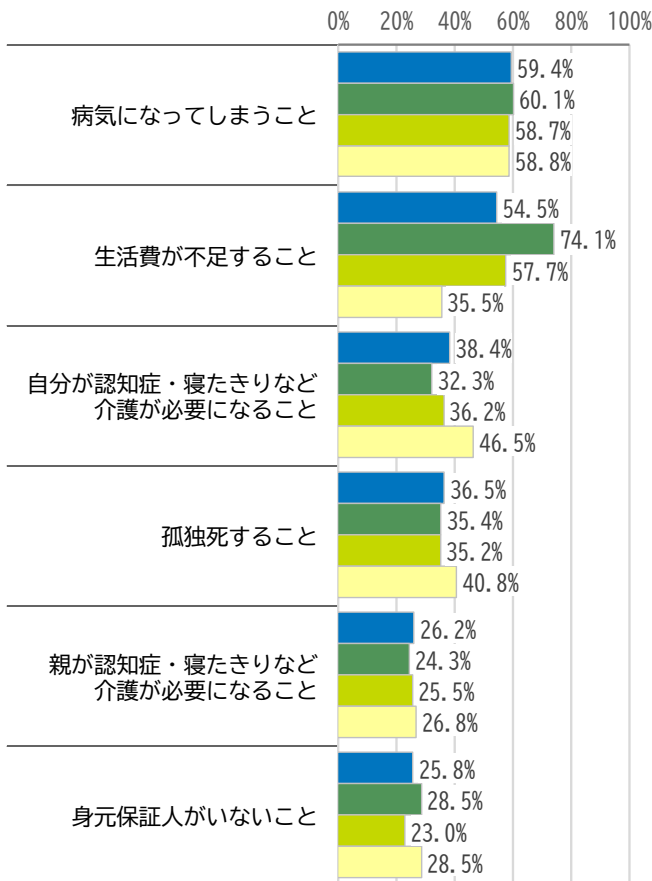
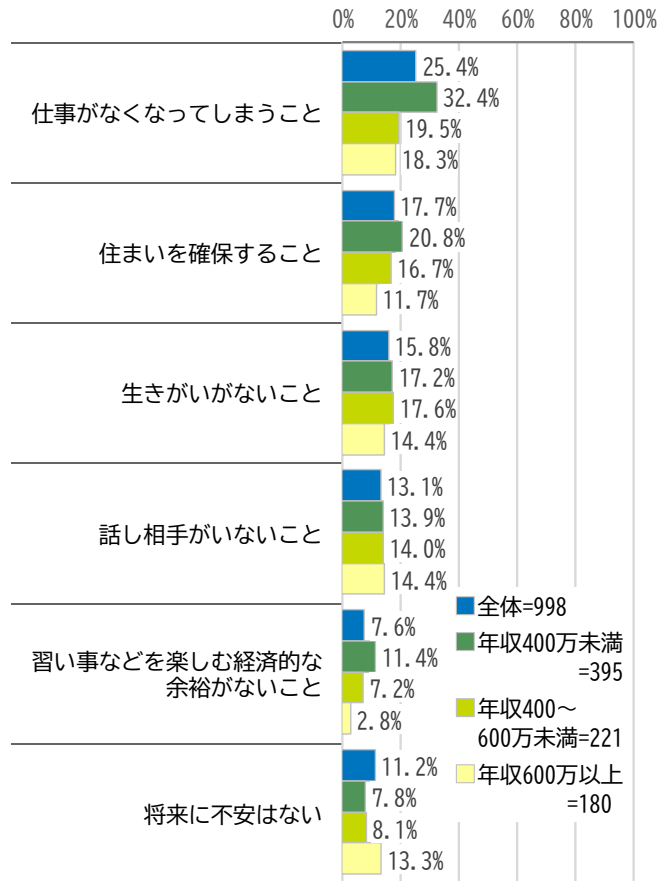
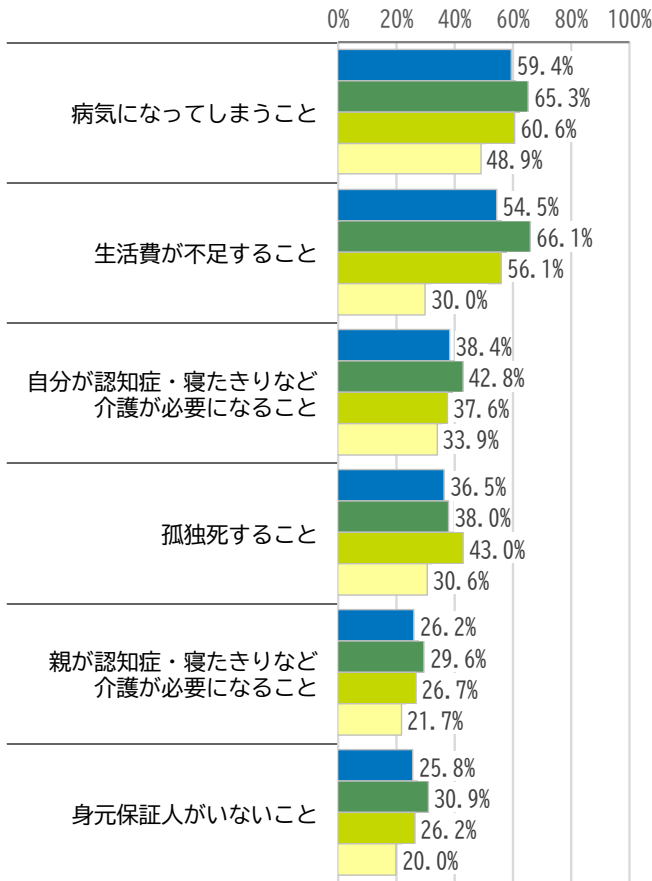
図表2.5. 将来の不安理由(複数選択)











## 2.6. 少子化対策に関する社会や政府、企業への意見

世の中で話題になっている少子化対策について、社会や政府、企業に対して感じていることを、自由記述で回答を依頼したところ、以下の回答を得た。

### 子育て環境の整備(一部抜粋) 同様回答71件

- 子どもが産まれてもキャリア形成できる柔軟な働き方の提案(40代後半・女性)
- 保育園を増やして国や自治体が援助してあげてほしい。保育士の待遇を改善して保育士になりたい人を増やしてあげてほしい(60代前半・女性)
- 高所得の単身世帯には独身富裕税を課し、子育て支援の財源にすれば良い。学齢前の乳幼児にはオムツやミルクなどを現物支給し、18歳までの入園・教育費は公立学校相当分を無料化すれば良い。(60代前半・男性)

### 政治不信(一部抜粋) 同様回答62件

- 社会が腐りきっているので、少子化対策しても無駄 政治屋(家)や官僚は 3/1 程度に減らすべし(50代後半・男性)
- 政府は本気で少子化対策に取り組んでいるとは思えない。(50代後半・男性)
- 政府の努力が足りなさすぎる。(50代前半・男性)
- 少子化の対策の本気度が感じ取れない。(40代後半・男性)

### 有効な手が打てていない(一部抜粋) 同様回答59件

- お金をばらまけばいいというものではない。根本的なことがわかっていない。(40代後半・女性)
- 海外で少子化対策で成功している例があるならなぜそれを検討しないのか(50代後半・女性)
- 政府の少子化対策は根本的に間違っていると思う。(50代前半・男性)
- 育休を取らせれば良いと思っている所(40代後半・男性)

### 不安定な雇用や低賃金が未婚化・少子化の原因(一部抜粋) 同様回答22件

- お金をばらまくところが間違っている。そもそも雇用が安定してお給料も高くないと結婚すらできないと思うのに現実的には非正規雇用者も多いしお給料も少ないので自分の生活をするだけで精一杯な人が多い。それを何とかしてほしい。(50代前半・女性)
- 大手企業に限らず、すべての給与所得者の賃金を上げることをしなければ、子育てはおろか、結婚生活の保障が得られないと思う。まずは無理のない結婚生活ができる収入を保証し、婚姻⇒出産に結び付けるべき。(60代前半・女性)

### 対策が遅い(一部抜粋) 同様回答20件

- もっと早く考えることであって、今更おそいと思う。(60代前半・男性)

### 仕方がない(一部抜粋) 同様回答19件

- もう少子化は止められないと思う(40代後半・女性)

### 少子化問題に注力しすぎ(一部抜粋) 同様回答19件

- 子どもがいる世帯ばかり優遇されているのがおかしい(50代前半・女性)

### 少子化対策は不要・若年層に頼らない社会を(一部抜粋) 同様回答18件

- そもそも少子化が悪いことと思っていない。人口が今より縮小した状態での設計を国家として考えるべきだと思う。(60代前半・男性)

### その他の主な回答

社会不安 17 件、個人の自由・公的政策は不要 15 件、賃金のアップ 14 件、独身者への支援 12 件、高

齢者への支援 12 件、将来の不安 9 件、少子化対策は必要 9 件、税金が高い 8 件、経済問題 8 件、自分の世代への支援 7 件、多様な家族形態の受容 7 件、結婚支援は必要 7 件、移民の受入れ 6 件、対策は無理・難しい 6 件、労働人口の減少 5 件、将来を見据えた取り組み 5 件、女性の社会的地位・働き方 5 件、年金問題 5 件、労働環境の整備 4 件、介護職のサポート 3 件、安楽死制度の受入れ 3 件など。

### 3. キャリア意識と勤め先や生活の捉え方

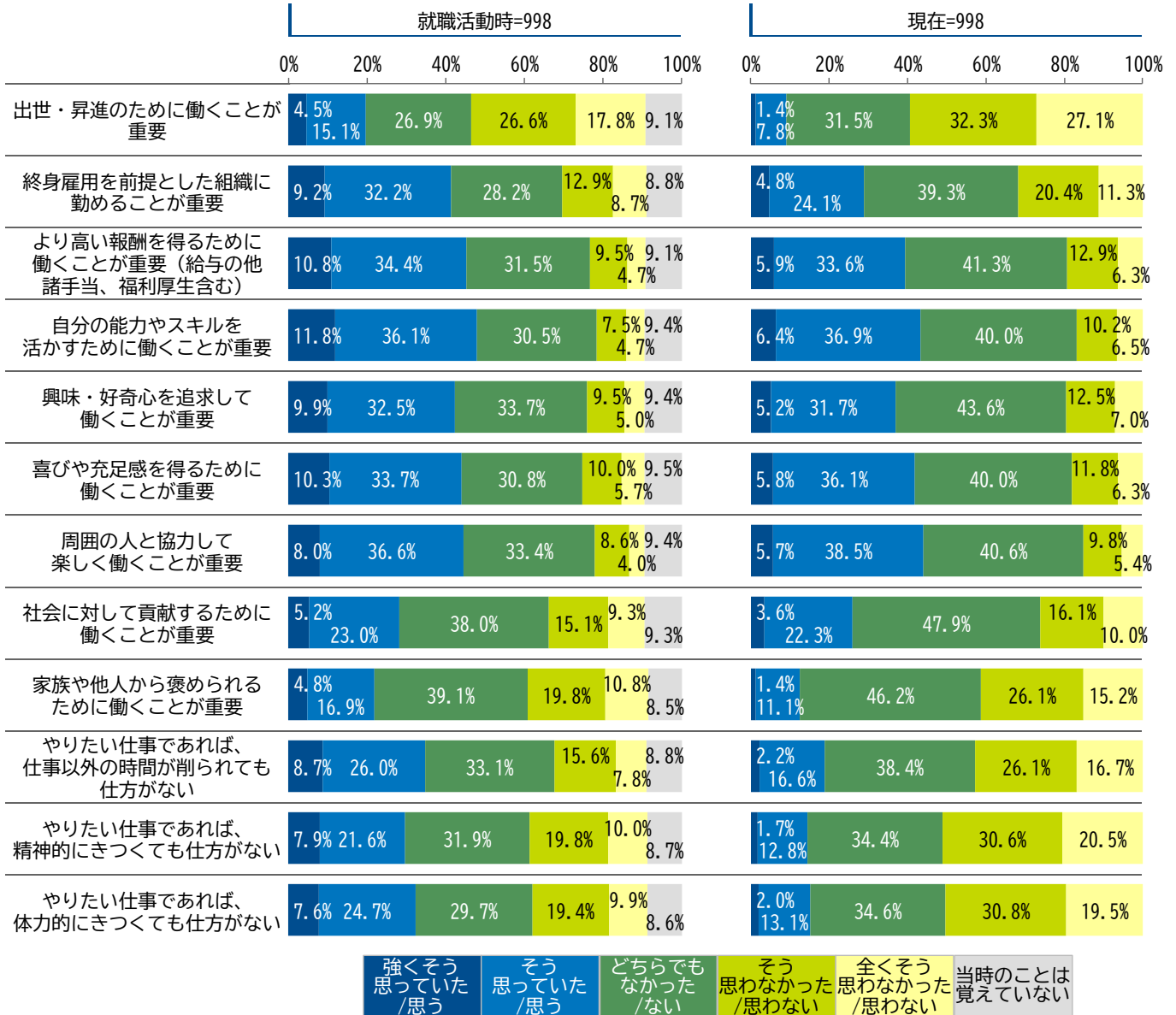
#### 3.1. 就職活動時と現在のキャリア意識

学生時代、就職活動を行っていた当時と、現在の働くことに対する気持ちを尋ねたところ、「出世・昇進のために働くことが重要」「そう思っていた／思う」「強くそう思っていた／思う」以下同様)は、就職活動時点では19.6%であったのが、現在においては9.2%まで下がっている。

「自分の能力やスキルを活かすために働くことが重要」、「喜びや充足感を得るために働くことが重要」、「周囲の人と楽しく働くことが重要」は、就職活動時点及び現在いずれも4割を超える。

「やりたい仕事であれば、仕事以外の時間が削られても仕方がない」、「やりたい仕事であれば、精神的にきつなくても仕方がない」、「やりたい仕事であれば精神的にきつなくても仕方がない」は、就職活動時点では3割程度であったのが、現在では1～2割程度まで下がる。

図表3.1. 就職活動時と現在のキャリア意識(単一選択)



## 3.2. 就職活動時のキャリア意識

学生時代、就職活動を行っていた当時の働くことに対する気持ちを、性別で比べると、「出世・昇進のために働くことが重要」「そう思っていた」「強くそう思っていた」以下同様は、女性(13.5%・グラフに表示されている数字の合計との差異は四捨五入による。以下同様)に比べて男性(25.8%)はやや高い。

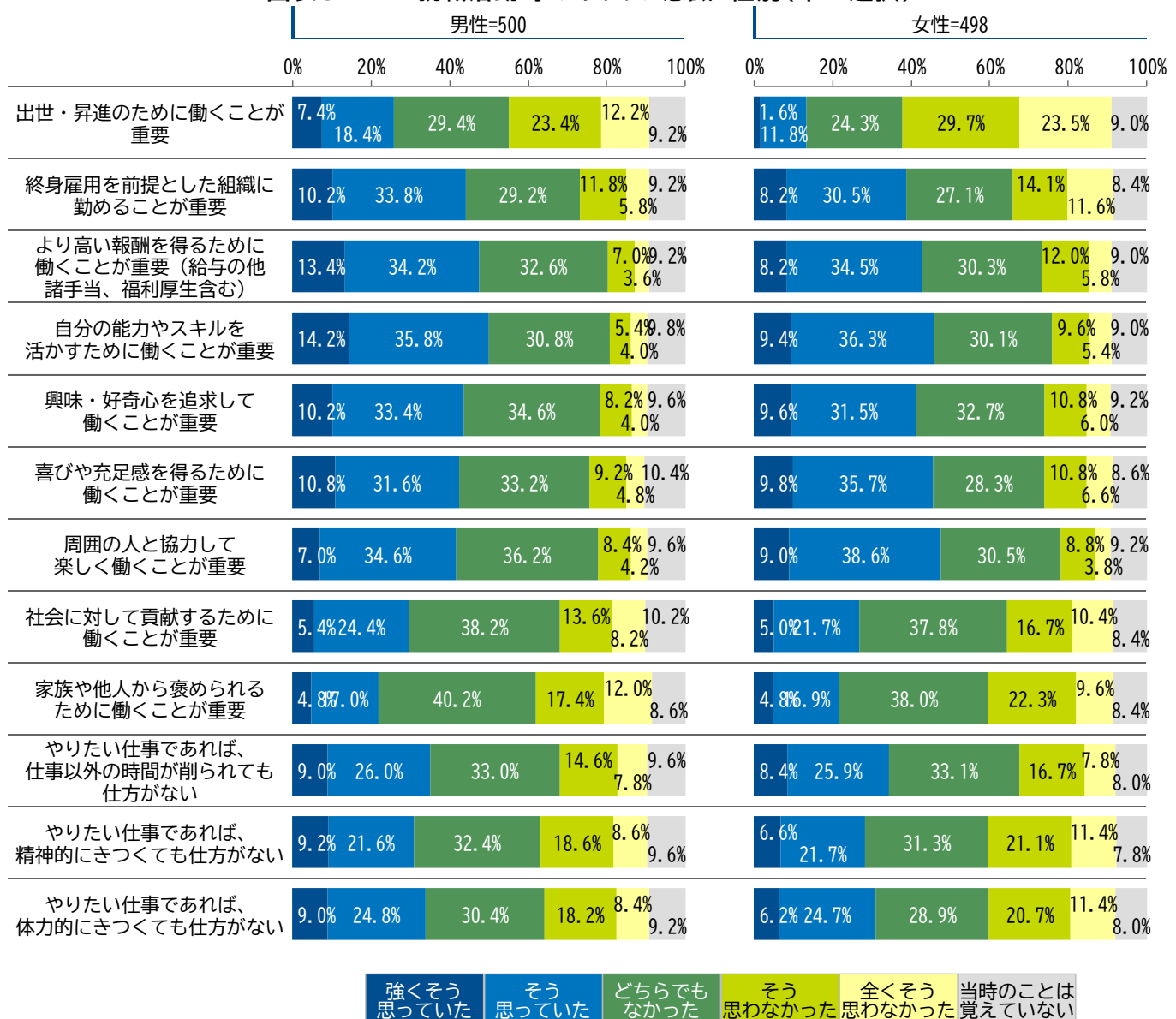
年齢別で比べると、「周囲の人と楽しく働くことが重要」は、45～49歳(36.4%)、50～54歳(42.2%)、55～59歳(48.2%)、60～64歳(51.6%)と年齢が上がるに従って高くなっている。

若い頃に結婚や子どもを持つことを希望していた人の方が、そうでない人に比べて、すべての設問項目について重要と捉える傾向が見られている。

年収や貯蓄額別では、「出世・昇進のために働くことが重要」、「より高い報酬を得るために働くことが重要(給与の他諸手当、福利厚生含む)」について、金額が高くなるに従って、それらの回答が高くなる傾向が見られる。

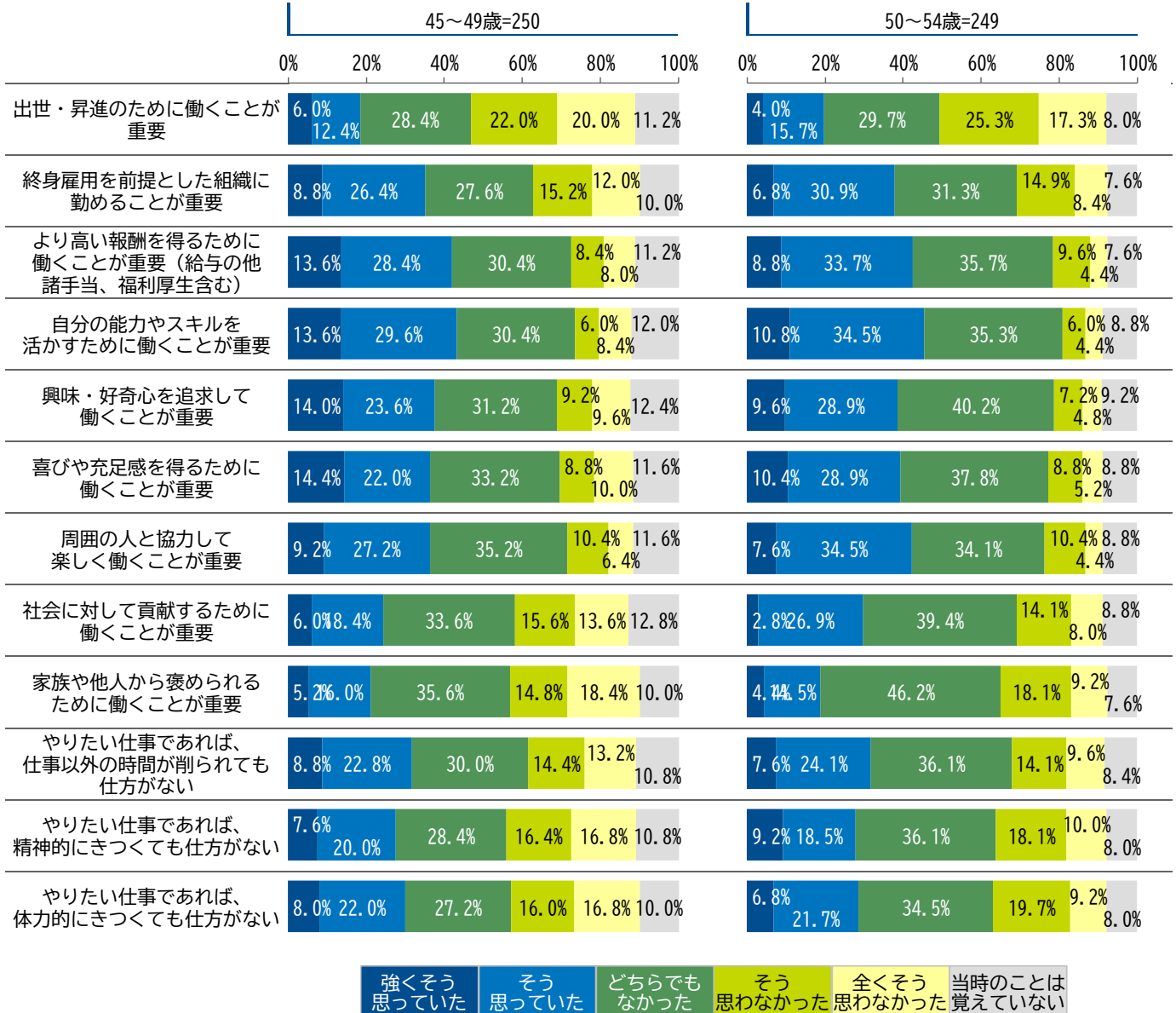
### 3.2.1. 就職活動時のキャリア意識 性別

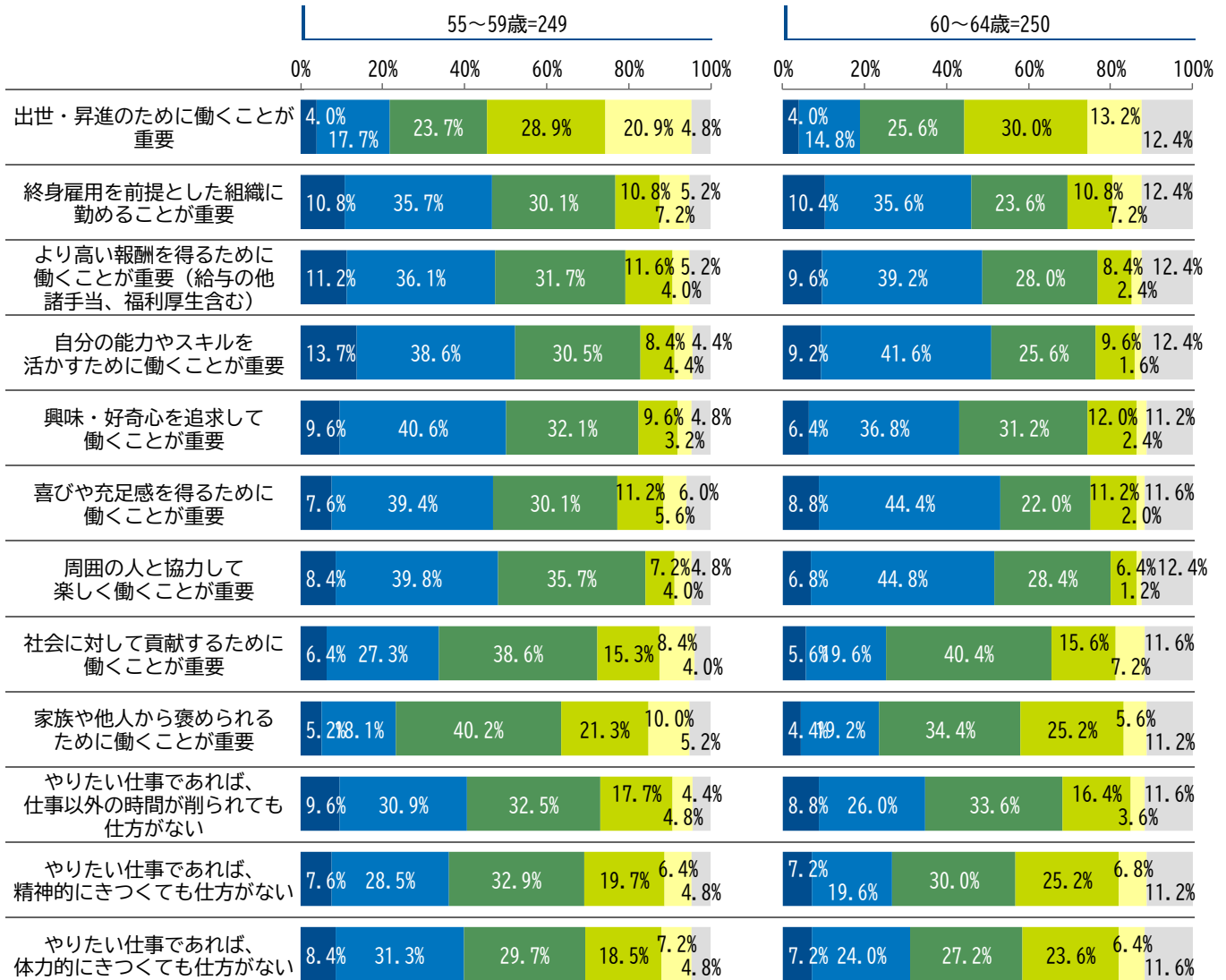
図表3.2.1. 就職活動時のキャリア意識 性別(単一選択)



3.2.2. 就職活動時のキャリア意識 年齢別

図表3.2.2. 就職活動時のキャリア意識 年齢別(単一選択)

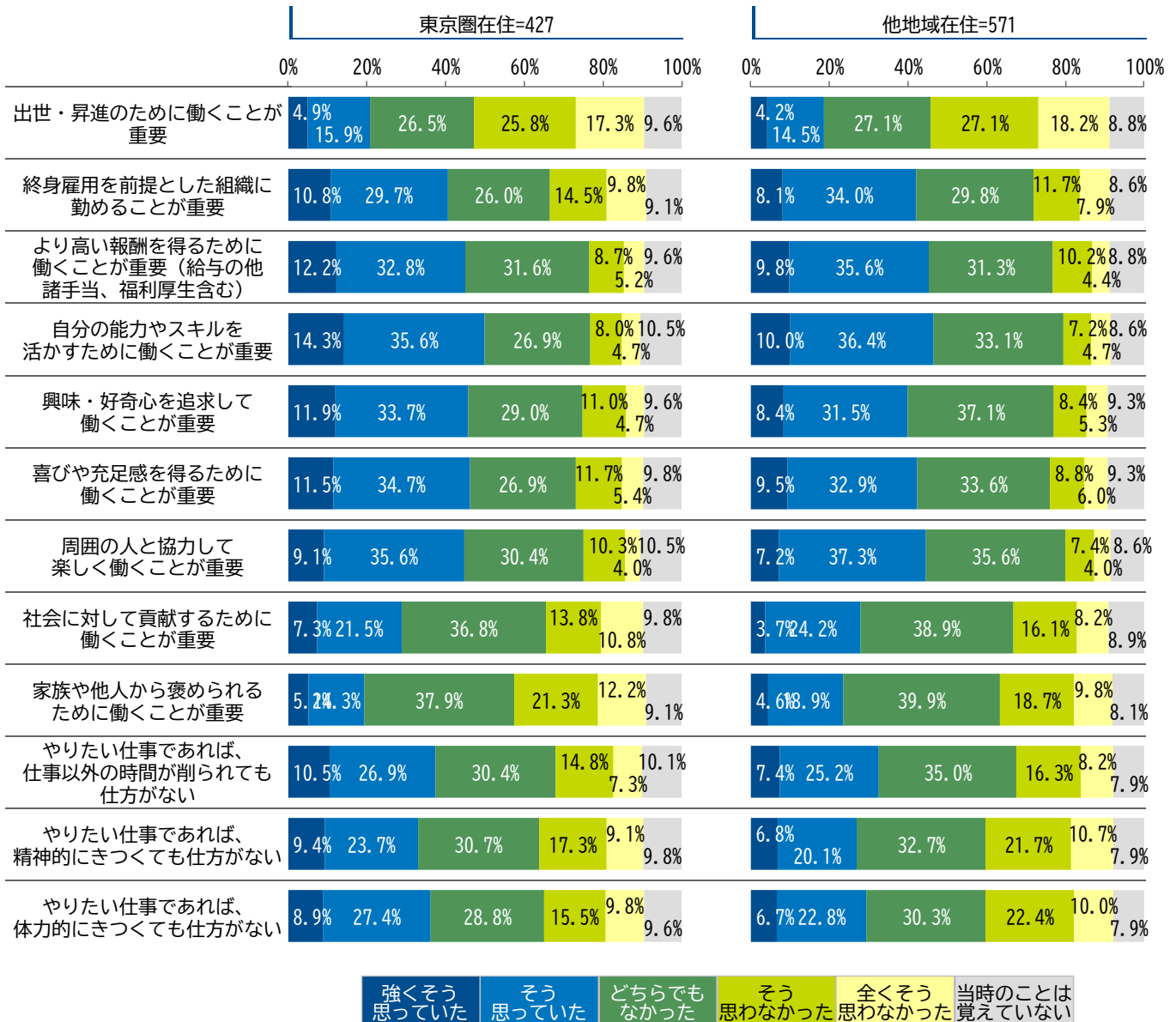




強くそう思っていた    そう思っていた    どちらでもなかった    そう思わなかった    全くそう思わなかった    当時のことは覚えていない

3.2.3. 就職活動時のキャリア意識 居住地別

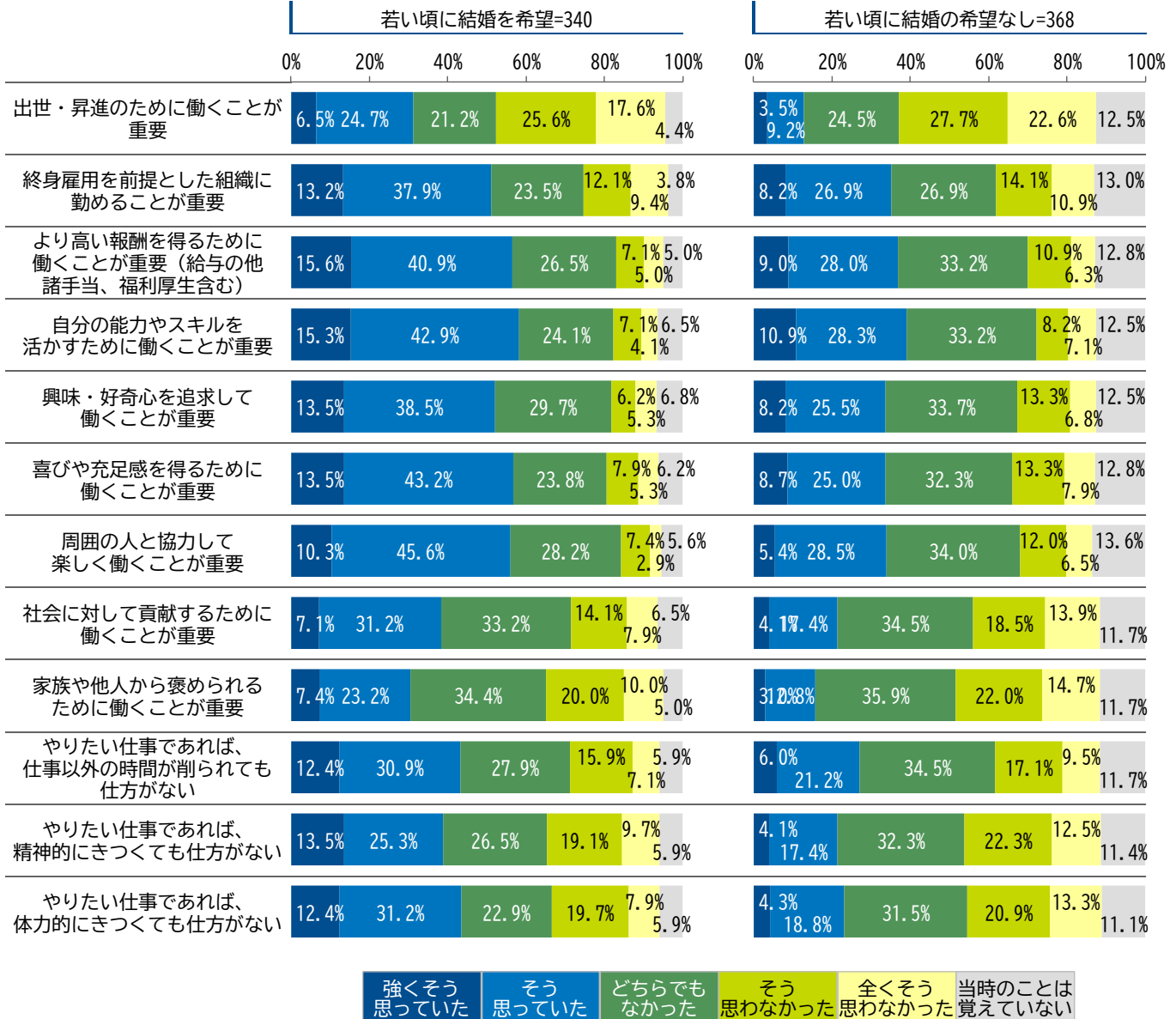
図表3.2.3. 就職活動時のキャリア意識 居住地別別(単一選択)





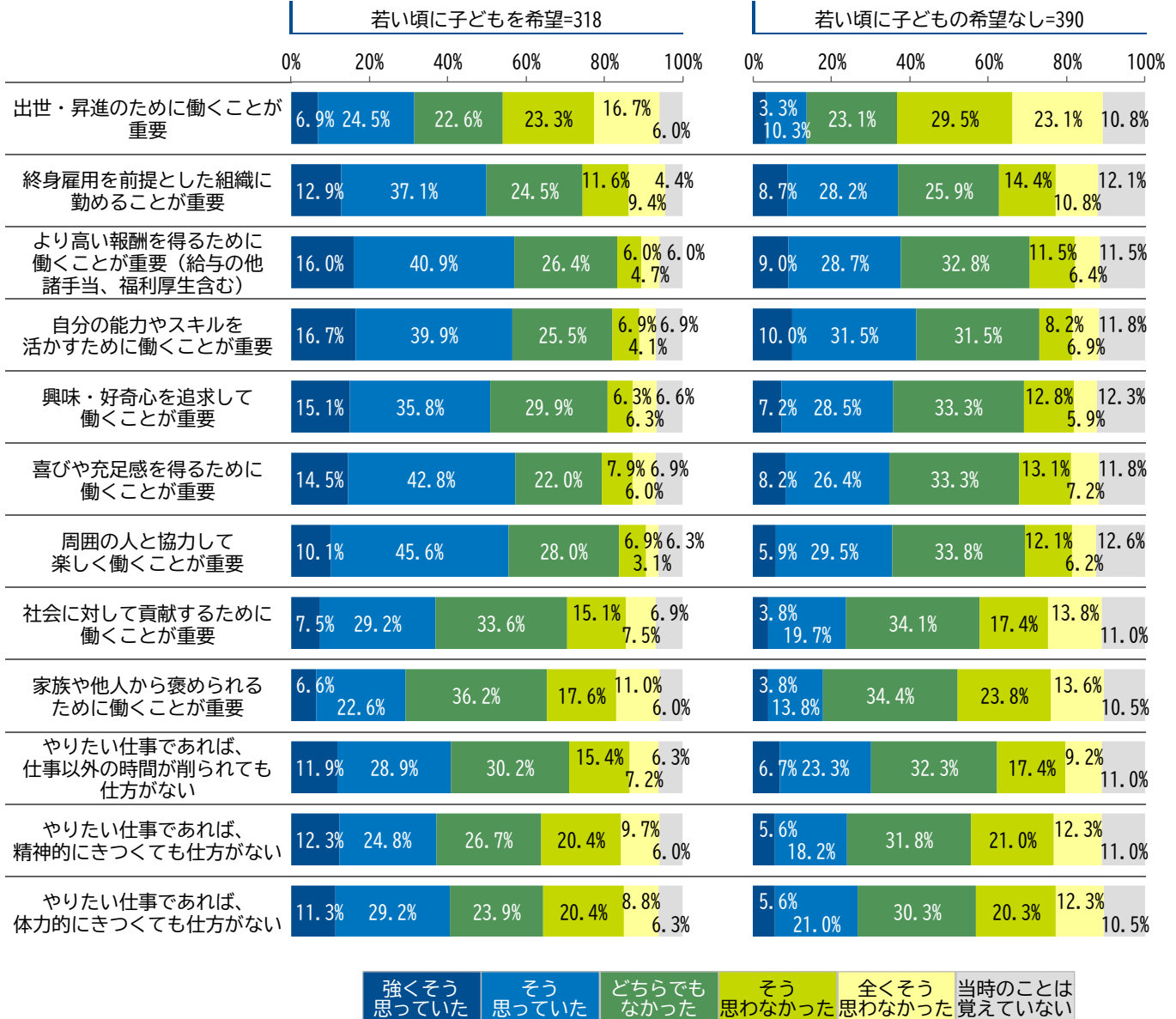
3.2.4. 就職活動時のキャリア意識 若い頃の結婚の希望別

図表3.2.4. 就職活動時のキャリア意識 若い頃の結婚の希望別(単一選択)



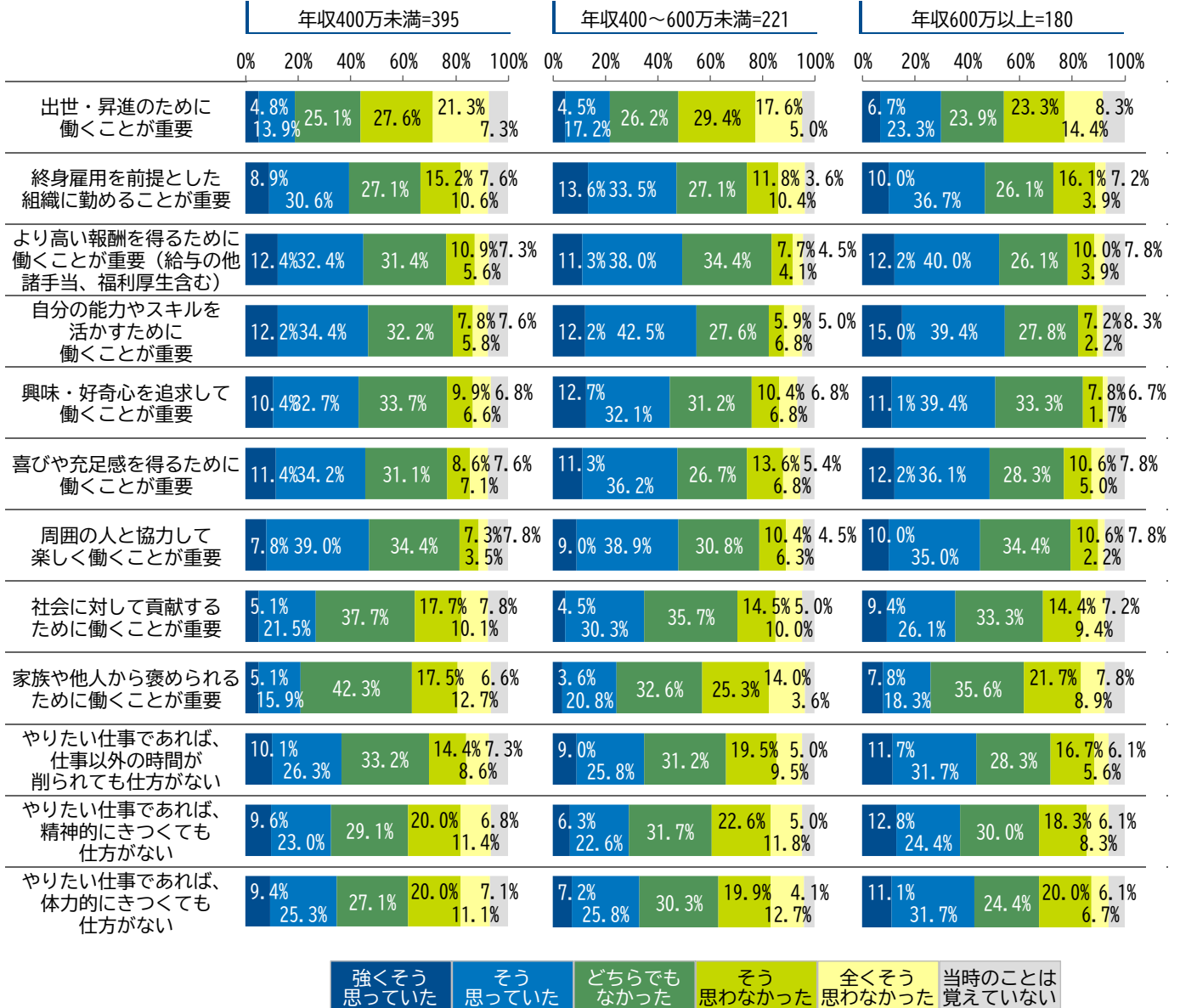
3.2.5. 就職活動時のキャリア意識 若い頃の子どもの希望別

図表3.2.5. 就職活動時のキャリア意識 若い頃の子どもの希望別(単一選択)



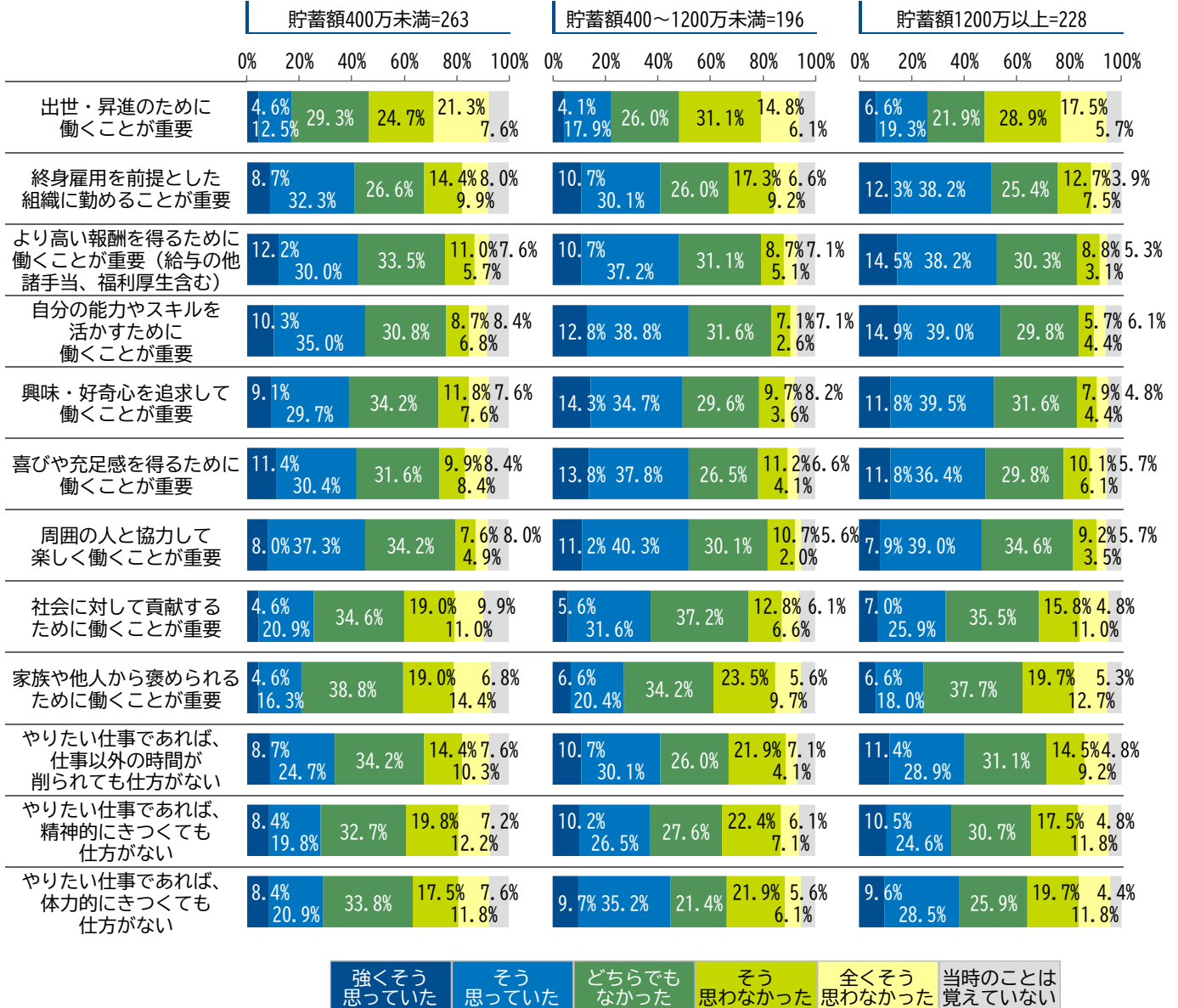
3.2.6. 就職活動時のキャリア意識 年収別

図表3.2.6. 就職活動時のキャリア意識 年収別(単一選択)



3.2.7. 就職活動時のキャリア意識 貯蓄額別

図表3.2.7. 就職活動時のキャリア意識 貯蓄額別(単一選択)



### 3.3. 現在のキャリア意識

アンケート回答時点の働くことに対する気持ちを、性別で比べると、「周囲の人と協力して働くことが重要」「そう思う」「強くそう思う」以下同様は、男性(40.2%)に比べて女性(48.2%)はやや高い。

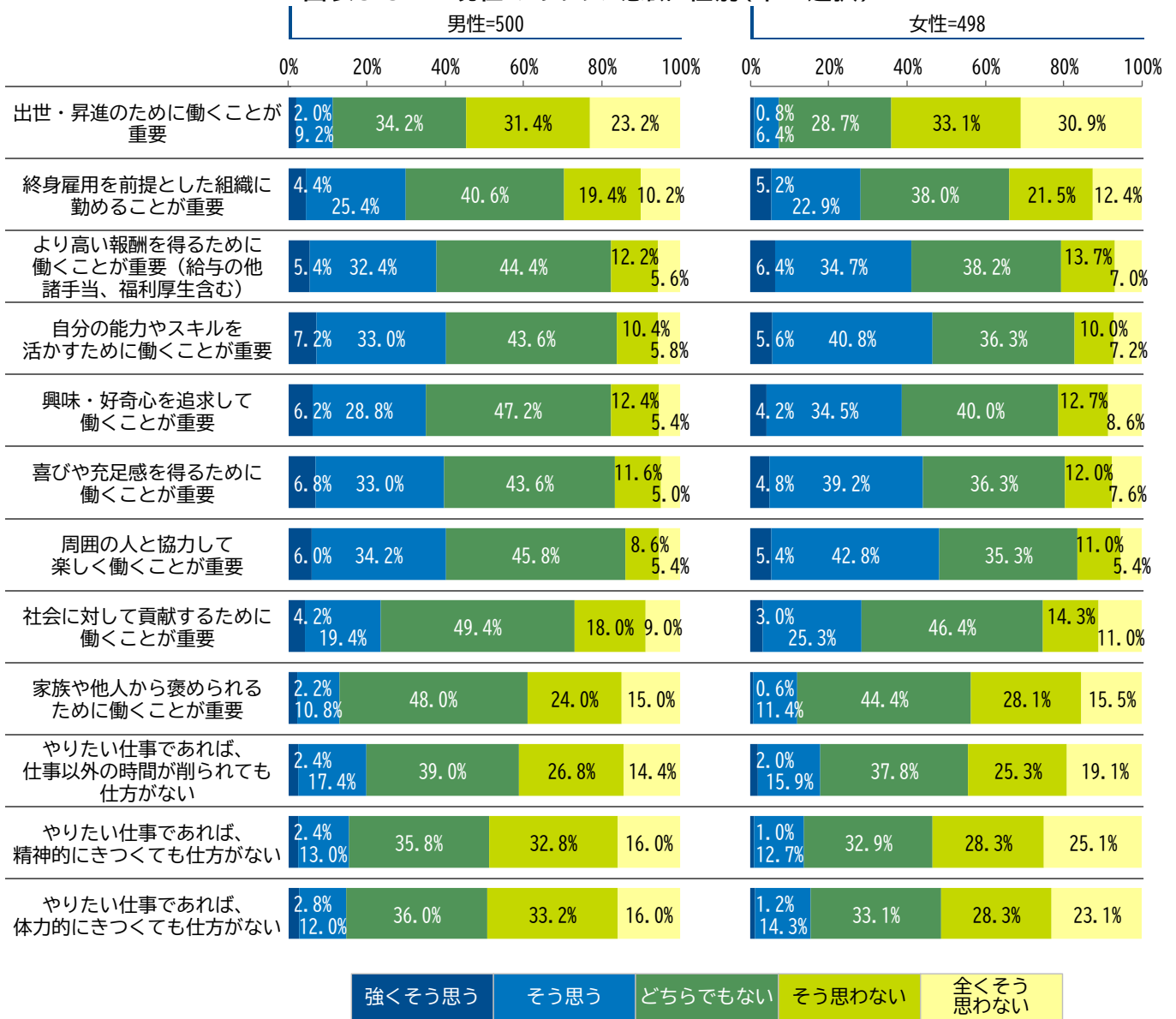
年齢別で比べると、60～64歳の人のみが「周囲の人と楽しく働くことが重要」で半数を超えている。

定年を問わず長く働きたい人や交際相手がいる人の方が、そうでない人に比べて、すべての設問項目について重要と捉える傾向が見られている。

年収別で比べると、「自分の能力やスキルを活かすために働くことが重要」、「興味・好奇心を追及して働くことが重要」、「より高い報酬を得るために働くことが重要(給与の他諸手当、福利厚生含む)」について、年収金額が高くなるにつれて、それらの回答も高くなる傾向が見られる。

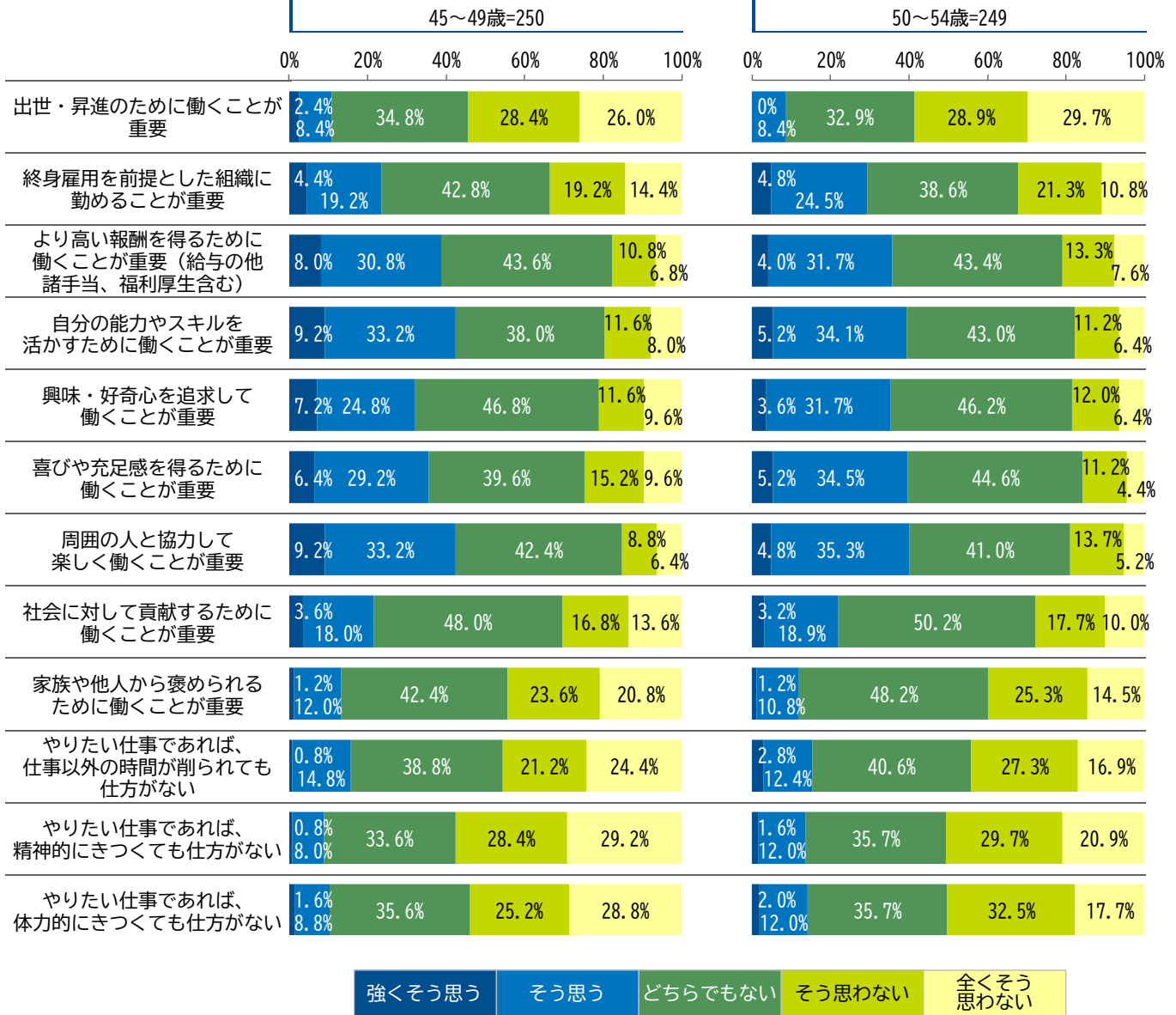
#### 3.3.1. 現在のキャリア意識 性別

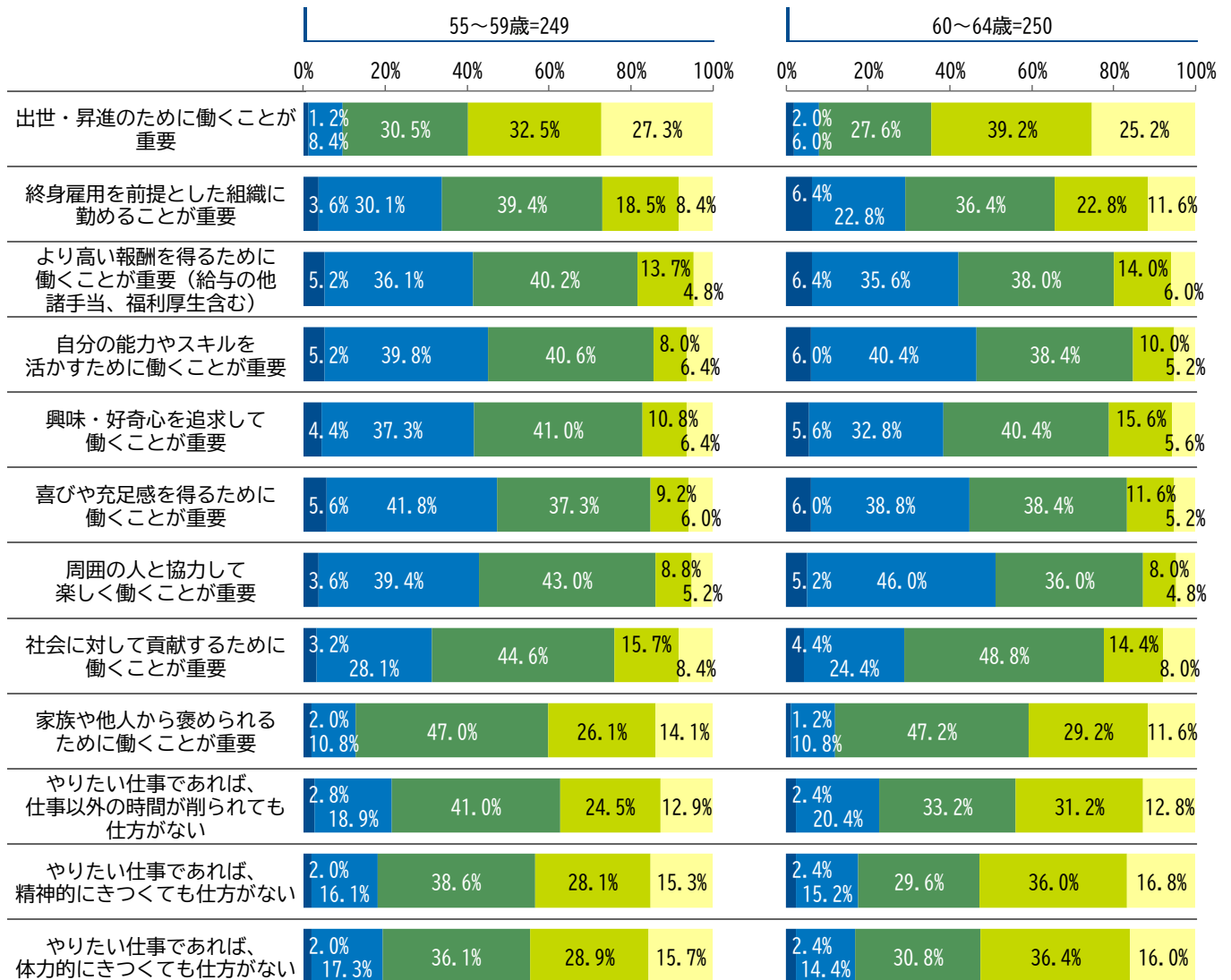
図表3.3.1. 現在のキャリア意識 性別(単一選択)



3.3.2. 現在のキャリア意識 年齢別

図表3.3.2. 現在のキャリア意識 年齢別(単一選択)

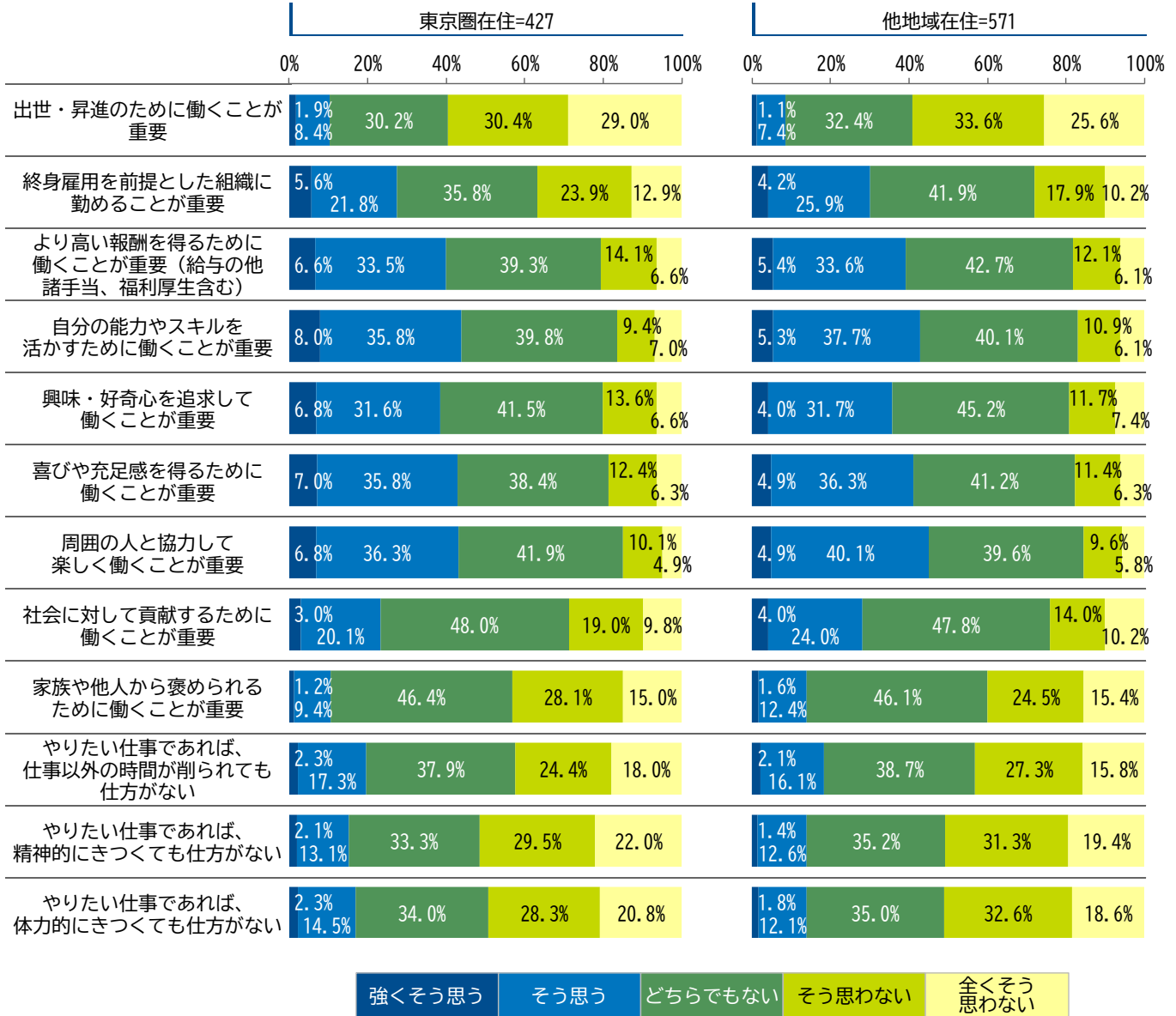




強くそう思う
そう思う
どちらでもない
そう思わない
全くそう思わない

3.3.3. 現在のキャリア意識 居住地別

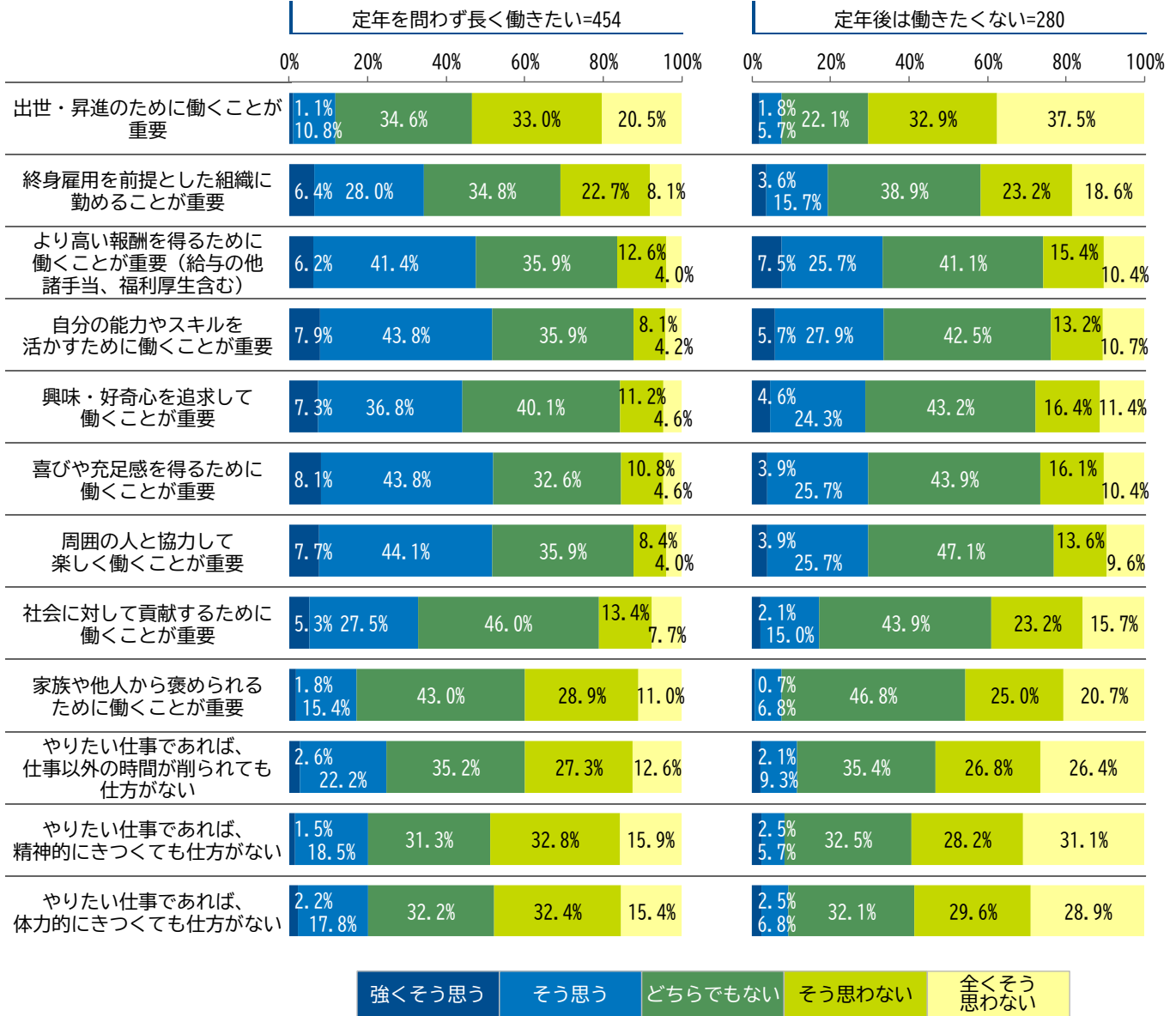
図表3.3.3. 現在のキャリア意識 居住地別(単一選択)





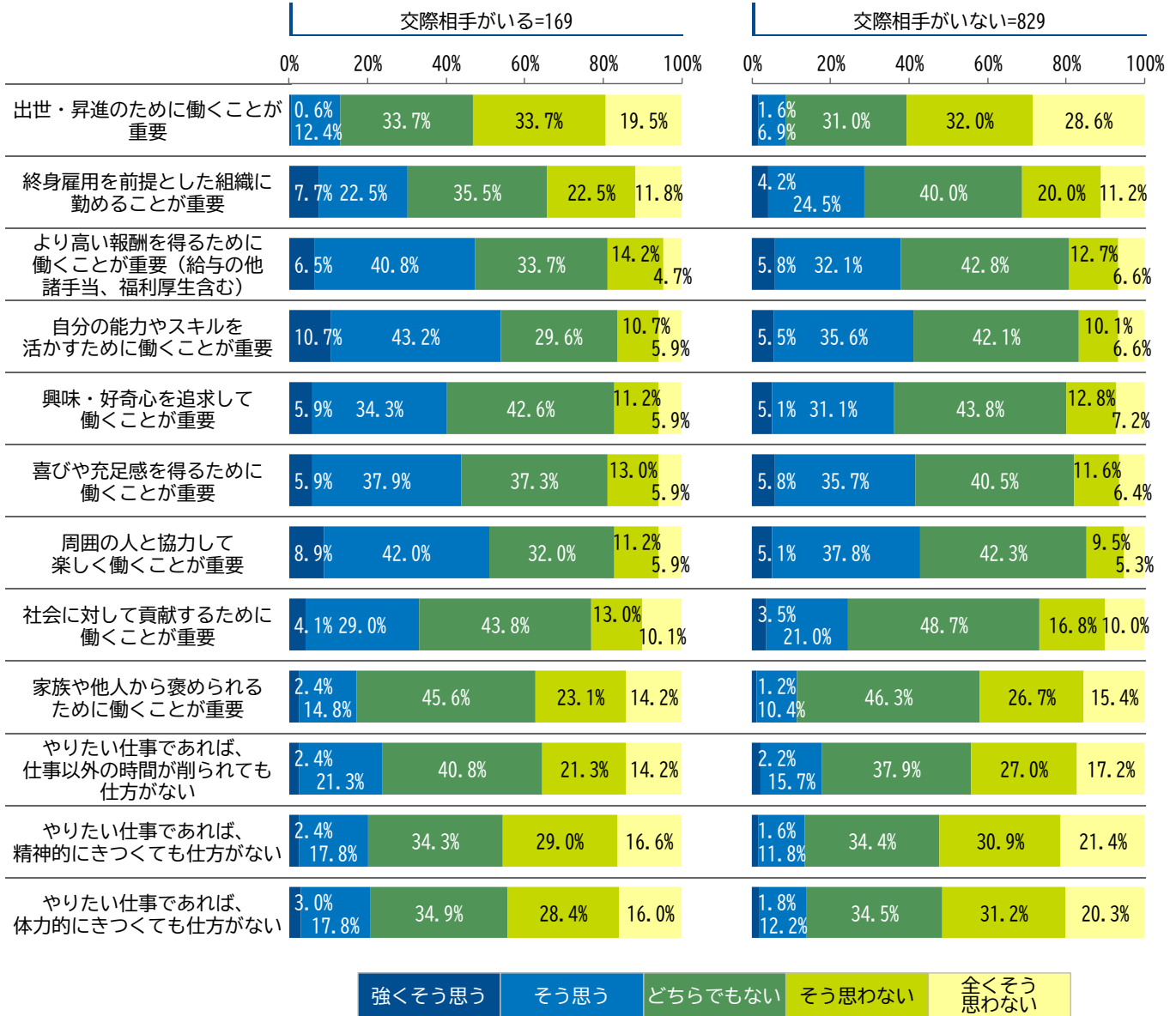
3.3.4. 現在のキャリア意識 定年後の就業要望別

図表3.3.4. 現在のキャリア意識 定年後の就業要望別(単一選択)



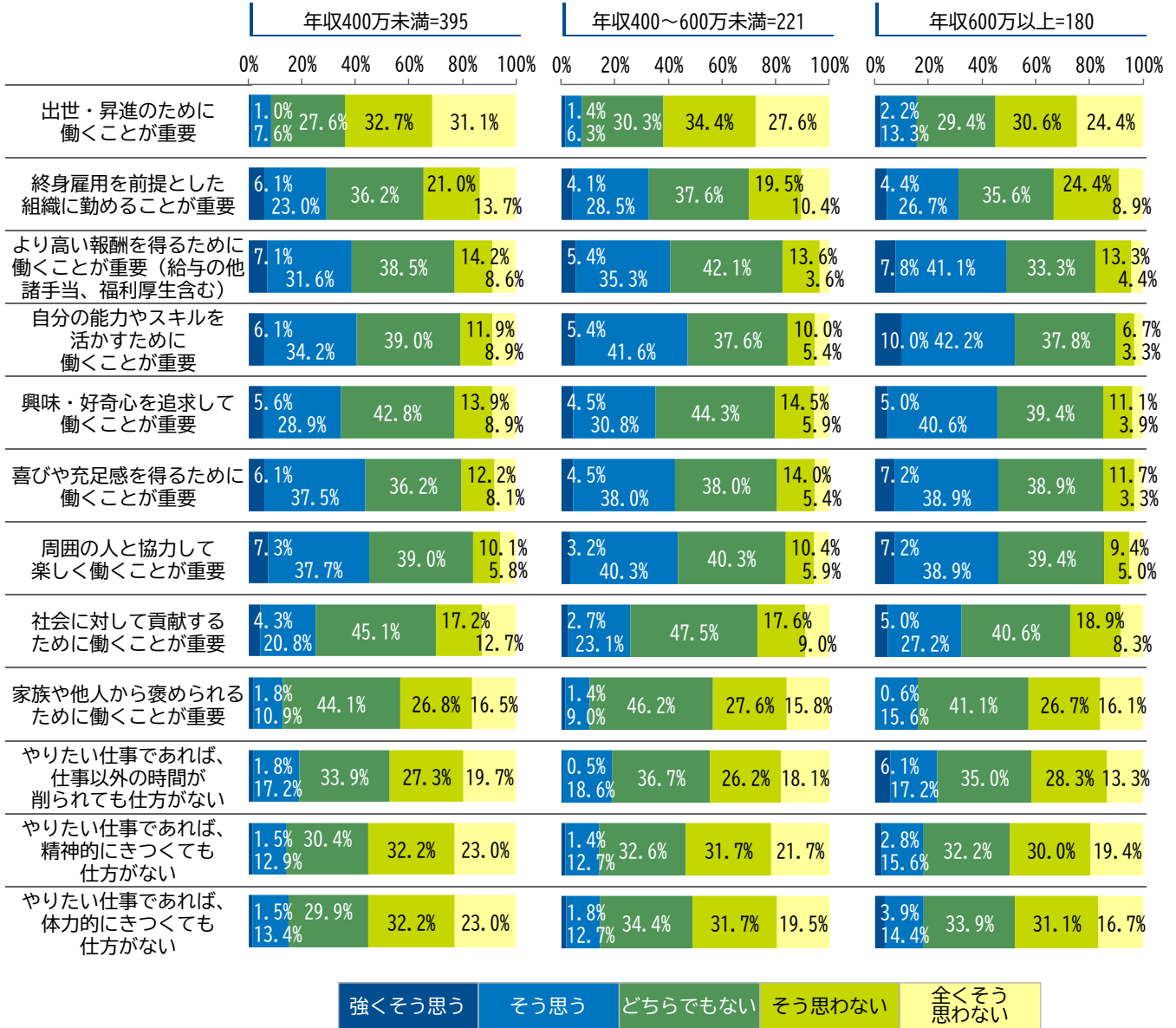
3.3.5. 現在のキャリア意識 交際相手の有無別

図表3.3.5. 現在のキャリア意識 交際相手の有無別(単一選択)



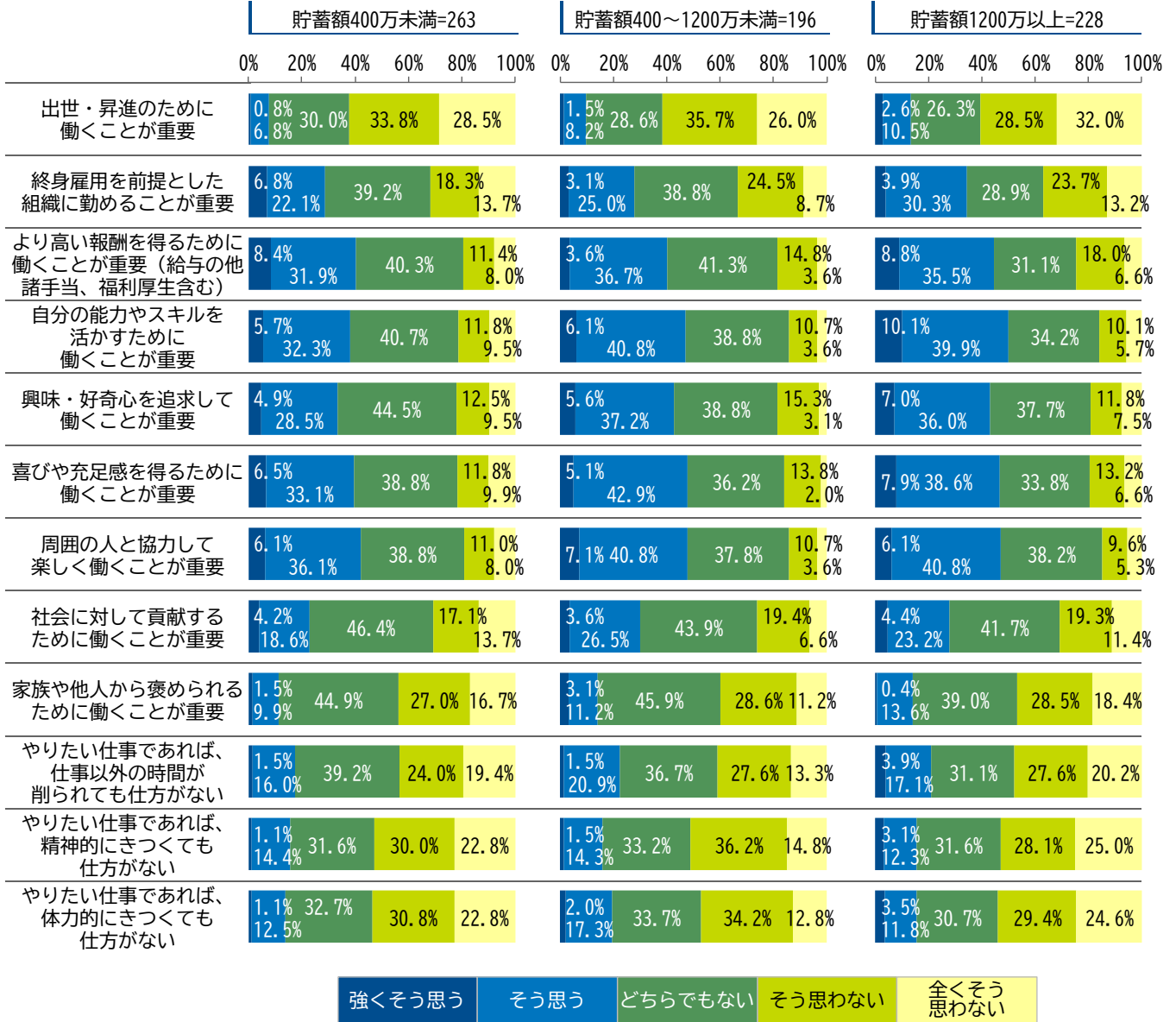
3.3.6. 現在のキャリア意識 年収別

図表3.3.6. 現在のキャリア意識 年収別(単一選択)



3.3.7. 現在のキャリア意識 貯蓄額別

図表3.3.7. 現在のキャリア意識 貯蓄額別(単一選択)



### 3.4. 勤め先や生活の捉え方

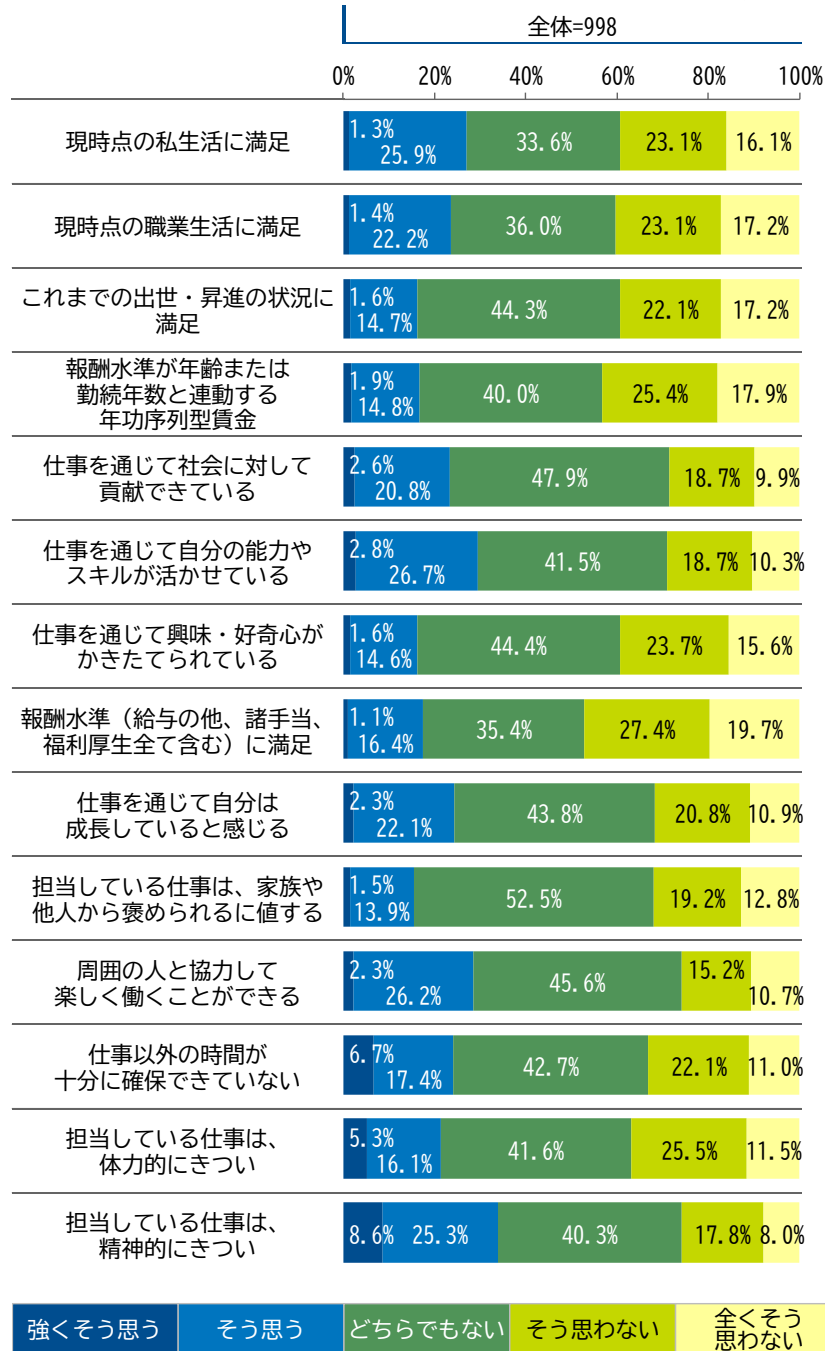
勤め先や生活に関して尋ねたところ、現時点の私生活に満足している人は27.2%（「そう思う」、「強くそう思う」）は満足していない人は39.3%（「全くそう思わない」「そう思わない」）であり、満足していない人の方が多い。また、現時点の職業生活に満足している人は23.6%、満足していない人は40.4%であり、満足していない人の方が多い。

男女別に比べると、男性19.6%に比べて、女性34.7%の方が私生活や職業生活に満足をしている人が多く、周囲の人と協力して楽しく働くことができると回答した人は、男性24.0%に比べて、女性32.9%の方がやや多い。

年齢別で比べると、年齢が上がるに従って、私生活や職業生活に満足している人がやや増える傾向が見られる。

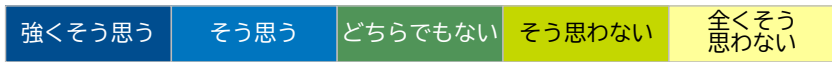
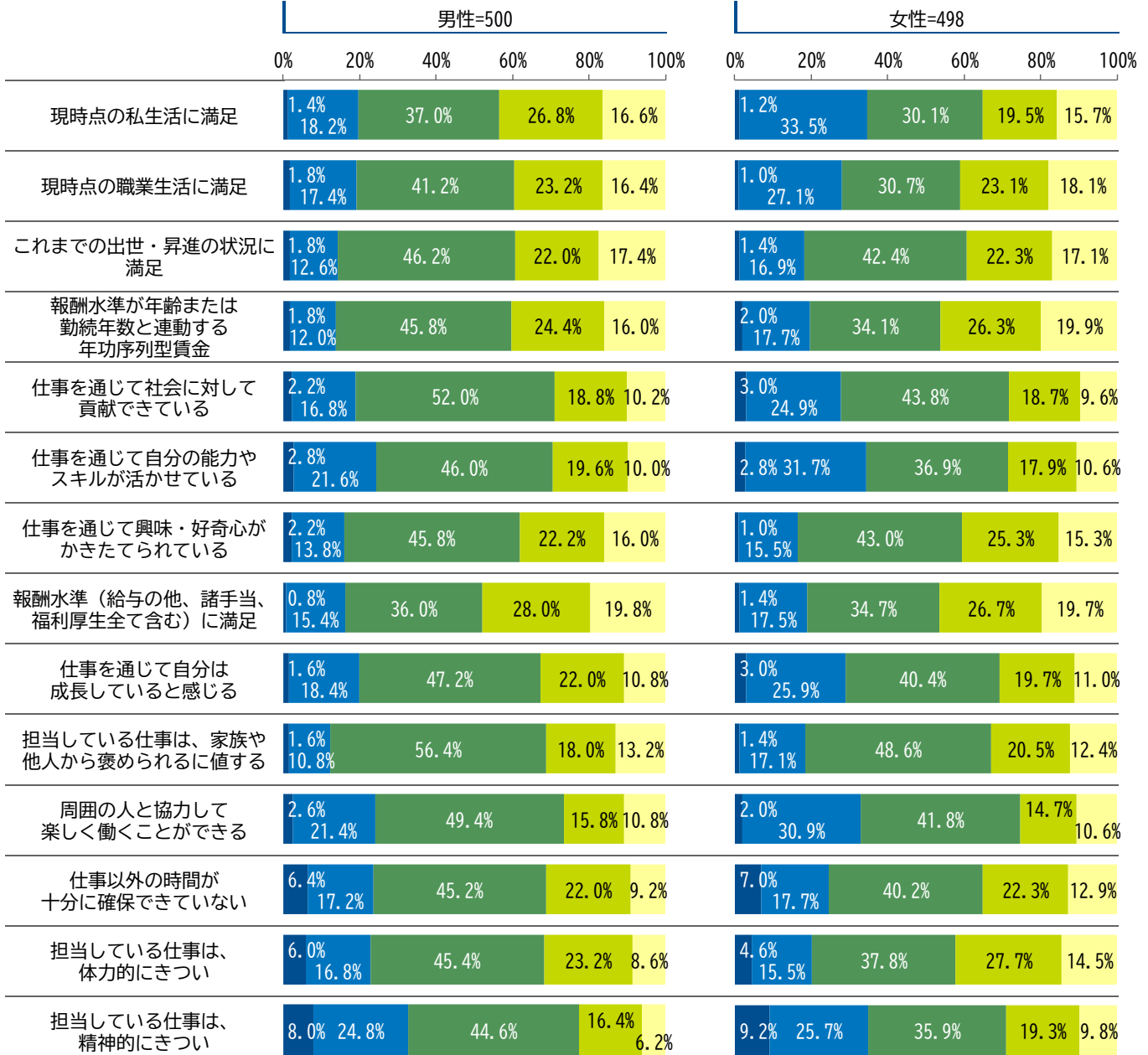
#### 3.4.1. 勤め先や生活の捉え方 全体

図表3.4.1. 勤め先や生活の捉え方 全体(単一選択)



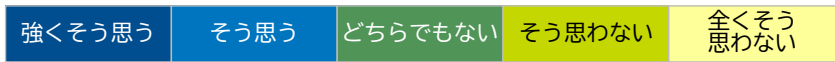
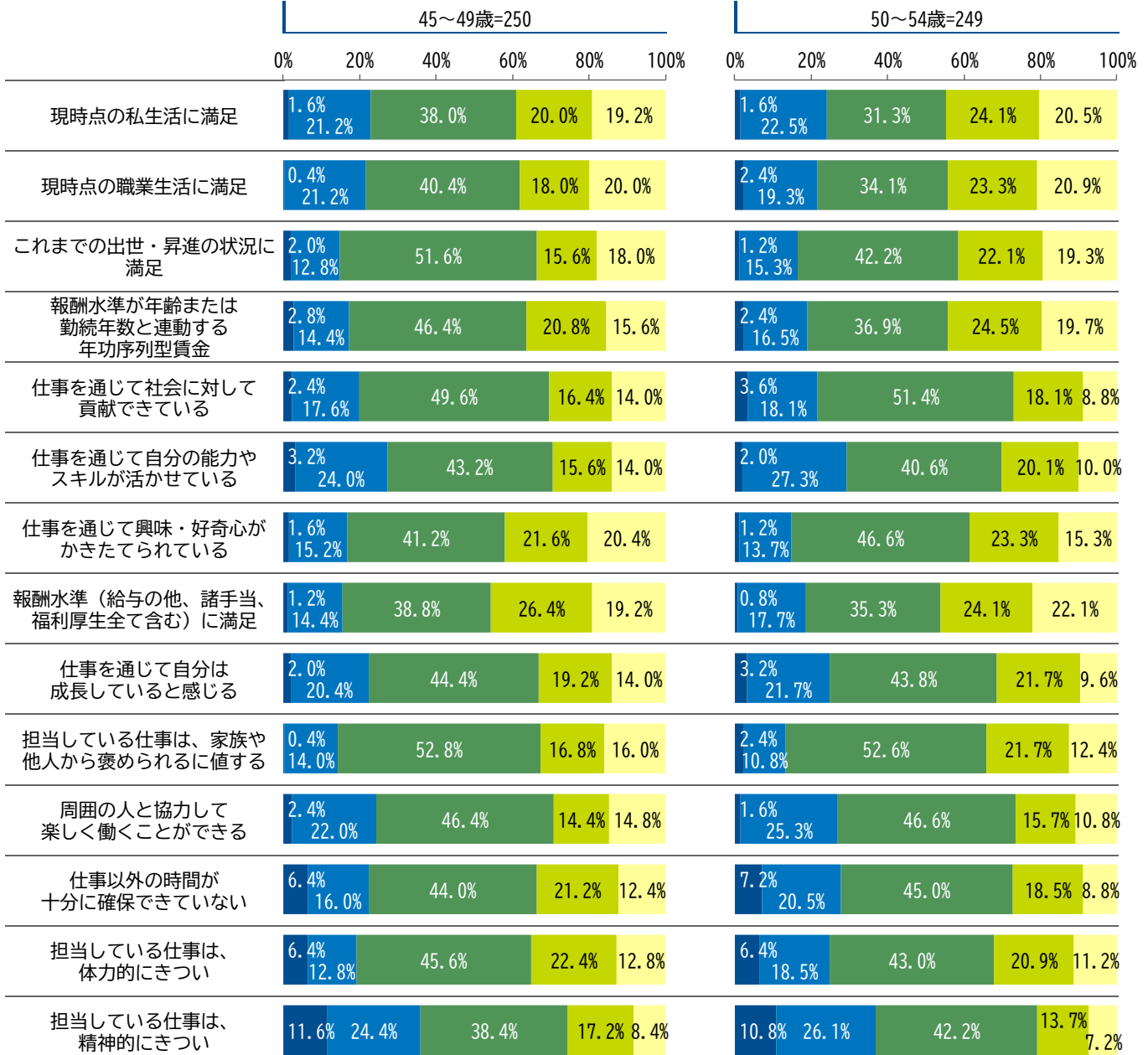
3.4.2. 勤め先や生活の捉え方 性別

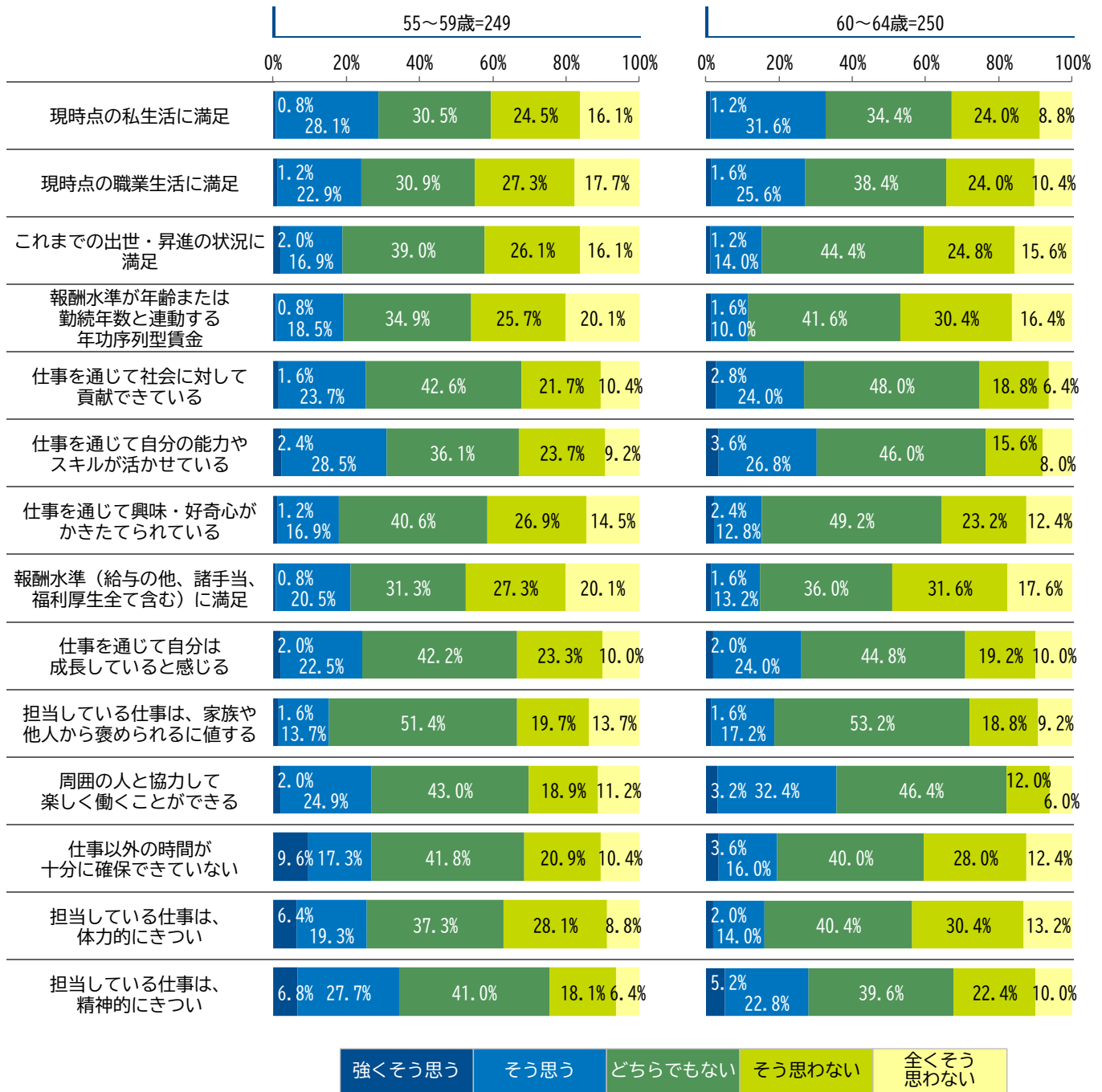
図表3.4.2. 勤め先や生活の捉え方 性別(単一選択)



3.4.3. 勤め先や生活の捉え方 年齢別

図表3.4.3. 勤め先や生活の捉え方 年齢別(単一選択)

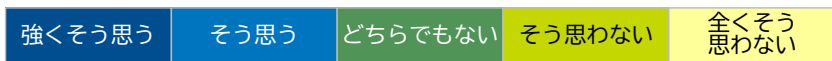
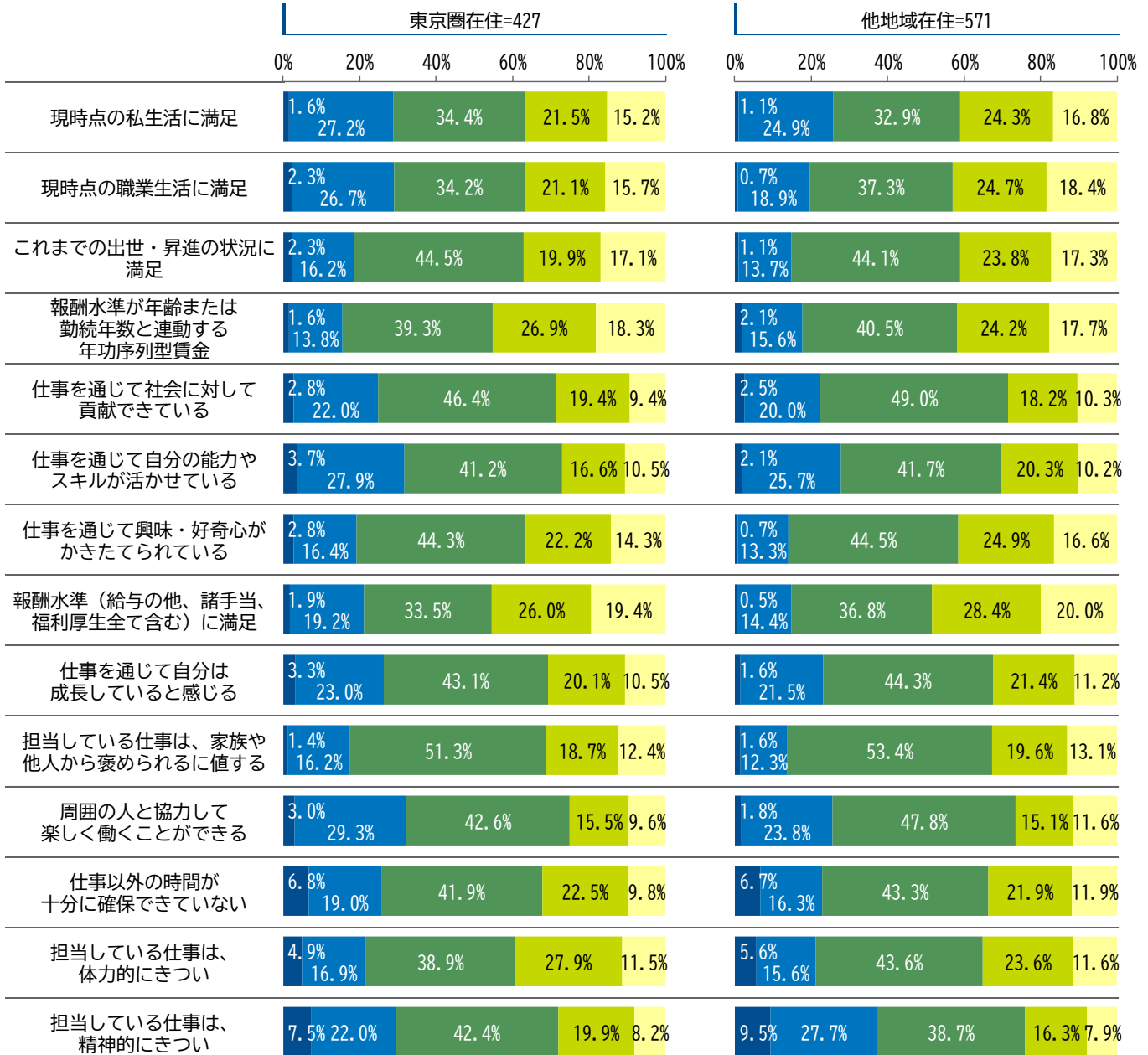






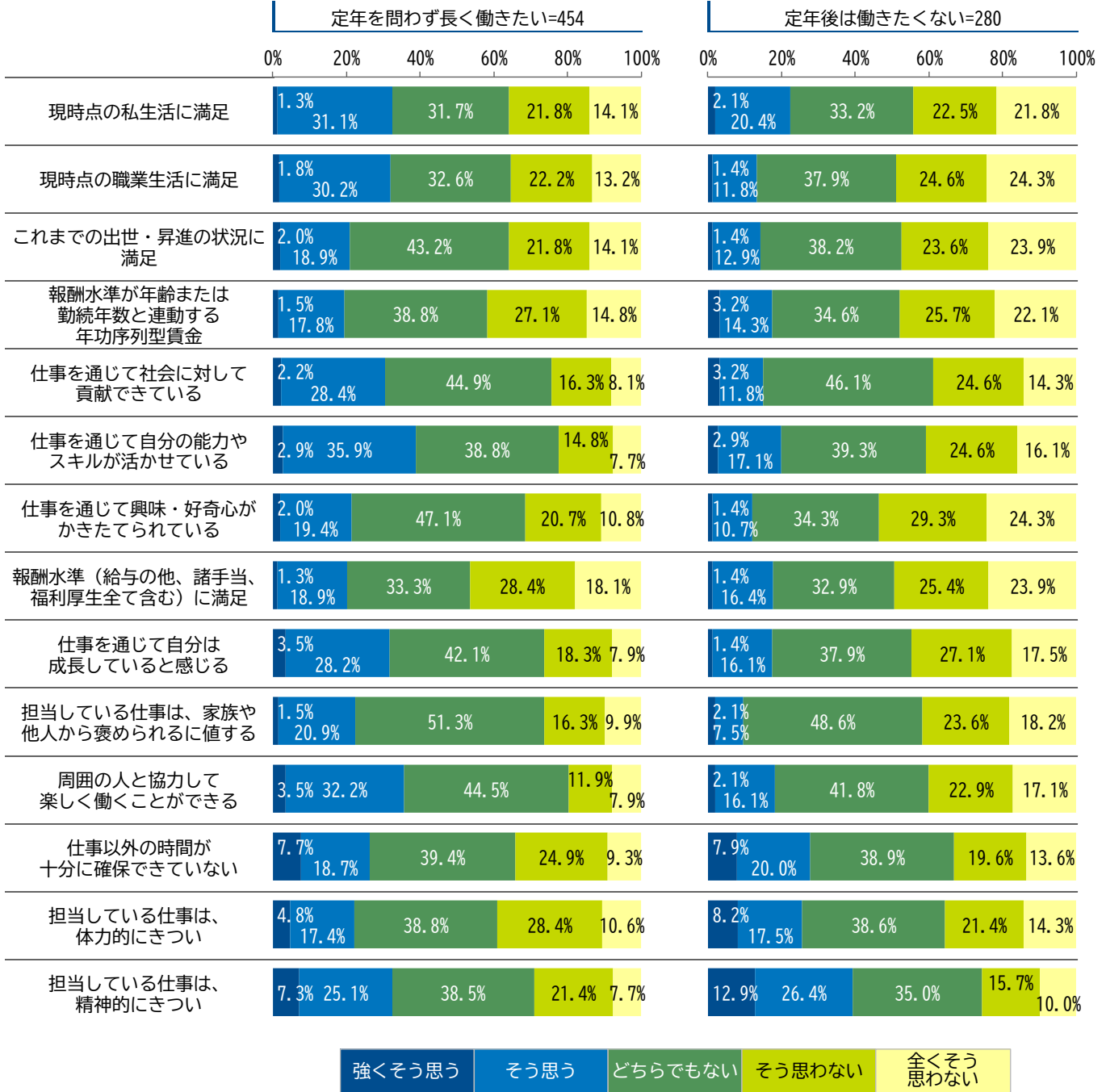
### 3.4.4. 勤め先や生活の捉え方 居住地別

図表3.4.4. 勤め先や生活の捉え方 居住地別(単一選択)



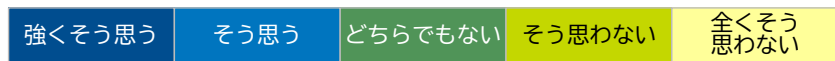
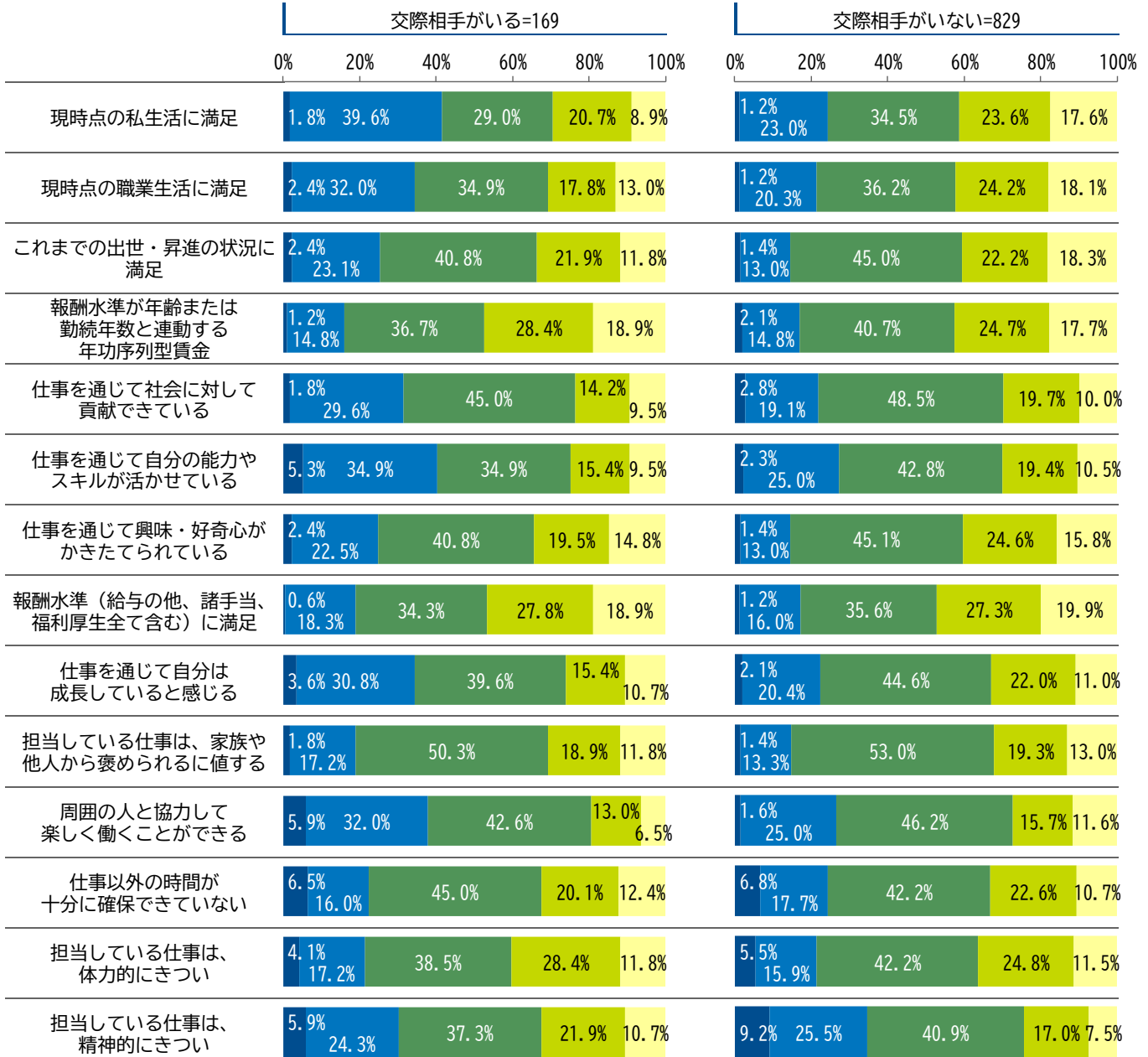
3.4.5. 勤め先や生活の捉え方 定年後の就業要望別

図表3.4.5. 勤め先や生活の捉え方 定年後の就業要望別(単一選択)



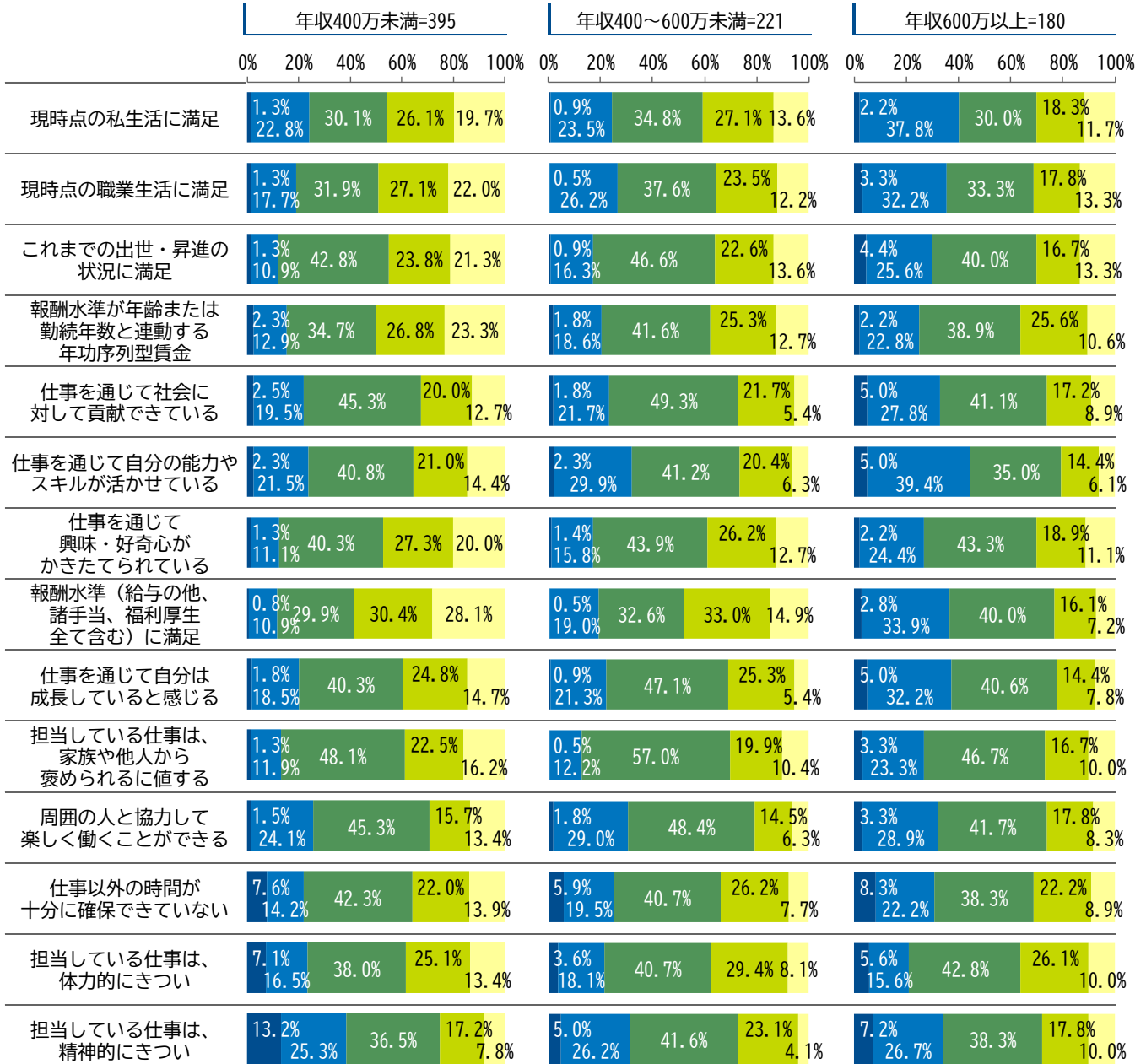
3.4.6. 勤め先や生活の捉え方 交際相手の有無別

図表3.4.6. 勤め先や生活の捉え方 交際相手の有無別(単一選択)



3.4.7. 勤め先や生活の捉え方 年収別

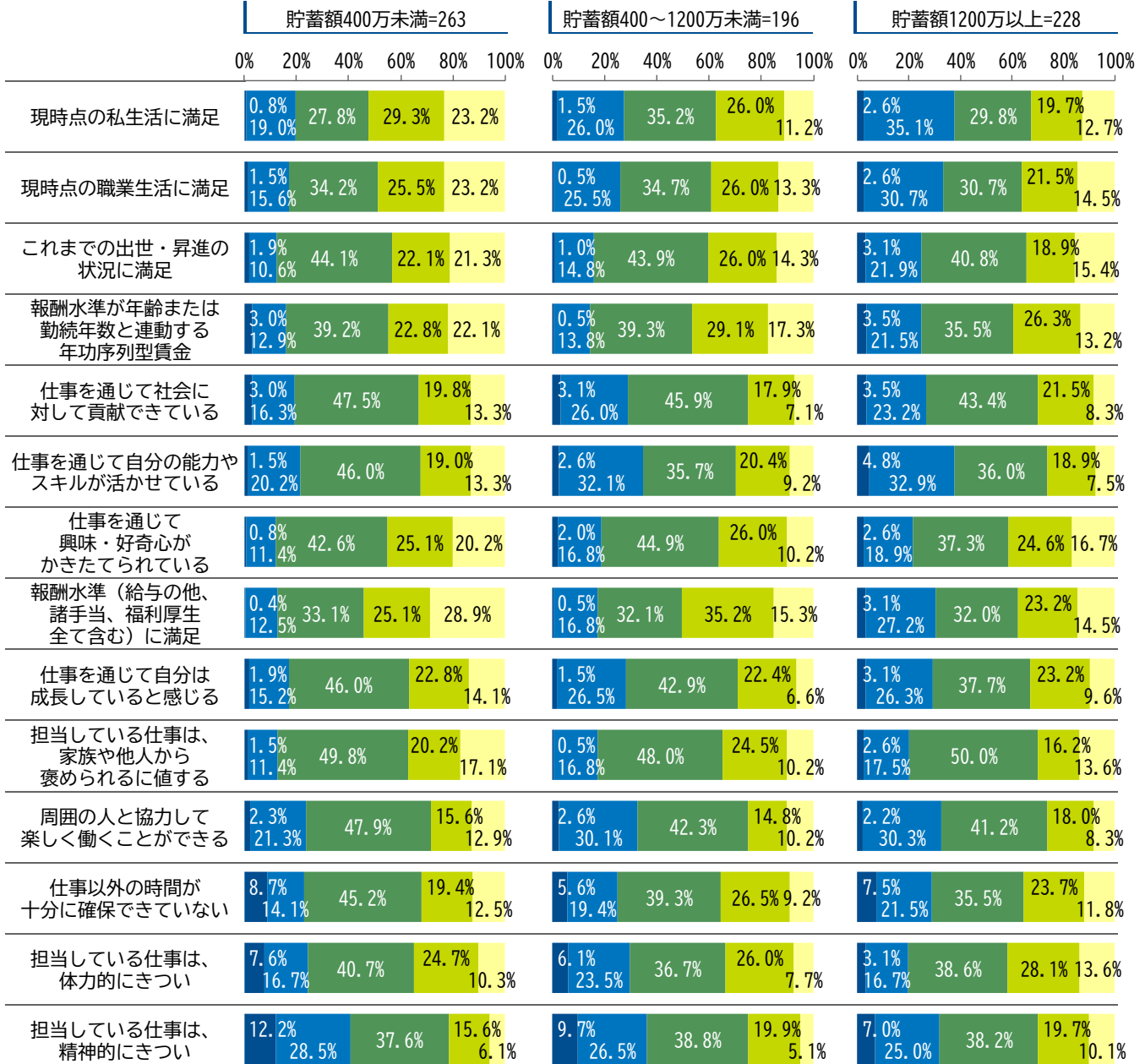
図表3.4.7. 勤め先や生活の捉え方 年収別(単一選択)



強くそう思う    そう思う    どちらでもない    そう思わない    全くそう思わない

3.4.8. 勤め先や生活の捉え方 貯蓄額別

図表3.4.8. 勤め先や生活の捉え方 貯蓄額別(単一選択)



強くそう思う    そう思う    どちらでもない    そう思わない    全くそう思わない